静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第 25 集

裾野市葛山の遺跡群

第二東名№150 地点・ №150-2 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－８

葛山大端ヶⅠ遺跡 （第二東名 №150 地点）
葛山大端ヶⅢ遺跡 （第二東名 №150-2 地点）
藤畑遺跡 （第二東名 №150-2 地点）

２０１３

中日本高速道路株式会社東京支社
静岡県埋蔵文化財センター

序

第二東名高速道路は、現在の東名高速道路の混雑緩和や交通の安定性の確保等を目的として計画された道路です。本書は、第二東名高速道路建設に伴い事前調査が実施された葛山大端ヶⅠ遺跡、葛山大端ヶⅢ遺跡及び藤畑遺跡の調査報告書です。

葛山大端ヶⅠ遺跡、葛山大端ヶⅢ遺跡、藤畑遺跡が所在する裾野市は、富士山南東麓、愛鷹山東麓、箱根山西麓といった三方を山に囲まれた風光明媚な土地です。市街を南北に流れる黄瀬川は、その本支流に五竜の滝、景ヶ島渓谷などの景勝地を形成しています。第二東名高速道路は黄瀬川西側の愛鷹山麓をほぼ南北に延びて、急峻な谷とその周囲の尾根を分断する位置にあります。各遺跡は、愛鷹山北東麓の尾根上に位置します。

各遺跡の調査では旧石器時代、縄文時代早期から後期にかけての遺物や遺構が確認されました。

具体的には、葛山大端ヶⅠ遺跡では遺物は旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器が、遺構としては礫群、集石、土坑、焼土、遺物集中が検出されました。

葛山大端ヶⅢ遺跡では縄文時代の土器、石器が出土し、遺構では土坑、遺物集中が見つかりました。しかし両遺跡とも、住居跡など定住生活を示すような遺構は確認されませんでした。従いまして両遺跡とも狩猟の際の一時的なキャンプ地として利用されていたと考えられます。

藤畑遺跡では土坑が１基確認されたのみで、人間の活動の痕跡はほとんど残されていませんでした。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、中日本高速道路株式会社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年２月

静岡県埋蔵文化財センター所長

勝　田　順　也

例　　言

1　本書は静岡県裾野市葛山地先に所在する葛山大端ヶⅠ遺跡（第二東名№150地点）及び裾野市葛山大端ヶ1160-1ほかに所在する葛山大端ヶⅢ遺跡・藤畑遺跡（第二東名№150-2地点）の発掘調査報告書である。

2　調査は第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公団静岡建設局（現中日本高速道路株式会社）の委託を受け、静岡県教育委員会文化課（現静岡県教育委員会文化財保護課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。

3　葛山大端ヶⅠ遺跡（第二東名№150地点）、葛山大端ヶⅢ遺跡・藤畑遺跡（第二東名№150-2地点）の確認調査・本調査期間及び業務委託先は以下の通りである。

葛山大端ヶⅠ遺跡（第二東名№150地点）

確認調査・本調査Ⅰ期　平成15年７月～９月、11月～平成16年３月　実掘面積765㎡

掘削業務　株式会社大岡建設工業　　測量業務　株式会社パスコ

本調査Ⅱ期　平成16年４月～12月　実掘面積4,409㎡

掘削業務　株式会社小俣組　　測量業務　国際航業株式会社

本調査Ⅲ期　平成18年４月～11月　実掘面積1,193㎡

掘削業務　山久建設株式会社　　測量業務　国際航業株式会社

葛山大端ヶⅢ遺跡（第二東名№150-2地点）

確認調査・本調査　平成15年９月～平成16年９月　実掘面積6,155㎡

掘削業務　株式会社大岡建設工業　　測量業務　株式会社パスコ

藤畑遺跡（第二東名№150-2地点）

確認調査・本調査　平成15年９月～平成16年２月　実掘面積800㎡

掘削業務　株式会社大岡建設工業　　測量業務　株式会社パスコ

4　調査体制は以下の通りである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成15年度（確認調査・本調査Ⅰ期）

所長兼副理事長　斎藤　忠　　副所長兼理事　飯田英夫　　総務部長兼常務理事　粂田徳幸
総務部次長兼総務課長　鎌田英巳　　経理専門員　稲葉保幸
総務係長　山本広子　　会計係長　野島尚紀　　調査研究部長　山本昇平
調査研究部次長兼資料課長　栗野克己　　保存処理室長　西尾太加二
調査研究部次長兼調査研究一課長　中嶋郁夫
調査研究部次長兼調査研究二課長　佐野五十三　　調査研究三課長　足立順司
調査研究員　村松利彦

平成16年度（本調査Ⅱ期）

所長兼副理事長　斎藤　忠　　副所長兼理事　飯田英夫　　総務部長兼常務理事　平松公夫
総務部次長兼総務課長　鎌田英巳　　経理専門員　稲葉保幸
総務係長　佐藤美奈子　　会計係長　野島尚紀　　調査研究部長　山本昇平
調査研究部次長兼資料課長　栗野克己　　保存処理室長　西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長　中嶋郁夫
調査研究部次長兼調査研究二課長　佐野五十三　　調査研究三課長　足立順司
調査研究員　菊池吉修・永島宏一・日吉高幸
技術職員　青島邦夫

平成18年度（確認調査・本調査Ⅲ期）
所長兼副理事長　斎藤　忠　　総務部長兼常務理事　平松公夫
総務部次長兼総務課長　鈴木大二郎　　総務係長　芦川美奈子
会計係長　杉山和枝　　調査研究部長　石川素久　　調査研究部次長　佐野五十三
調査研究部次長　稲葉保幸　　調査研究部次長兼調査課長　及川　司
保存処理室長　西尾太加二　　調査課係長　前嶋秀張　　調査課係長　中鉢賢治
調査課係長　富樫孝志　　調査課係長　河合　修
調査研究員　木崎道昭・日吉高幸・松川理治

（ここまで財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）

静岡県埋蔵文化財センター
平成23年度（資料整理）
所長　勝田順也　　次長兼総務課長　八木利眞　　主幹兼事業係長　村松弘文
総務係長　瀧みやこ　　調査課長　中鉢賢治　　調査第一係長　富樫孝志
調査第二係長　溝口彰啓　　常勤嘱託員　永田悠記

平成24年度（資料整理）
所長　勝田順也　　次長兼総務課長　八木利眞　　主幹兼事業係長　前田雅人
総務係長　瀧みやこ　　調査課長　中鉢賢治　　調査第一係長　富樫孝志
調査第二係長　溝口彰啓　　常勤嘱託員　永田悠記

5　本書の執筆は永田悠記が行った。
6　本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
7　資料整理・報告書作成期間及び業務委託先は以下の通りである。
資料整理・報告書作成　平成23年７月～平成25年２月
整理作業・保存処理業務　株式会社パソナ
黒曜石産地同定業務　独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授　望月明彦氏
石器実測業務　株式会社ラング
放射性炭素年代測定・出土炭化物の樹種同定業務　株式会社加速器分析研究所
8　発掘調査・整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
池谷信之　小崎晋　小林謙一　（五十音順・敬称略）
9　発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1　本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。

2　調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。
　Ａ０の座標はＸ＝ -88140,　Ｙ＝35280である。

3　出土遺物は４桁の通し番号（＝遺物番号）を付して取り上げた。報告書中の挿図番号とは同一でない。

4　遺構図、遺物実測図の縮尺は、遺構1/40、土器1/3、剥片石器4/5、礫石器1/2・1/3を原則とし、それぞれにスケールを付した。

5　色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。

6　土層名は第３章第２節の基本土層図（第５図）に表示した名称を用いる。

7　第２章第２節の裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡（第２図）は国土地理院発行１：25,000地形図「裾野」を複写し加工・加筆した。

8　実測図中の指示記号及び表現、石材、黒曜石産地の略号は以下の通りである。

遺物

	敲打痕		磨面
	節理面		発掘時の欠損

石材一覧

和名	英名	標準資料略号	和名	英名	標準資料略号
玄武岩	basalt	Ba	ホルンフェルス	hornfels	Hor
多孔質玄武岩	vesicular basalt	VBa	菫青石ホルンフェルス	cordierite hornfels	Hor(Co)
粗粒玄武岩	dolerite	Do	黒曜石	obsidian	Ob
細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	細粒凝灰岩	fine-grained tuff	FT
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn	硬質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)	緑色凝灰岩	green tuff	GT
多孔質安山岩	vesicular andesite	VAn	頁岩	shale	Sh
デイサイト	dacite	Da	珪質頁岩	siliceous shale	SSh
下呂石	gero stone	GRS	硬質頁岩	hard shaie	HS
ひん岩	porphyrite	Po	細粒砂岩	fine-grained sandstone	FSS
細粒斑レイ岩	fine-grained gabbro	FG	中粒砂岩	medium-grained sandstone	MSS
玉髄	chaicadony	Cha	粗粒砂岩	corse-grained sandstone	CSS
結晶片岩	crystalline schist	CSc	チャート	chert	Ch
緑色片岩	green schist	GS			

黒曜石推定産地一覧

略号	産地	略号	産地	略号	産地
WDTY	和田鷹山群	TSTY	蓼科冷山群	AGKT	天城柏峠群
WDTH	和田古峠群	HNHJ	箱根畑宿群	KZOB	神津島恩馳島群
SWHD	諏訪星ヶ台群				

目　　次

第１章　調査に至る経緯 …… 1

第２章　遺跡の概要 …… 2
第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 3
1　旧石器時代 …… 3
2　縄文時代 …… 3

第３章　葛山大端ヶⅠ遺跡
第１節　調査の方法と経過 …… 8
第２節　基本層序 …… 10
第３節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 16
1　文化層の設定 …… 16
2　第Ⅰ文化層 …… 16
3　第Ⅱ文化層 …… 18
第４節　縄文時代の遺構と遺物 …… 23
1　遺構 …… 23
2　遺物 …… 38

第４章　葛山大端ヶⅢ遺跡
第１節　調査の方法と経過 …… 78
第２節　基本層序 …… 78
第３節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 82
1　遺構 …… 82
2　遺物 …… 82
第４節　縄文時代の遺構と遺物 …… 84
1　遺構 …… 84
2　遺物 …… 96

第５章　藤畑遺跡
第１節　調査の方法と経過 …… 120
第２節　基本層序 …… 121
第３節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 122
1　遺構 …… 122
2　遺物 …… 122
第４節　縄文時代の遺構と遺物 …… 122
1　遺構 …… 122
2　遺物 …… 122

第６章　まとめ
第１節　葛山大端ヶⅠ遺跡…… 123
１　旧石器時代…… 123
２　縄文時代…… 123
第２節　葛山大端ヶⅢ遺跡…… 124
１　旧石器時代…… 124
２　縄文時代…… 124
第３節　藤畑遺跡…… 125

附　編
第１節　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡出土黒曜石産地推定結果…… 129
第２節　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）…… 137
第３節　葛山大端ヶⅠ遺跡出土炭化物の同定…… 145

写真図版

抄録

挿図目次

第２章
第１図　第二東名路線図及び調査地点…… 4
第２図　裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡…… 5
第３図　調査区及びグリッド…… 6
第４図　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ・藤畑遺跡位置…… 7
第３章
第５図　基本土層……11
第６図　土層堆積状況１……13
第７図　土層堆積状況２（１区）……14
第８図　テストピット配置……15
第９図　旧石器時代遺物分布……16
第10図　第Ⅰ文化層遺物分布……17
第11図　第Ⅰ文化層出土遺物……17
第12図　第Ⅱ文化層遺物分布……19
第13図　第Ⅱ文化層礫群……19
第14図　第Ⅱ文化層礫群出土遺物……20
第15図　第Ⅱ文化層出土遺物……21
第16図　縄文時代遺構位置……24
第17図　縄文時代出土遺物分布……25
第18図　集石……26
第19図　土坑１……27
第20図　土坑２……28
第21図　土坑３・焼土……29
第22図　１号遺物集中……31
第23図　１号遺物集中出土遺物１……32
第24図　１号遺物集中出土遺物２……33
第25図　２号・３号・４号遺物集中……34
第26図　２号・３号・４号１遺物集中出土遺物……35
第27図　４号２遺物集中出土遺物……36
第28図　土器群別分布……39
第29図　第Ⅰ群 abcd 類土器分布……41
第30図　第Ⅰ群 e 類土器分布……41
第31図　第Ⅰ群土器……42
第32図　第Ⅱ群土器分布……43
第33図　第Ⅲ群土器分布……43
第34図　第Ⅱ・Ⅲ群土器……44
第35図　第Ⅳ・Ⅴ群土器分布……45
第36図　第Ⅵ群土器分布……45
第37図　第Ⅳ・Ⅴ群土器……46
第38図　第Ⅵ群土器……47

第39図　第Ⅶ群土器分布……49
第40図　第Ⅷ群土器分布……49
第41図　第Ⅶ・Ⅷ群土器……50
第42図　第Ⅸ・Ⅹ群土器分布……51
第43図　第Ⅸ・Ⅹ群土器……52
第44図　剥片石器器種別分布……56
第45図　剥片石器石材別分布……57
第46図　石器１……58
第47図　石器２……59
第48図　石器３……60
第49図　礫石器器種別分布……62
第50図　礫石器石材別分布……63
第51図　石器４……64
第52図　石器５……65
第53図　石器６……66
第54図　石器７……67
第55図　石器８……68
第56図　石器９……69
第57図　石器10……70
第58図　石器11……71
第59図　石器12……72
第60図　石器13……73
第４章
第61図　基本土層……80
第62図　トレンチ・テストピット配置……81
第63図　旧石器時代遺物分布・遺構位置……82
第64図　旧石器時代礫群……83
第65図　縄文時代遺構配置……85
第66図　縄文時代遺物分布……86
第67図　土坑１……87
第68図　土坑２……88
第69図　土坑３……89
第70図　１号遺物集中……90
第71図　１号遺物集中出土遺物……91
第72図　２号遺物集中……93
第73図　２号遺物集中出土遺物……93
第74図　３号遺物集中……94
第75図　３号遺物集中出土遺物……95
第76図　土器群別分布……98
第77図　第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群土器分布……99
第78図　第Ⅰ群土器……100
第79図　第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群土器分布……101
第80図　第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群土器……102
第81図　剥片石器器種別分布……105
第82図　剥片石器石材別分布……105
第83図　石器１……106
第84図　石器２……107
第85図　礫石器器種別分布……109
第86図　礫石器石材別分布……110
第87図　石器３……111
第88図　石器４……112
第89図　石器５……113
第90図　石器６……114
第91図　石器７……115
第92図　石器８……116
第93図　石器９……117
第５章
第94図　トレンチ配置……120
第95図　基本土層……121
第96図　縄文時代遺構位置……122
第97図　土坑……122

挿表目次

第２章
第１表　対象地点一覧……4
第２表　遺跡名一覧……5
第３章
第３表　第Ⅰ文化層石器一覧……17
第４表　第Ⅰ文化層礫一覧……17
第５表　第Ⅱ文化層石器組成……18
第６表　第Ⅱ文化層礫群出土石器一覧……22
第７表　第Ⅱ文化層礫群出土礫一覧……22
第８表　第Ⅱ文化層石器一覧……22
第９表　第Ⅱ文化層礫一覧……22

第10表　縄文時代集石一覧……37
第11表　縄文時代土坑一覧……37
第12表　縄文時代焼土一覧……37
第13表　縄文時代遺物集中一覧……37
第14表　１号遺物集中石器組成……37
第15表　２号遺物集中石器組成……37
第16表　３号遺物集中石器組成……37
第17表　土器観察表　……53
第18表　石鏃組成……74
第19表　スクレイパー組成……74
第20表　石核組成……74
第21表　打製石斧組成……74
第22表　磨石・敲石類組成……74
第23表　縄文時代石器組成……75
第24表　縄文時代石器一覧……76

第４章
第25表　旧石器時代礫一覧……83
第26表　縄文時代土坑一覧……84
第27表　縄文時代遺物集中一覧……92
第28表　１号遺物集中出土石器組成……92
第29表　２号遺物集中出土石器組成……92
第30表　３号遺物集中出土石器組成……92
第31表　土器観察表　…… 103
第32表　石鏃組成…… 117
第33表　スクレイパー組成…… 117
第34表　石核組成…… 117
第35表　打製石斧組成…… 117
第36表　縄文時代磨石・敲石類組成…… 118
第37表　縄文時代石器組成…… 118
第38表　縄文時代石器一覧…… 119

図版目次

図版１　調査区全景
図版２　葛山大端ヶⅠ遺跡　調査区（１区）
休場層（南上より）
土層断面１
土層断面２
図版３　調査区全景　第Ⅰスコリア層（南東より）
礫群検出状況（東より）
礫群出土遺物
第Ⅰ文化層　出土遺物
第Ⅱ文化層　出土遺物
図版４　１号集石（南東より）
２号集石（東より）
３号集石（東より）
４号集石（南より）
５号集石（南より）
６号集石（西より）
７号集石（東より）
図版５　１号土坑（東より）
２号土坑（東より）
３号土坑（北西より）
４号土坑（南より）
５号土坑（南より）
６号土坑（南より）
７号土坑（西より）
８号土坑（西より）
図版６　２号焼土（西より）
４号遺物集中（東より）
縄文時代　遺物出土状況（南東より）
図版７　１号遺物集中出土石器
２号遺物集中出土石器
３号遺物集中出土石器
図版８　４号遺物集中出土石器
図版９　第Ⅰ群 a ～ d 類土器
第Ⅰ群 e 類土器
図版10　第Ⅱ群 a 類土器
第Ⅱ群 bc 類土器
第Ⅲ群土器
図版11　第Ⅳ群 a 類・Ⅴ群土器
第Ⅳ群 b 類土器
第Ⅵ群 a 類土器
第Ⅵ群 b 類土器
第Ⅵ群 cd 類土器
図版12　第Ⅵ群 e 類土器
第Ⅵ群 deg 類土器

図版13　第Ⅶ群 a ～ d 類土器
第Ⅶ群 e 類土器
第Ⅷ群 ab 類土器
図版14　第Ⅸ群 a 類土器
第Ⅸ群 b 類・第Ⅹ群土器
図版15　石鏃・石鏃未製品
尖頭器・スクレイパー・石匙・石錐・楔
形石器・二次加工剥片・石核１・石核２
図版16　打製石斧・磨製石斧
図版17　礫器
図版18　磨石・敲石類
図版19　台石
図版20　葛山大端ヶⅢ遺跡　調査区全景
１区　土層断面
図版21　旧石器時代　調査区全景（TP 完掘）
礫群　遺物出土状況（南西より）
図版22　２号土坑（南より）
４号土坑（東より）
５号土坑（東より）
８号土坑（南東より）
10号土坑（西より）
11号土坑（南より）
12号土坑（南東より）
13号土坑（南より）
図版23　２号遺物集中（西より）
４号遺物集中（西より）
縄文時代　遺物出土状況（西より）
図版24　１号遺物集中出土石器
２号遺物集中出土石器
３号遺物集中出土土器
３号遺物集中出土石器
図版25　第Ⅰ群土器
図版26　第Ⅱ群・第Ⅲ群土器
第Ⅳ群～第Ⅷ群土器
図版27　石鏃・石鏃未製品・スクレイパー・二次加工剥片・石核
図版28　打製石斧
礫器
図版29　磨石・敲石類
石皿・台石
図版30　藤畑遺跡　調査区（東より）
土層断面
土坑（南より）

第１章　調査に至る経緯

昭和62年、道路審議会において、東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として第二東名・第二名神高速道路の建設が建議された。

その後、平成元年の第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る総延長約270km の第二東名高速道路が計画された。この基本計画を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（現文化財保護課）もメンバーとして協議に参加した。

平成３年、第二東名の基本計画について文化財を含む環境調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、９月24日に長泉町から引佐町（現浜松市）に至る都市計画の決定が告示された。

平成４年に、環境調査と並行して埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社）は、２月17日付けで文化庁に通知するとともに、５月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、８月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長から静岡県教育委員会教育長宛に「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けて静岡県教育委員会は、９月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名計画路線内における埋蔵文化財の所在について、当該市町村教育委員会に照会し、回答を得た。

平成５年には、県教育委員会はこの回答をもとに協議を行い、結果を３月18日付けで県教育長から静岡調査事務所長宛に回答した。この時点で調査対象箇所は136 ヶ所、調査対象面積は1,453,518㎡となっている。その後、長泉町～引佐町間については、11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査を行うための体制作りが課題となった。

平成６年には、文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたパーキングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町教育委員会に依頼した。その結果、調査対象箇所は133 ヶ所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成７年には、日本道路公団静岡建設局と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財協議連絡調整会議」が設置され、12月13日に第１回会議が行われた。

平成８年には、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は９月24日付で埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を加えた三者は、９月25日付けで第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることとなった。そして掛川市、浜北市（現浜松市）で確認調査を始めた。

平成９年に本格的に調査を開始した。これ以降原則として第二東名の本線、サービスエリア、パーキングエリア、廃土処分場については、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとした。

第２章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

葛山大端ヶⅠ遺跡、葛山大端ヶⅢ遺跡、藤畑遺跡が所在する裾野市は、北緯35度10分、東経138度54分付近の静岡県東部に位置し、総面積は約138.17㎢である。南東部は三島市、南西部は長泉町、北側は御殿場市、西側は富士市、東側は神奈川県箱根町と接する。市内は、北から南東へ広がる富士山東南麓の裾野が、東野箱根外輪山と西の愛鷹山東麓により漏斗状に狭まった緩やかな傾斜地である。この地域は土地分類上、火山急斜面と火緩斜面と低位台地で構成される。漏斗状に狭まった低位台地上には、御殿場市に源を発する全長31kmの１級河川である黄瀬川が南流しており、裾野市で愛鷹山東麓と箱根外輪山西麓から流れる支流河川と合流する。この河川は、沼津市・三島市を流れる狩野川に合流し、最後は駿河湾に注がれる。

愛鷹山は約40～50万年前から活動を始め、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。この活動は古期・中期・新期Ⅰ・新期Ⅱ・最新期の５期に区分され、玄武岩質や凝灰角礫岩質と安山岩質の噴出物によって形成される。その後、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山麓が形成されている。特に約８万年前から活動を開始した古富士火山の噴出物が堆積して愛鷹ローム層を形成し、また、約１万年前には新富士火山から大量の溶岩流が流出し、その後も火山灰が厚く堆積した。この古富士火山の活動期に数回の開析作用が起こり、その結果形成された樹根状の尾根の上に新富士火山の噴出物が覆い、現在の地形が造り上げられた。愛鷹ローム層は上部、中部、下部ローム層に分けられており、西は富士川、東は裾野市まで広がっている。上部ローム層には旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在する。愛鷹山麓は静岡県東部から富士山の南麓にかけて立地し、第二東名建設事業に伴って、南麓から東麓にかけて旧石器時代と縄文時代の遺跡が多く確認されている。

葛山大端ヶⅠ遺跡、葛山大端ヶⅢ遺跡、藤畑遺跡もそうした遺跡の１つである。葛山大端ヶⅠ遺跡は東名裾野インターチェンジから西方に約２㎞、愛鷹山東麓の標高約320mの緩傾斜地面上に位置する。葛山大端ヶⅢ遺跡は、葛山大端ヶⅠ遺跡から谷を挟んで北隣の標高約300mの細い尾根上に位置し、尾根の丘陵で１区と２区に分かれる。さらに北側の谷を挟んだ尾根の上には、葛山大端ヶⅡ遺跡（第二東名№151地点）が所在する。また、葛山大端ヶⅠ遺跡の南隣には、葛山上條遺跡（第二東名№149地点）が所在する。いずれも第二東名高速道路建設事業に伴い発掘調査が行われ、報告書が刊行されている。それによると、本遺跡群と同様に、旧石器時代の礫群や、縄文時代の陥穴状土坑、集石、焼土などが検出されており、本遺跡との関係性が注目される。なお、藤畑遺跡は葛山大端ヶⅠ遺跡が位置する丘陵の東麓に所在する。

第２節　歴史的環境

１　旧石器時代

裾野市が属する愛鷹山東麓では３万年以上前から人間の生活の痕跡が確認でき、その痕跡は黒色土層帯から検出される。しかしながら、その状況は、近年まで明確には分かっていなかった。第二東名高速道路建設に至り、裾野市でも多くの遺跡で大規模な調査が行われ膨大なデータが蓄積され、その様相は徐々に明らかになりつつある。

そうした経緯により発掘調査されたこの地域での旧石器時代に該当する遺跡は、棚返遺跡（№153地点）や葛山大端ヶⅠ遺跡の南側に隣接する葛山上條遺跡（№149地点）、千福南山Ⅲ西遺跡（№148-2地点）、佛ヶ尾遺跡（№147地点）、下ノ大窪遺跡（№146地点）、老平遺跡（№145地点）、入ノ洞Ｂ遺跡（№144-2地点）、内野山Ⅴ遺跡（№144-3地点）、富沢内野山Ⅰ西遺跡（土３遺跡）、塚松遺跡（№144地点）などが挙げられる。大半が複数の文化層が検出された重層遺跡である。このうち、塚松遺跡では第Ⅲ黒色帯から26基の土坑が検出されており、入ノ洞Ｂ遺跡からは、約28,000年前に比定される第Ⅳ黒色帯より局部磨製石斧が出土している。

２　縄文時代

愛鷹山東麓地域には草創期に該当する遺跡は少ない。早期には遺跡は増加するが前期には減少し、中期に再び隆盛を迎え後期から晩期にかけて再び減少する。第二東名建設に関わる遺跡では、葛山大端ヶⅡ遺跡（№151地点）、葛山上條遺跡（№149地点）が隣接しており、中期が主体的である。それ以外の時期の遺跡も少数ながら存在する。

草創期に該当する遺跡は、尾畑遺跡、細野沢遺跡、富沢内野山Ⅰ西遺跡があり、富沢内野山Ⅰ西遺跡では土器片も出土している。

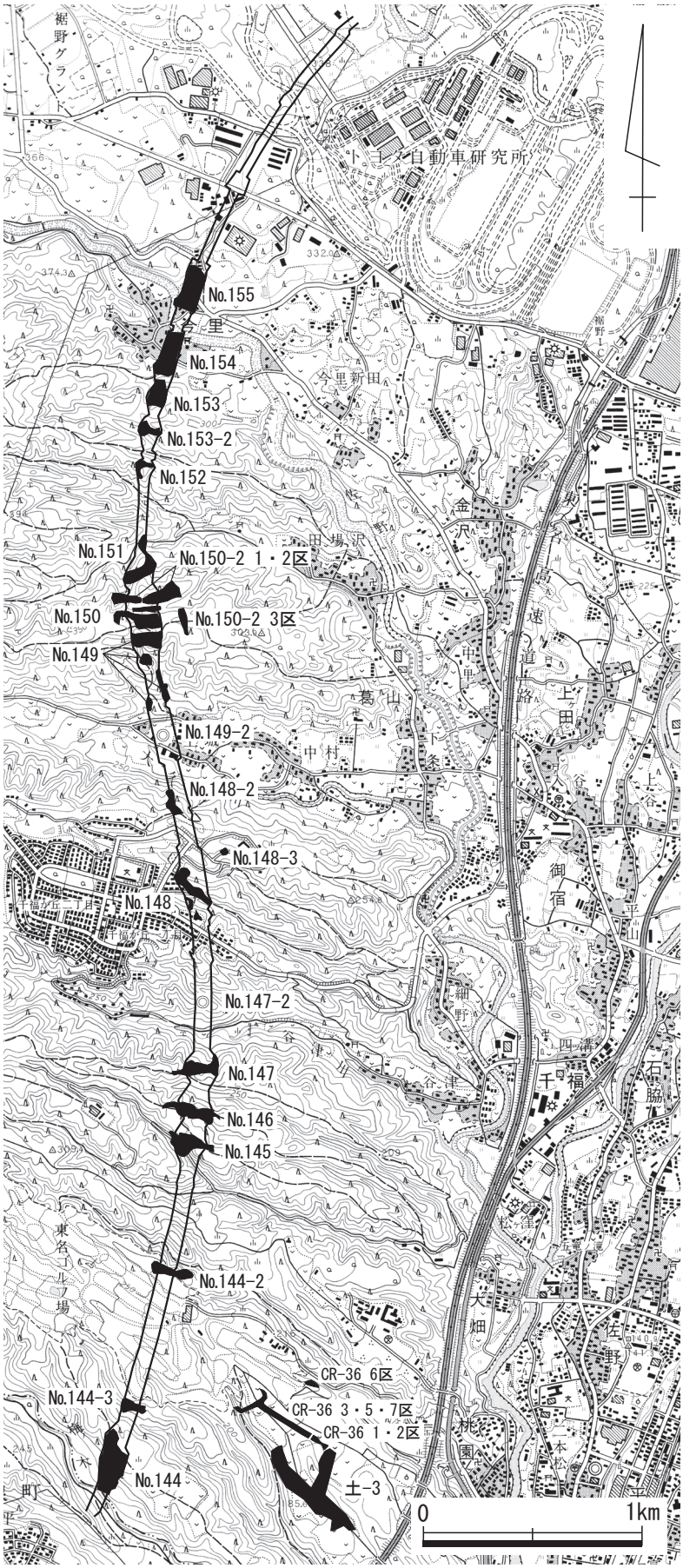
早期前葉の遺跡は千福小杉平第二遺跡、老平遺跡があり、撚糸文土器が出土している。早期中葉では丸山Ⅱ遺跡、城ヶ尾遺跡、内野山Ⅴ遺跡から押型文土器が出土している。早期後葉は、関東系の条痕文土器や東海の入海式土器、清水柳Ｅ類土器、天神山式土器が出土する遺跡が多く見られ、佛ヶ尾遺跡などからも大量に東海系の土器が出土している。

前期の遺跡は細野沢遺跡、入ノ洞Ｂ遺跡、葛山大端ヶⅡ遺跡等が挙げられ、初頭では木島式土器が、後期では諸磯式土器が出土する。また、関西系の北白川下層式土器が出土する遺跡も見られる。

中期の遺跡数は増加する。前半は長泉町柏窪遺跡、上山地遺跡などで、五領ヶ台式土器、勝坂式土器、東海系の北屋敷式土器などの土器が出土している。中葉から後葉にかけては増加傾向にあり、下ノ大窪遺跡、屯屋敷遺跡からは勝坂式土器や加曽利Ｅ式土器が出土している。また、尾畑遺跡では顔面把手付土器や翡翠製大珠が出土し、細山遺跡近辺では釣手形土器が採取されている。

後期に当たる遺跡は減少し、富沢内野山Ⅰ遺跡、田場沢裏山遺跡、中里遺跡、下条遺跡、下ノ大窪遺跡、千福南山Ⅲ西遺跡などがあるのみである。

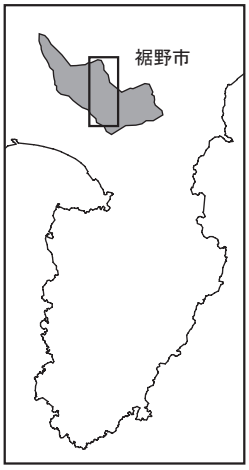
晩期に該当すると考えられる遺跡は現在のところ裾野市内では確認されていない。

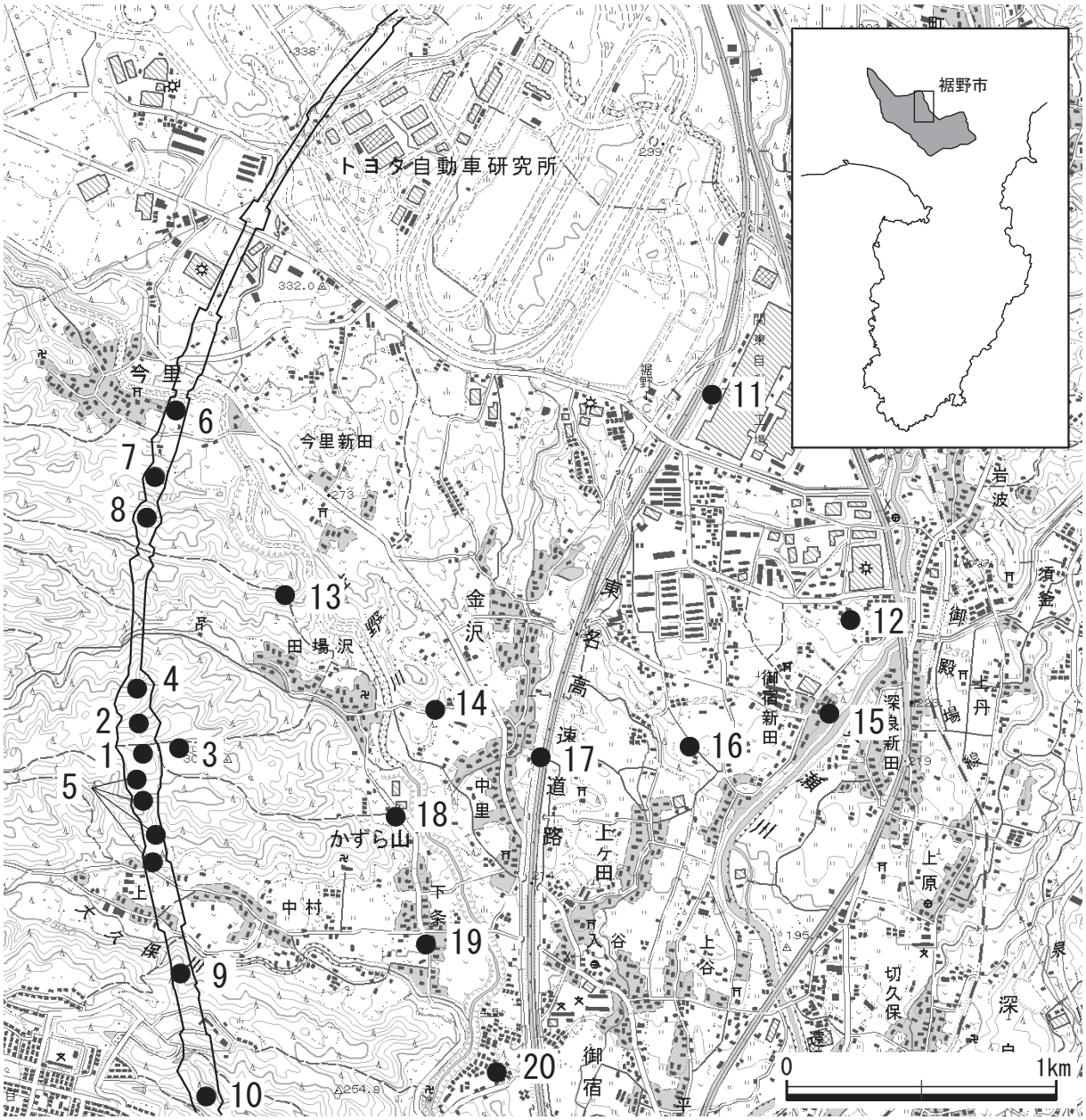


第１図　第二東名路線図及び調査地点

第１表　対象地点一覧

対象地点		対応する遺跡
№144地点		塚松
ＣＲ36	1・2区	富沢内野山Ⅲ北
	3・5・7区	富沢内野山Ⅳ西
	6区	富沢内野山Ⅴ
土3		富沢内野山Ⅰ西
№144-2地点		入ノ洞Ｂ
№144-3地点		内野山Ⅴ
№145地点		老平
№146地点		下ノ大窪
№147地点		佛ヶ尾
№147-2地点		－
№148地点		細沢
№148-2地点		南山Ⅲ西
№148-3地点		南山Ⅲ東
№149地点		葛山上條
№149-2地点		－
№150地点		葛山大端ヶⅠ
№150-2地点	1・2区	葛山大端ヶⅢ
	3区	藤畑
№151地点		葛山大端ヶⅡ
№152地点		－
№153地点		棚返
№153-2地点		今里
№154地点		今里薬師海道
№155地点		－



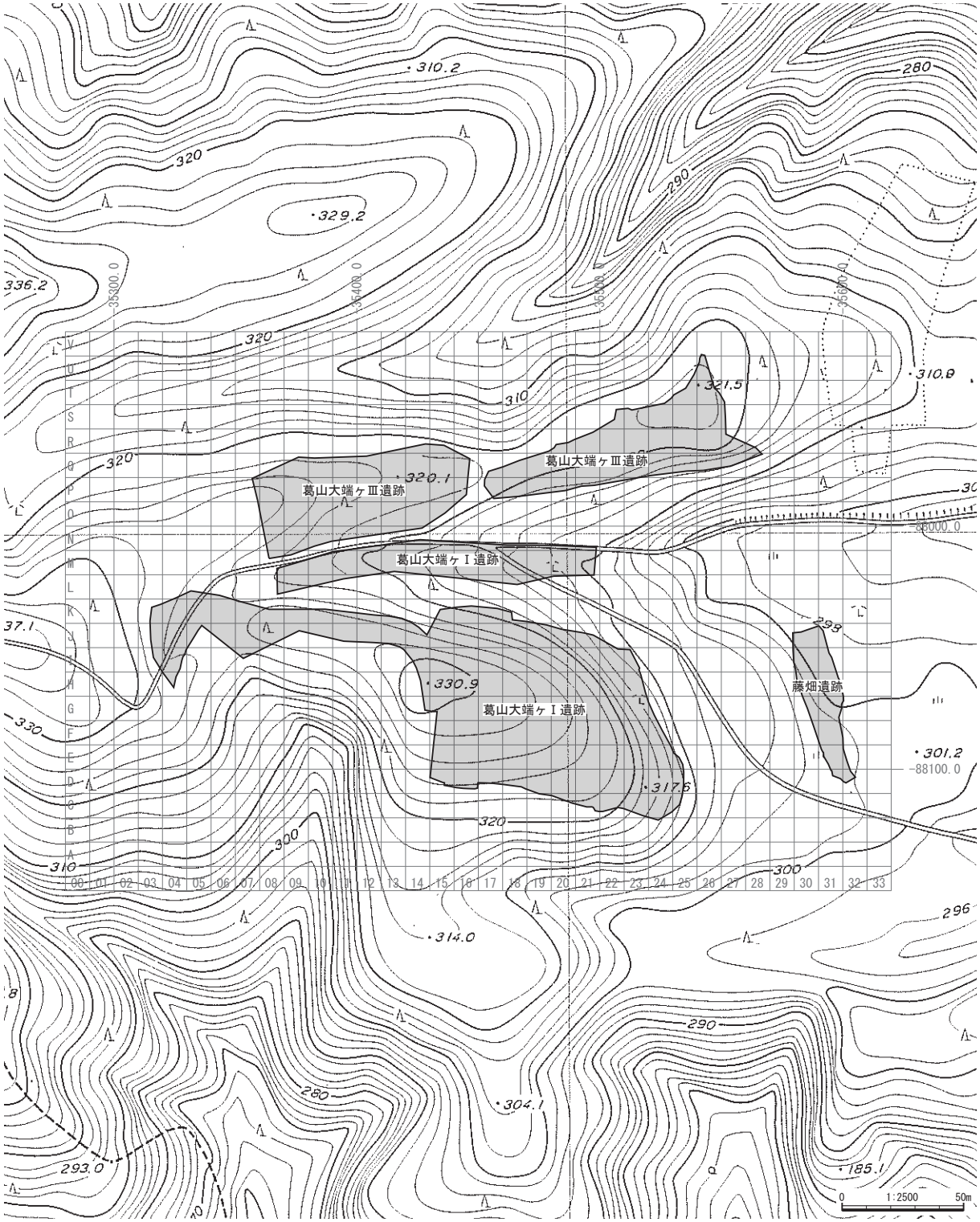


第２図　裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡

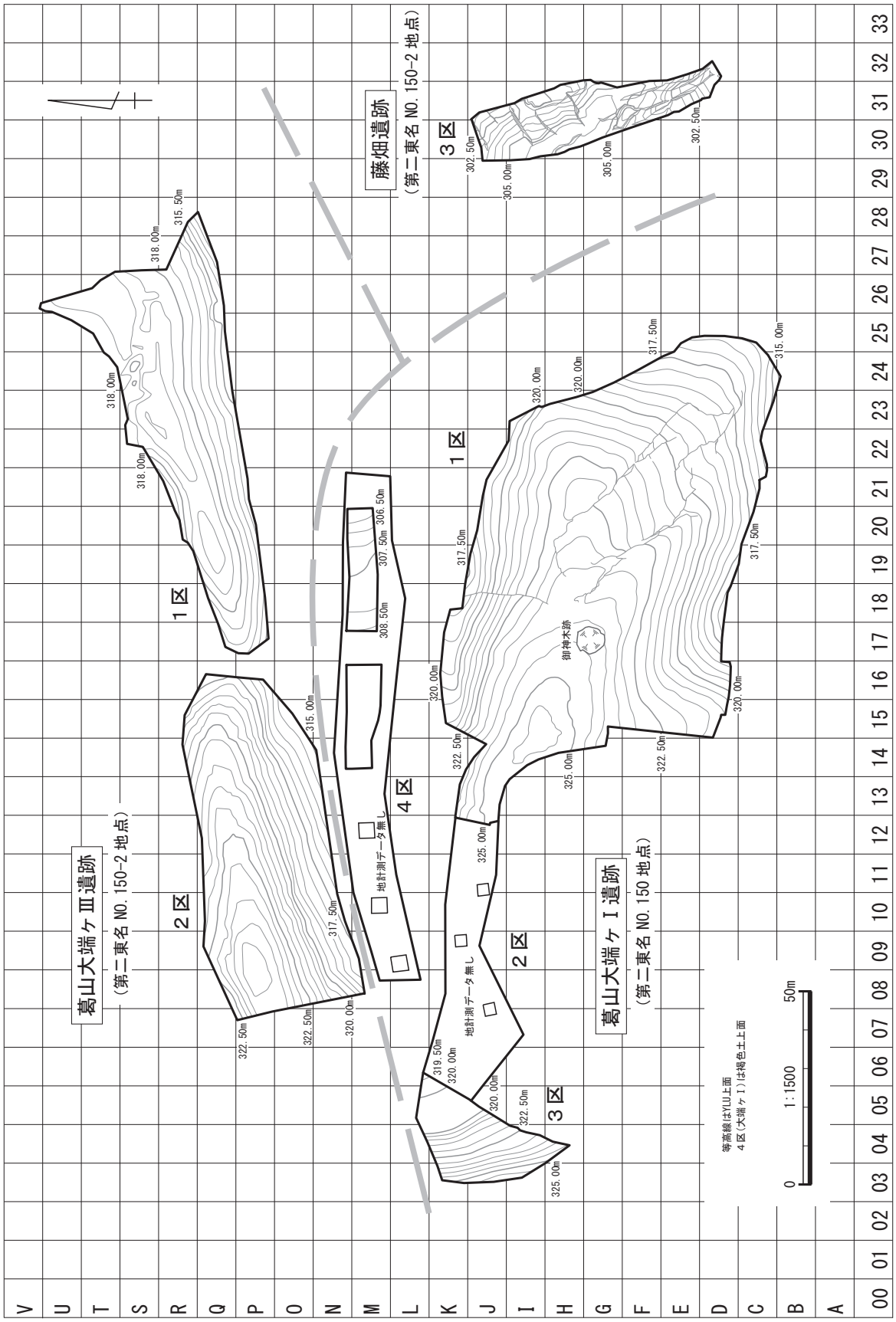
第２表　遺跡名一覧

番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代						番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代					
			草創期	早期	前期	中期	後期	晩期				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期
1	葛山大端ヶⅠ遺跡	○		○	○	○	○		11	上川遺跡	○		○	○	○		
2	葛山大端ヶⅢ遺跡	○		○	○	○	○		12	六反田遺跡					○		
3	藤畑遺跡		時期不明						13	田場沢裏山遺跡			○	○	○	○	
4	葛山大端ヶⅡ遺跡			○	○				14	柳島遺跡				○	○		
5	葛山上條遺跡	○		○	○		○		15	御宿新田遺跡					○		
6	今里薬師海道遺跡					○	○	○	16	坂下遺跡					○		
7	棚返遺跡	○		○	○	○	○	○	17	中里遺跡						○	
8	今里遺跡		時期不明						18	一色原遺跡				○	○	○	
9	千福南山Ⅲ西遺跡	○			○	○	○		19	下条遺跡			○		○	○	
10	細沢遺跡			○	○	○			20	景ヶ島東遺跡		時期不明					

＊１～10は第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査



第３図　調査区及びグリッド



第４図　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ・藤畑遺跡位置

第３章　葛山大端ヶⅠ遺跡

第１節　調査の方法と経過

葛山大端ヶⅠ遺跡（第二東名№150地点）の調査対象面積は7,571㎡で、実掘面積は6,367㎡である。調査区は１区から４区まで分かれている。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅷ系（Ｘ＝ −88140.0、Ｙ＝35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10ｍのグリッドを設定した。Ｘ軸に対して西から東へアラビア数字、Ｙ軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をつけた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。基本的には機械実測、遺物の取り上げはトータルステーションを用い、土層図作成は全て手実測で行った。現場での遺構・遺物の管理は株式会社シン技術コンサルのソフト『遺跡管理システム』にてパソコン上で行い、遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はＰ、石器はＳ、礫はＲ、炭化物はＣと記号を付した。測量データは、『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35㎜サイズのカメラ、および６×７㎝サイズの中判カメラを使用した。また、全景写真を撮影するために、ラジコンヘリコプターにカメラを搭載して空中写真撮影を行った。フィルムは中判（６×７㎝サイズ）白黒フィルムを使用した。

試掘調査は平成15年７月から９月と11月から平成16年２月まで行った。

まず、御神木が祀られている周辺の平坦部を１区、市道を挟んで一番西側に位置する部分を３区、１区と３区を結ぶように伸びる細い尾根上を２区、そして葛山大端ヶⅢ遺跡の１区と２区とが位置する尾根と１区と２区が所在する尾根を挟んだ谷部を４区とそれぞれ設定した。

試掘調査は、まず平成15年７月から８月にかけて１区から３区を行った。３ｍ四方のテストピットを16ヶ所設定し、重機による伐採と表土除去の後、人力による掘削作業を行った。１区と３区ではほぼ全てのテストピットより縄文時代の包含層から遺物が出土した。２区については、地滑り等により縄文時代の包含層は無く遺物及び遺構は確認できなかったため、本調査の必要は無いと判断した。

続いて平成15年11月から平成16年２月にかけて４区の試掘調査を行った。４ｍ四方のテストピットを７ヶ所設定し掘削した。このうち東側に設定したテストピット２ヶ所より休場層上面で陥穴が検出されたため、テストピットを連結して調査を行った（旧 TP19と TP20（新 TP20と TP21）、新 TP22とTP23を連結）。しかしながら遺構の広がりは見られなかった。その後休場層を掘りきるまで掘削を進めたが、遺物の出土状況もまばらであったため、４区についても本調査の必要が無いと判断した。

本調査は、平成15年12月より３区765㎡を対象として行った。表土除去、全面精査を行うと土坑２基を検出した。次いで調査対象地を東西に横切る形で幅４ｍのトレンチを２本設定し（TR01,TR02）縄文面を調査した。富士黒土層上面まで掘削を行ったが遺構・遺物ともほとんど出土せず、また調査地西側は特に斜面が急であるため、トレンチ掘削を中断し、やや平坦になる調査地東側部分を重機により休場層上面まで除去した。その後、５ｍ四方のテストピット（TP24）を設定し２ｍの深さまで掘削を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。基本となる土層の記録を行い３区の調査を終了した。

続いて２月からは１区の本調査を行った。しかし、１区の調査区内に御神木が生えていたため一部掘り残しが生じ、平成18年に御神木を植替え未発掘だった部分の発掘調査を行った。

平成16年度は１区の調査を前年度に引き続いて行った。テストピットを拡張する形で２本のトレンチ

を４区に入れ掘り下げを行った結果、東側のトレンチから土坑が２基検出された。

本調査Ⅲ期は平成18年４月から11月まで行った。１区に残されていた御神木をお祓いの後植替え、その根本を中心に調査した。

資料整理・報告書作成は平成23年７月から平成25年２月まで行った。

整理・報告対象の遺構は、葛山大端ヶⅠ遺跡では旧石器時代の礫群が１基、縄文時代の集石が７基、土坑17基、焼土２基、遺物集中４ヶ所であり、大端ヶⅢ遺跡は旧石器時代の礫群が１基、縄文時代に属する土坑が13基と遺物集中が３ヶ所、藤畑遺跡は、縄文時代と考えられる土坑が１基のみであった。

出土遺物の内訳は、葛山大端ヶⅠ遺跡では、旧石器時代の石器は21点、礫は34点、縄文時代の土器が919点、石器3438点、礫2514点、炭化物が４点であり、葛山大端ヶⅢ遺跡では、旧石器時代の石器は出土が無く、礫は８点、縄文時代の土器が258点、石器847点、礫1384点、炭化物２点が出土した。なお、藤畑遺跡からは遺物の出土は見られなかった。

出土した石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行い、接合作業を行った。

土器は施文・器形・調整・胎土を手がかりに型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本・断面実測を行った。また、残存状態が良好な個体に関しては復元を試みた。

石器は調整・加工の施されているものを中心に実測図を作成した。石器実測については、礫石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、石器実測図作成業務を株式会社ラングに委託した。

黒曜石製石器については、134点を抽出の上、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授の望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出基準は、調整・加工のあるもの全てを分析の対象とした。出土した炭化物、土器付着炭化物の年代測定・樹種同定については株式会社加速器分析研究所に委託し、^{14}C年代測定法（AMS法）を用いた。

報告書作成に伴い、作図は現場で取得したデジタルデータを基に『遺跡管理システム』を用いて補筆修正し、修正した図面及び遺構実測図、土層断面図、遺物実測図の一部のトレースはドローイングソフト『Adobe Illustrator Ver.CS3』でデジタルトレースを行った。

遺構の事実記載については現場で取得した情報を基に検討を重ね、検出層位、遺構覆土、切り合い関係を再検討した上、事実記載に齟齬の無いよう留意して記述を行った。また遺物については出土状況の記録と観察結果をまとめて分類と記述を行い、合わせて観察表を作成した。全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。

第２節　基本層序

葛山大端ヶⅠ遺跡の基本土層は第５図の通りである。詳細な土層の注記は下記の通りである。

愛鷹山麓ローム層は堆積順に下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層に分けられる。上部ローム層は関東ローム層の立川ローム層に該当し、火山砕石物が堆積したスコリア層と火山噴火の休止期に植物の繁殖、腐食などの影響により黒色化が進んだ黒色帯との互層からなっている。葛山大端ヶⅠ遺跡の基本土層は、こうした愛鷹山東麓の基本層序とほぼ一致するが、休場層下層の中にスコリア帯３が見られる。これは、富士山の側火山噴火による噴煙が偏西風により愛鷹山東麓の谷筋に薄く堆積した層で、第二東名関連遺跡では渕ヶ沢遺跡（№27地点）、他には三島市の徳倉片山Ｂ遺跡などで確認されている。

第１層　栗色土層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～４㎜）を少量含む。

第２層　富士黒土層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～４㎜）を少量含む。

第３層　休場層上層　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）を少量含む。

第４層　休場層スコリア帯１　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径５～８㎜）を多量に含む。黒色スコリア（径５～13㎜）を少量含む。

第５層　休場層中層　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径３～５㎜）、黒色スコリア（径３～８㎜）を少量含む。

第６層　休場層スコリア帯２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、黒色スコリアを多量に含む。黄色スコリア（径１㎜）を少量含む。

第７層　休場層下層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径１～６㎜）、明赤褐色スコリア（径１～５㎜）を少量含む。

第８層　休場層スコリア帯３　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～５㎜）を多量に含む。黒色スコリア（径２～６㎜）を少量含む。

第９層　休場層下層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径１～６㎜）、明赤褐色スコリア（径１～５㎜）を少量含む。

第10層　休場層直下黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径１～５㎜）を多く含む。

第11層　第Ⅰスコリア層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径２～７㎜）を多量に含む。赤褐色スコリア（径１～５㎜）、黄色ラピリ少量含む。

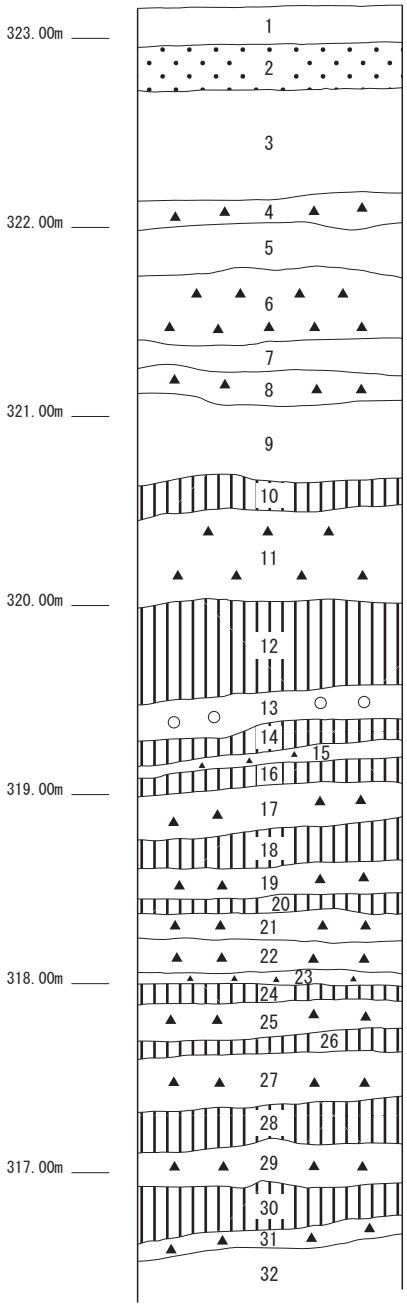
第12層　第Ⅰ黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア(径３～７㎜)、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア(径１～４㎜)少量含む。

第13層　ニセローム層　10YR5/8　締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径２～８㎜）、暗緑色噴石（径５～10㎜）少量含む。

第14層　第Ⅱ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径３～６㎜）多量に含む。

第15層　第Ⅱスコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）)多量に含む。黒色スコリア（径３～６㎜）少量含む。

第16層　第Ⅲ黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。明赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径１～５㎜）多量に含む。



	〈層名〉	〈略称〉
1	栗色土層	KU
2	富士黒土層	FB
3	休場層上層	YLU
4	休場層スコリア帯１	YLs1
5	休場層中層	YLM
6	休場層スコリア帯２	YLs2
7	休場層下層	YLL
8	休場層スコリア帯３	YLs3
9	休場層下層	YLL
10	休場層直下黒色帯	BBO
11	第Ⅰスコリア層	SCⅠ
12	第Ⅰ黒色帯	BBⅠ
13	ニセローム層	NL
14	第Ⅱ黒色帯	BBⅡ
15	第Ⅱスコリア層	SCⅡ
16	第Ⅲ黒色帯	BBⅢ
17	第Ⅲスコリア帯スコリア１	SCⅢs1
18	第Ⅲスコリア帯黒色帯１	SCⅢb1
19	第Ⅲスコリア帯スコリア２	SCⅢs2
20	第Ⅲスコリア帯黒色帯２	SCⅢb2
21	第Ⅲスコリア帯スコリア３	SCⅢs3
22	第Ⅲスコリア帯スコリア４	SCⅢs4
23	第Ⅲスコリア帯スコリア５	SCⅢs5
24	第Ⅳ黒色帯	BBⅣ
25	スコリア	SC
26	第Ⅴ黒色帯	BBⅤ
27	スコリア	SC
28	第Ⅵ黒色帯	BBⅥ
29	スコリア	SC
30	第Ⅶ黒色帯	BBⅦ
31	第Ⅳスコリア帯	SCⅣ
32	中部ローム	

0　1:40　2m

第５図　基本土層

第17層　第Ⅲスコリア帯スコリア１　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）多量に含む。黒色スコリア（径２～10㎜）、白色パミス（径１㎜）、暗緑色噴石（径５～10㎜）少量含む。

第18層　第Ⅲスコリア帯黒色帯１　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～10㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

第19層　第Ⅲスコリア帯スコリア２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径２～４㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径１～７㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、黄色ガラス（径１㎜）少量含む。

第20層　第Ⅲスコリア帯黒色帯２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、黒色スコリア（径２～15㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

第21層　第Ⅲスコリア帯スコリア３　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径２～15㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

第22層　第Ⅲスコリア帯スコリア４　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径２～15㎜），赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黄色ガラス（径１㎜）少量含む。

第23層　第Ⅲスコリア帯スコリア５　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。極赤褐色スコリア（径１～２㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）少量含む。

第24層　第Ⅳ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）多量に含む。

第25層　スコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、暗褐色スコリア（径３～７㎜）少量含む。

第26層　第Ⅴ黒色帯　7.5YR4/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～５㎜）多量に含む。

第27層　スコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、暗褐色スコリア（径３～７㎜）少量含む。

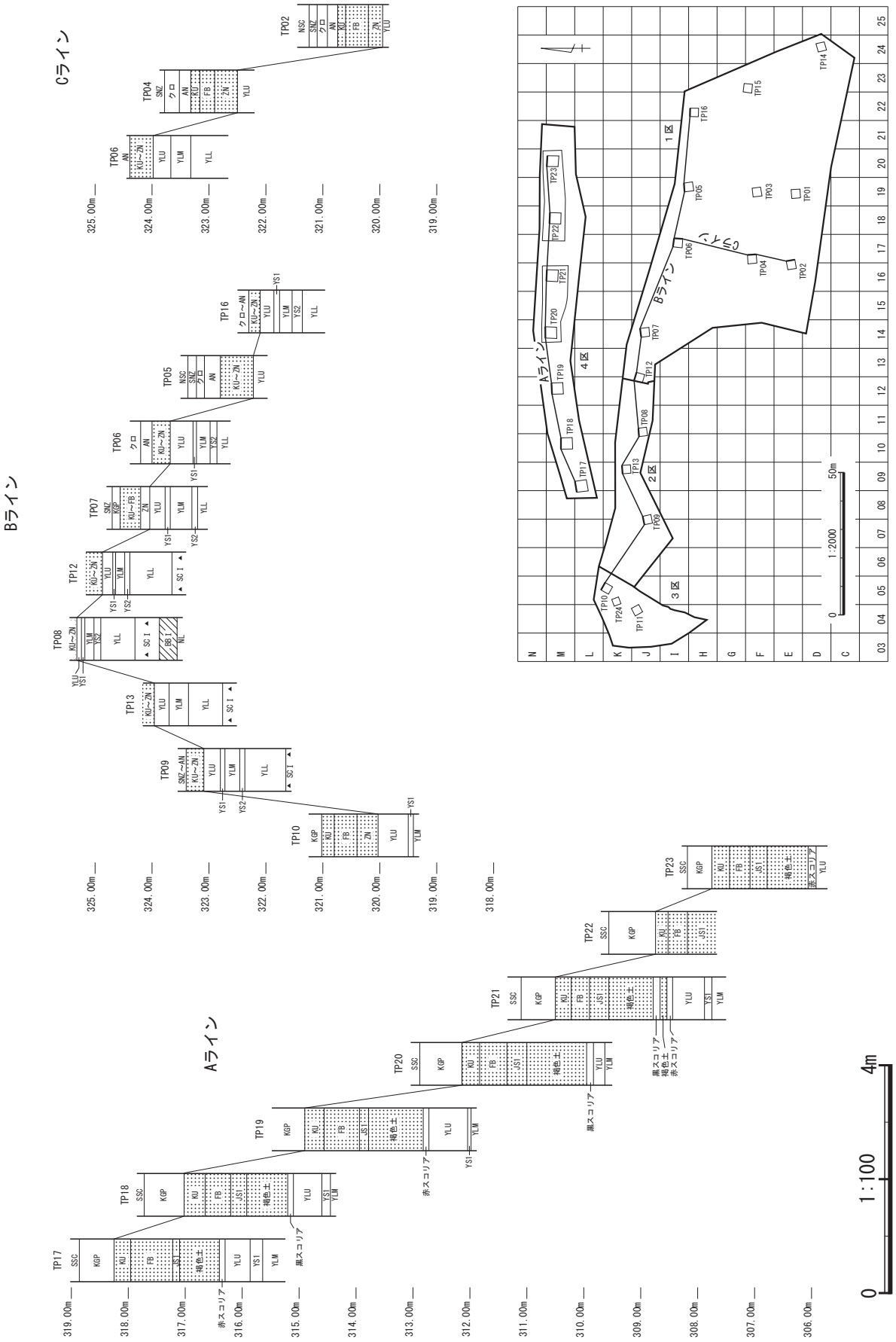
第28層　第Ⅵ黒色帯　7.5YR4/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、暗褐色コリア（径２～５㎜）多量に含む。黒色ラピリ少量含む。

第29層　スコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、暗褐色スコリア（径３～７㎜）少量含む。

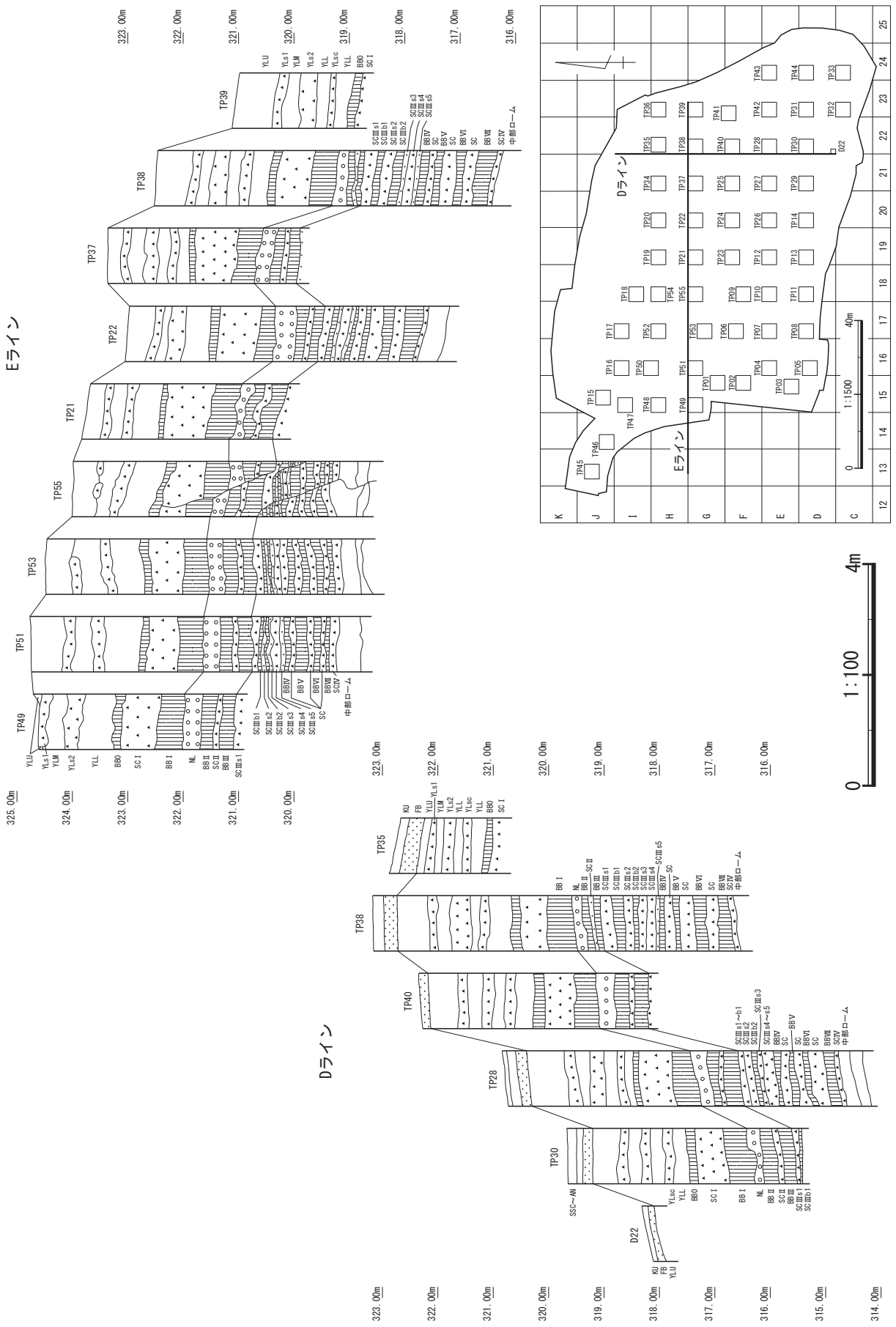
第30層　第Ⅶ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色ラピリ多量に含む。

第31層　第Ⅳスコリア帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、暗褐色スコリア（径３～７㎜）少量含む。

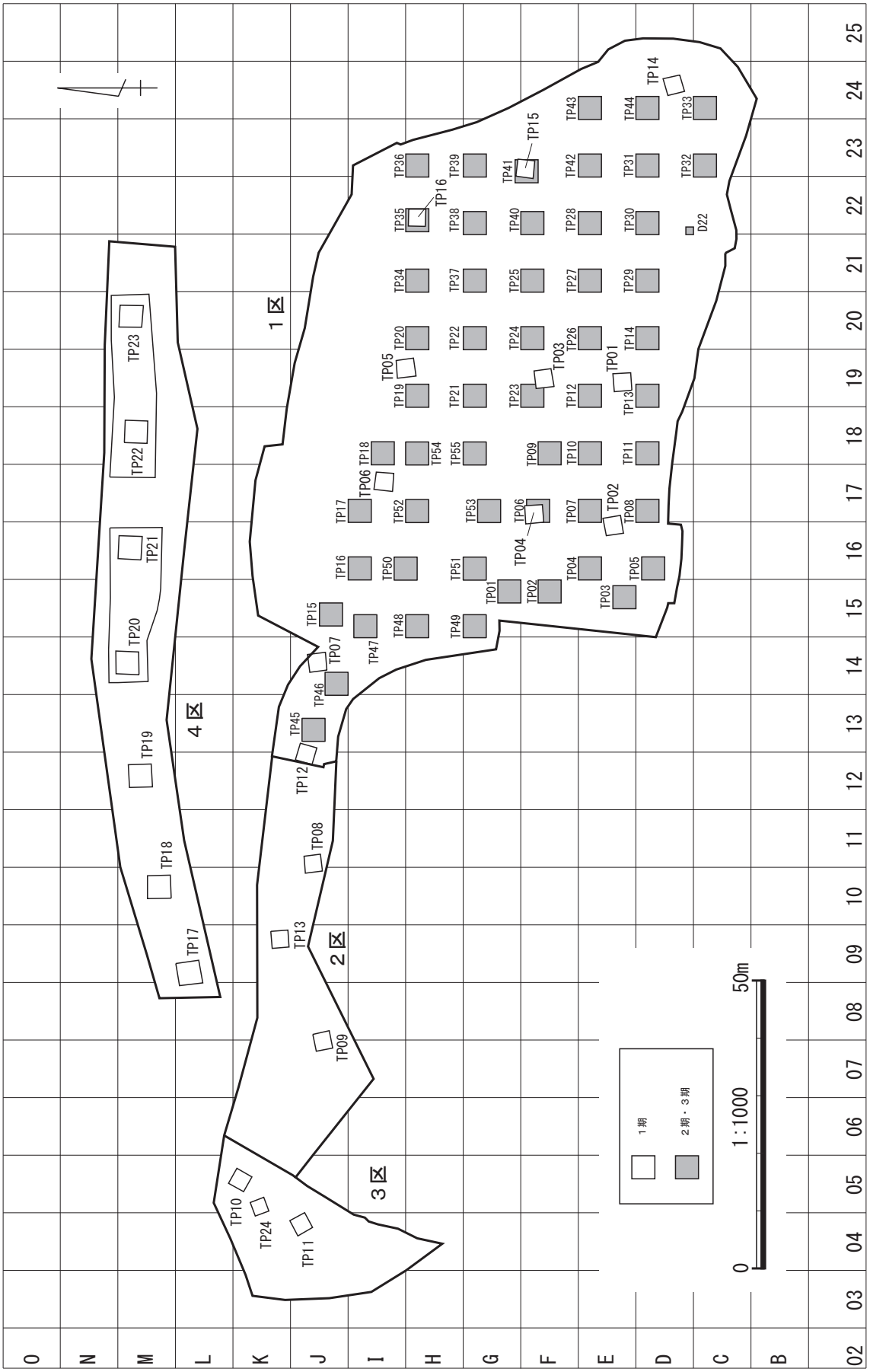
第32層　中部ローム層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）多量に含む。



第６図　土層堆積状況１



第７図　土層堆積状況２（１区）



第８図　テストピット配置

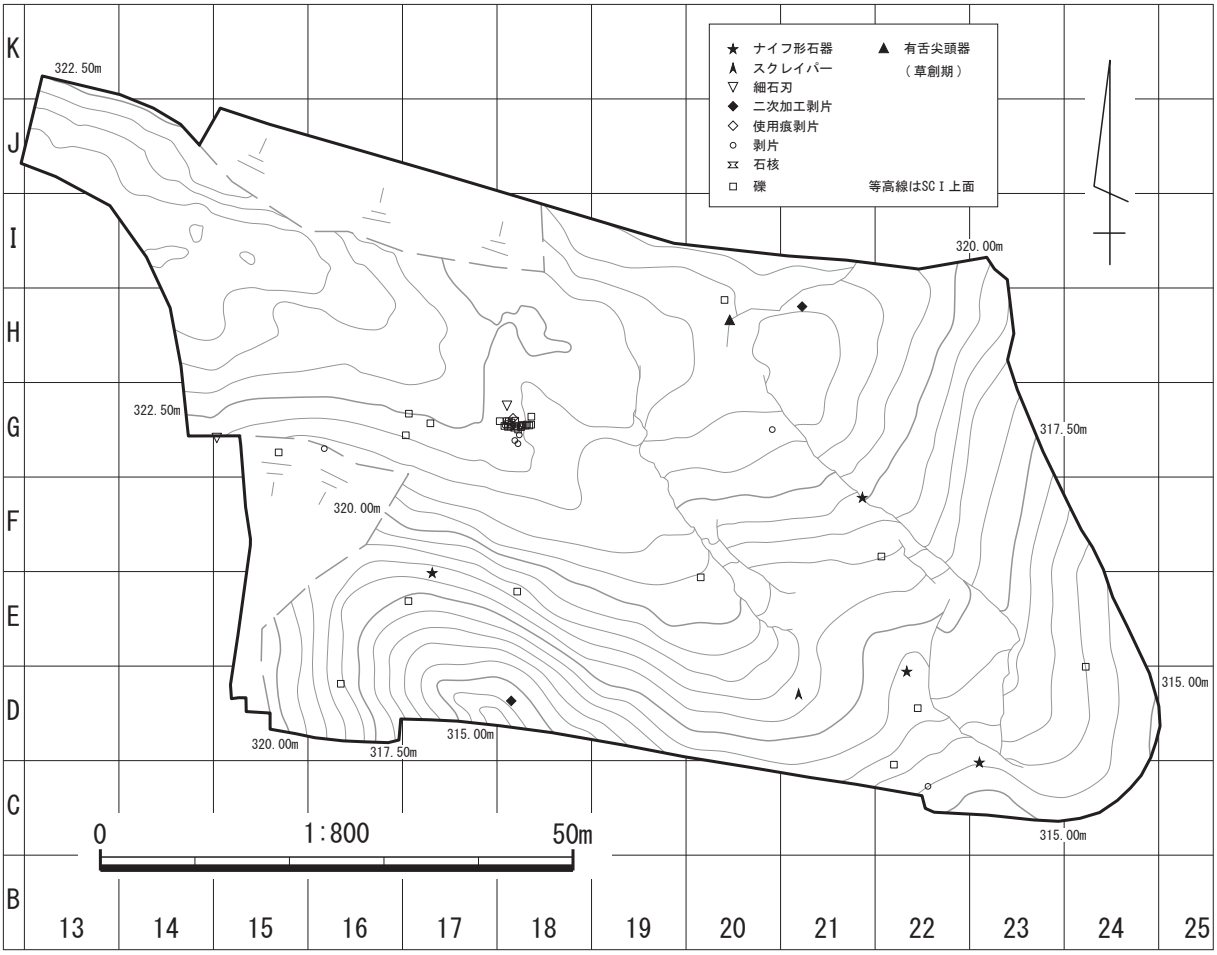
第３節　旧石器時代の遺構と遺物

１　文化層の設定

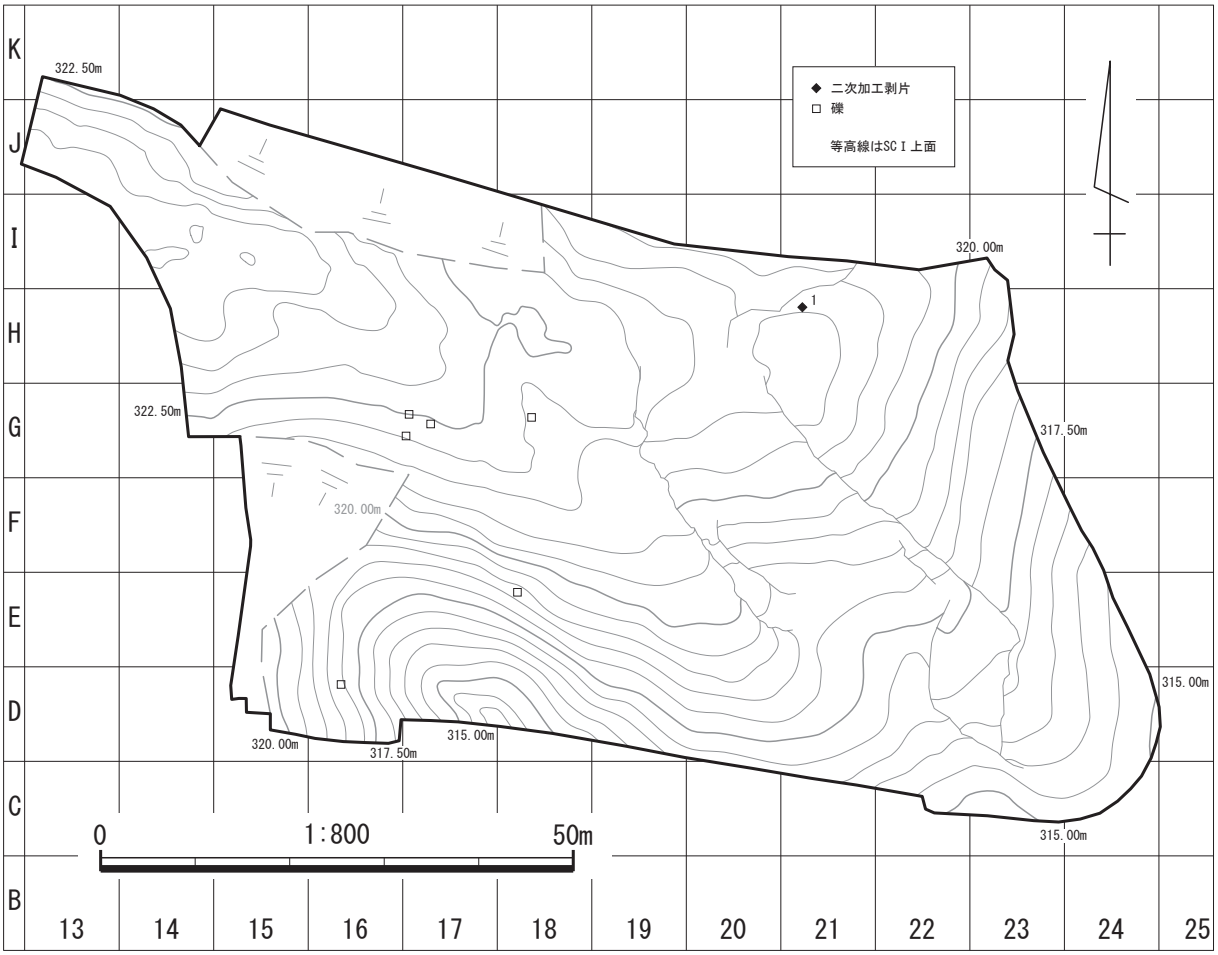
遺物の分布状況から、ニセローム層から第Ⅰスコリア層までが第Ⅰ文化層、休場層直下黒色帯から休場層上層までを第Ⅱ文化層に分けた。

２　第Ⅰ文化層（第10図・第11図）

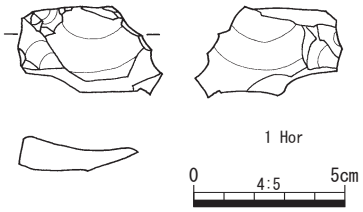
第Ⅰ文化層からは遺構は検出されなかった。遺物は石器が１点と礫が６点出土しており、石器は二次加工剥片である（第11図１）。石材はホルンフェルスで、左側縁部に加工痕が目立つ。第Ⅰスコリア層から出土した。礫は５点が第Ⅰ黒色帯、１点がニセローム層から出土しており、その半数が赤化していた。礫形態は第Ⅰ黒色帯から出土したものは亜角礫、ニセローム層のものは亜円礫であった。



第９図　旧石器時代遺物分布



第10図　第Ⅰ文化層遺物分布



第11図　第Ⅰ文化層出土遺物

第３表　第Ⅰ文化層石器一覧

遺構名	挿図番号	挿枝	遺物番号	枝番	器種	層位	石材	産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
	1		2862		二次加工剥片	SCⅠ	Hor		15.0	24.0	8.0	2.3		H-021	-88061.961	35492.279	321.299

第４表　第Ⅰ文化層礫一覧

遺構名	遺物番号	枝番	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	状態	色調	礫形態	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
	2837		BBⅠ	Ba	70	68	36	150		B		亜角礫	E-018	-88092.115	35462.136	318.200
	2856		BBⅠ	Ba	148	127	45	920		B		亜角礫	D-016	-88101.867	35443.473	317.525
	6914		BBⅠ	Ba	110	71	38	360		C	A	亜角礫	G-018	-88073.613	35463.632	321.215
	6915		BBⅠ	An(Py)	55	26	21	30		D	A	亜角礫	G-017	-88073.293	35450.672	321.783
	6916		BBⅠ	An(Py)	90	66	35	190		D	A	亜角礫	G-017	-88075.580	35450.349	321.307
	6917		NL	An(Py)	35	35	13	20		B		亜円礫	G-017	-88074.311	35452.951	321.146

凡例

状態	色調
A---非赤化完形	A---淡い赤化又は白化
B---非赤化破損	B---黄褐色に赤みがかった赤化
C---赤化完形	C---非常に赤化
D---赤化破損	
E---割れ面非赤化	

３　第Ⅱ文化層（第12図～第15図）

第Ⅱ文化層の遺構は礫群が１基検出されたのみである。１区のＧ－18グリッドから検出し、南北約2.5m、東西約3.5mの範囲に19点の礫が散漫して出土した。全てが被熱して赤化しており、ススが付着しているものもある。石材は輝石安山岩が11点、多孔質安山岩が５点、多孔質玄武岩のものが３点である。すべて休場中層からの出土である。

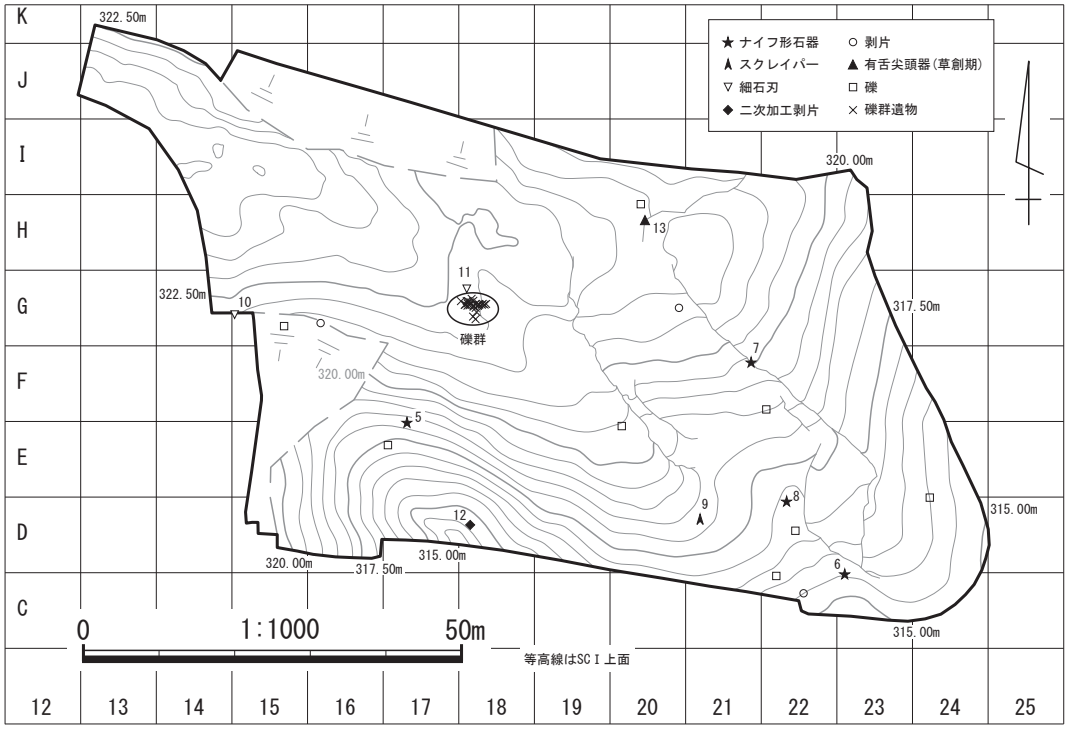
礫群に伴って遺物も出土した。石器が８点出土しており、そのうち３点が接合した。石核（第14図２）と使用痕剥片（同３）、剥片（同４）が１点ずつ、砕片が２点あり、いずれも蓼科冷山群産の黒曜石である。石核は、剥離面を転移させながら剥離させるＡ２タイプであり、腹面を上下から剥離している。また、刃部を調整した痕が見られ、スクレイパーからの転用と考えられる。使用痕剥片は、側縁の一部と末端の剥離の一部に微細な使用痕が見られる。剥片は３点の接合資料である。なお、砕片は小片のため図化できなかった。

遺構に伴わない第Ⅱ文化層出土遺物は、石器は12点、礫が15点である。石器はナイフ形石器が４点（第15図５～８）、スクレイパー１点（同９）、細石刃２点（同10、11）、二次加工剥片は１点（同12）、有舌尖頭器も１点（同13）、剥片１点、砕片２点である。このうちナイフ形石器１点と有舌尖頭器はホルンフェルス製、スクレイパーが珪質頁岩製、剥片１点が細粒安山岩製であり、それ以外は黒曜石製である。なお、細石刃や有舌尖頭器は草創期のものと思われるが、旧石器時代の第Ⅱ文化層の上層位で出土しているため一括して報告する。

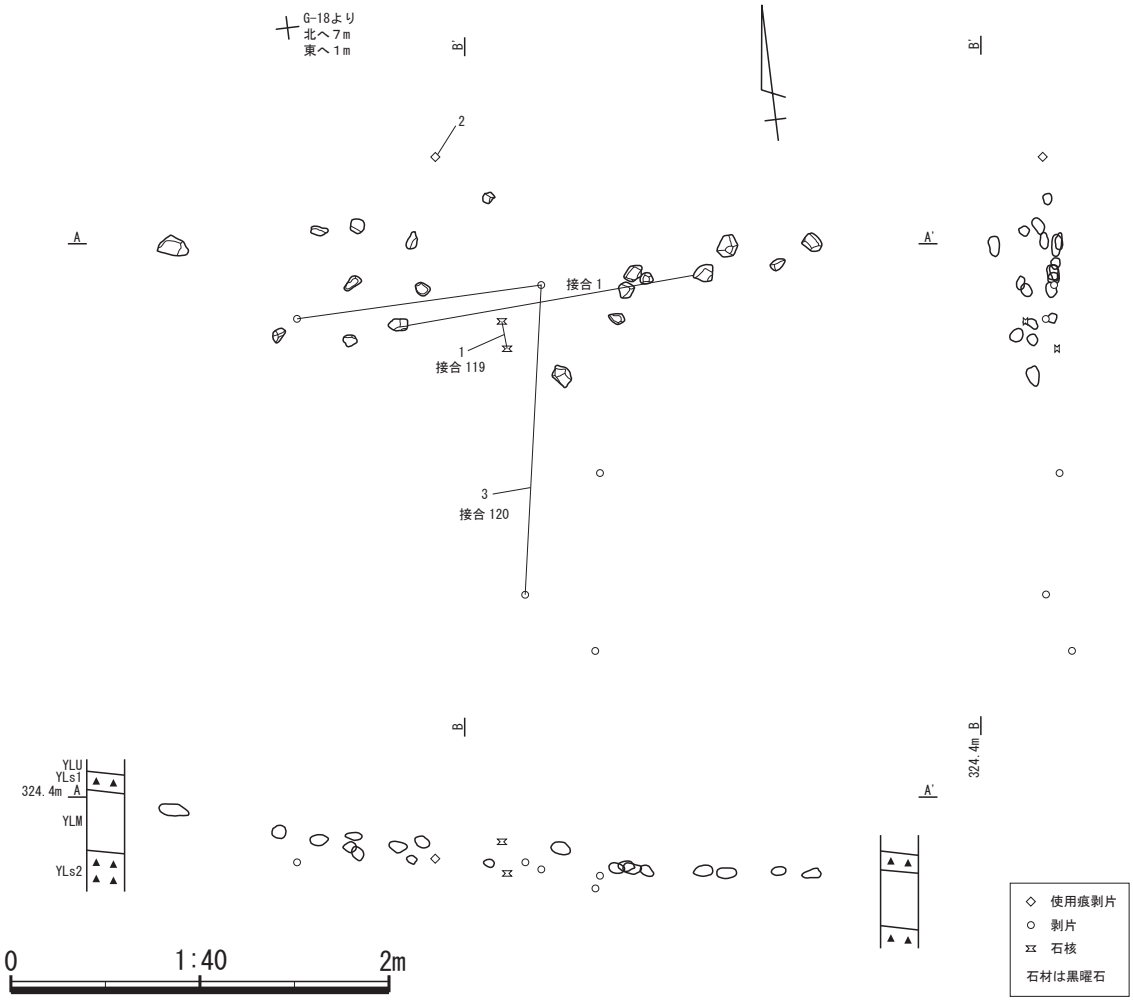
ナイフ形石器の５は右側縁が上部と末端、左側縁部は下半に微細な剥離痕が数多く認められる。６は、左右両側縁部とも先端から末端まで連続して剥離しており、裏面も下半は剥離痕が多く見られる。７は上半が欠損しているが、残存部の右側縁は全て剥離を施している。８は右側縁部上部、左側縁部は全体に剥離が見られる。なお石材は、５～７が産地分析により諏訪星ヶ台群産と考えられる黒曜石であり、８だけがホルンフェルス製である。９のスクレイパーは側縁部に刃部が削出されている、いわゆるサイドスクレイパーであり、右側縁部に細かい剥離痕が目立つ。細石刃については、10はあまり剥離が認められないが、11は裏面の左側縁に微細な剥離が見られる。これは使用による剥離痕であろうか。12の二次加工剥片は右側縁上部に両面とも剥離の加工痕が見られる。左側縁上部の裏面にも微細な剥離が見られる。下面に一部礫面が残る。13の有舌尖頭器は先端部と基部が欠損しており、剥離は粗い。なお、剥片と砕片は小片のため図化はしていない。

第５表　第Ⅱ文化層石器組成

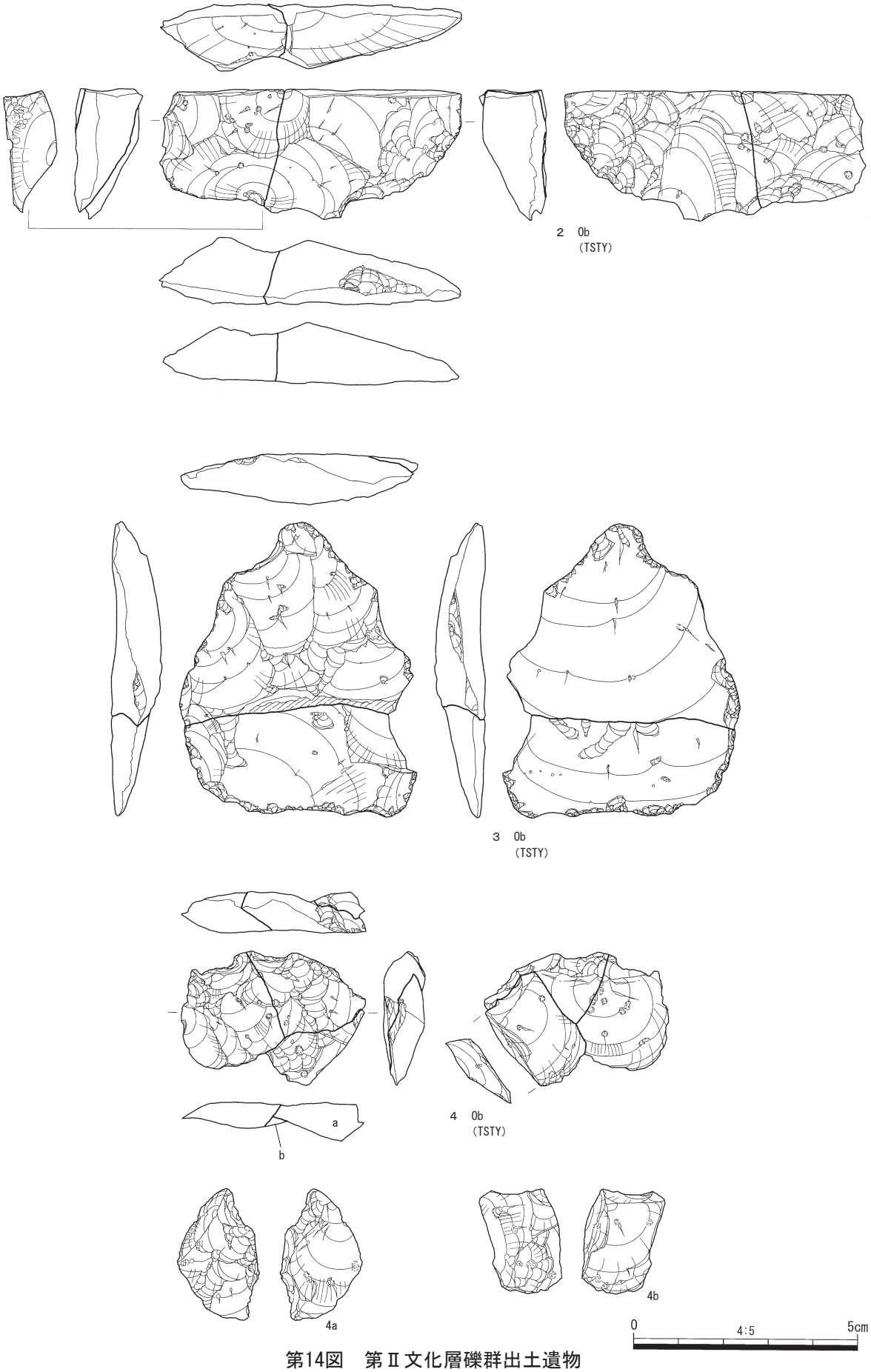
石材	黒曜石					細粒安山岩	ホルンフェルス	珪質頁岩	硬質頁岩	合計
	諏訪星ヶ台群	蓼科冷山群	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析					
石材略号	SWHD	TSTY	HNHJ	KZOB	－	FAn	Hor	SSh	HS	
ナイフ形石器	3						1			4
スクレイパー								1		1
細石刃				1					1	2
二次加工剥片	1									1
使用痕剥片		1								1
剥片		3				1				4
砕片		2	1		1					4
石核		2								2
有舌尖頭器							1			1
合計	4	8	1	1	1	1	2	1	1	20



第12図　第Ⅱ文化層遺物分布



第13図　第Ⅱ文化層礫群



第14図　第Ⅱ文化層礫群出土遺物

第15図　第Ⅱ文化層出土遺物

第６表　第Ⅱ文化層礫群出土石器一覧

遺構名	挿図番号	挿枝	遺物番号	枝番	器種	層位	石材	産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
礫群	2		6650		石核	YLM	Ob	TSTY	29.3	41.8	14.6	16.34	119	G-018	-88074.679	35461.937	323.364
			6904			YLM			25.7	29.0	12.3	9.43		G-018	-88074.826	35461.947	323.197
礫群	3		6651		使用痕剥片	YLM	Ob	TSTY	64.2	50.3	10.8	27.51		G-018	-88073.773	35461.693	323.274
礫群	4	a	6887		接合資料	YLM	Ob	TSTY	29.6	17.8	6.6	2.74	120	G-018	-88076.129	35461.884	323.256
			6909		剥片	YLM			23.2	17.5	6.8	2.90		G-018	-88074.534	35460.863	323.257
		b	6903		剥片	YLM			25.5	22.5	7.4	2.41		G-018	-88074.513	35462.167	323.219
礫群			6910		砕片	YLM	Ob	TSTY	-	-	-	0.09		G-018	-88075.538	35462.355	323.184
礫群			6911		砕片	YLM	Ob	TSTY	-	-	-	0.08		G-018	-88076.469	35462.216	323.118

第７表　第Ⅱ文化層礫群出土礫一覧

遺構名	遺物番号	枝番	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	状態	色調	ス	礫形態	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
礫群	6888		YLM	An(Py)	140	98	57	840		C	B		亜角礫	G-018	-88074.087	35460.285	323.499
礫群	6889		YLM	VAn	84	84	68	500		C	C		亜円礫	G-018	-88074.593	35460.781	323.377
礫群	6890		YLM	An(Py)	93	68	49	320		C	C		亜円礫	G-018	-88074.084	35461.046	323.339
礫群	6891		YLM	VBa	76	34	38	100		C	B		亜角礫	G-018	-88074.389	35461.163	323.367
礫群	6892		YLM	An(Py)	80	70	46	320		C	B		亜角礫	G-018	-88074.477	35461.544	323.332
礫群	6893		YLM	An(Py)	54	48	38	150		D	B	○	亜角礫	G-018	-88074.036	35461.925	323.232
礫群	6894		YLM	An(Py)	125	91	77	960		C	A		亜角礫	G-018	-88074.973	35462.228	323.294
礫群	6895		YLM	VAn	80	62	49	240		C	B		亜角礫	G-018	-88074.717	35462.542	323.209
礫群	6896		YLM	An(Py)	82	67	51	360		C	B	○	亜角礫	G-018	-88074.573	35462.593	323.205
礫群	6897		YLM	VBa	96	83	64	470		C	C		亜角礫	G-018	-88074.497	35462.636	323.194
礫群	6898		YLM	VAn	73	65	60	310		D	C		亜角礫	G-018	-88074.550	35462.718	323.186
礫群	6899		YLM	An(Py)	98	80	50	510	1	D	C		亜角礫	G-018	-88074.556	35463.045	323.185
礫群	6900		YLM	An(Py)	106	92	66	840		C	B		亜角礫	G-018	-88074.442	35463.165	323.174
礫群	6901		YLM	VAn	79	53	48	190		C	C	○	亜円礫	G-018	-88074.542	35463.413	323.179
礫群	6902		YLM	VAn	92	69	44	300		D	C		亜角礫	G-018	-88074.457	35463.616	323.167
礫群	6905		YLM	VBa	62	62	46	180		C	B		亜角礫	G-018	-88074.689	35461.144	323.295
礫群	6906		YLM	An(Py)	97	78	62	580		C	B		亜角礫	G-018	-88074.100	35461.249	323.259
礫群	6907		YLM	An(Py)	84	68	42	270	1	D	C		亜角礫	G-018	-88074.641	35461.422	323.299
礫群	6908		YLM	An(Py)	95	58	36	180		C	C		亜角礫	G-018	-88074.228	35461.537	323.245

第８表　第Ⅱ文化層石器一覧

遺構名	挿図番号	挿枝	遺物番号	枝番	器種	層位	石材	産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
	5		2846		ナイフ形石器	YLL	Ob	SWHD	40.9	17.0	4.1	2.40		E-017	-88090.107	35453.150	318.983
	6		2841		ナイフ形石器	YLM	Ob	SWHD	32.4	16.0	5.9	3.00		C-023	-88110.156	35511.040	316.603
	7		2521		ナイフ形石器	YLU	Ob	SWHD	(24.0)	20.8	5.8	2.75		F-021	-88082.144	35498.656	321.183
	8		2842		ナイフ形石器	YS1	Hor		43.3	14.9	6.6	4.14		D-022	-88100.536	35503.355	318.111
	9		2855		スクレイパー	YLU	SSh		38.6	16.6	6.0	3.84		D-021	-88102.919	35491.910	319.308
	10		5733		細石刃	YLU	Ob	KZOB	21.7	7.0	3.0	0.37		G-015	-88075.868	35430.355	323.670
	11		6912		細石刃	YLL	HS		27.1	8.9	4.5	0.93		G-018	-88072.456	35461.056	322.766
	12		2836		二次加工剥片	YLU	Ob	SWHD	45.1	30.8	12.7	13.30		D-018	-88103.679	35461.505	316.892
			2850		剥片	YLM	FAn		56.9	50.2	0.9	30.95		C-022	-88112.720	35505.593	316.565
			2854		砕片	YLU	Ob	測定不可	-	-	-	0.02		G-020	-88074.975	35489.119	322.445
			5897		砕片	YLU	Ob	HNHJ	-	-	-	0.08		G-016	-88076.990	35441.725	323.695
	13		2843		有舌尖頭器	YLU	Hor		(50.5)	16.1	5.5	5.54		H-020	-88063.372	35484.619	322.311

第９表　第Ⅱ文化層礫一覧

遺構名	遺物番号	枝番	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	状態	色調	礫形態	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
	74		YLU	VAn	266	151	113	6040		A		亜角礫	M-014	-88010.909	35424.749	311.812
	2557		YLU	Ba	140	119	54	880		B		亜円礫	E-017	-88093.124	35450.627	320.304
	2825		YLM	Ba	131	119	53	760		B		亜円礫	G-015	-88077.390	35436.897	323.203
	2845		YLM	An(Py)	283	195	148	8020		D	B	亜角礫	H-020	-88061.264	35484.070	321.737
	2847		YLM	An(Py)	80	63	16	70		C	B	亜角礫	E-020	-88090.607	35481.551	321.506
	2849		YLM	VBa	80	74	58	380		C	B	円礫	C-022	-88110.426	35501.990	317.330
	2851		YLU	Ba	103	70	60	410		C	B	亜角礫	D-022	-88104.448	35504.511	318.292
	2853		YLM	An(Py)	58	43	23	40		D	B	亜角礫	F-022	-88088.404	35500.666	319.766
	2859		BB0	Ba	77	65	16	60		B		亜角礫	D-024	-88100.069	35522.285	316.233

凡例

状態	色調
A---非赤化完形	A---淡い赤化又は白化
B---非赤化破損	B---黄褐色に赤みがかった赤化
C---赤化完形	C---非常に赤化
D---赤化破損	
E---割れ面非赤化	

第４節　縄文時代の遺構と遺物

１　遺構

縄文時代に該当すると考えられる遺構は、集石が７基、土坑17基、焼土が２基、遺物集中が４ヶ所検出されている。

（１）集石（第18図）

１号集石は富士黒土層を掘り込んだ集石で、116点の礫が出土しておりほとんどが赤化していた。掘り込みは0.3m程の深さであった。２号集石は富士黒土層中の集石で、礫49点のうち44点は赤化していた。３号集石ではかなり密集した状態で47点の礫が出土した。１つを除いて全て赤化が認められた。富士黒土層から検出した。４号集石では、全て赤化した礫20点と前期の無文土器が出土した。土器は小片のため図化は行っていない。富士黒土層から検出している。５号集石は暗褐色土層にあり18点の礫が散在した状況で出土している。６号集石は富士黒土層から６点の礫が出土した。７号集石では栗色土層から７点の礫が直線的に出土し、全て赤化している。

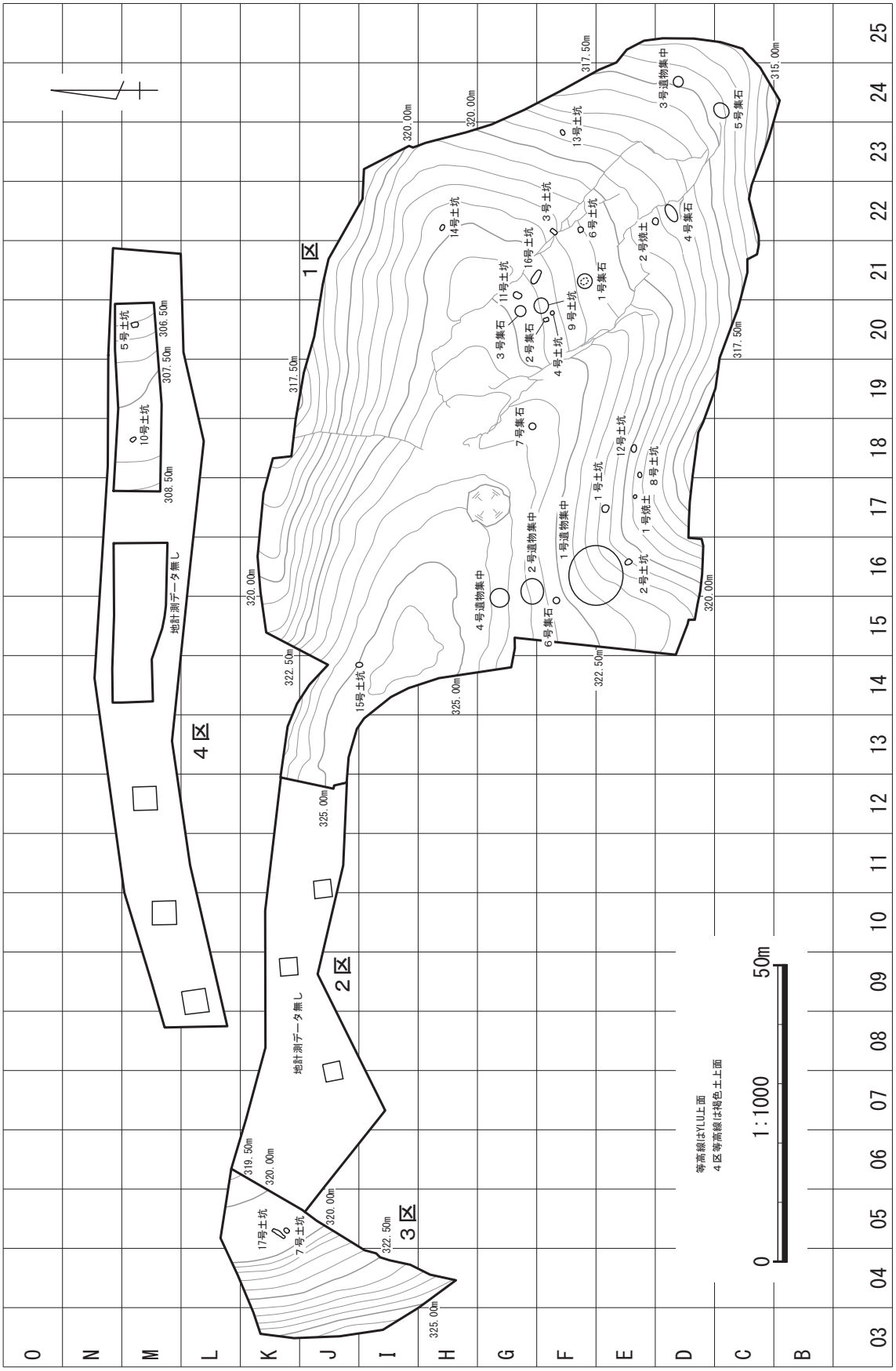
（２）土坑（第19図～第21図）

１号土坑～５号土坑は逆茂木痕がある。６号土坑～９号土坑は平面形が円形、10号土坑～16号土坑は楕円形、17号土坑は長方形をしている。

１号土坑は休場層上面を掘り込んだ土坑であり、深さ0.3m程の逆茂木痕が残る。２号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は不整形である。土坑中央部に深さ約0.3m、幅約0.1mの細長い逆茂木痕が見られる。３号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は長方形に近い不定形を呈している。断面形態は、下層は直線的だが、上面に向かいラッパ状に開いている。４号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は不定形を呈している。断面形態は、中層でややオーバーハング気味である。５号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は長方形を呈している。深さは0.2m程と浅く、南西に位置する逆茂木痕も約0.1mと浅い。ほぼ垂直に掘り込まれている。６号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、深さ１m程とやや深く、平面形態は円形である。７号土坑は約0.6m、８号土坑は約0.5mの深さで、９号土坑は約0.3mと浅く、いずれも平面形態は円形を呈しており、休場層上面を掘り込んだ土坑である。10号土坑～16号土坑は平面形態が楕円形であり、11号土坑は断面がラッパ状に開いており、12号土坑、13号土坑は深さ約0.2mと浅い。14号土坑、16号土坑は撹乱や試掘溝などにより切られており、16号土坑の覆土の上層から礫が２個出土した。15号土坑は標高325m付近とかなり高いところから検出された。富士黒色土層から掘り込んでいる。17号土坑は３区の平坦面から検出された遺構で、平面は長方形を呈し、垂直に掘り込まれている。

（３）焼土（第21図）

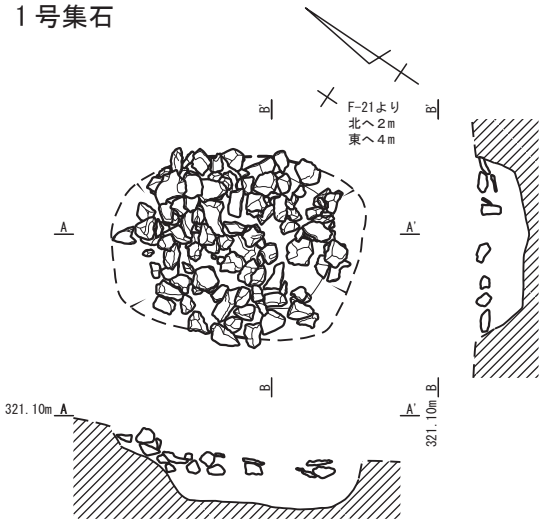
１号焼土は１区南側斜面で検出され、円形の土坑に焼土が含まれている。遺物の出土は無かった。２号焼土は、検出面では焼土は確認できなかったが、掘り進めると覆土に焼土が含まれていた。出土遺物は、赤化した礫が６点と、石器が11点出土したが、砕片や剥片ばかりであるため図化はしていない。



第16図　縄文時代遺構位置

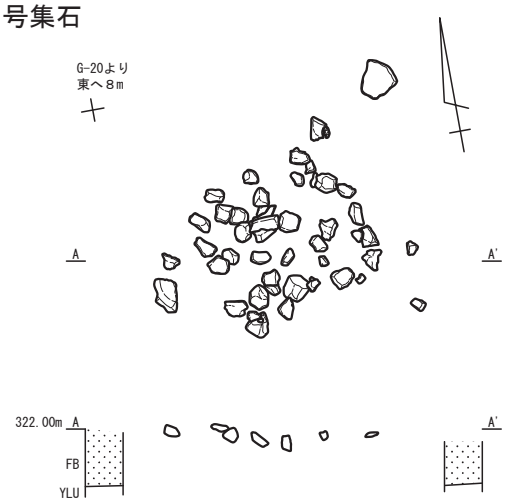
第17図　縄文時代出土遺物分布

１号集石

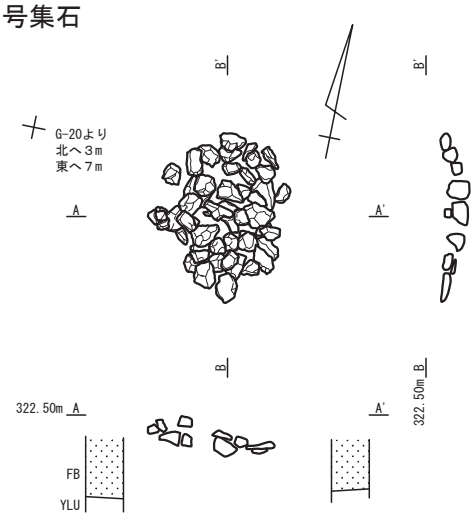


黒褐色土 10YR 2/2　粘性、締まり有り。黒味の強い FB 層か。
φ1-4mm 程度の炭化物粒僅かに混入する。
φ2-5mm 程度の赤褐色スコリアを極僅かに含む。

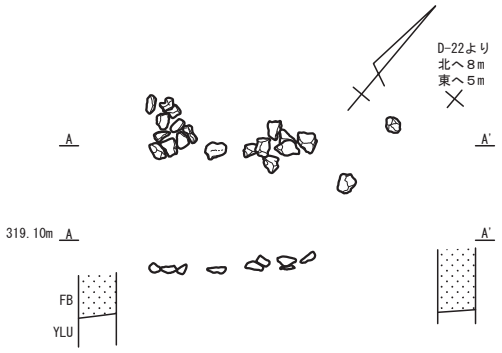
２号集石



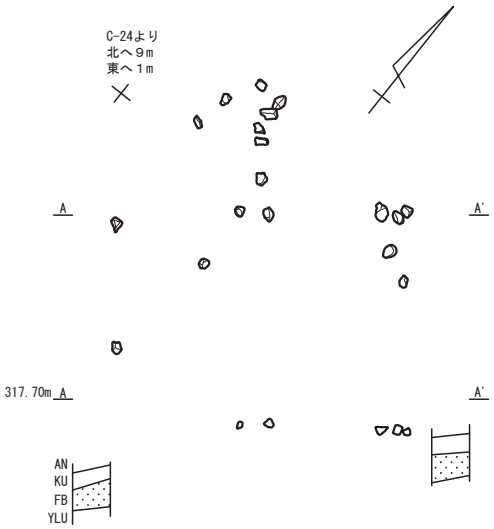
３号集石



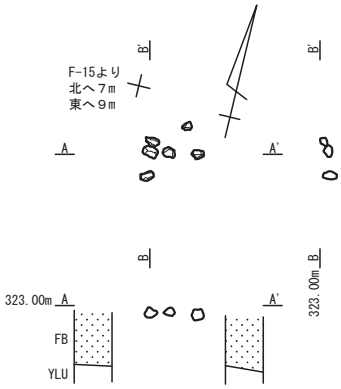
４号集石



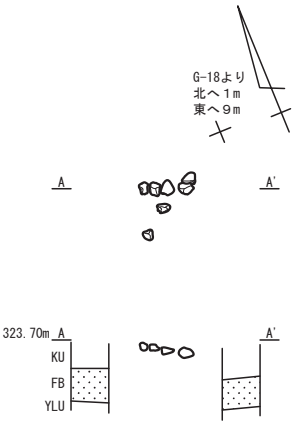
５号集石

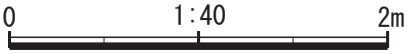


６号集石



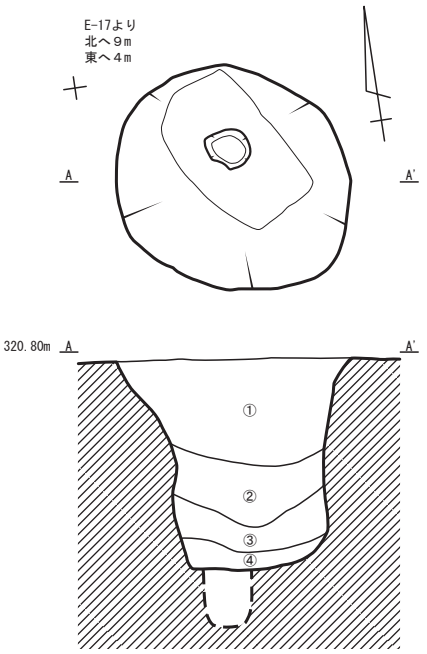
７号集石





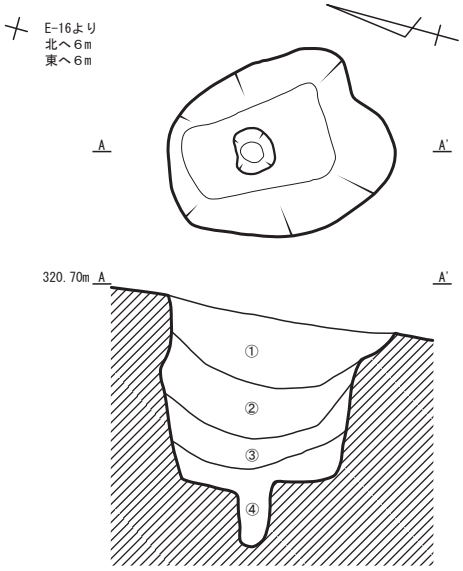
第18図　集石

１号土坑



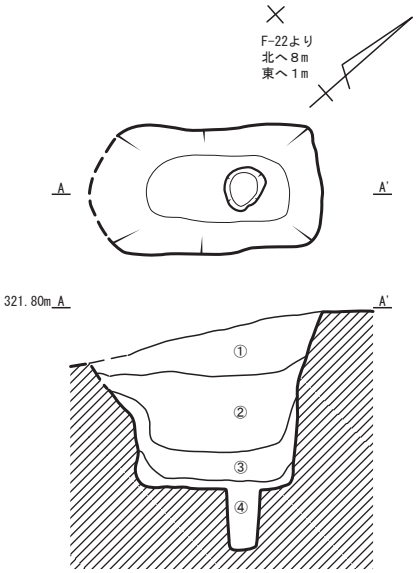
① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、締まり極めて強い。AN 層に類似する。
φ1mm 以下の赤褐色スコリアを多く含む。
φ1-3mm 程度の炭化物粒がごく僅かに混入する。
② 暗褐色土 10YR 3/3 粘性有り、締まり強い。KU-FB 層の混土か。
φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性強い、締まり弱い。FB 層に類似する。
φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
④ 褐色土 10YR 4/6 粘性強い、締まり有り。ZN 層に類似する。
φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。

２号土坑



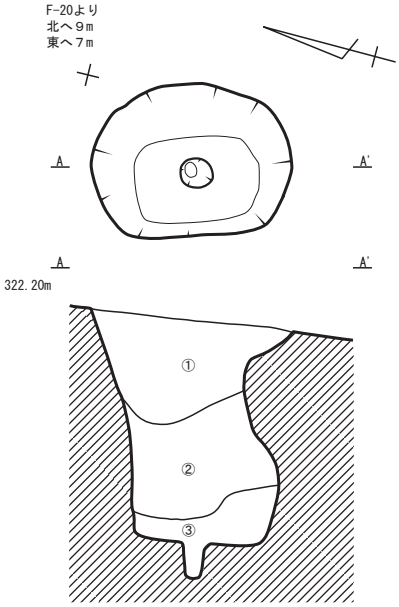
① 褐色土 10YR 4/6 粘性有り、締まり極めて強い。KGP-AN 層の混土か。
白色パミスを僅かに含む。φ1-2mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
φ1-2mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、締まり強い。KU-FB 層の混土か。
φ1-2mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/3 粘性、締まり有り。FB 層に類似する。
φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
④ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性強い、締まり弱い。FB-ZN 層の混土か。
φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。

３号土坑



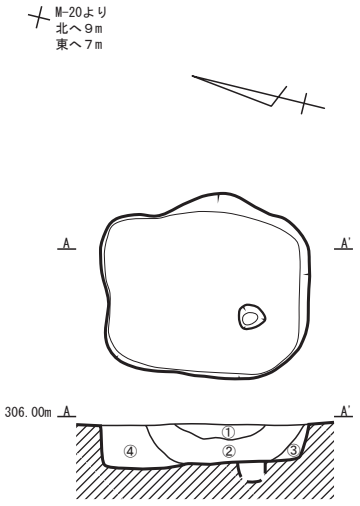
① 黒褐色土 10YR 2/2 粘性有り、締まり極めて強い。
白色パミス？を多く含む。φ1mm 程度の赤褐色スコリアを
多く含む。
② 暗褐色土 10YR 3/3 粘性強い、締まり極めて強い。
AN-KU 層に類似する。φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性強い、締まり有り。
FB 層に類似する。φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。
④ 褐色土 10YR 4/6 根性強い、締まり弱い。
FB-ZN 層の混土か。φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。

４号土坑



① 黒褐色土 7.5YR 3/1 粘性有り、締まり極めて強い。
φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
φ1-4mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、締まり強い。
壁面が崩落しているようである。
φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
φ1-4mm 程度の炭化物粒が極僅かに混入する。
③ 褐色土 10YR 4/6 粘性有り、締まり弱い。
ZN 層に類似する。φ1-3mm 程度の炭化物粒が
僅かに混入する。

５号土坑

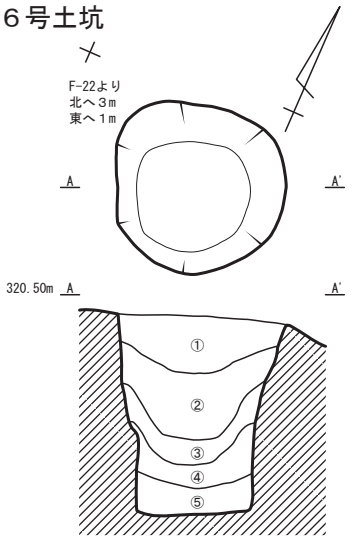


① 暗褐色土 10YR 3/4　粘性、締まりやや有り。
② 暗褐色土 10YR 3/4　粘性、締まり有り。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性有り、締まりやや有り。
④ 黒褐色土 10YR 3/2　粘性有り、締まりやや欠ける。

0　1:40　2m

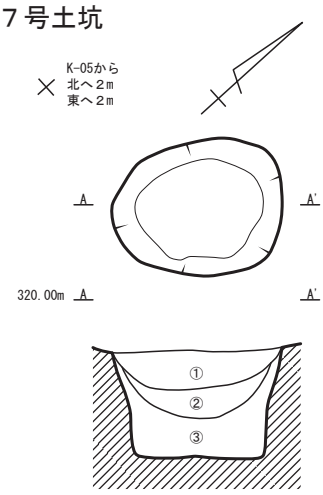
第19図　土坑１

６号土坑



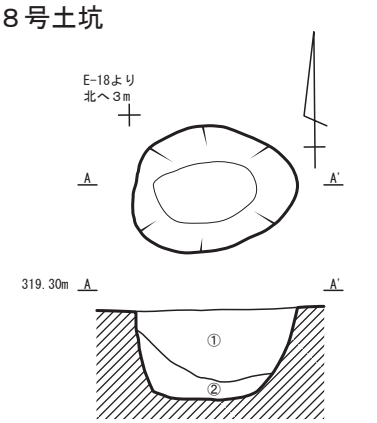
① 褐色土 10YR 4/6 粘性有り、締まり強い。KU 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
　φ1-3mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性強い、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
　φ1-3mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
③ 黒褐色土 10YR 2/3 粘性弱い、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ2-4mm 程度の橙色スコリアを多く含む。
④ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性強い、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-4mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
⑤ 褐色土 10YR 4/6 粘性、締まり有り。FB-ZN 層の混土か。
　φ2-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。

７号土坑



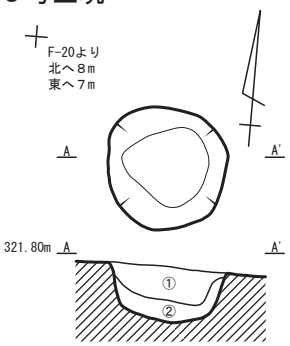
① 褐色土 10YR 4/4 粘性、締まりやや有り。
　φ2-3mmの橙色・黒色スコリアを僅かに含む。KU層。
② 褐色土 10YR 4/4 粘性、締まり強い。
　φ2-3mmの橙色・黒色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/3 粘性やや有り、締まり強い。
　φ2-3mmの橙色・黒色スコリアを僅かに含み、
　微量の炭化物が混じる。

８号土坑



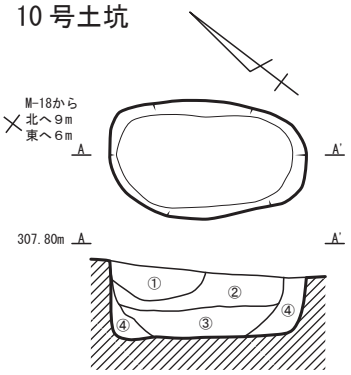
① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、締まり極めて強い。
　FB 層に類似する。φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
　僅かに含む。
② 褐色土 10YR 4/6 粘性強い、締まり有り。
　ZN 層に類似する。φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
　多く含む。

９号土坑



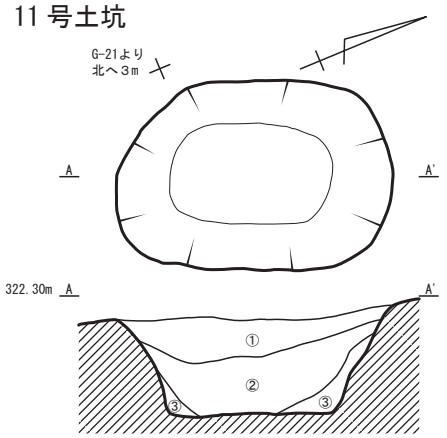
① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、締まり強い。
　FB 層に類似する。φ2-4mm 程度の赤褐色スコリアを
　僅かに含む。φ1-4mm 程度の炭化物が僅かに混入する。
② 褐色土 10YR 4/6 粘性、締まり有り。FB-ZN 層の混土か。
　φ2-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
　φ1-3mm 程度の炭化物が極僅かに混入する。

10 号土坑



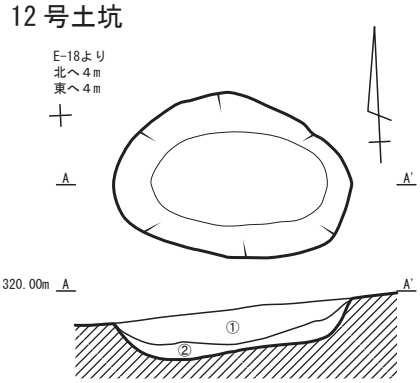
① 褐色土 7.5YR 4/4 粘性やや有り、締まり弱い。
　赤色スコリアを僅かに含む。
② にぶい黄褐色土 10YR 4/3 粘性、締まりやや有り。
③ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性やや有り、締まり弱い。
④ 褐色土 10YR 4/4 粘性、締まり有り。
　赤色スコリアをやや多く含む。

11 号土坑



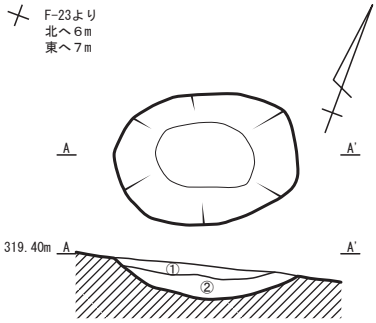
① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。KU 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
② 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
③ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性有り、締まり弱い。ZN-YLU 層に類似する。
　壁からの崩落土か。φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。

12 号土坑



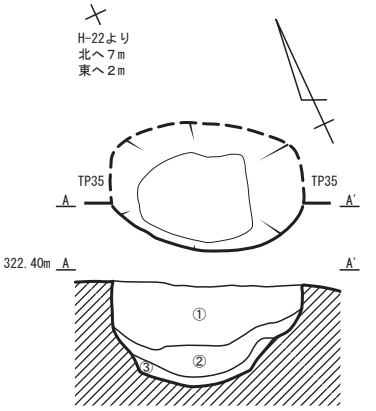
① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 褐色土 10YR 4/6 粘性強い、締まり有り。ZN 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを多く含む。

13 号土坑



① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。
　FB 層に類似する。
　φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 褐色土 10YR 4/6 粘性、締まり有り。
　ZN 層に類似する。
　φ1-4mm 程度の赤褐色スコリアを多く含む。

14 号土坑

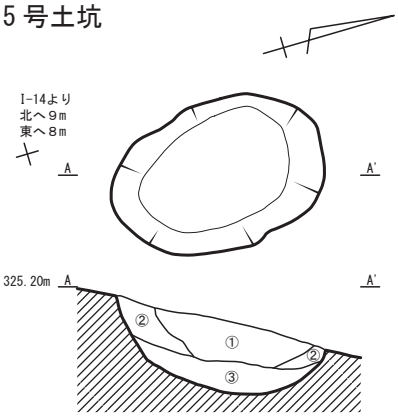


① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
　φ1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性、締まり強い。FB 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
③ 黒褐色土 10YR 2/3 粘性、締まり有り。FB 層に類似する。
　φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
　φ5-15mm 程度の YL 層ブロックを僅かに含む。

0　1:40　2m

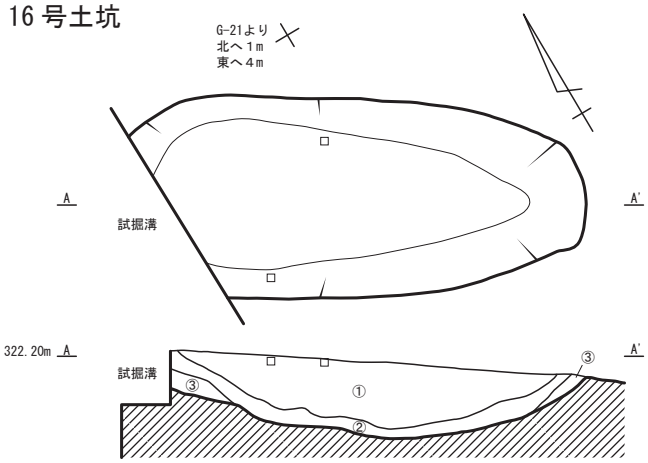
第20図　土坑２

15 号土坑



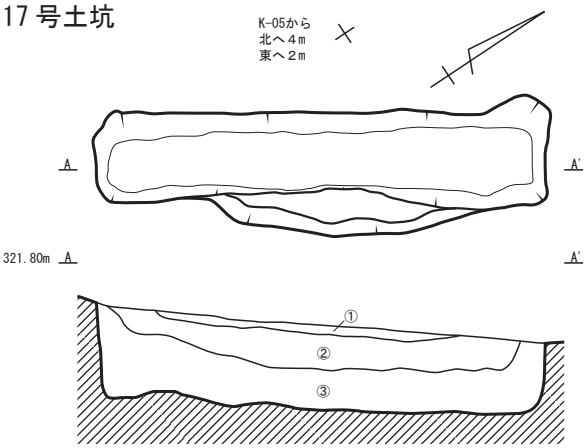
① 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性僅かに有り、締まり無し。
微量の仙石ラピリを含み、φ2 mm以下の赤色スコリアを非常に僅かに含む。
② 褐色土 7.5YR 4/4 粘性やや有り、締まり僅かに有り。
φ7 mm以下の赤色スコリアを少量含む。
③ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性やや有り、締まり僅かに有り。
仙石ラピリを少量含む。

16 号土坑



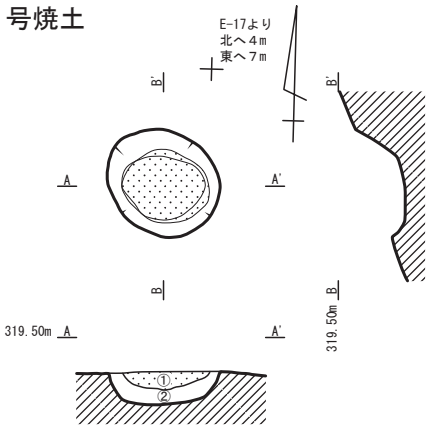
① 黒褐色土 10YR 3/2 粘性有り、締まり極めて強い。KGP-SSC 層の混土か。
白色パミスを僅かに含む。φ1-2mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
② 黒褐色土 10YR 2/3 粘性有り、締まり強い。AN 層に類似する。
φ1-3mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。KU-AN 層の混土か。
φ2-4mm 程度の橙色スコリアを僅かに含む。

17 号土坑



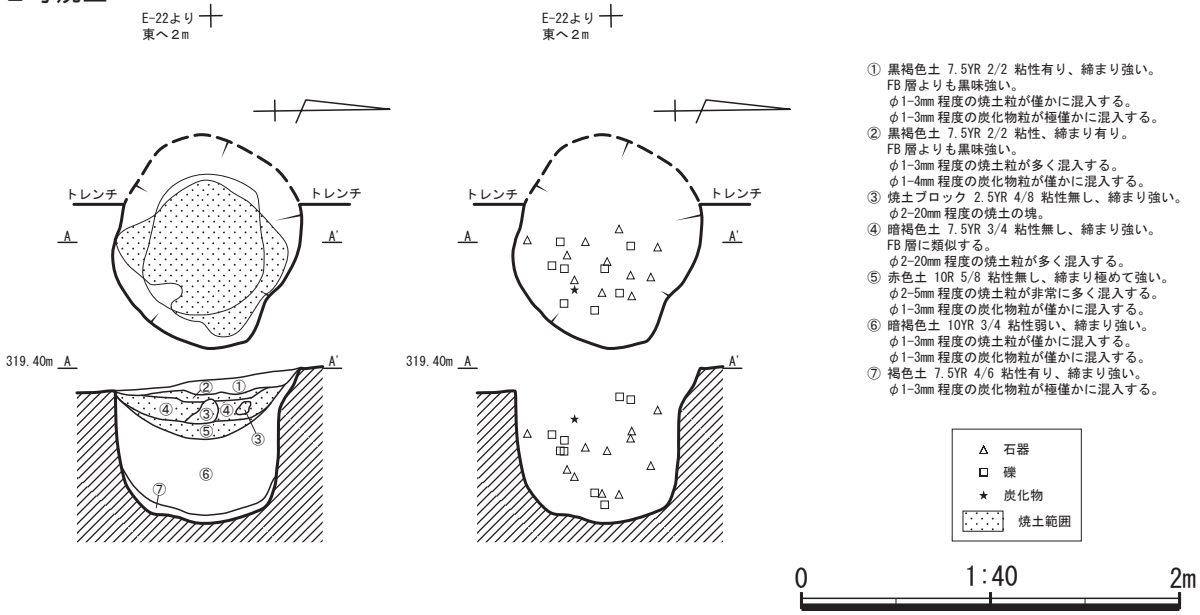
① 黒褐色土 2.5Y 3/2 粘性、締まりやや有り。
φ2-10mmの橙色スコリアを少量、φ2-5mmの黒色スコリアを僅かに含む。
② 黒褐色土 2.5Y 3/2 粘性弱く、締まりやや有り。
φ2-5mmの橙色・黒色スコリアをやや多く含む。
③ 黒褐色土 10YR 3/1 粘性、締まり強い。
φ5-10mmの黒色スコリアをやや多く、φ2-5mmの橙色スコリアを僅かに含む。

１号焼土



① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性弱い、締まり強い。FB 層もしくは
ZN 層に類似する。φ1-3mm 程度の焼土粒が多く混入する。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、締まり有り。FB 層もしくは
ZN 層に類似する。φ1-3mm 程度の焼土粒が極僅かに混入する。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が極僅かに混入する。

２号焼土



① 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性有り、締まり強い。
FB 層よりも黒味強い。
φ1-3mm 程度の焼土粒が僅かに混入する。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が極僅かに混入する。
② 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性、締まり有り。
FB 層よりも黒味強い。
φ1-3mm 程度の焼土粒が多く混入する。
φ1-4mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
③ 焼土ブロック 2.5YR 4/8 粘性無し、締まり強い。
φ2-20mm 程度の焼土の塊。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性無し、締まり強い。
FB 層に類似する。
φ2-20mm 程度の焼土粒が多く混入する。
⑤ 赤色土 10R 5/8 粘性無し、締まり極めて強い。
φ2-5mm 程度の焼土粒が非常に多く混入する。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
⑥ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性弱い、締まり強い。
φ1-3mm 程度の焼土粒が僅かに混入する。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が僅かに混入する。
⑦ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性有り、締まり強い。
φ1-3mm 程度の炭化物粒が極僅かに混入する。

第21図　土坑３・焼土

（４）遺物集中（第22図～第27図）

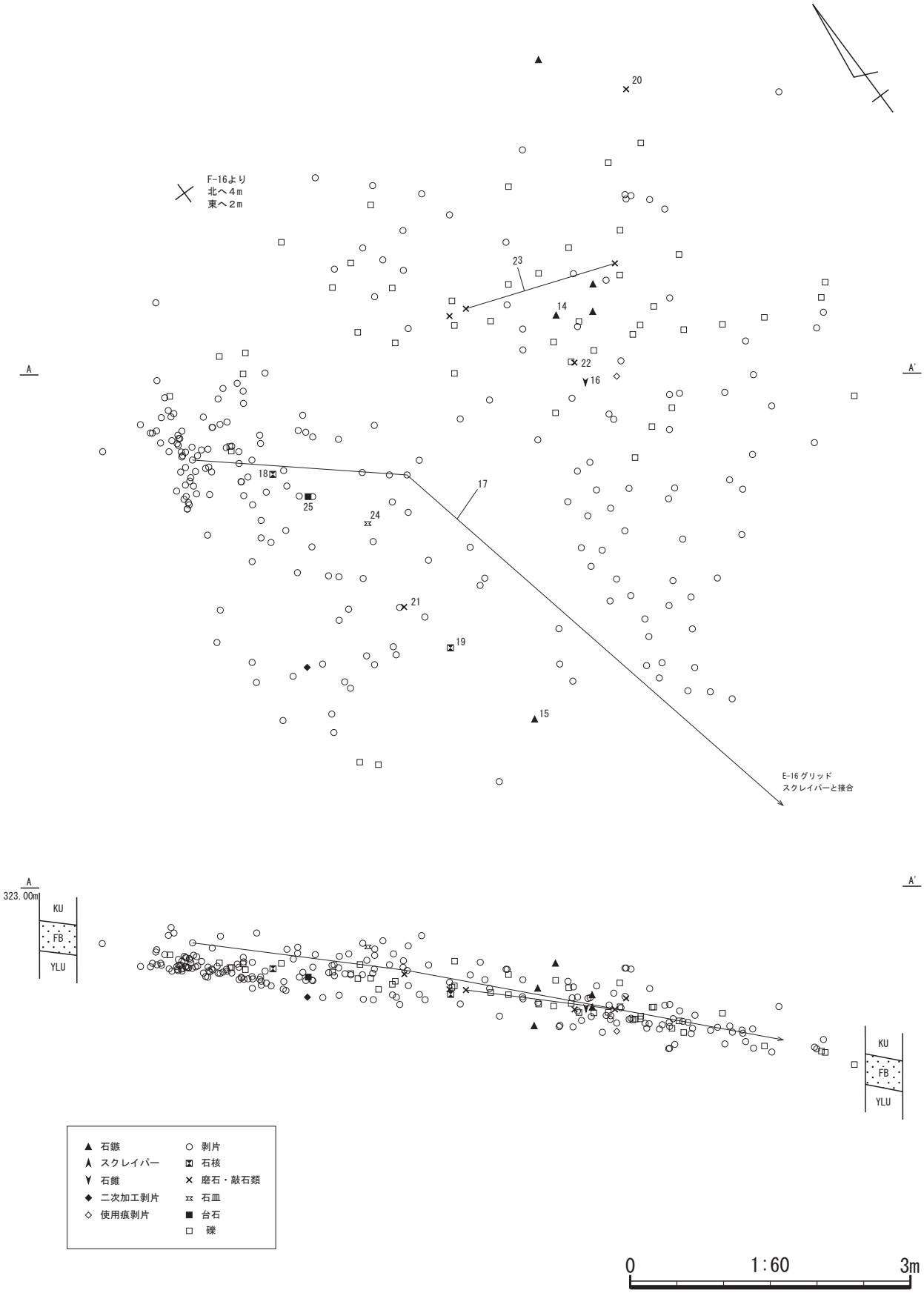
１号遺物集中は、調査区南側の斜面状に位置する広範囲に渡る遺物集中である。45点の礫と225点の石器が休場層上面から栗色土層にかけて出土しているが、南東側の斜面に向かって流れている状況である。遺物の多くは富士黒土層以上から出土しているため、この遺構の帰属時期は縄文時代と判断した。しかし、特定の時期を表す土器などは出土していないため、詳細な時期は不明である。

出土資料の多くは礫と、黒曜石の細かな砕片と剥片だが、他には石鏃５点、石錐１点、二次加工剥片が１点、使用痕剥片が１点、スクレイパーが１点、石核は２点、磨石・敲石類が６点、石皿と台石がそれぞれ１点ずつ出土している。石鏃は状態のよいものを２点実測した。14の石鏃は基部が凹状を成し、脚は丸くなっており抉りは深い。産地分析の結果、神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製のものである。15の石鏃は脚部が片方欠損しているが、凹基の円脚である。箱根畑宿群が産地と推定されている黒曜石を加工して作られており、縁辺部は鋸歯縁状に削出されている。16の石錐は、諏訪星ヶ台群産の黒曜石でできており、縁辺部の加工は粗い。また、左側縁部はあまり尖っておらず面状になっている。17のスクレイパーは２点の接合資料で、50m以上離れた地点から出土した資料と接合した。ａがスクレイパーで下縁辺部に細かな加工痕が見られ、左側縁部にも剥離痕が認められる。節理面が多く残っている。ｂは剥片である。諏訪星ヶ台群産の黒曜石製である。18、19も諏訪星ヶ台群産の黒曜石の石核で、18は固定して一方向に礫面を剥離している。19は打面を転移させながら剥離しており、礫面が多く残っている。20 ～ 23は磨石・敲石類で、20は平面形状が楕円形で厚みがある断面をなし、端部と側縁部を敲いている。21は平面形状が楕円形で断面は厚みがあり、端部と側縁部と平坦部も敲いている。22は不定形の平面形を呈しており、扁平の断面形状で、側縁部を敲いており端部は磨っている。23は平面形が楕円形状で断面は厚みがあり、端部、側縁部をかなり敲いており、平坦面は磨っている。24は石皿であり、多くの量を磨ったのであろうか、かなり窪んでいる。断面は台形状であり、石材は多孔質安山岩である。25は平坦面の幅が広い台石であり、敲き痕が２ヶ所残る。断面は扁平で、輝石安山岩製である。

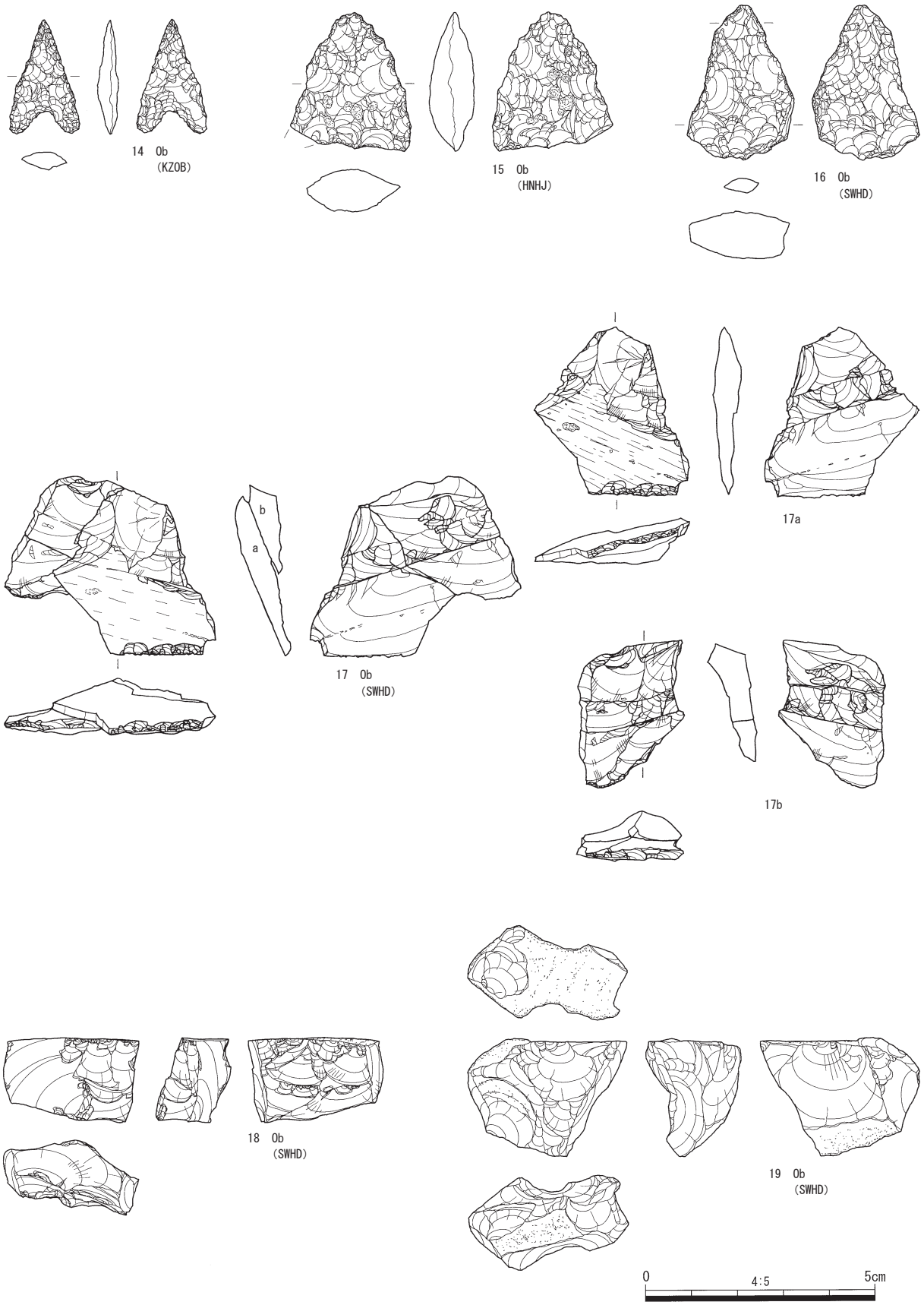
２号遺物集中は１号遺物集中と同じ斜面の北側から検出された。休場層上面から栗色土層にかけて出土しているが、遺物の多くは富士黒土層より上位から出土しているため、やはりこの遺構の帰属時期も縄文時代と判断した。遺物は礫が３点、石器は48点が出土しており、南側斜面にやや流れている。そのうち磨石・敲石類１点を図化した。磨石・敲石類は不定形の形状をしており、断面は厚みがあり、両端部を敲いている。輝石安山岩製である。

３号遺物集中は、調査区南東側の丘陵の下部から検出され、富士黒土層から栗色土層の間に、２m四方の範囲内で1772点の石器が濃密に集中している。そのほとんどは剥片で、それ以外の器種はスクレイパー１点が見られた。スクレイパーは諏訪星ヶ台群産の黒曜石製で、左側縁部から上部にかけて加工痕が見られる。

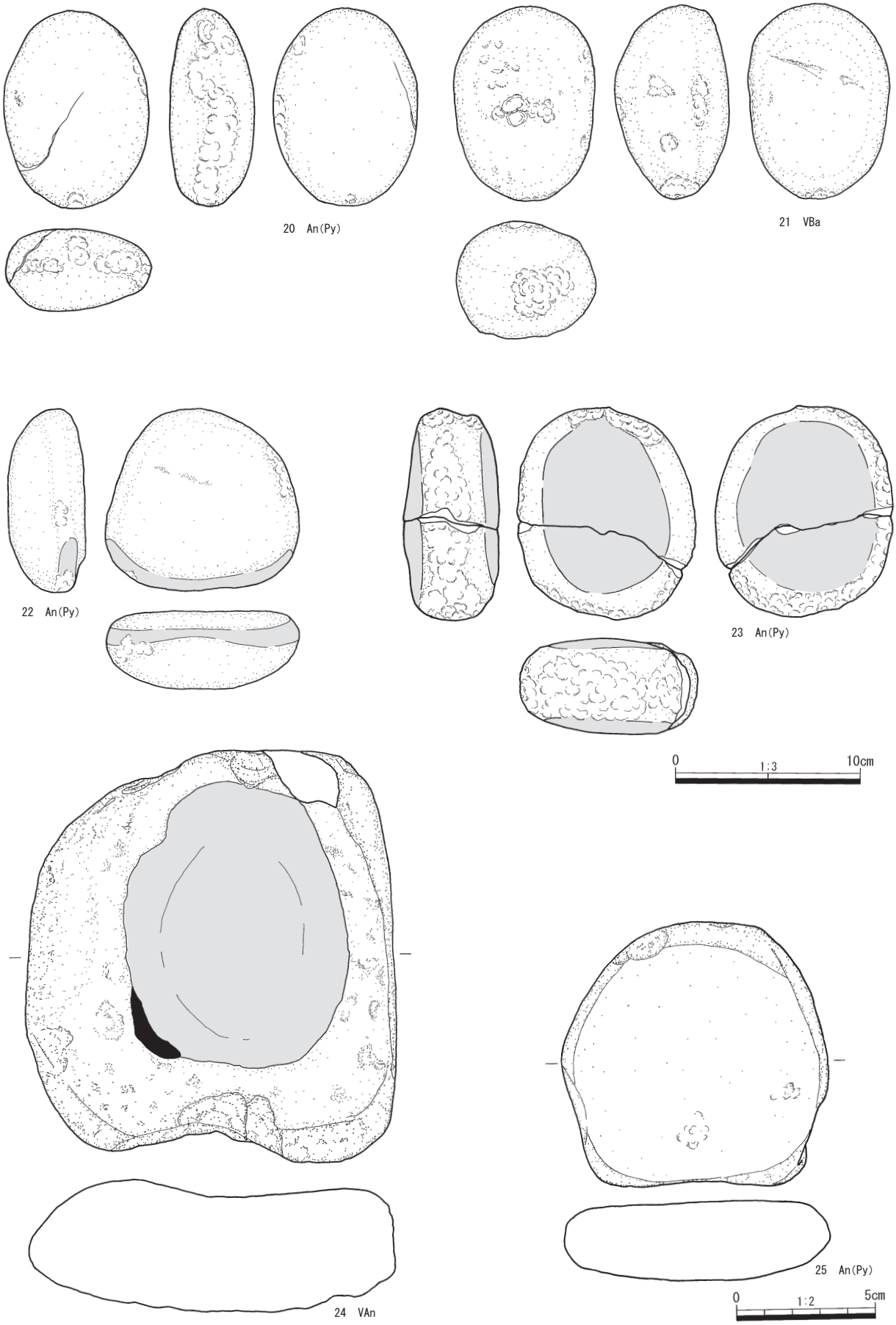
４号遺物集中は１号遺物集中と２号遺物集中が位置している斜面の上位から検出された。富士黒土層から遺物が出土しており、礫16点、石器８点がかなり重なり合った状態で検出された。石器は砕片１点と磨石・敲石類３点、石皿１点、台石３点が出土している。挿図の28 ～ 30は磨石・敲石類である。28は楕円で厚みがあるタイプで、両端部と側縁部に敲き痕が見られる。29も楕円で厚みがあるタイプで、一部欠損しているが、端部と側縁部に敲き痕が見られ、平坦面は磨っている。30は不定形の平面形で厚みがあるタイプであり、両端部を敲いている。31 ～ 33は台石であり僅かに敲打痕が見られる。34は広い平坦面を持った石皿であり磨面と考えられる。礫は５点が赤化していた。


F-16より
北へ4m
東へ2m
A
A'
E-16グリッド
スクレイパーと接合
323.00m
KU
FB
YLU
石鏃
スクレイパー
石錐
二次加工剥片
使用痕剥片
剥片
石核
磨石・敲石類
石皿
台石
礫
0
1:60
3m

第22図　１号遺物集中

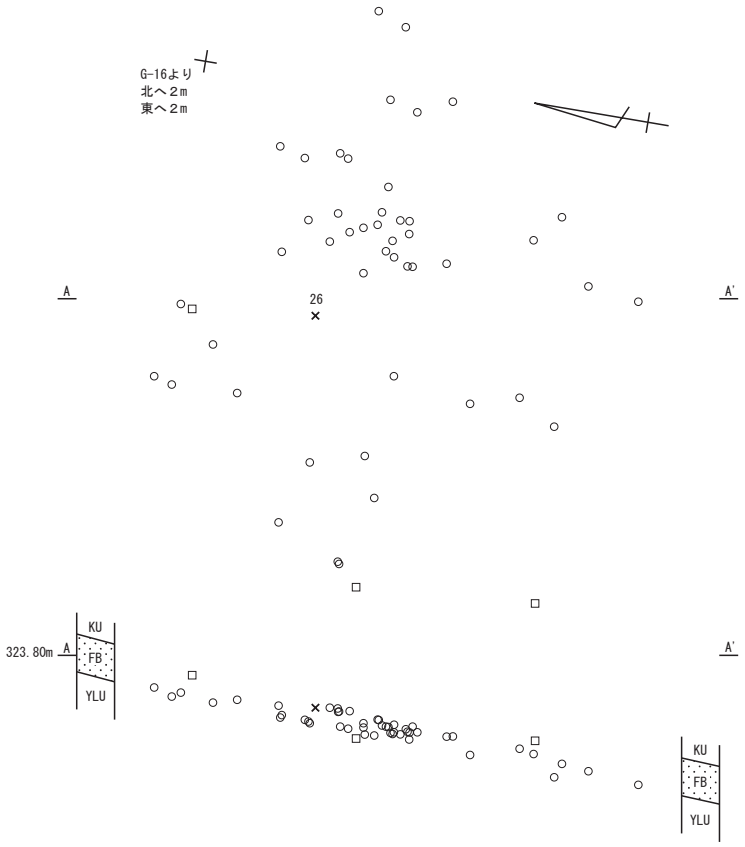


第23図　１号遺物集中出土遺物１

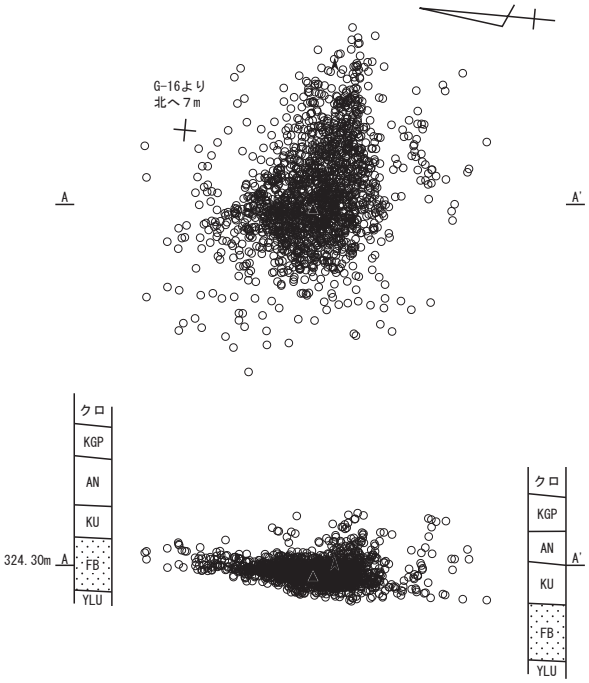


第24図　１号遺物集中出土遺物２

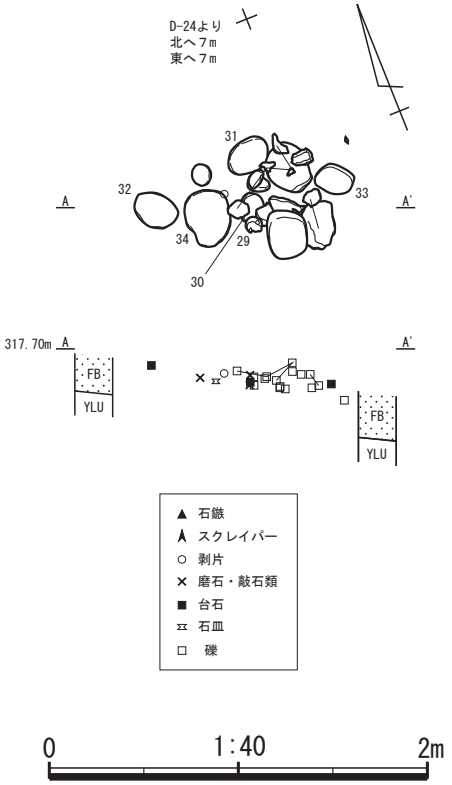
２号遺物集中



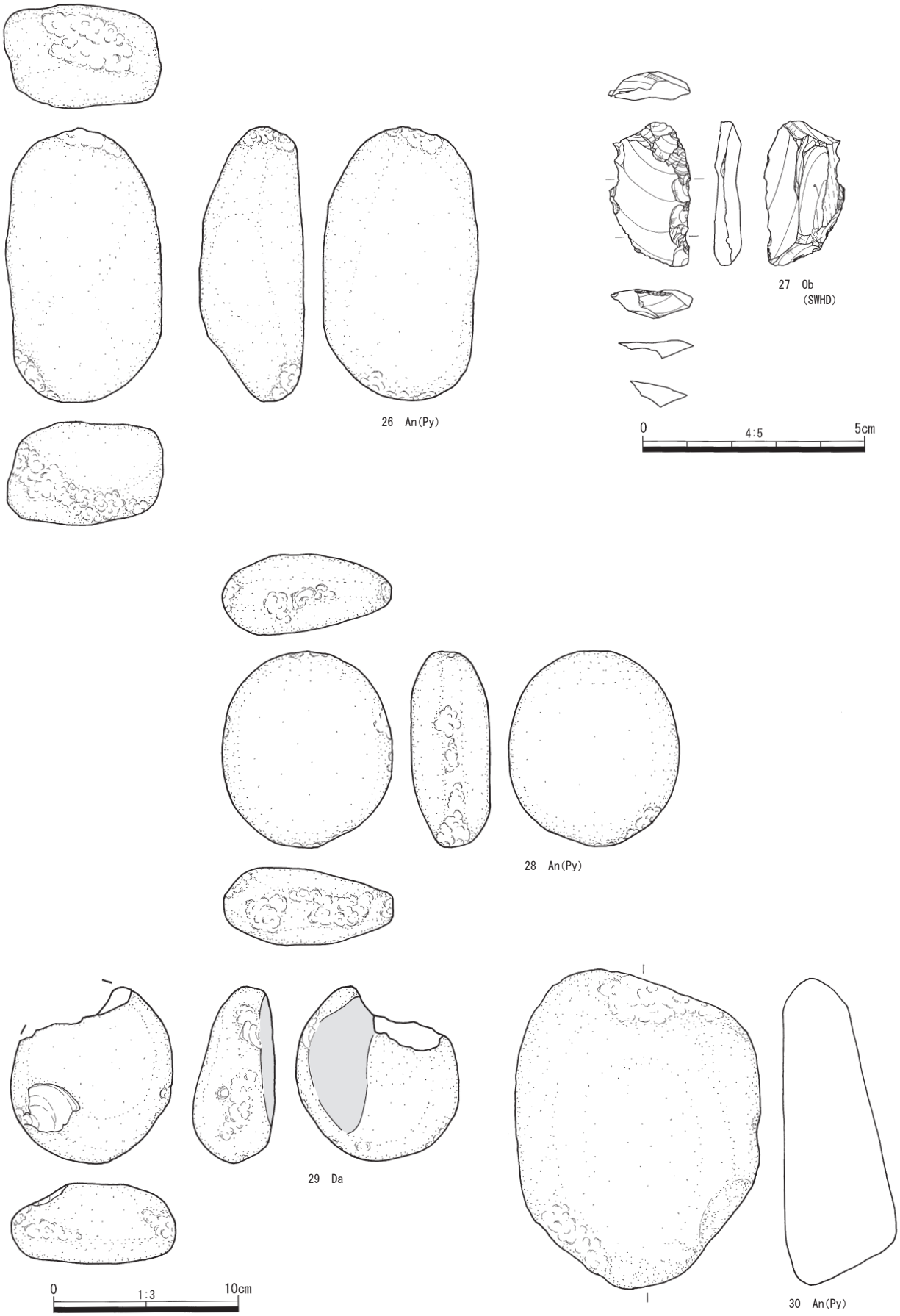
３号遺物集中



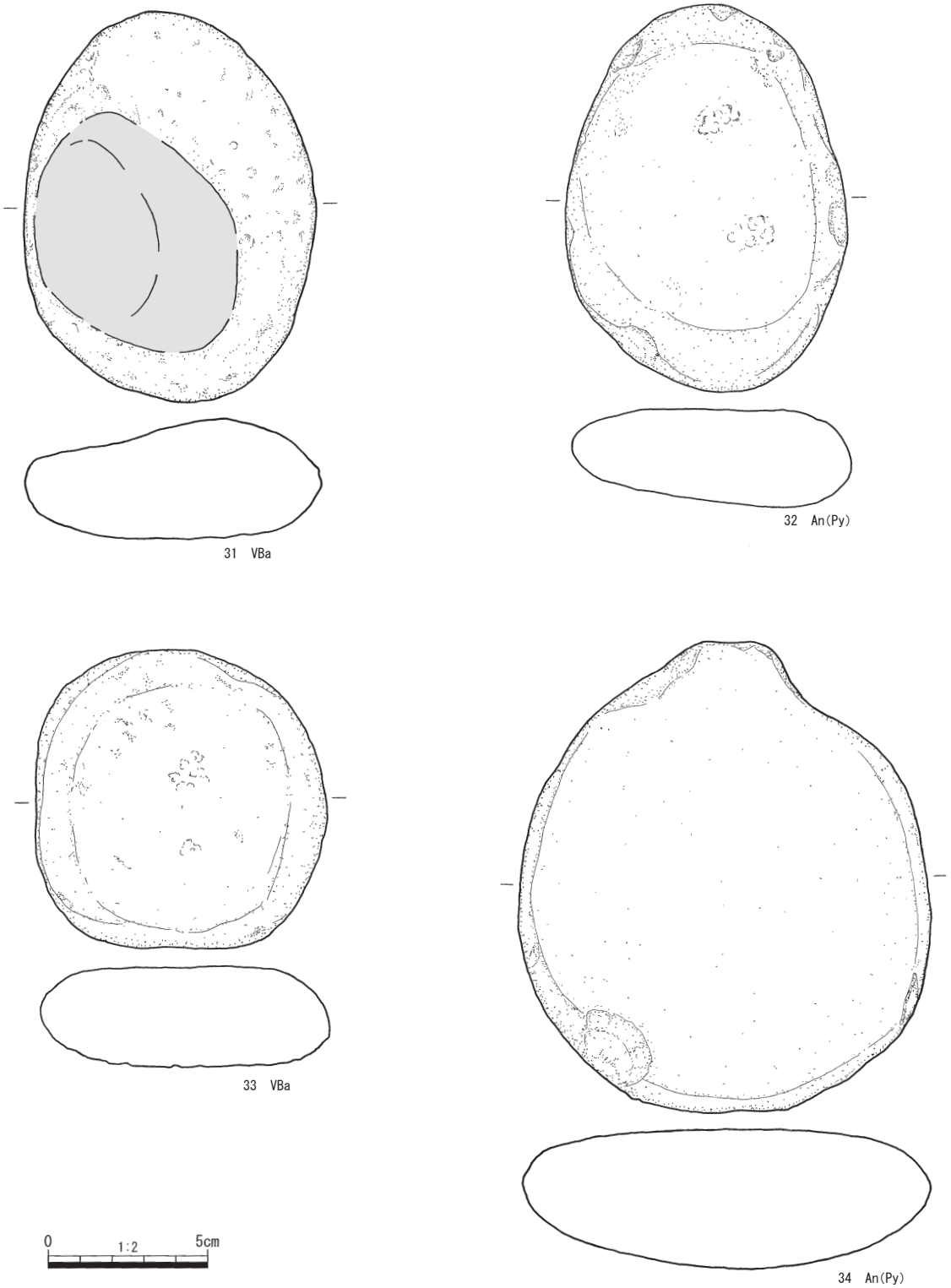
４号遺物集中



第25図　２号・３号・４号遺物集中



第26図　２号・３号・４号１遺物集中出土遺物



第27図　４号２遺物集中出土遺物

第10表　縄文時代集石一覧

遺構名	時期	分類	検出層位	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	礫	赤化比率
1号集石	～前期	土坑あり	FB	F-21	1.31	0.94	0.26	隅丸楕円形	116	89.7
2号集石	～前期	土坑なし	FB	F-20	1.75	1.28	－		49	89.8
3号集石	～前期	土坑なし	FB	G-20	0.90	0.75	－		47	97.9
4号集石	～前期	土坑なし	FB	D-22	1.33	0.65	－		20	100
5号集石	中期	土坑なし	AN	C-24	1.60	1.05	－		18	94
6号集石	中期	土坑なし	FB	F-15	0.40	0.34	－		6	100
7号集石	中期	土坑なし	KU	G-18	0.44	0.26	－		9	100

第11表　縄文時代土坑一覧

遺構名	時期	平面形態	逆茂木		グリッド	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号土坑	～前期	円形	あり	1	E-17	YLU	1.32	0.93	1.12					
2号土坑	～前期	不整楕円形	あり	1	E-16	YLU	1.16	0.84	0.98					
3号土坑	～前期	楕円形	あり	1	F-23	YLU	(1.13)	0.66	0.90					
4号土坑	～前期	楕円形	あり	1	F-20	YLU	1.03	0.80	1.16					
5号土坑	～前期	隅丸長方形	あり	1	M-20	JS1	1.04	0.81	0.22					
6号土坑	～前期	円形	なし		F-22	YLU	0.96	0.76	1.06					
7号土坑	～前期	円形	なし		K-5	JS1	0.80	0.49	0.62					
8号土坑	～前期	楕円形	なし		E-18	YLU	0.89	0.53	0.47					
9号土坑	～前期	円形	なし		F-20	YLU	0.70	0.64	0.30					
10号土坑	～前期	楕円形	なし		M-18	JS1	1.05	0.58	0.40					
11号土坑	～前期	楕円形	なし		G-21	YLU	1.46	1.00	0.53					
12号土坑	～前期	楕円形	なし		E-18	YLU	1.26	0.62	0.24					
13号土坑	～前期	楕円形	なし		F-23	YLU	0.96	0.62	0.18					
14号土坑	～前期	楕円形	なし		H-22	YLU	(1.02)	(0.30)	0.53					
15号土坑	～前期	楕円形	なし		I・J-14	FB	1.16	0.75	0.39					
16号土坑	～前期	長楕円形	なし		F・G-21	FB	(2.45)	1.04	0.40			2		2
17号土坑	～前期	長方形	なし		K-5	FBZN	1.21	0.46	0.47					

第12表　縄文時代焼土一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号焼土	～前期	E-17	YLU	0.62	0.46	0.18					
2号焼土	～前期	D-22・E-22	FB	(0.80)	1.00	0.77		11	8	1	20

第13表　縄文時代遺物集中一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号遺物集中	～前期	E・F-15.16	KGP ～ YLU	8.70	7.62	－		225	45		270
2号遺物集中	～前期	F・G-15.16	YLU	3.48	2.64	－		48	3		51
3号遺物集中	～前期	G-15.16	AN ～ FB	1.96	1.80	－		1772			1772
4号遺物集中	～前期	D-24	FB	1.20	0.68	－		8	16		24

第14表　１号遺物集中石器組成

石材	黒曜石				多孔質玄武岩	細粒安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	合計
	諏訪星ケ台群	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析						
石材略号	SWHD	HNHJ	KZOB	－	VBa	FAn	An (Py)	VAn	Da	
石鏃	1	2	1	1						5
スクレイパー	1									1
石錐	1									1
二次加工剥片		1								1
使用痕剥片	1									1
剥片	3	2	2	58		1				66
砕片				140						140
石核	2									2
磨石・敲石類					1		4		1	6
石皿								1		1
台石					1					1
合計	9	5	3	199	2	1	4	1	1	225

第15表　２号遺物集中石器組成

石材	黒曜石	細粒安山岩	輝石安山岩	合計
	推定不可・未分析			
石材略号	－	FAn	An (Py)	
剥片	5			5
砕片	42			42
磨石・敲石類			1	1
合計	47	0	1	48

第16表　３号遺物集中石器組成

石材	黒曜石		玉随	チャート	合計
	諏訪星ケ台群	未分析			
石材略号	SWHD	－	Cha	Ch	
石鏃				1	1
スクレイパー	1				1
剥片		21			21
砕片		1697	1	51	1749
合計	1	1718	1	52	1772

２　遺物

縄文時代の遺物については、土器が出土遺物の大半を占めている。

（１）土器

出土した土器は縄文時代早期から後期までのものが919点である。このうち62個体を実測した。施文・装飾・文様・調整等によって、便宜的に土器を分類した。分類は以下の通りである。

早期
- 第Ⅰ群
  - a類：無文土器
  - b類：押型文土器
  - c類：押型文土器並行時期の擦痕文土器
  - d類：撚糸文土器
  - e類：判ノ木山西式土器
- 第Ⅱ群
  - a類：入海式土器
  - b類：打越式土器
  - c類：天神山式土器から塩屋式土器並行時期
- 第Ⅲ群
  - a類：縄文土器
  - b類：条痕文土器
  - c類：無文土器

前期
- 第Ⅳ群
  - a類：諸磯式土器
  - b類：十三菩提式土器
- 第Ⅴ群
  - 無文土器

中期
- 第Ⅵ群
  - a類：五領ヶ台式土器
  - b類：新道式土器
  - c類：藤内式土器
  - d類：井戸尻Ⅱ式土器
  - e類：井戸尻Ⅲ式土器
  - f類：井戸尻式土器（詳細分類不可）
  - g類：井戸尻Ⅱ式土器並行時期
- 第Ⅶ群
  - a類：曽利Ⅰ式土器
  - b類：曽利Ⅱ式土器
  - c類：曽利Ⅲ～Ⅳ式土器
  - d類：曽利Ⅳ～Ⅴ式土器
  - e類：加曽利Ｅ1式土器
- 第Ⅷ群
  - a類：縄文土器
  - b類：圧痕文土器
  - c類：無文土器

後期
- 第Ⅸ群
  - a類：堀之内式土器
  - b類：堀之内式土器（粗製）
- 第Ⅹ群
  - a類：縄文土器
  - b類：無文土器

詳細時期不明
- 第Ⅺ群
  - a類：小片無文土器
  - b類：中期以降無文土器

1区
2区
3区
4区
地計測データ無し
地計測データ無し
306.50m
307.50m
308.50m
317.50m
320.00m
322.50m
325.00m
319.50m
315.00m
第Ⅰ群
第Ⅱ群
第Ⅲ群
第Ⅳ群
第Ⅴ群
第Ⅵ群
第Ⅶ群
第Ⅷ群
第Ⅸ群
第Ⅹ群
第ⅩⅠ群
等高線はVLU上面
４区等高線は褐色土上面
0
1:1000
50m

第28図　土器群別分布

早期の土器

第Ⅰ群（第31図35 ～ 45）

35は口縁部片であり、外面に沈線文を引いている。36は外面に条痕文と擦痕文、内面には条痕文が施されている。37a・37b・38は楕円の押型文土器である。39と40も押型文土器であるが、39は縦方向に、40は横方向に押型文が施文されている。また、40には穿孔がある。41は外面に擦痕が見られる土器である。42は口縁部内外に撚糸文が施されており、口縁端部が外反している。43は、胴部は縦方向、口縁部は横方向に撚糸文が施され、口縁端部がやや外反している。44は判ノ木山西式土器で、外面には斜め方向に先割状工具による沈線文が施され、内面は横方向の条痕文、口唇部にはキザミが施されている。45も判ノ木山西式土器で、口唇部直下に１条の刺突文、胴部中位に２条の刺突文が巡らされている。外面は棒状工具による２本の縦方向の条痕文で区画し、矢羽根状の条痕文を配している。また、この資料の胴部破片の外面の一部に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111823）。その結果は、7,950±30yrBP という^{14}C 年代が出た。

第Ⅱ群（第32図46 ～ 50）

46は入海式土器であり、Ⅱ式にあたるものである。口唇部に連続したキザミ、口唇部直下に爪形文、その下にキザミを施した蛇行の隆帯と直線の隆帯が装飾されている。隆帯上のキザミは施文具の角度を変えているためか、キザミの幅に差がある。b には両面穿孔が見られる。47も入海式土器であるが、胴部に円形の隆帯を貼り付けているためか歪んだ形をしている。下半は条痕で器面調整をしている。48・49は打越式土器の口縁部破片であり、口縁部を折り返し端部にキザミ、胴部は貝殻腹縁文が施されている。内面もキザミを施し、条痕で調整している。48は波状口縁である。50は天神山式土器から塩屋式土器と並行する時期と考えられる土器である。口唇部と口縁部直下に連続したキザミが施されている。b は胴部のキザミが２段になっている。

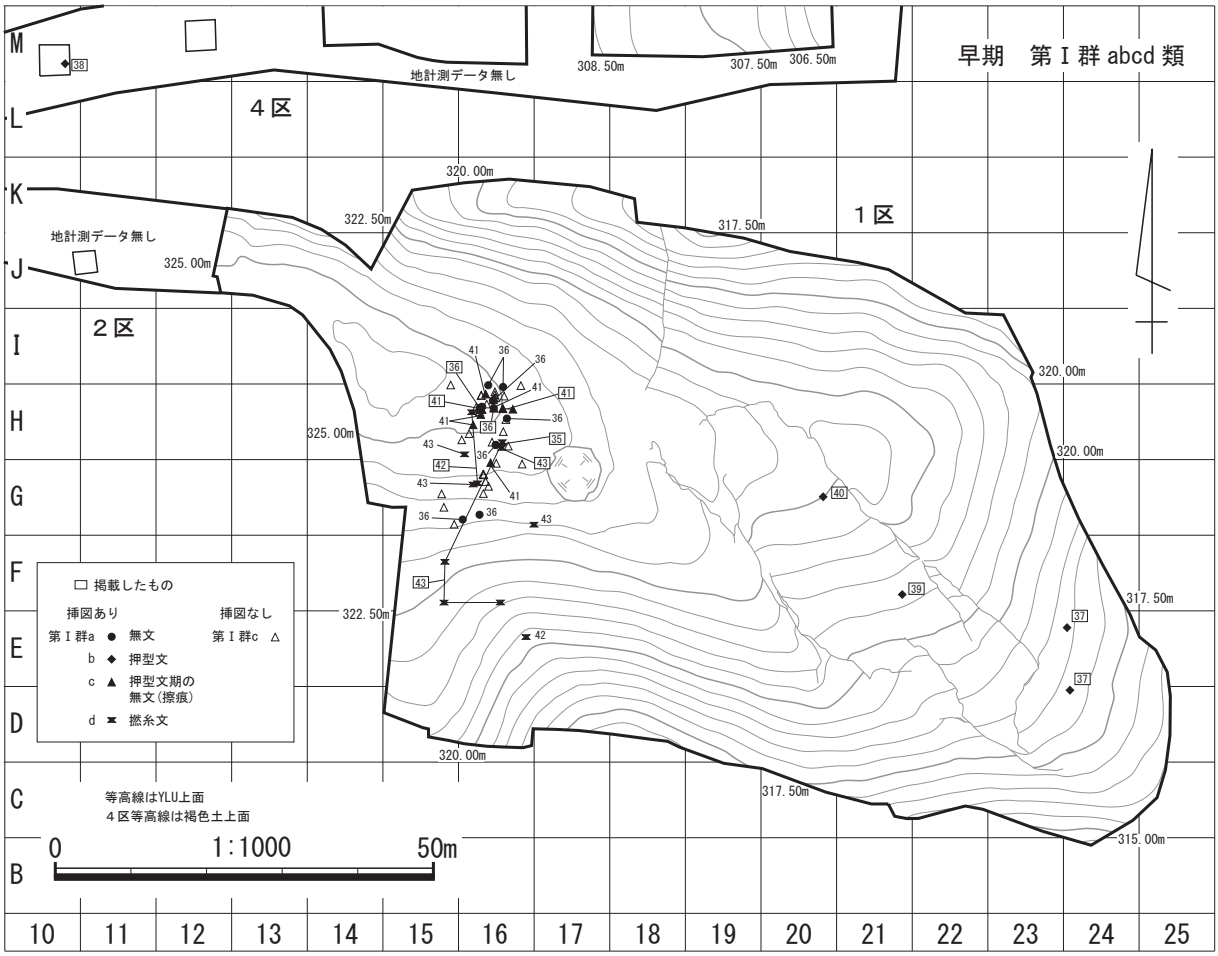
第Ⅲ群（第32図51 ～ 56）

51は縄文が施された底部片で、R 無節の縄文を施文している。52は外面が RL の縄文で、口唇部から内面にかけて丁寧な調整が施されている。53は外面が擦痕で、内面は条痕で調整している。54は外面と内面とも異方向の沈線による調整痕が見られる。この資料も胴部外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施し（IAAA-111824）、6,370±30yrBP という^{14}C 年代結果が出た。55は内外面とも無文で、厚みがあり胎土に繊維を多く含む。56は尖底と考えられる底部に近い破片で、繊維を多く含み、内面は沈線による調整痕が見られる。型式は不明だが、早期末から前期初頭の条痕文土器の下吉井式土器と同時期のものと考えられる。

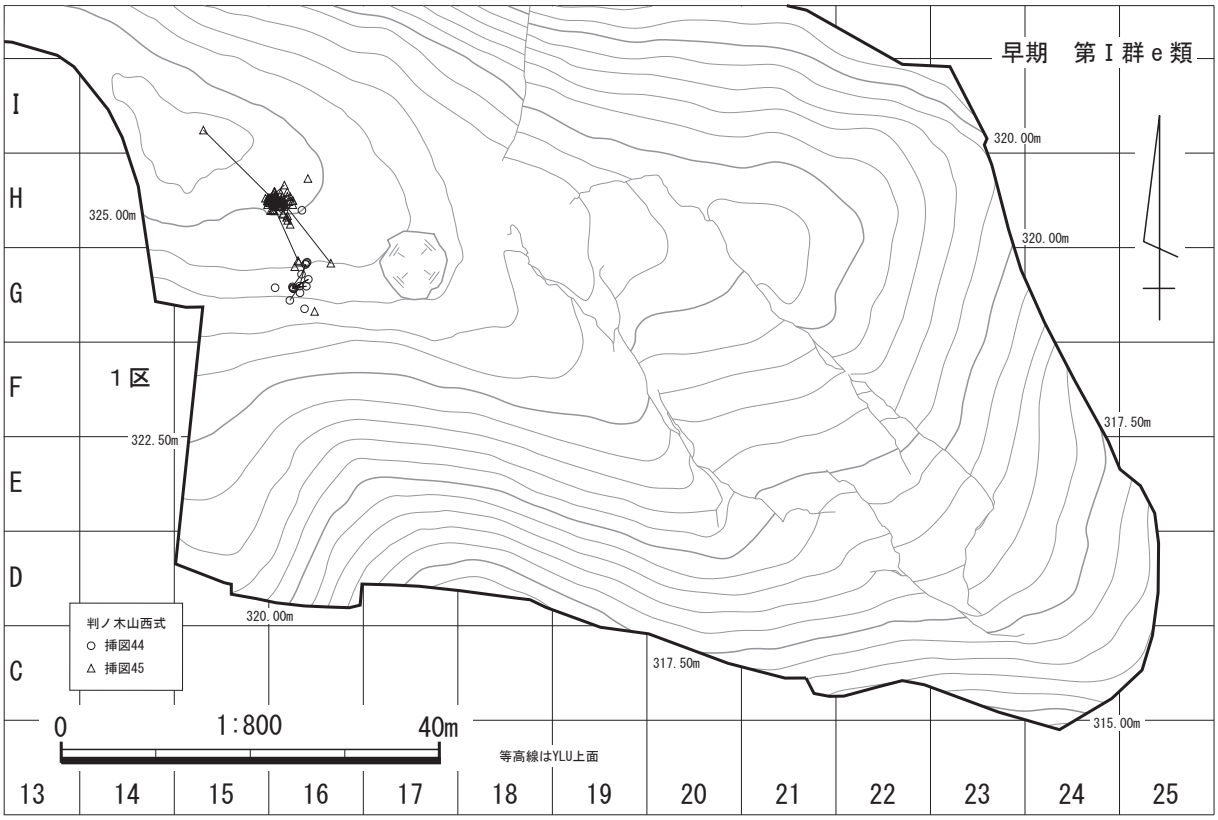
前期の土器

第Ⅳ群（第37図57 ～ 59）

57は諸磯ｂ式土器で、口縁部下に直線の連続爪形文が１条と木の葉状の連続爪形文が巡る。区画内には横方向に LR の縄文が見られる。58も諸磯ｂ式土器で、地文は RL の縄文で、口縁部と胴部には連続した爪形文、その下の隆帯に半截竹管状の工具で刺突文を施し、その下部は半截竹管による複数の沈線で区画している。59も諸磯式土器で、底部片である。無文であるが、丁寧な調整が施されている。60は十三菩提式土器の口縁部である。口縁端部を内外に広げることによって作り出された平坦面には、三角形印刻文と結節浮線による渦巻文が配されている。61も十三菩提式土器であるが、小型である。胴部上部にはソーメン状貼り付け文、隆帯、集合沈線文を施すが、胴部下半は無文である。

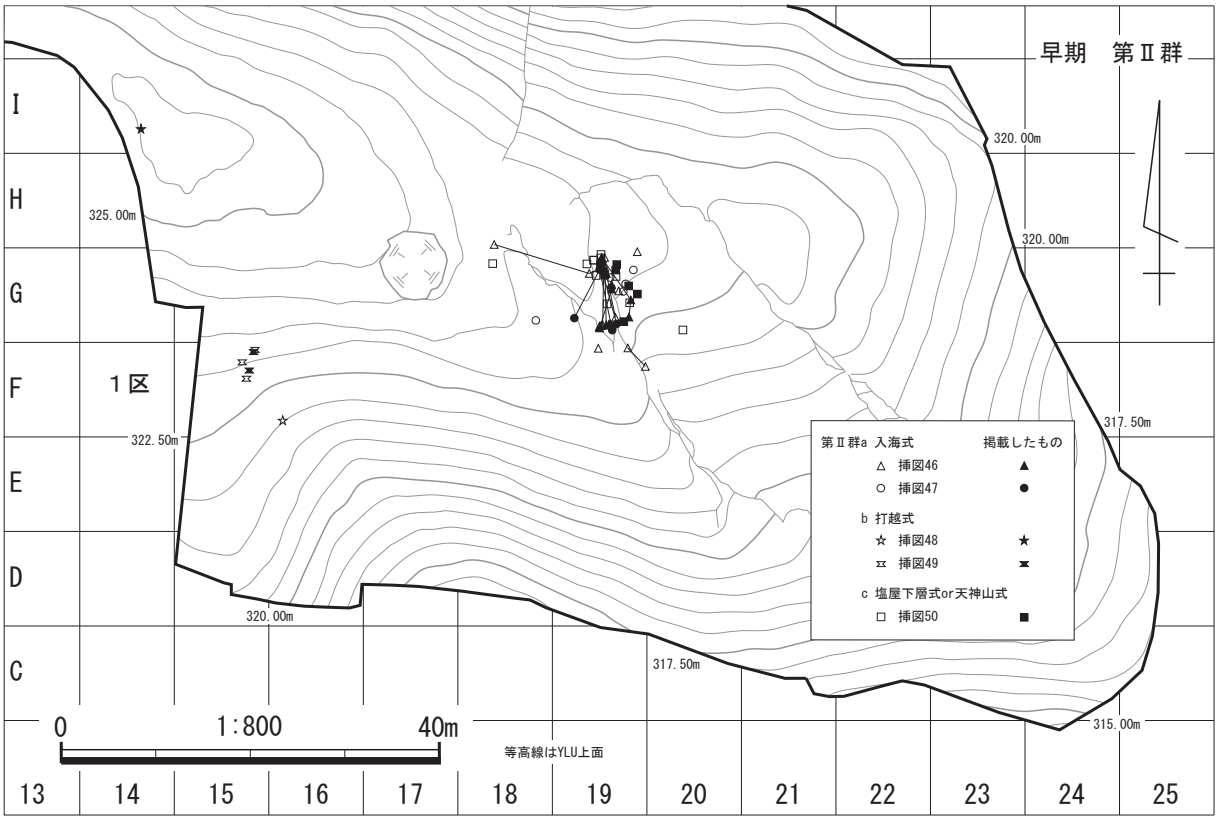


第29図　第Ⅰ群 abcd 類土器分布

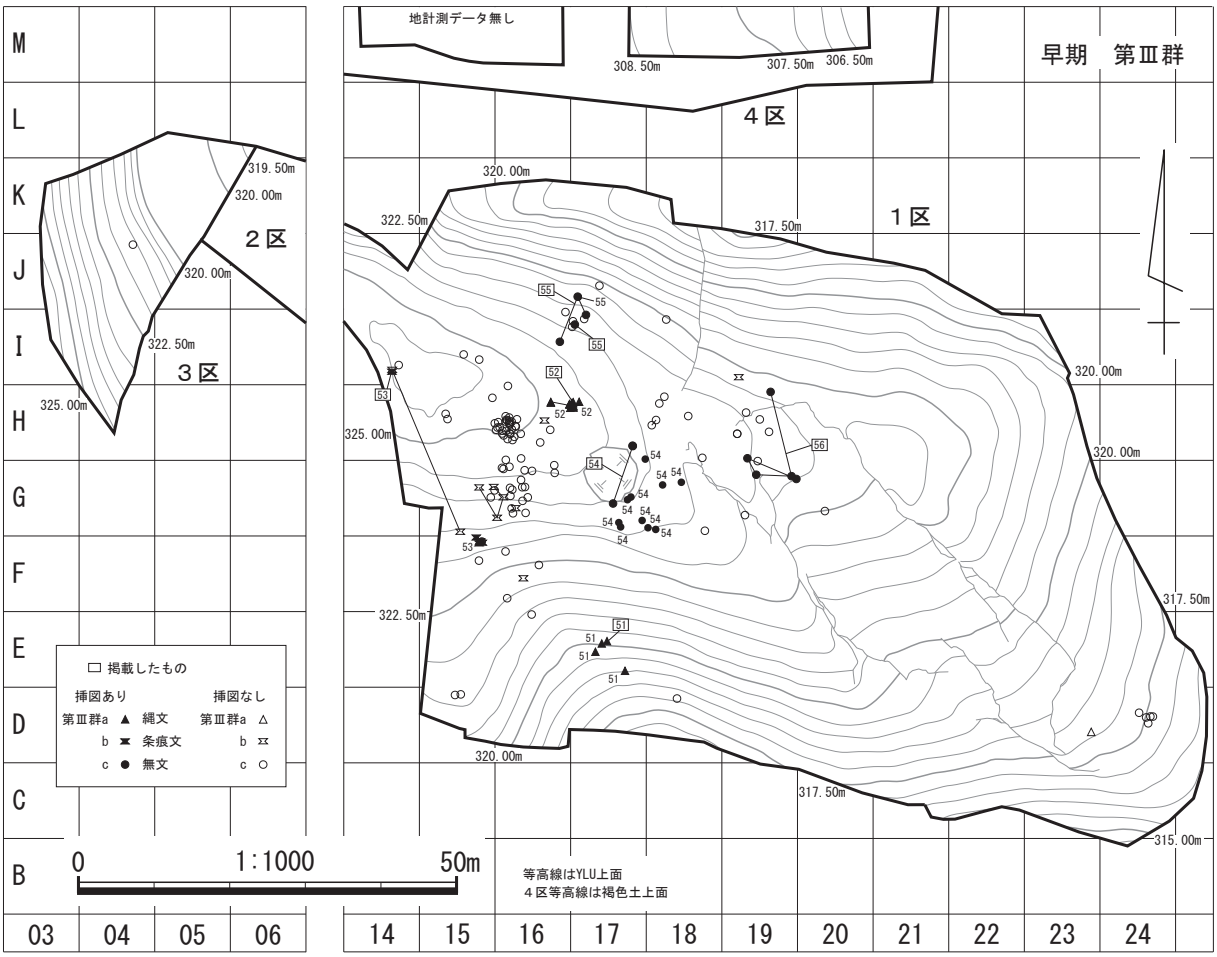


第30図　第Ⅰ群 e 類土器分布

第31図　第Ⅰ群土器



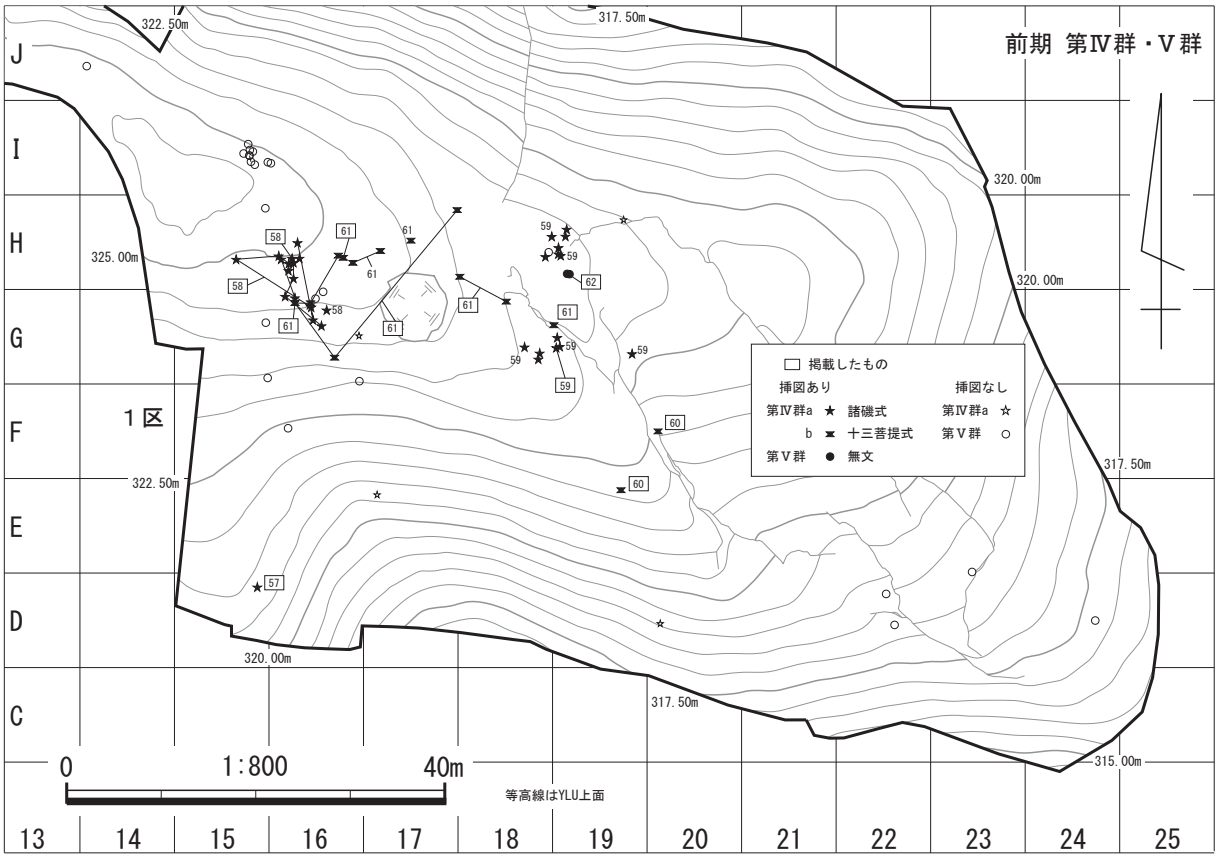
第32図　第Ⅱ群土器分布



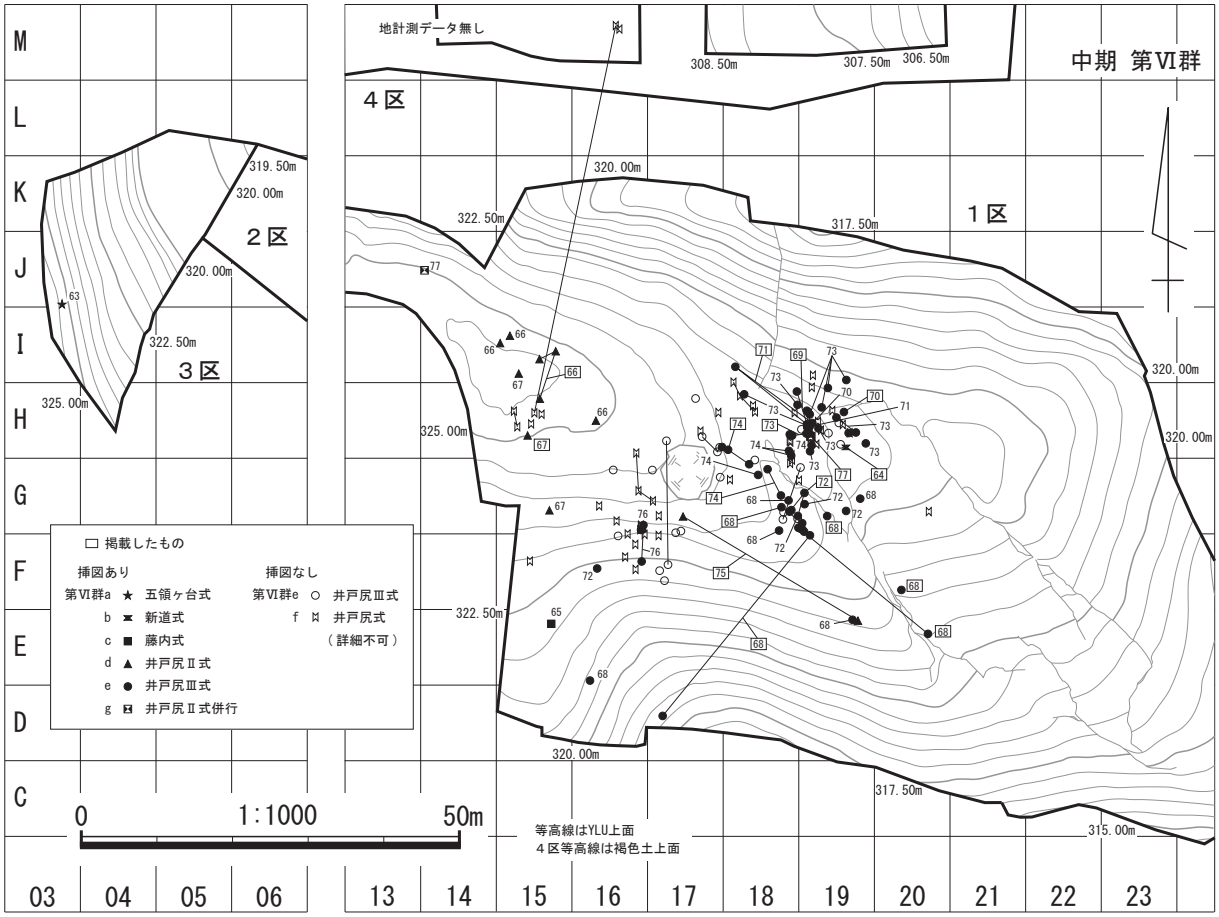
第33図　第Ⅲ群土器分布

46a
46b
48
49a
49b
47
50a
50b
50c
51
52a
52b
53a
53b
54
55
56
0
1:3
10cm

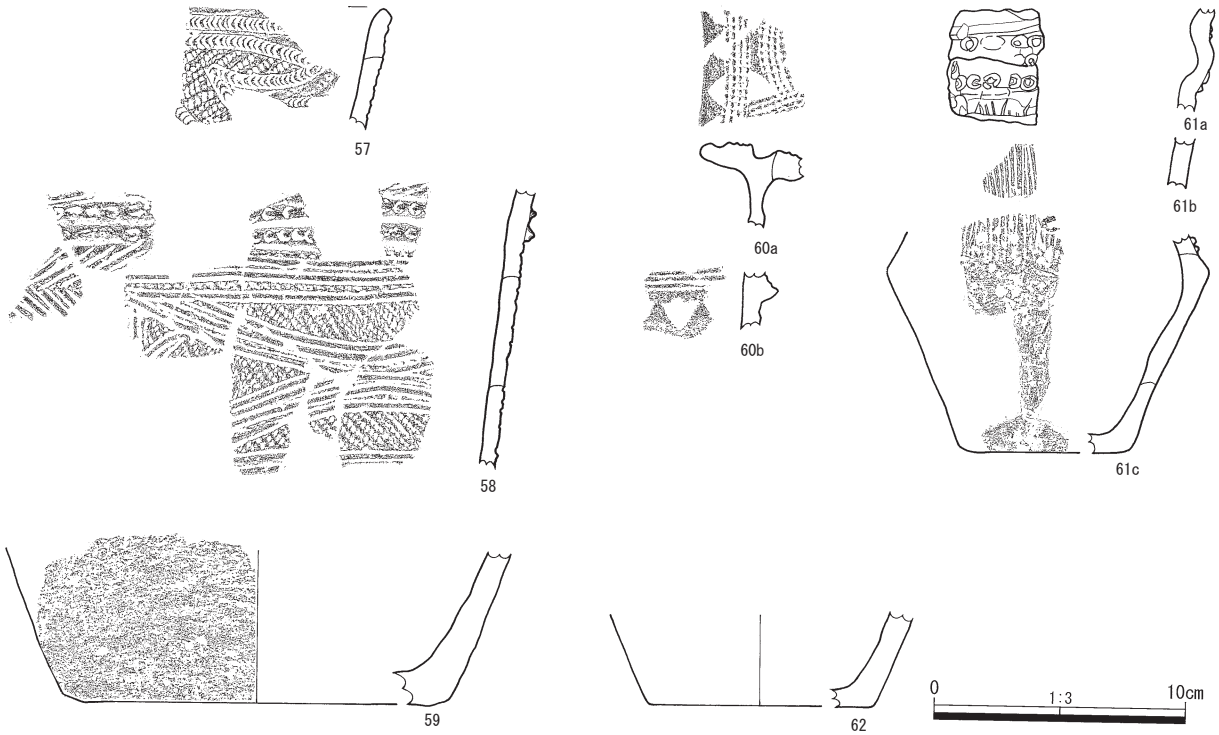
第34図　第Ⅱ・Ⅲ群土器



第35図　第Ⅳ・Ⅴ群土器分布



第36図　第Ⅵ群土器分布



第37図　第Ⅳ・Ⅴ群土器

第Ⅴ群（第37図62）

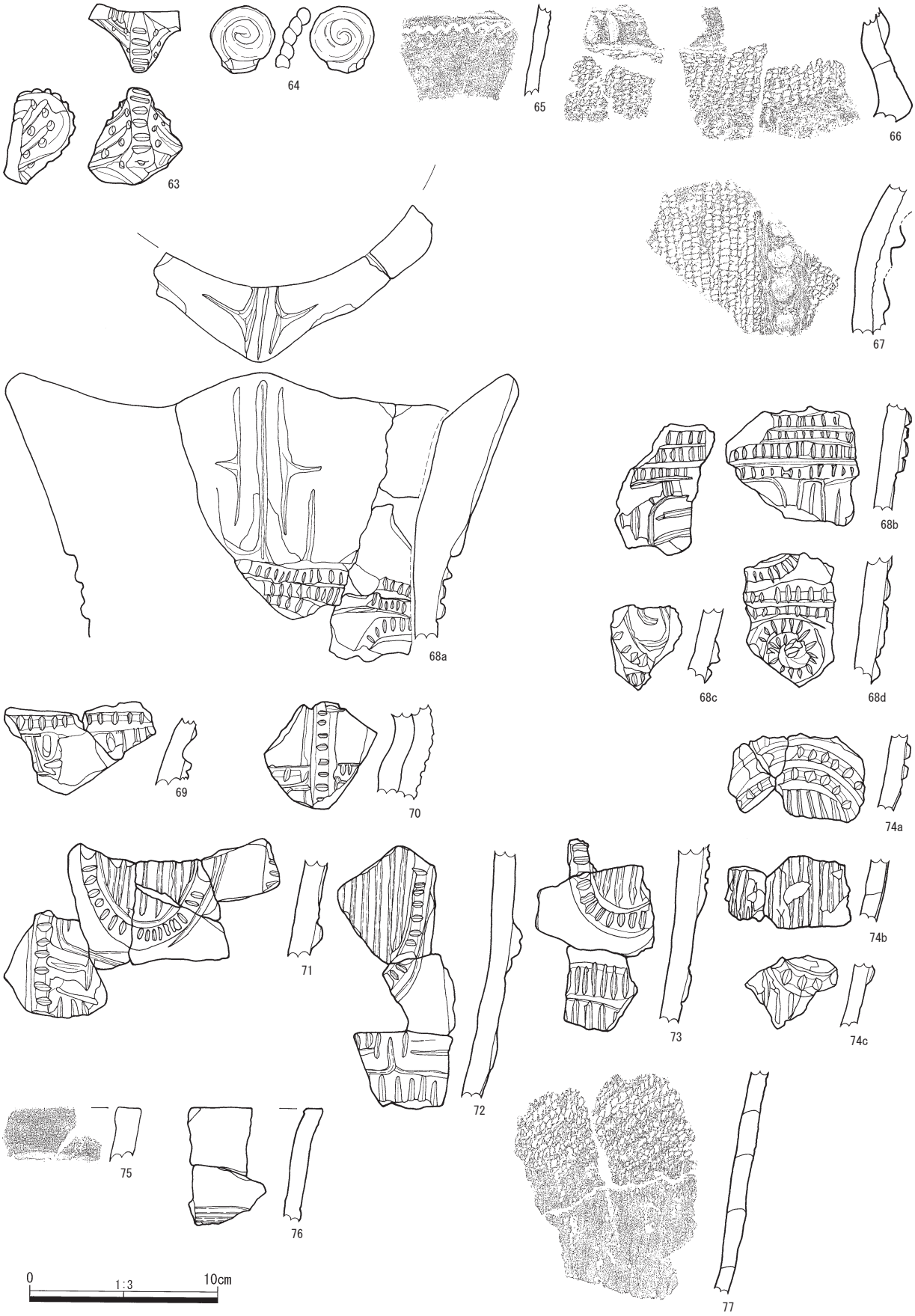
62は無文土器の底部である。

中期の土器

本遺跡での出土土器の中で、中期のものが量的に最も多く、919点中302点と30％以上を占める。また、土器型式も多種多様である。

第Ⅵ群（第38図63 ～ 77）

63は五領ヶ台式土器のものと思われる口縁部の把手部であろう。分厚い突起を作り出しそこへキザミを付け、側面に数条の沈線文と円形刺突文を施している。焼成は非常に良好である。64は渦巻状の装飾であり、63と同じく口縁部に貼り付いていたと思われる。時期は新道式のものに該当するか。65は藤内式の土器であり、波状の沈線文を１条引いている。66は井戸尻Ⅱ式土器の胴部破片で、腰部の屈曲部にあたる。隆帯を横方向に貼り付け、半月状のヘラ状工具で刺突を施している。その後屈曲部より上部分にRLの縄文を斜め方向に施して施文している。67も井戸尻Ⅱ式土器で、66と同様の装飾・施文技法を行っており、同一個体の可能性もある。68は井戸尻Ⅲ式土器の口縁部から胴部にかけての破片で、胎土の色調はにぶい橙色であり、焼成は非常に良好である。ａは口縁部から頸部にかけての破片である。口縁部には分厚い外反する突起部が付けられ、中央と口唇部面には１本の縦方向の沈線文と左右にＴ字状の沈線文が施されている。形状から察するにおそらくこの突起部は４対で１セットになっていたと考えられる。その下の頸部には、連続したキザミが施された隆帯が３条巡っており、一番下の１条はｃの様に楕円区画を構成するものと思われる。区画内にはｂやｃの様に沈線文で区画の文様を構成していると考えられる。ｄの様に渦巻状のキザミを施した隆帯文も巡る。69も同様に隆帯にキザミが連続して施されており、さらにその下には棒状工具でキザミを施している。70も隆帯に連続したキザミが見られる。71はキザミが施された隆帯による楕円区画文の一部であり、区画内は隆帯に沿った沈線文と縦方向の数条の沈線文が施されている。72も同様な文様構成ながら、区画外にも縦方向と横方向の沈線文が見られる。73も同様な文様構成である。74は楕円区画を構成する連続したキザミが施された隆帯が２条巡って


63
64
65
66
67
68a
68b
68c
68d
69
70
71
72
73
74a
74b
74c
75
76
77
0
1:3
10cm

第38図　第Ⅵ群土器

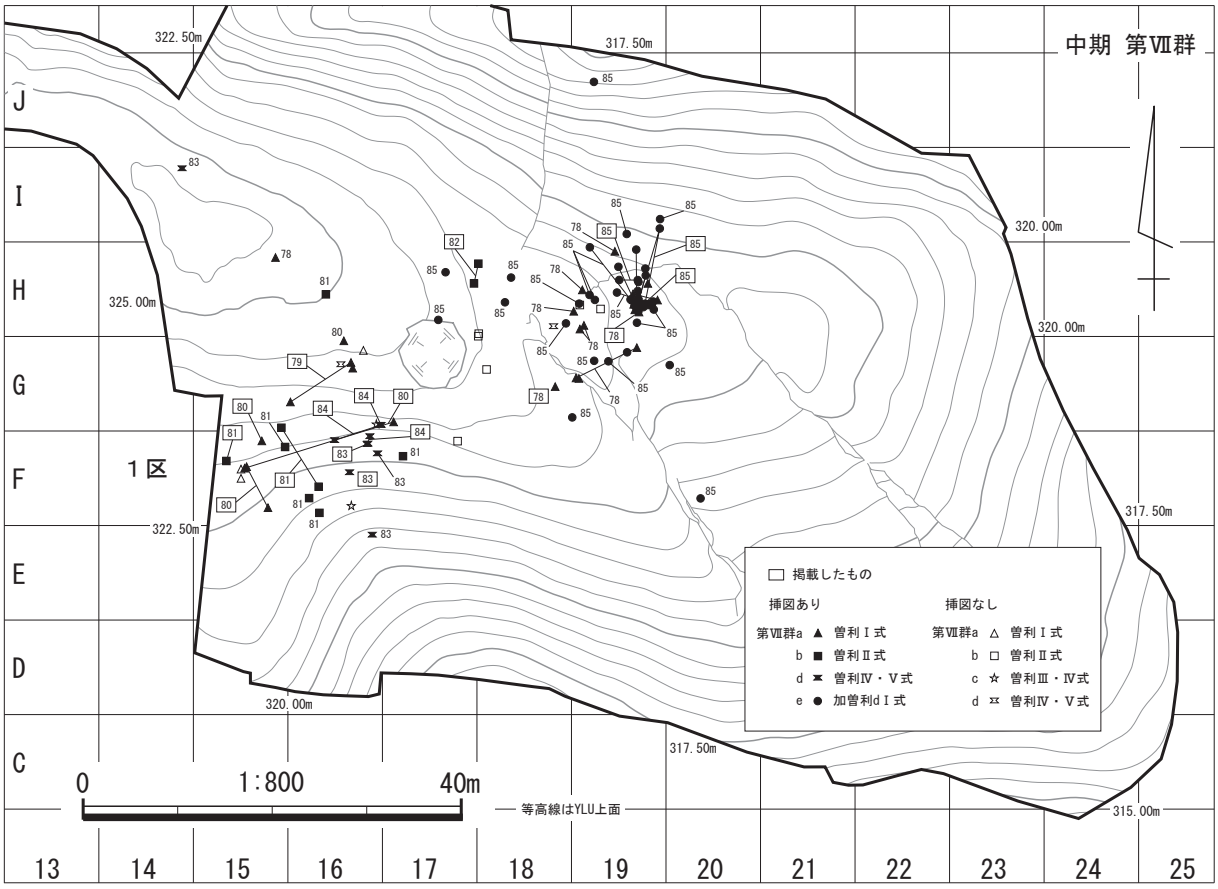
いる。75も井戸尻Ⅲ式土器の口縁部破片である。口縁端部が内面にやや肥厚している。口縁部下に１条の沈線文が巡る。76も井戸尻Ⅲ式土器の口縁部破片であり、外面に複数の沈線文が巡っており、口縁部が外反している。内外面共に丁寧なナデ調整が施されている。77は詳しい型式は不明だが、おそらく井戸尻Ⅱ式土器と並行する時期と考えられる土器であり、地文にLRの縄文を施しているが、下半はナデ消している。輪積みの断面形態は扁平を呈する。

第Ⅶ群（第41図78 ～ 84）

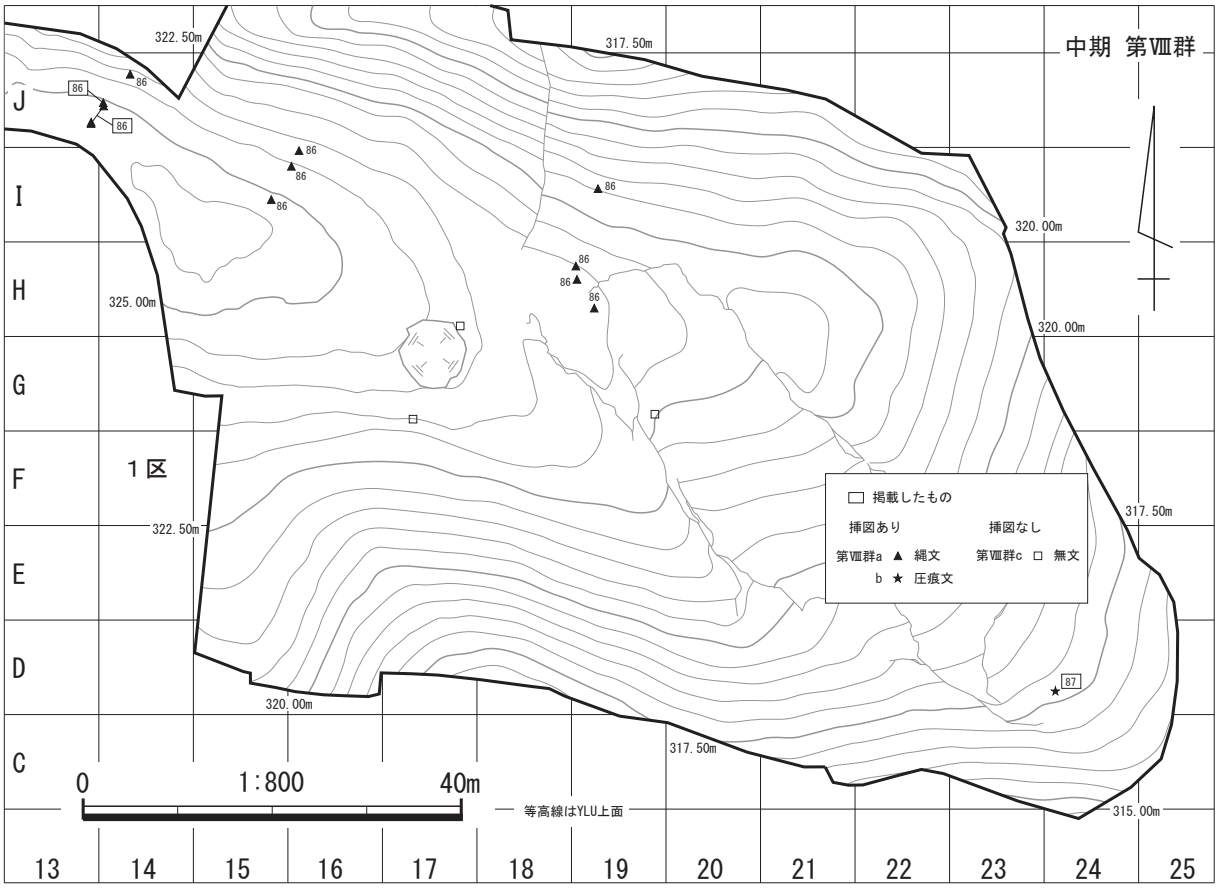
78は曽利Ⅰ式土器の口縁部から胴部にかけての破片であり、焼成は非常に良好である。口縁部に貼り付け隆帯を垂下しており、残っている破片は２つしかないが、おそらく４組で１対をなすものと考えられる。その下に横位の２条の隆帯と蛇行隆線を貼り付け、さらに下には縄文を施す。縄文の間にも、口縁部と同じ形状の貼り付け隆帯が垂下している。口縁部の形は推定で16㎝前後と小型の深鉢と考えられる。79も曽利Ⅰ式土器と思われる無文の口縁部破片で、内外面に丁寧なミガキによって器面の調整が施されている。80はキザミが施された隆帯が２条巡り、その間に貼り付け隆帯が、下に沈線文が縦に施されている。81aは蛇行隆線を貼り付け、両側に平行沈線文を施している。81bは蛇行隆線で楕円区画文を構成し、その中に平行沈線文を施している。82は平行沈線文の部分だけである。83aは櫛歯状工具による刺突文を施している。bはさらに沈線文が３条引かれている。84も櫛歯状工具による刺突文であるが、沈線文を先に引いた後に刺突文を施している。

第Ⅷ群（第41図85 ～ 87）

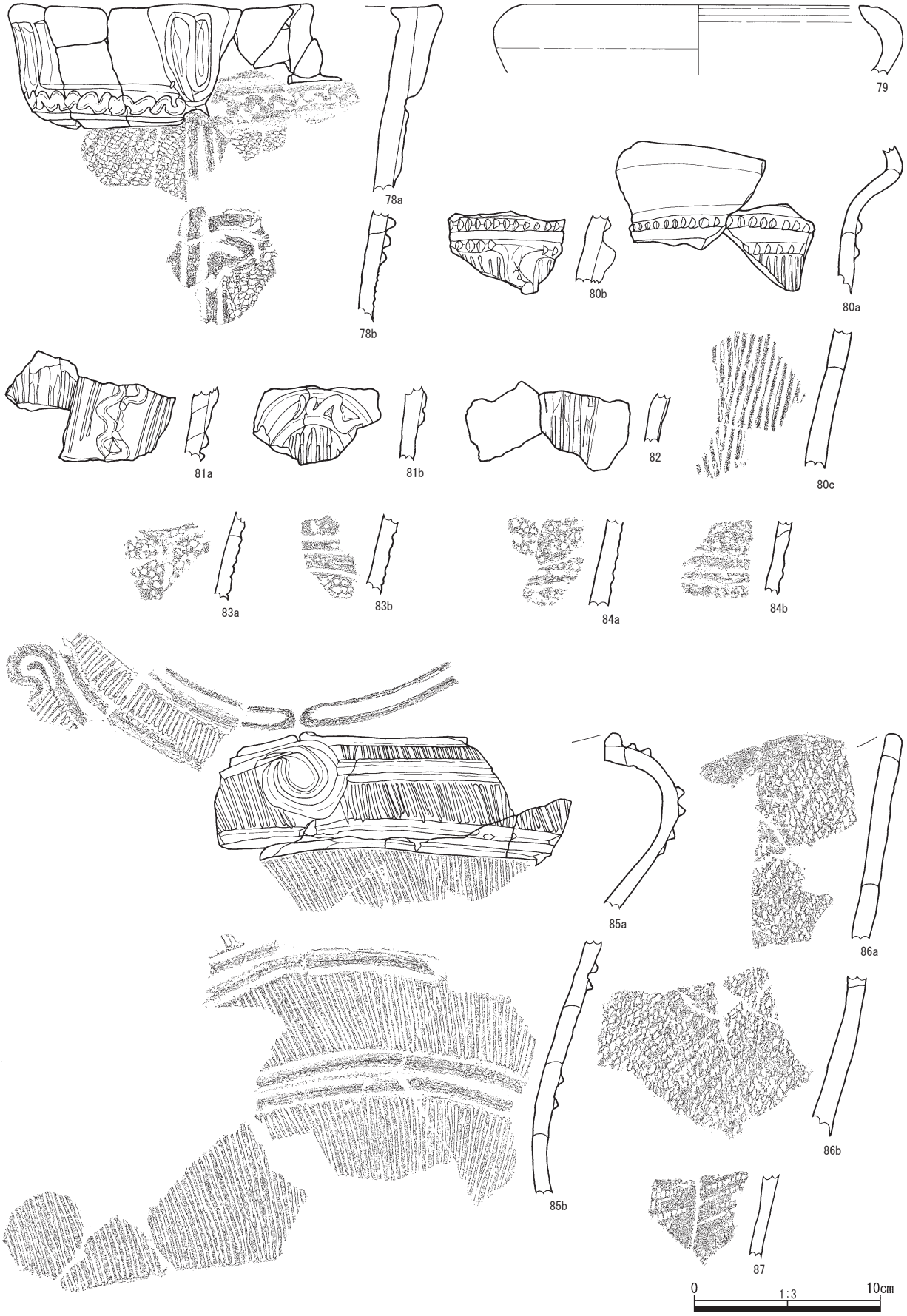
85は加曽利Ｅ式土器の口縁部から胴部にかけての資料である。口唇部に２本の隆帯を貼り付け二重口縁としている。その下にも２本１組の隆帯の貼り付けによる横方向の隆帯で先端は渦巻文をなす。隆帯は胴部などにも複数巡る。隆帯区画内は縦方向の沈線文である。輪積みの断面形は扁平形を呈する。器厚は約６㎜とやや薄い。86はａ類の縄文土器である。波状口縁で口唇部はミガキが施されている。87も縄文土器であるが、縄文は部分的である。



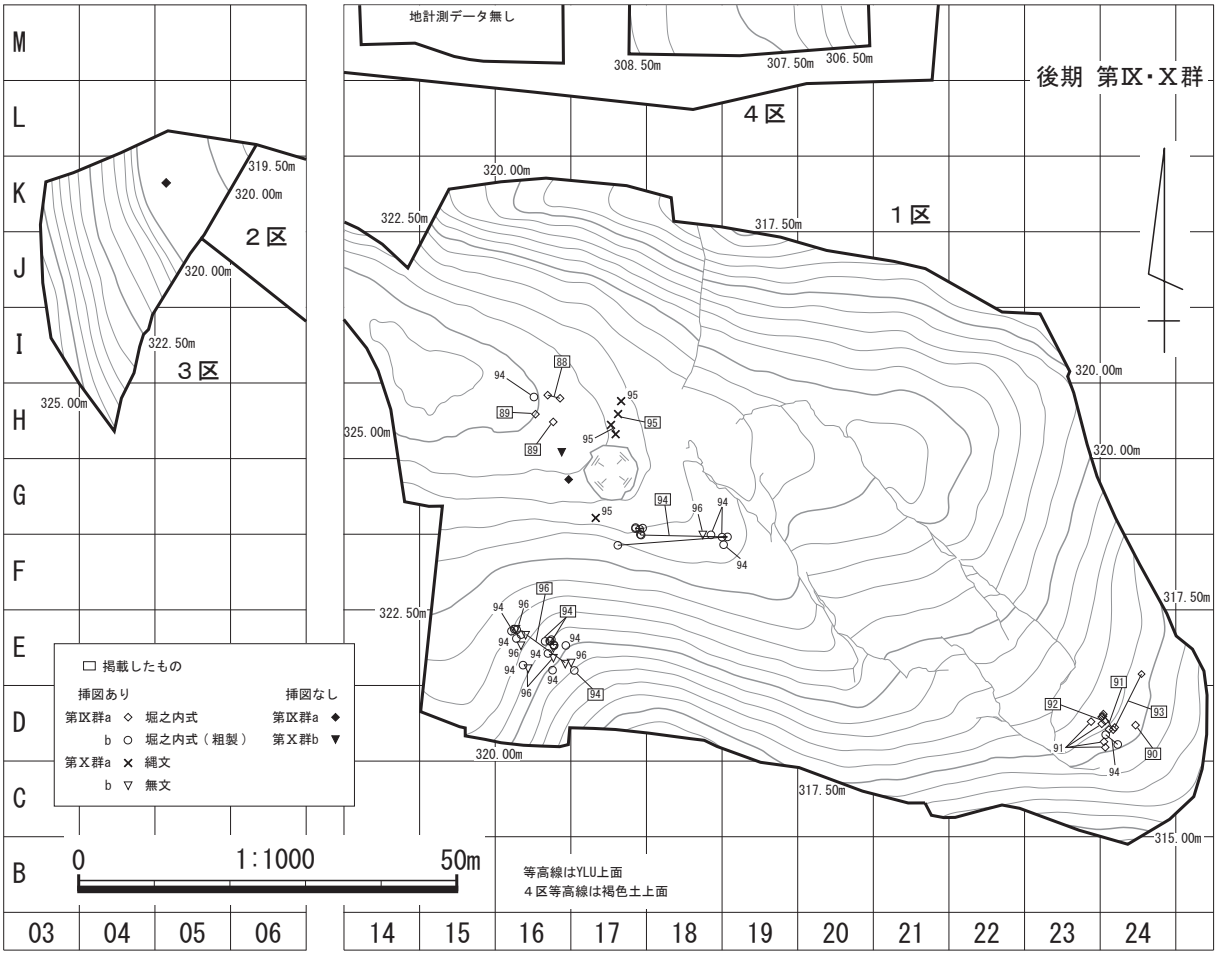
第39図　第Ⅶ群土器分布



第40図　第Ⅷ群土器分布


78a
79
78b
80b
80a
81a
81b
82
80c
83a
83b
84a
84b
85a
86a
86b
85b
87
0
1:3
10cm

第41図　第Ⅶ・Ⅷ群土器



第42図　第Ⅸ・Ⅹ群土器分布

後期の土器

第Ⅸ群（第43図88 ～ 94）

88は堀之内式土器の胴部から口縁部にかけての破片である。口縁部の突起に円形貫通孔と単沈線文による渦巻文が描かれている。口縁部から胴部には二重沈線文が引かれている。89は口縁部破片で、口縁部がやや肥厚し、口唇部に沈線文が施されている。内外面は丁寧なナデで調整されており、焼成も良好である。90も口縁部破片で口縁部が肥厚し、口唇部に沈線文とキザミが施されている。91も堀之内式土器であり、３本の沈線文が引かれており、文様要素としては88に近い。92は縄文が地文であるが、縦方向と横方向の２本の沈線文で区画し、区画内は縄文の方向が異なっている。93も堀之内式土器であり、２本の沈線文など文様要素としては88や91に近いが、沈線を引いた後、盛り上がった土を剥がしており、内外面にミガキを施すなど器面を丁寧に処理している。94は縄文土器の口縁部から胴部にかけての破片であり、堀之内式の粗製品であると考えられる。口唇部から内面正面にかけてはミガキを、その下半はナデで調整している。ｂとｃはさらに下の部位と考えられるが、外面の縄文は一部ナデ消され、ｃはナデの割合が大きくなっている。なお、この資料の胴部外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を行った（IAAA-111819）。その結果は、3,770±30yrBP という^{14}C 年代が得られた。

第Ⅹ群（第43図95）

95は外面に縄文が施された底部破片で、底部立ち上がりと内面はナデ調整である。96は無文の底部破片で、基本的にナデ調整だが、一部にミガキが見られる。

第Ⅺ群

小片無文と中期以降無文土器に該当するが、詳細な実測可能の資料が無いため実測は行っていない。

第43図　第Ⅸ・Ⅹ群土器

第17表　土器観察表

挿図番号	図版番号	時期	分類群－類	型式	文様・特徴など	繊維	胎土	色調(Hue)	部位
35	9	早期	Ⅰa		横方向の細沈線。調整痕か。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい黄褐色　10YR4/3 (内)にぶい黄褐色　10YR5/3	口縁
36	9	早期	Ⅰa		口唇部に刺突文。外面に先割状工具による斜方向の沈線文。内面に擦痕。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい黄褐色　10YR4/3 (内)にぶい黄褐色　10YR5/3	口縁
37 ab	9	早期	Ⅰb	押型文(楕円)	外面に楕円文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母(多)	(外)暗褐色　10YR3/3 (内)暗褐色　10YR3/3	胴部
38	9	早期	Ⅰb	押型文(楕円)	外面に楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)赤褐色　5YR4/6 (内)暗褐色　7.5YR3/3	胴部
39	9	早期	Ⅰb	押型文(山形)	外面に縦方向の山形文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	(外)にぶい褐色 7.5YR5/4 (内)褐色　10YR4/4	胴部
40	9	早期	Ⅰc	押型文(山形)	外面に横方向の山形文。補修孔。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)褐色　10YR2/3	胴部
41 abc	9	早期	Ⅰc		外面に縦方向に沈線文。擦痕。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)灰黄色　10YR4/2 (内)褐灰色　10YR4/1	胴部
42	9	早期	Ⅰd	撚糸文	口縁部内外に横方向の撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)明赤褐色　2.5YR5/6 (内)黒褐色　5YR3/1	口縁
43	9	早期	Ⅰd	撚糸文	口縁部内外面は横方向、胴部外面は縦方向の撚糸文。途中ナデ消している。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)暗赤褐色　5YR6/3 (内)褐色　5YR3/2	口縁
44	9	早期	Ⅰe	判ノ木山西	口唇部にキザミ。外面に先割状工具による斜方向の沈線文。内面に横方向の条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい橙色　7.5YR5/3 (内)灰褐色　7.5YR4/2	口縁
45	9	早期	Ⅰe	判ノ木山西	外面の口唇部直下に1条の刺突文を施し、胴部中位に2条の刺突文の列を巡らせる。矢羽根状に条痕文を施文。内面に横方向の条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子	(外)褐色　7.5YR4/4 (内)暗褐色　7.5YR3/4	口縁～胴部
46 ab	10	早期	Ⅱa	入海	口唇部にキザミ。口縁部直下に爪形文。その下にキザミを施した波状と直線の2列の隆帯を貼り付け。両面穿孔。内外面に条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい黄褐色　10YR5/4 (内)暗褐色　10YR3/3	口縁～胴部
47	10	早期	Ⅱa	入海	円形の隆帯を貼り付け。内外面に条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)にぶい黄褐色　10YR5/4 (内)にぶい褐色　7.5YR5/4	胴部
48	10	早期末	Ⅱb	打越	波状口縁。口縁部内外面にキザミ。外面に斜方向に貝殻腹縁文。内面に条痕による調整。	無	白色粒子	(外)赤褐色　5YR4/6 (内)褐灰色　5YR4/1	口縁
49 ab	10	早期末	Ⅱb	打越	口縁部内外面にキザミ。外面に異方向に貝殻腹縁文。内面に条痕による調整。	無	白色粒子、雲母	(外)明赤褐色　5YR5/6 (内)にぶい褐色　7.5YR5/4	口縁
50 abc	10	早期	Ⅱc	天神山～塩屋併行	口唇部、口縁部にキザミ。胴部に2段のキザミを施す。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色　7.5YR5/4 (内)褐色　7.5YR4/4	口縁～胴部
51	10	早期	Ⅲa	縄文	Rの無節の縄文を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)にぶい赤褐色　2.5YR4/4	胴部～底部
52 ab	10	早期	Ⅲa	縄文	RLの縄文を施文。内面に丁寧にナデを施す。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片、輝石	(外)黒褐色　10YR3/2 (内)にぶい橙色　7.5YR5/4 灰黄色　Hue10YR5/2	口縁～胴部
53 ab	10	早期	Ⅲb		外面は擦痕。内面は条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい赤褐色　5YR4/3 (内)にぶい赤褐色　2.5YR4/4	胴部
54	10	早期	Ⅲc		外内面に異方向の沈線文による調整痕。	有	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)灰褐色　5YR4/2	胴部
55	10	早期	Ⅲc		無文。	有	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)暗赤褐色　5YR3/6 (内)暗赤褐色　5YR3/3	胴部
56	10	早期	Ⅲc		外面は無文。内面は沈線による調整痕。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石、白色岩片	(外)明赤褐色　5YR5/6 (内)明赤褐色　2.5YR5/6	胴部
57	11	前期	Ⅳa	諸磯	口縁部下に1条の連続爪形文と木の葉状の連続爪形文を施す。区画内に横方向のLRの縄文。	無	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)暗赤褐色　5YR3/3 (内)にぶい赤褐色　5YR4/4	口縁
58	11	前期	Ⅳa	諸磯	横方向にRLの縄文を地文。口縁部、胴部に連続爪形文。半載竹管状の工具により隆帯上に刺突文。下部に沈線による区画。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)明褐色　7.5YR5/6 (内)にぶい赤褐色　2.5YR4/4	胴部
59	11	前期	Ⅳa	諸磯	無文。外面に一部ミガキが施される。	有	黒色粒子、白色粒子、雲母、白色岩片、赤色岩片	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)灰褐色　5YR4/2	胴部～底部
60 ab	11	前期	Ⅳb	十三菩提	口縁部に三角形印刻文と結節浮線による渦巻文を施文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR5/4 (内)赤褐色　5YR6/4	口縁
61 abc	11	前期	Ⅳb	十三菩提	屈曲部より上部にソーメン状貼り付け文、隆帯、集合沈線文を施す。屈曲部より底部は無文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)赤褐色　5YR4/6 (内)にぶい赤褐色　5YR4/3	胴部～底部
62	11	前期	Ⅴa		無文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)にぶい黄褐色　10YR5/3	胴部～底部
63	11	中期	Ⅵa	五領ヶ台	口縁突起部にキザミ。両側縁に円形刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)赤褐色　2.5YR4/6 (内)暗赤灰色　2.5YR3/1	装飾
64	11	中期	Ⅵb	新道	渦巻き状貼り付け。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)にぶい赤褐色　5YR4/4	貼付部
65	11	中期	Ⅵc	藤内	1条の波状沈線文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)にぶい黄褐色　5YR4/3	胴部
66	11	中期	Ⅵd	井戸尻Ⅱ	横方向に粘土紐を貼り付けヘラ状工具による刺突文を施す。その後に屈曲部より上部に斜方向のRLの縄文を施文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)灰褐色　7.5YR4/2	胴部
67	11	中期	Ⅵd	井戸尻Ⅱ	縦方向に粘土紐を貼り付けヘラ状工具による刺突文を施す。その後に斜方向のRL縄文を施文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい赤褐色　5YR4/4 (内)灰褐色　7.5YR4/2	胴部
68a	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	口縁部に外反する突起が付けられ、その正面と上面に沈線が施される。その下に刻みが施された隆帯が3条巡り、うち1条は楕円区画文を構成する。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色　7.5YR5/4 (内)にぶい橙色　7.5YR6/4	口縁

挿図番号	図版番号	時期	分類群－類	型式	文様・特徴など	繊維	胎土	色調（Hue）	部位
68b	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯が３条巡り、うち１条が楕円区画文を構成し、区画内に沈線文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子	（外）にぶい褐色　7.5YR5/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	胴部
68c	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯が楕円区画文を構成し、区画内に沈線文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子	（外）にぶい褐色　7.5YR5/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	胴部
68d	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯が巡り、楕円区画文と渦巻き文を構成する。	無	黒色粒子、白色粒子	（外）にぶい褐色　7.5YR5/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	胴部
69	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	隆帯にキザミが施され、下部に棒状工具によりキザミを施す。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
70	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	隆帯に連続したキザミが施される。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
71	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯で楕円区画文を構成し、区画内に縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
72	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯で楕円区画文を構成し、区画内に縦方向・横方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい褐色　7.5YR5/4 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
73	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯が楕円区画文を構成し、区画内に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、赤色岩片	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
74a	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された２条の隆帯で楕円区画文を構成し、区画内に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、石英	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
74b	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	縦方向に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、石英	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
74c	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	キザミが施された隆帯で楕円区画文を構成し、区画外に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、石英	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）褐灰色　5YR4/1	胴部
75	12	中期	Ⅵd	井戸尻Ⅲ	口唇部が内側にやや肥厚している。１条の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英	（外）褐色　7.5YR6/4 （内）褐色　7.5YR6/4	口縁
76	12	中期	Ⅵe	井戸尻Ⅲ	外面に沈線文が巡る。内外面ナデ調整。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）暗褐色　7.5YR3/4 （内）暗褐色　7.5YR3/3	口縁
77	12	中期	Ⅵg	井戸尻Ⅱ併行	横方向にLRの縄文。下半はナデ消している。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）赤褐色　5YR4/6 （内）赤褐色　5YR4/6	胴部
78 ab	13	中期	Ⅶa	曽利Ⅰ	口縁部に貼り付け隆帯を垂下し、その下に蛇行隆線を貼り付ける。その下半分に縄文を施す。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい赤褐色　5YR5/3 （内）褐灰色　5YR4/1	口縁～胴部
79	13	中期	Ⅶa	曽利Ⅰ	内外面ミガキによる器面調整。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい赤褐色　5YR4/4 （内）暗赤褐色　5YR3/2	口縁
80 abc	13	中期	Ⅶa	曽利Ⅰ	キザミが施された隆帯が２条巡り、その下に縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）明赤褐色　5YR5/6 （内）灰褐色　5YR4/2	胴部
81 ab	13	中期	Ⅶb	曽利Ⅱ	蛇行隆線を貼り付けし楕円区画文を構成する。区画内に平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）赤褐色　5YR4/6 （内）灰褐色　5YR5/2	胴部
82	13	中期	Ⅶb	曽利Ⅱ	縦方向に平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英	（外）赤褐色　5YR4/6 （内）灰褐色　5YR5/2	胴部
83 ab	13	中期	Ⅶd	曽利Ⅳ～Ⅴ	櫛歯状工具による刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）暗赤褐色　5YR3/4 （内）灰褐色　7.5YR4/2	胴部
84 ab	13	中期	Ⅶd	曽利Ⅳ～Ⅴ	櫛歯状工具による刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	（外）赤褐色　2.5YR4/6 （内）暗赤灰色　2.5YR3/1	胴部
85 ab	13	中期	Ⅶe	加曽利Ｅ１ （10a期）	口唇部に隆帯を貼り付け二重口縁とする。２本１組の隆帯を横方向に貼り付け、先端は渦巻文。隆帯区画内は縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）褐色　7.5YR4/4 （内）灰褐色　7.5YR5/2	口縁
86a	13	中期	Ⅷa	井戸尻Ⅱ併行	外面に縄文。内面に一部ミガキ。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	（外）褐色　7.5YR4/3 （内）明赤褐色　5YR5/6	口縁
87	13	中期	Ⅷb	縄文	外面に部分的な縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	（外）明褐色　7.5YR5/6 （内）明褐色　7.5YR5/6	胴部
88	14	後期	Ⅸa	堀之内	口縁部の突起に円形貫通孔と単沈線文による渦巻文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい黄橙色　10YR6/4 （内）にぶい黄橙色　10YR7/4	口縁
89	14	後期	Ⅸa	堀之内	口唇部に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）暗赤褐色　2.5YR3/3 （内）にぶい褐色　2.5YR4/4	口縁
90	14	後期	Ⅸa	堀之内	口唇部に沈線文とキザミ。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片、雲母、石英	（外）黒褐色　7.5YR3/2 （内）黒褐色　7.5YR2/3	口縁
91	14	後期	Ⅸa	堀之内	３本の沈線文による横方向と斜方向の区画文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片	（外）橙色　5YR6/6 （内）橙色　5YR5/5	胴部
92	14	後期	Ⅸa	堀之内	縄文を地文。横方向と縦方向の沈線文により区画し、区画内は縄文の方向が変わる。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい黄橙色　10YR6/4 （内）にぶい黄橙色　10YR7/4	胴部
93	14	後期	Ⅸa	堀之内	外面は沈線文により区画。内外面にミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）黒褐色　7.5YR3/2 （内）黒褐色　7.5YR2/2	胴部
94a	14	後期	Ⅸb	堀之内（粗製）	外面にRLの縄文。口唇部から内面上部にかけてミガキ。その下部はナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、輝石	（外）にぶい橙色　7.5YR6/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	口縁
94bc	14	後期	Ⅸb	堀之内（粗製）	外面の縄文を一部ナデ消す。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい橙色　7.5YR6/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	胴部
95	14	後期	Ⅹa	縄文	外面に縄文。内面にナデ調整。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　2.5YR4/4 （内）にぶい赤褐色　5YR5/3	底部
96	14	後期	Ⅹb	無文	内外面にナデ調整。一部ミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）橙色　5YR6/6 （内）灰褐色　5YR6/2	底部

（２）石器

石鏃

石鏃は計64点出土し、うち26点を実測した。基部の形状で５タイプに分類し、さらに凹状の基部のものは脚部形状で４タイプに細分類した。石鏃未製品は４点出土したが、その内３点を掲載した。

Ａタイプ（基部が凹状のもの）（第46図97 ～ 111）

97 ～ 111までが脚部が尖っているＡ１タイプ、112 ～ 114までは脚部が円脚のＡ２タイプ、115が角脚のＡ３タイプであり、116は下部が欠損し脚部不明である。97は抉りがかなり深く入って大型であり、98も同様の形状である。99 ～ 102は抉りが比較的内湾気味になる。103は断面形状が扁平である。105からは抉りが浅く脚部も短く二等辺三角形である。111は抉りが僅かに見られる程度である。112 ～ 114は脚部を円形状に加工しており、縁辺が鋸歯状に作り出されている。115は刃部が長い。

Ｂタイプ（基部が平らのもの）（第46図117）

117は基部を平らに作っており、断面も扁平である。

Ｃタイプ（基部が円形のもの）（第46図118・119）

118は円形の基部が明瞭で､119は一部欠損だが円形の基部と考えられる。先端が使用により丸くなる。

Ｄタイプ（基部が不定形状のもの）（第46図120）

120は下部が一部欠損しており基部がやや不明であることから不定形状のタイプとした。

石鏃未製品（第47図121 ～ 123）

121 ～ 123は石鏃未製品である。121は刃部や基部の加工が粗く、まだ製作途中の未製品と判断した。122と123は下部が欠損しているが、刃部の加工が粗いため、未製品と考えられる。

尖頭器（第47図124）

124は尖頭器である。茎部がなく、右側縁部上半は両面とも加工して刃部を作り出している。

スクレイパー（第47図125 ～ 127）

125 ～ 127はスクレイパーである。125は左側面に両面とも剥離痕が認められる。126は上面には自然面を残すが、右側面を両面とも加工している。裏面に節理面が確認される。127は裏面の方が剥離痕は明瞭に観察され、特に左側面に微細な剥離が多く認められる。

石匙（第47図128）

128は石匙であり、周縁に両面から平坦剥離を入れて刃部とつまみを作り出している。

石錐（第47図129）

129の石錐は、断面三角形の剥片を利用しており、両側縁に剥離調整が見られる。

楔形石器（第47図130）

130は楔形石器で、両端部に両極方向の剥離痕が見られ両極打法により成形されたと考えられる。

二次加工剥片（第47図131 ～ 134）

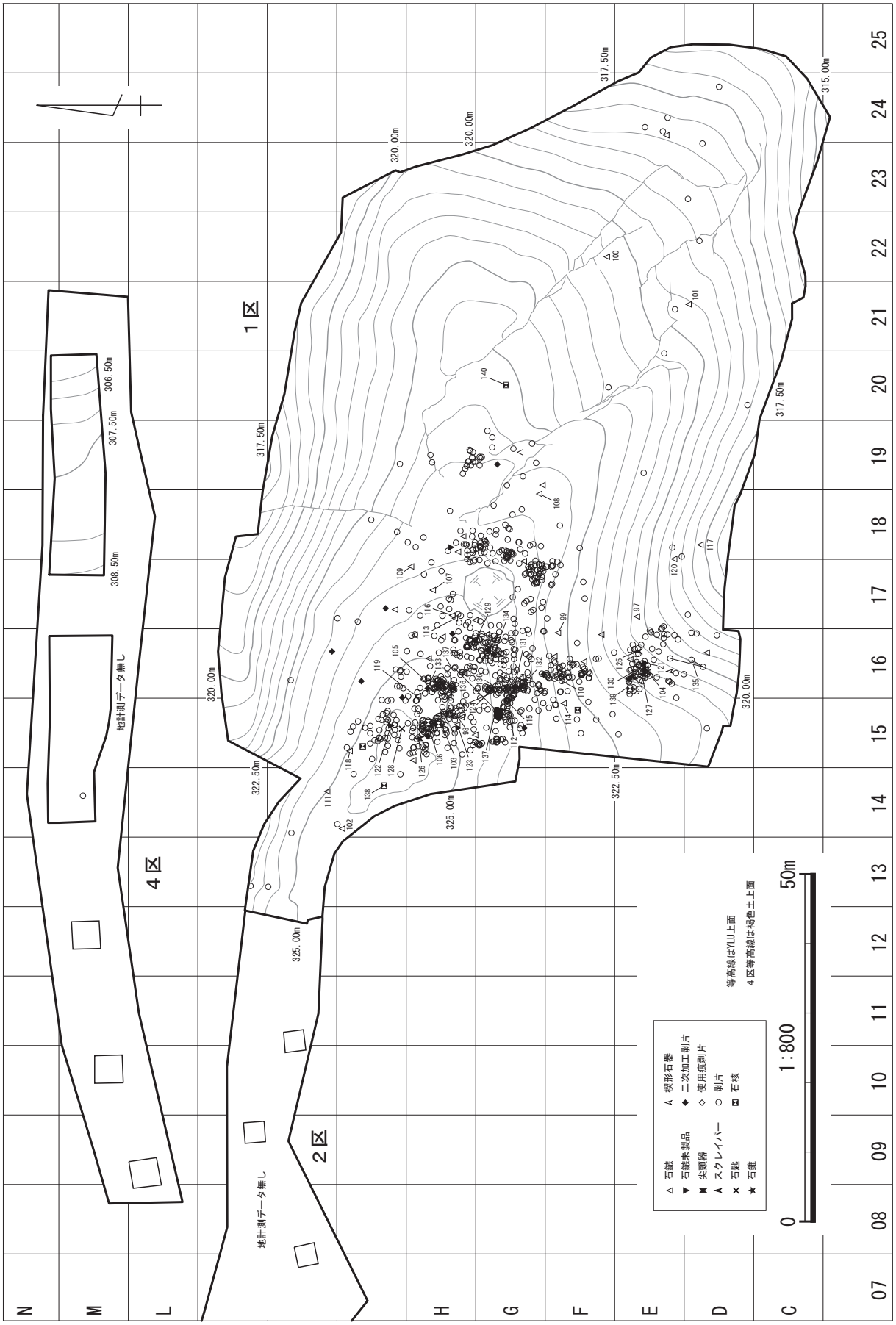
131 ～ 134であり、不連続ながら加工が施される剥片で、縁辺部に細かな加工が施されている。

接合資料（第48図135 ～ 137）

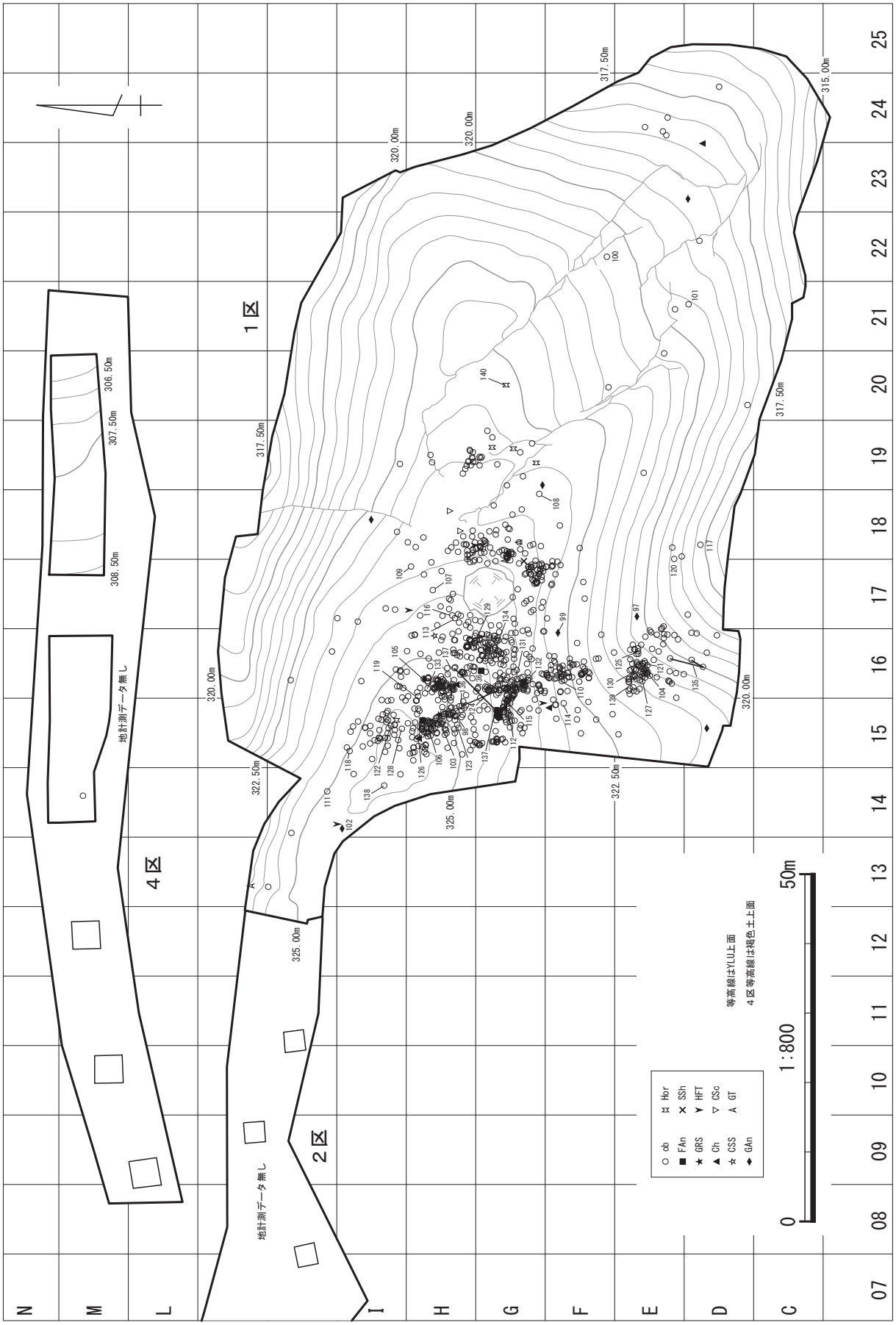
135 ～ 137は接合資料の剥片で、すべて諏訪星ヶ台群産の黒曜石製剥片である。135は５ｍ以内の範囲で出土した３点が、136は7.4ｍ離れた位置から出土し、137は直線距離で8.2ｍほど離れた位置で出土のものが接合している。

石核（第48図138 ～ 140）

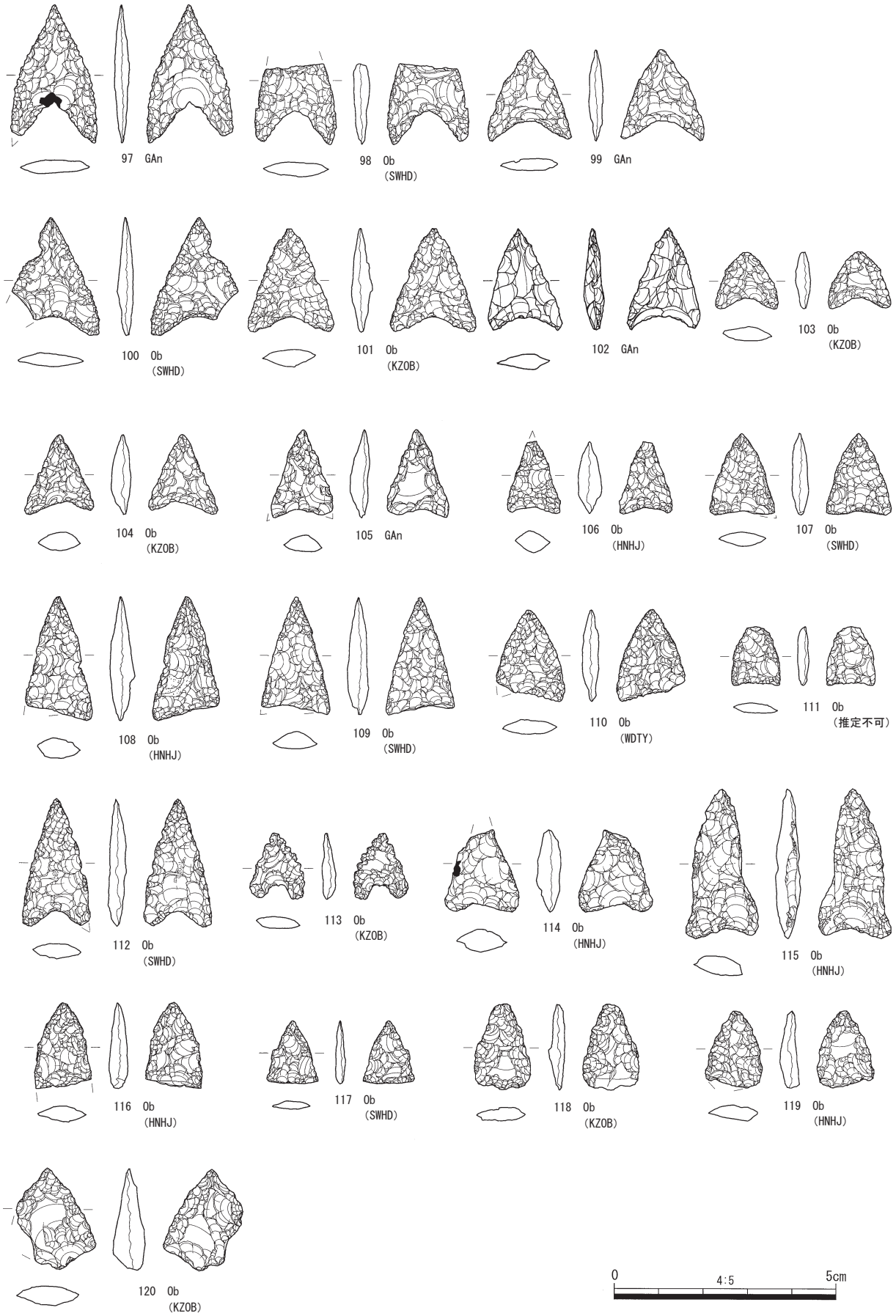
138 ～ 140は石核である。138は固定して剥離面を一方向に剥離しており、139は剥離面を転移しながら剥離している。140はホルンフェルス製の石核で、礫面を一方向に剥離している。



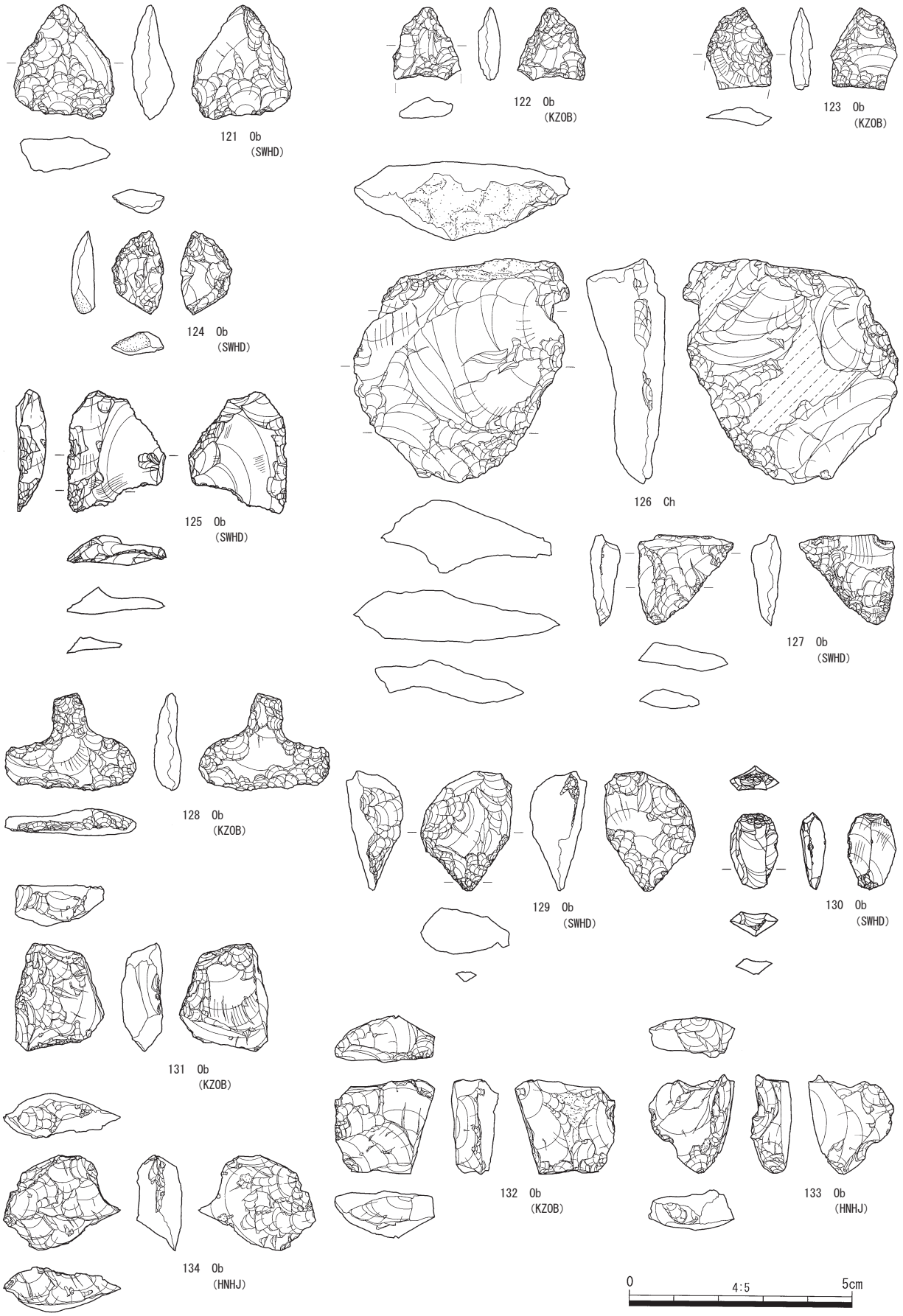
第44図　剥片石器器種別分布



第45図　剥片石器石材別分布


97 GAn
98 Ob (SWHD)
99 GAn
100 Ob (SWHD)
101 Ob (KZOB)
102 GAn
103 Ob (KZOB)
104 Ob (KZOB)
105 GAn
106 Ob (HNHJ)
107 Ob (SWHD)
108 Ob (HNHJ)
109 Ob (SWHD)
110 Ob (WDTY)
111 Ob (推定不可)
112 Ob (SWHD)
113 Ob (KZOB)
114 Ob (HNHJ)
115 Ob (HNHJ)
116 Ob (HNHJ)
117 Ob (SWHD)
118 Ob (KZOB)
119 Ob (HNHJ)
120 Ob (KZOB)
0
4:5
5cm

第46図　石器１


121 Ob
(SWHD)
122 Ob
(KZOB)
123 Ob
(KZOB)
124 Ob
(SWHD)
125 Ob
(SWHD)
126 Ch
127 Ob
(SWHD)
128 Ob
(KZOB)
129 Ob
(SWHD)
130 Ob
(SWHD)
131 Ob
(KZOB)
132 Ob
(KZOB)
133 Ob
(HNHJ)
134 Ob
(HNHJ)
0
4:5
5cm

第47図　石器２

135a
135c
135 Ob
(SWHD)
135b
136 Ob
(SWHD)
137 Ob
(SWHD)
138 Ob
(SWHD)
139 Ob
(KZOB)
140 Hor
0
4:5
5cm

第48図　石器３

打製石斧（第51図141 ～第54図153）

出土した打製石斧は全部で23点あり、そのうち13点を図化した。141 ～ 153は打製石斧である。分類は141 ～ 143は側縁部が平行で直線的な短冊型である。143は右側縁部のエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残り、柄と装着したと考えられる。実測した資料以外でも、小型のものが多い。144 ～ 146は側縁部が直線的で刃部側に最大幅を持つ撥型であり、両側縁部に柄の装着と思われるエッジの敲打痕が見られる。144・145など礫面が広く残り、大きさもバラバラである。147・148は撥型より最大幅がさらに刃部で広がり、ハの字状を呈する杓文字型である。柄に装着したと思われる抉りが見られるが、エッジに明瞭な敲打痕は認められない。輝石安山岩を素材としており、厚さはあまりなく扁平である。147は刃部使用のため摩滅が見られる。149・150は分銅型である。最大幅が上部と刃部にあり、両側縁部に敲打を行っており、抉れている。149は礫面が多く残っている。151・152は基端部が尖る尖頭型に分類した。明瞭な着装痕は見られない。両資料とも上部に節理が見られる。なお、153は刃部しか残っておらず分類は不可であるが、撥型か杓文字型の可能性が高い。刃部には使用による摩滅が多く見られる。

磨製石器（第54図154 ～ 156）

154 ～ 156は磨製石斧である。154は上部を欠損しているが、刃部にかけて使用による摩滅痕が目立つ。比較的大型品であったと考えられ、断面も厚い。155は小型である。刃部は尖っており、両縁辺部に剥離痕が多く見られる。156は大半を欠損しており刃部しか残っていないが、使用による摩滅が見られる。

礫器（第55図157 ～ 162）

157 ～ 162は礫器である。礫器は15点出土し、そのうち６点を実測した。ほとんどは輝石安山岩製で、１点のみ玄武岩製である。157は左側縁部にも刃部が見られる。161・162は左右半分ずつが欠損して全体形状は不明だが、158のように刃部が広角に広がるものと考えられる。

磨石・敲石類（第56図163 ～第59図199）

163 ～ 199は磨石・敲石類である。全体では210点出土し、そのうち37点を実測した。石材は輝石安山岩、玄武岩、多孔質玄武岩、多孔質安山岩の順に多い。

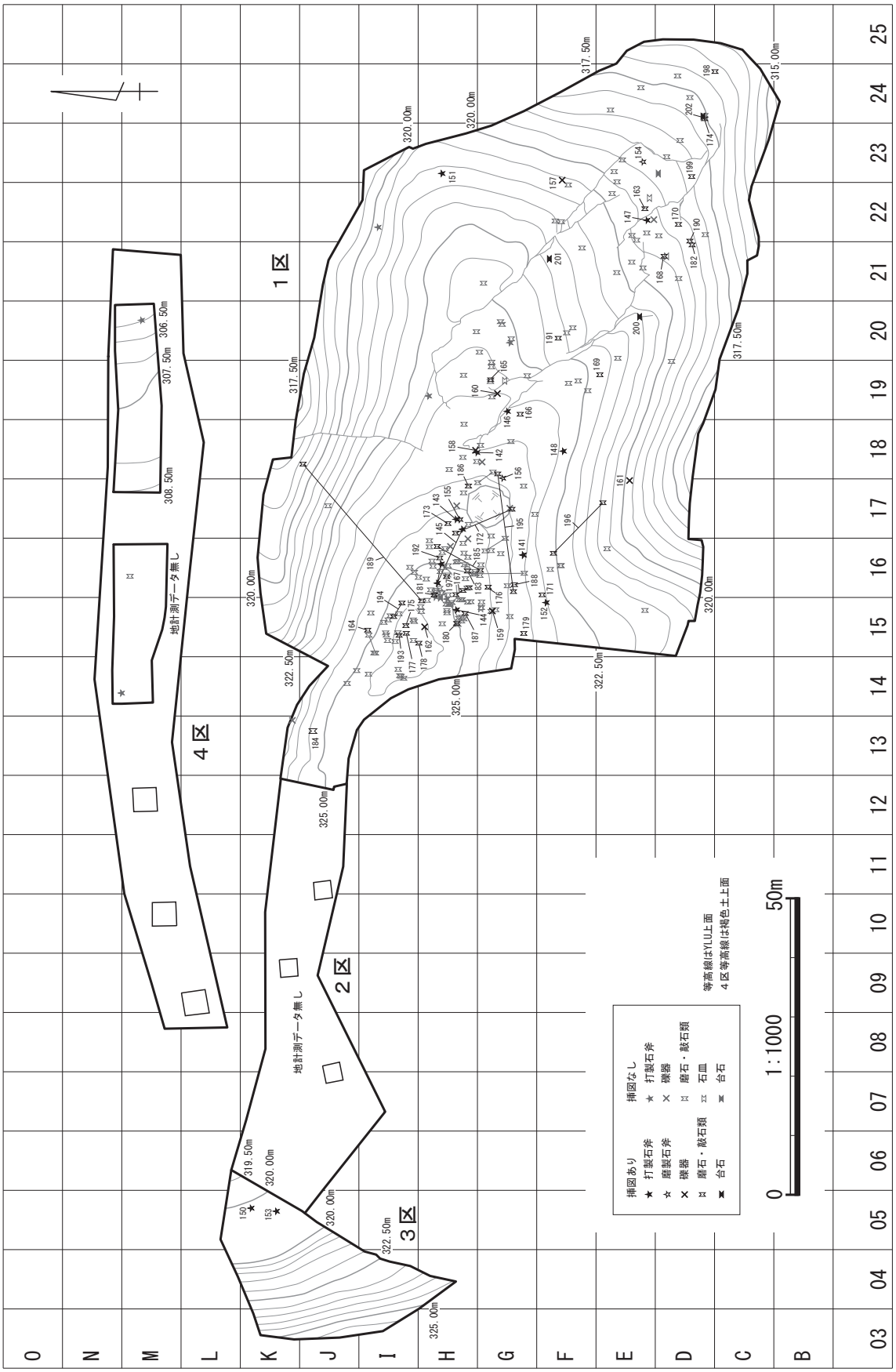
磨石・敲石類は、形状・断面形・使用痕によって分類した。形状はＡが円形、Ｂが楕円形、Ｃが不定形、Ｄが棒状のものである。断面形は、１が円形、２が扁平、３は厚みがあるもの、４は三角形をなすものである。使用痕は、ａは端部に敲きがあり、ｂは側縁部に敲きがあるもの、ｃは平坦面で敲いているもの、ｄが端部に磨りがあるもの、ｅは側縁部に磨りがあるもの、ｆは平坦面を磨っているものである。

163 ～ 166は形状が円形のＡであり、断面形状は163 ～ 165は２の扁平で、166は厚みがある３タイプである。使用痕は、163・166は敲きのみ、164は平坦面の磨り、165は敲きと磨りが行われている。167 ～ 172はＢタイプであり、断面形状は167が扁平であり、それ以外は厚みがあるタイプである。

使用痕は167 ～ 170は敲きのみであり、171・172については、171は上半分が、172は一部が欠損しているが、端部と側縁部の敲きと平坦面の磨りが見られる。173 ～ 187は不定形状をなすＣタイプであり、178までが断面形状が扁平タイプ、179からは厚みのあるタイプである。188 ～ 199が棒状をなすＤタイプであり、三角形断面の199以外は断面が厚みのあるタイプである。

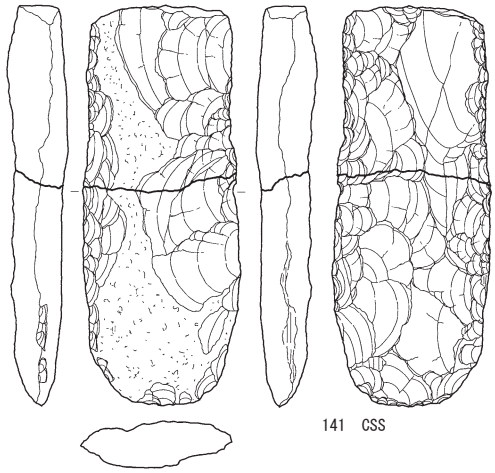
石皿・台石類（第60図200 ～ 202）

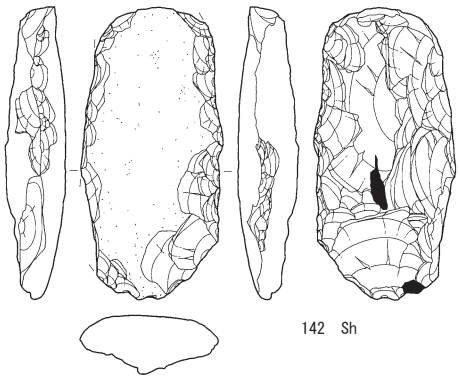
包含層出土の石皿は６点あるが、欠損し図化が困難なため掲載しない。200 ～ 202は台石である。台石は、包含層からは５点出土した。そのうち３点を実測した。200は平坦面の中央部に敲打痕による凹凸が確認できる。201・202は敲打痕があまり明瞭に認められないが、形状から台石と判断した。202は大型品である。

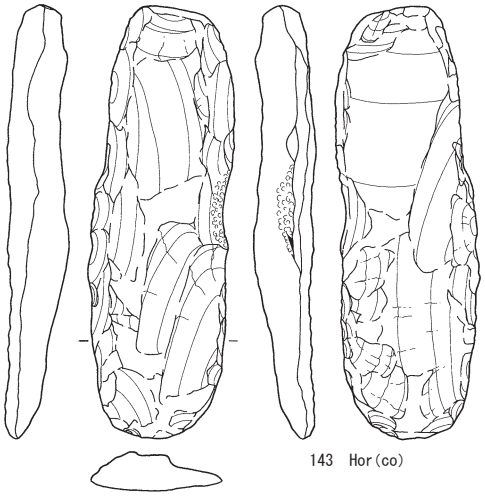


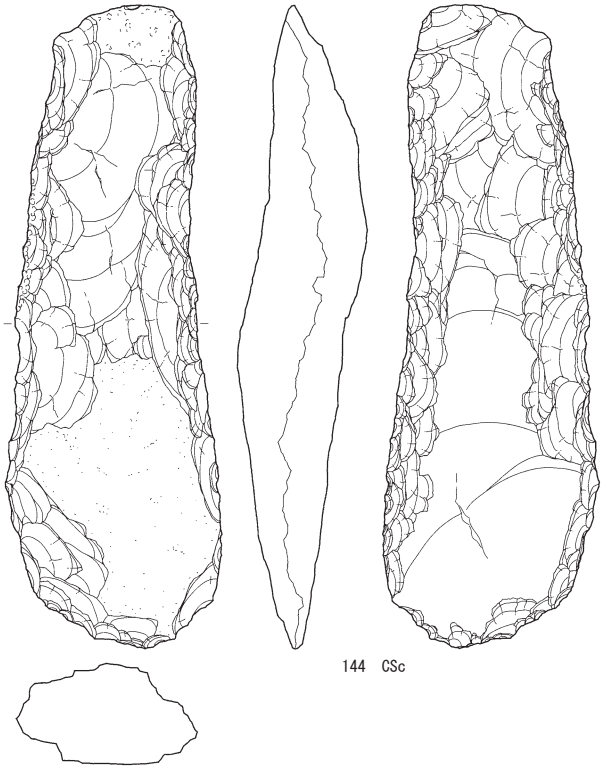
第49図　礫石器器種別分布

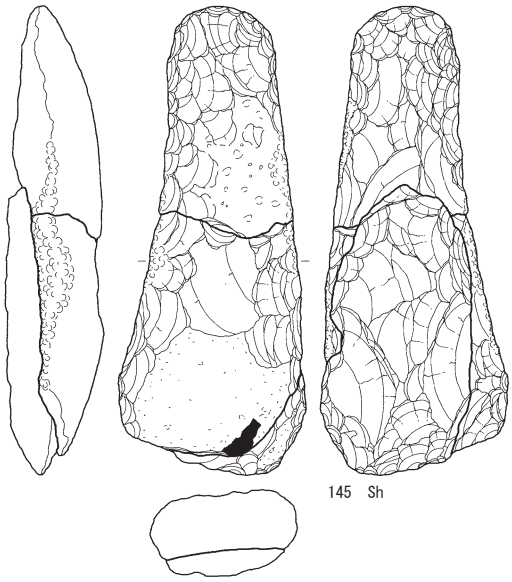
第50図　礫石器石材別分布

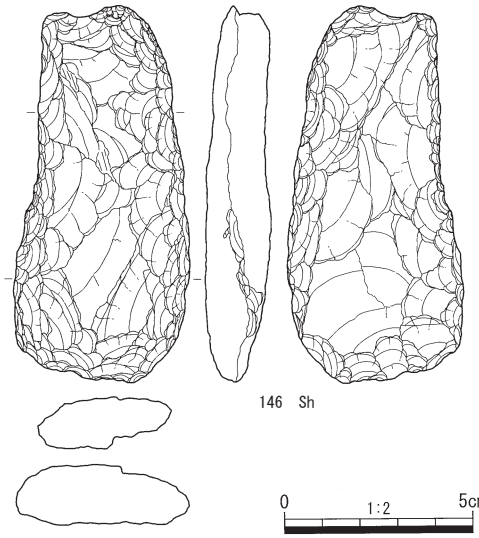




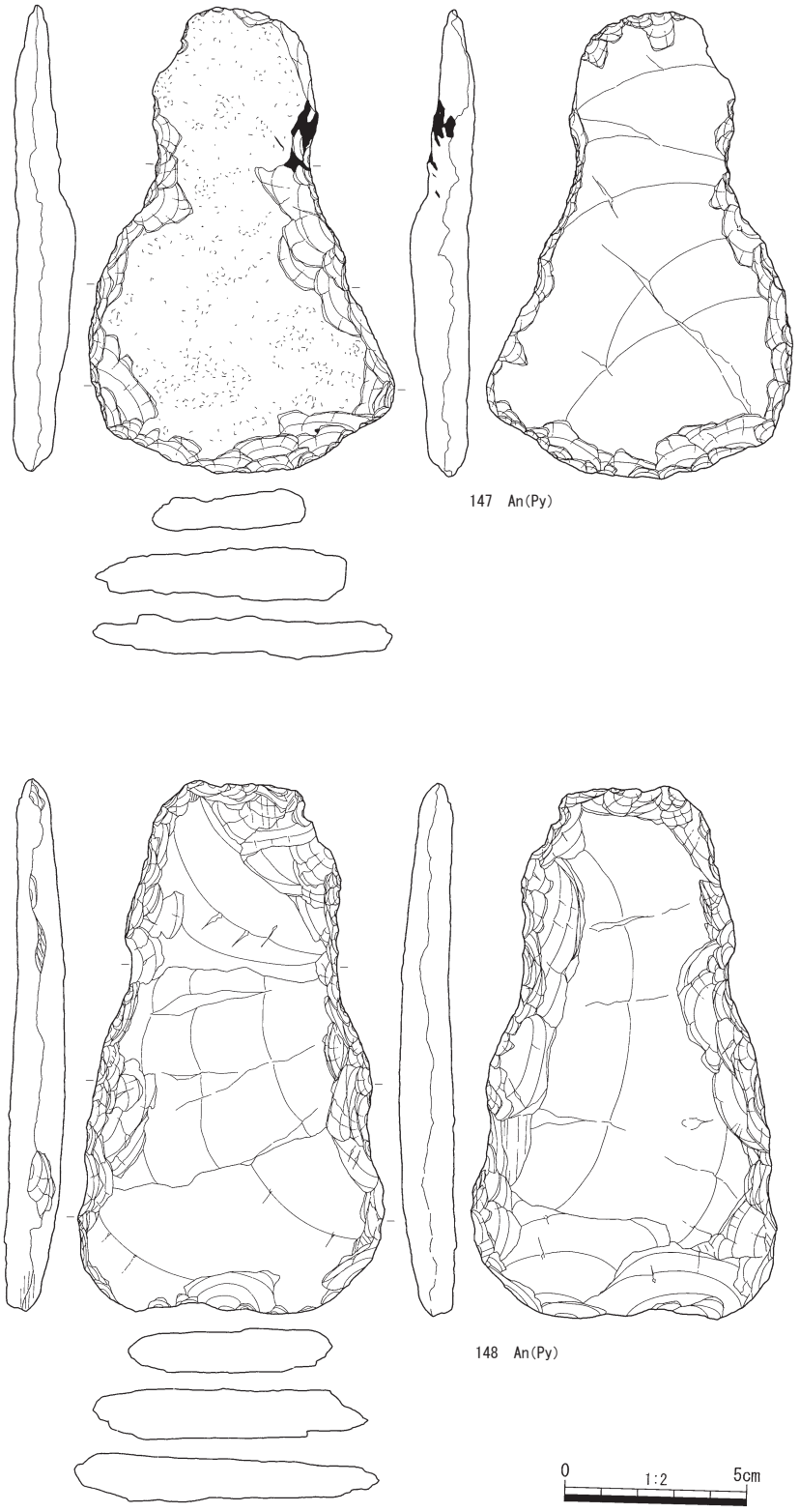




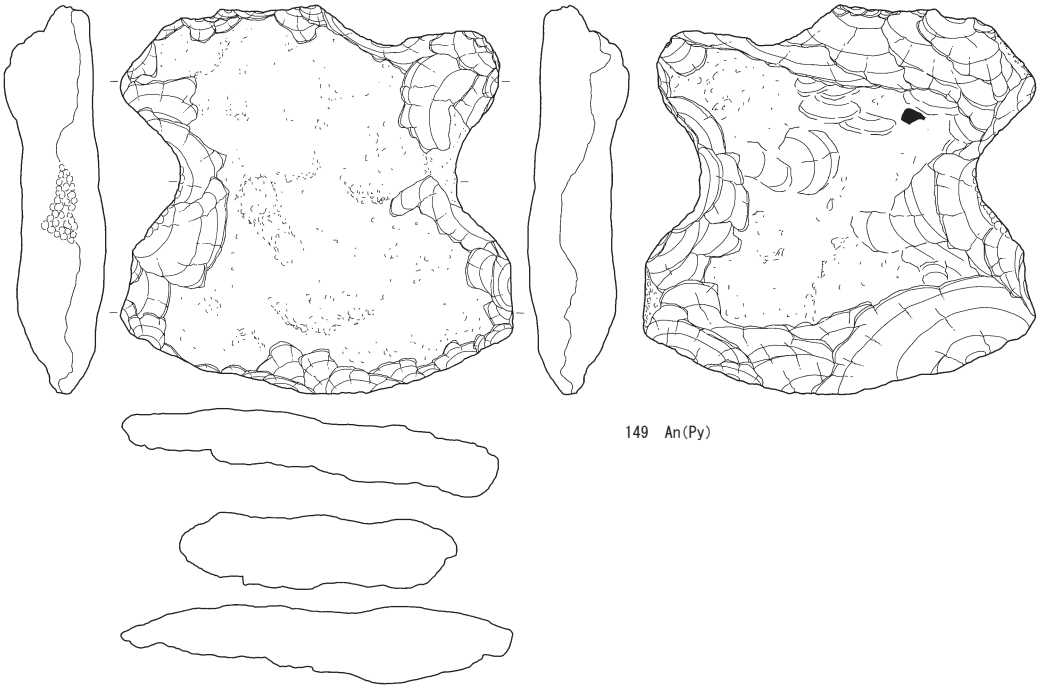


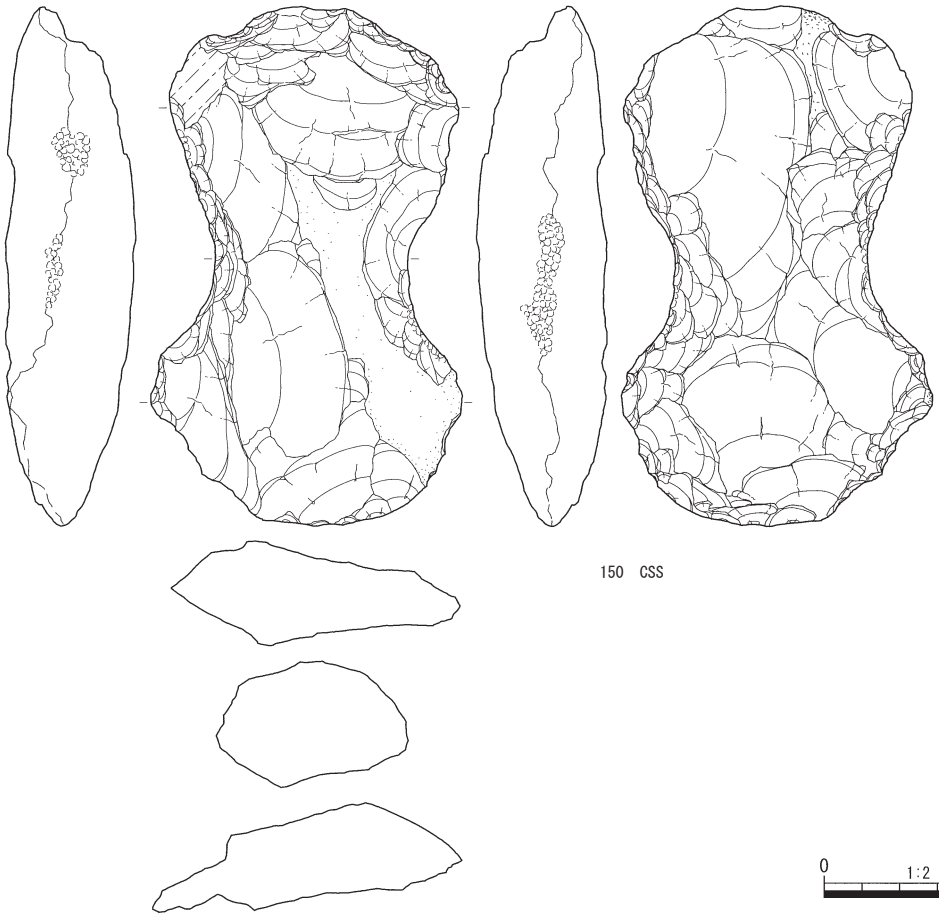


第51図　石器４

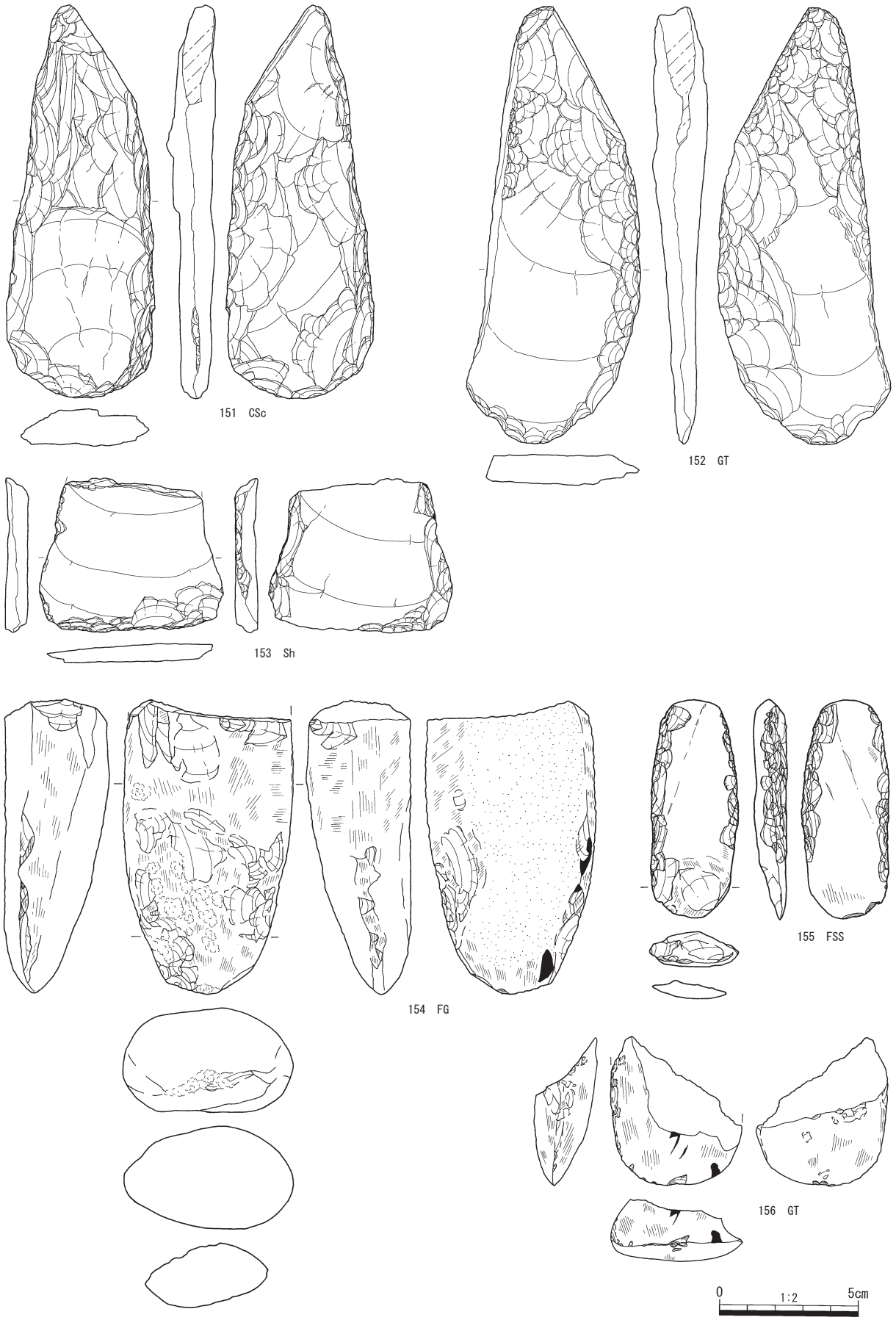


第52図　石器５

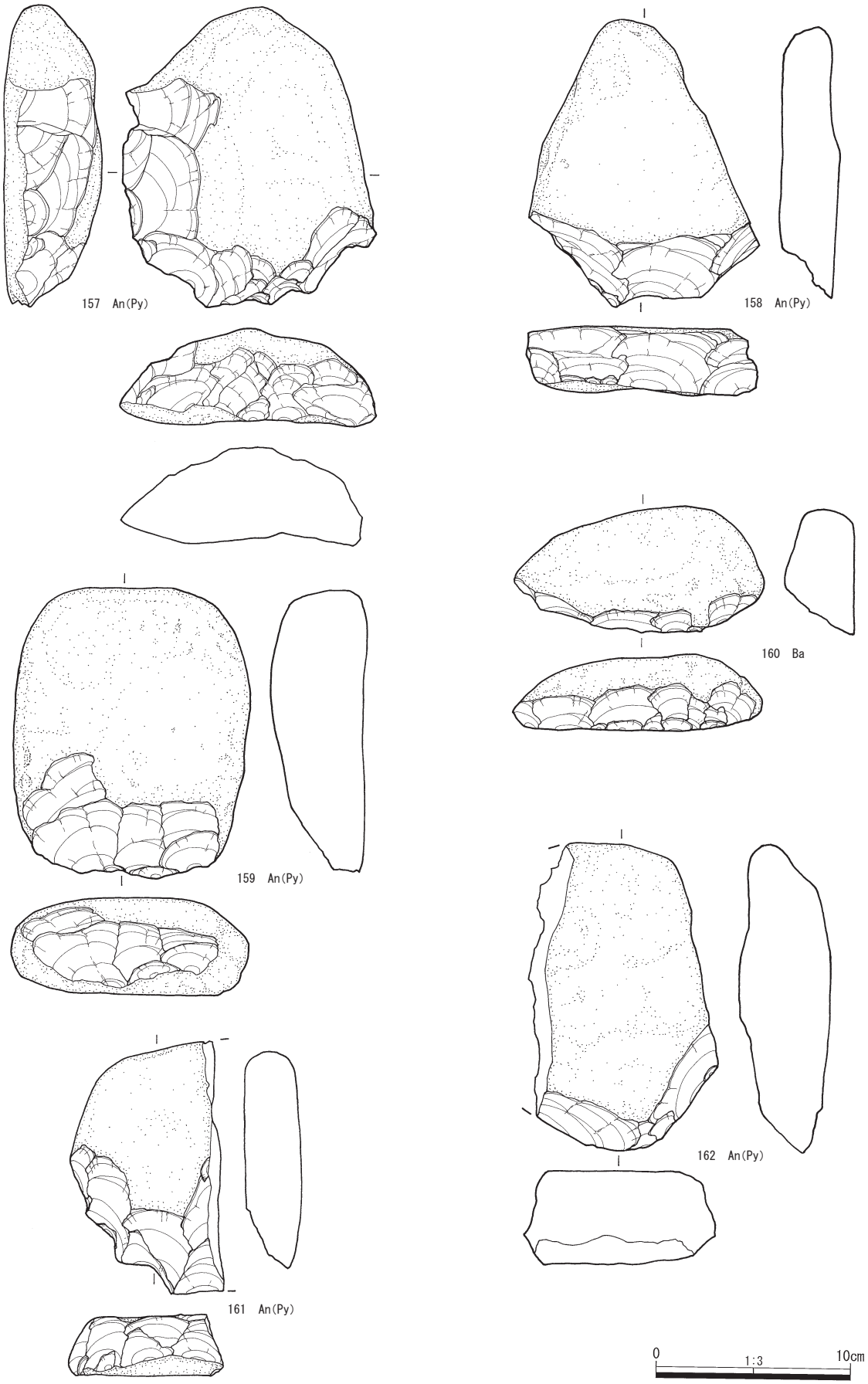




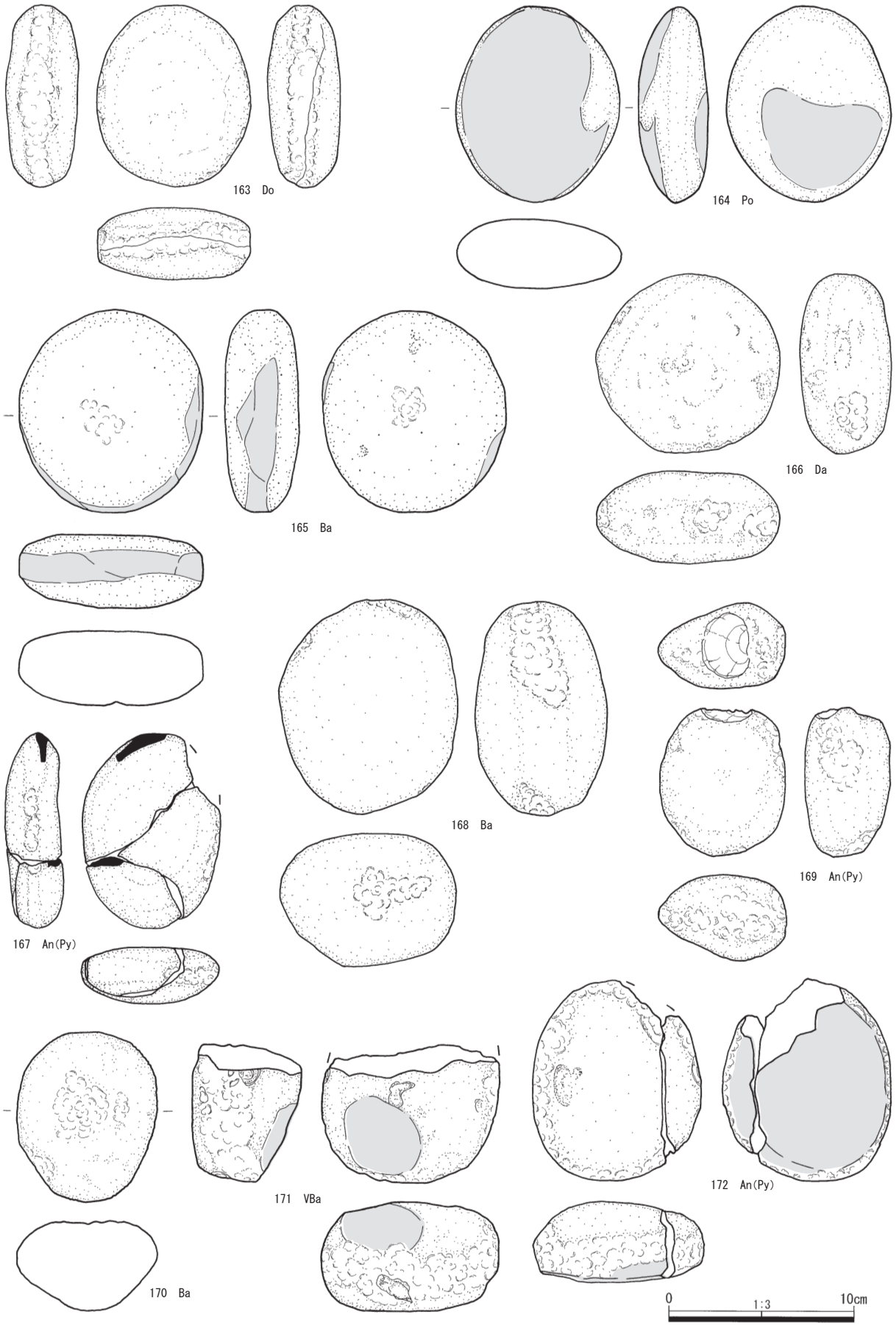
第53図　石器６



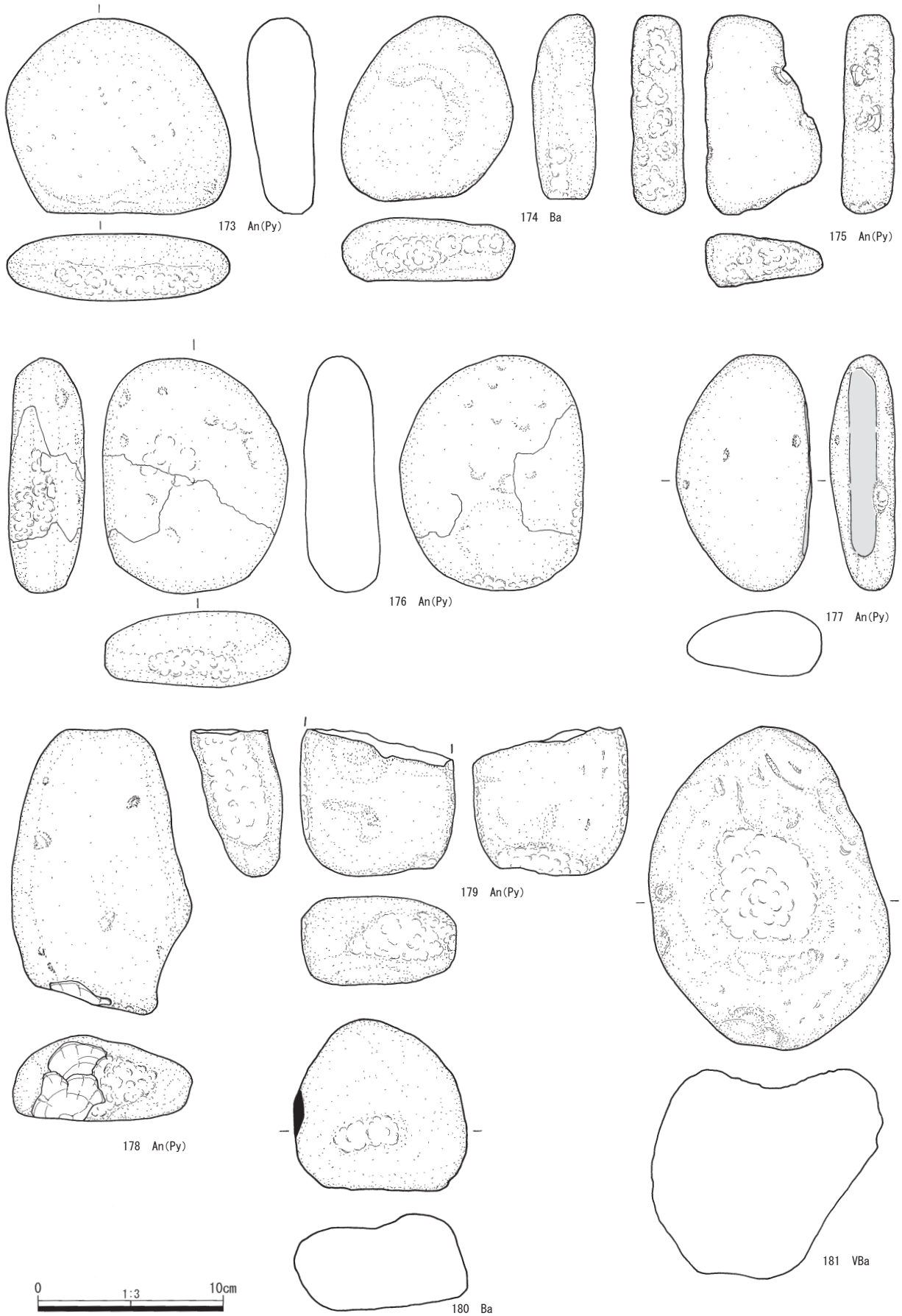
第54図　石器７



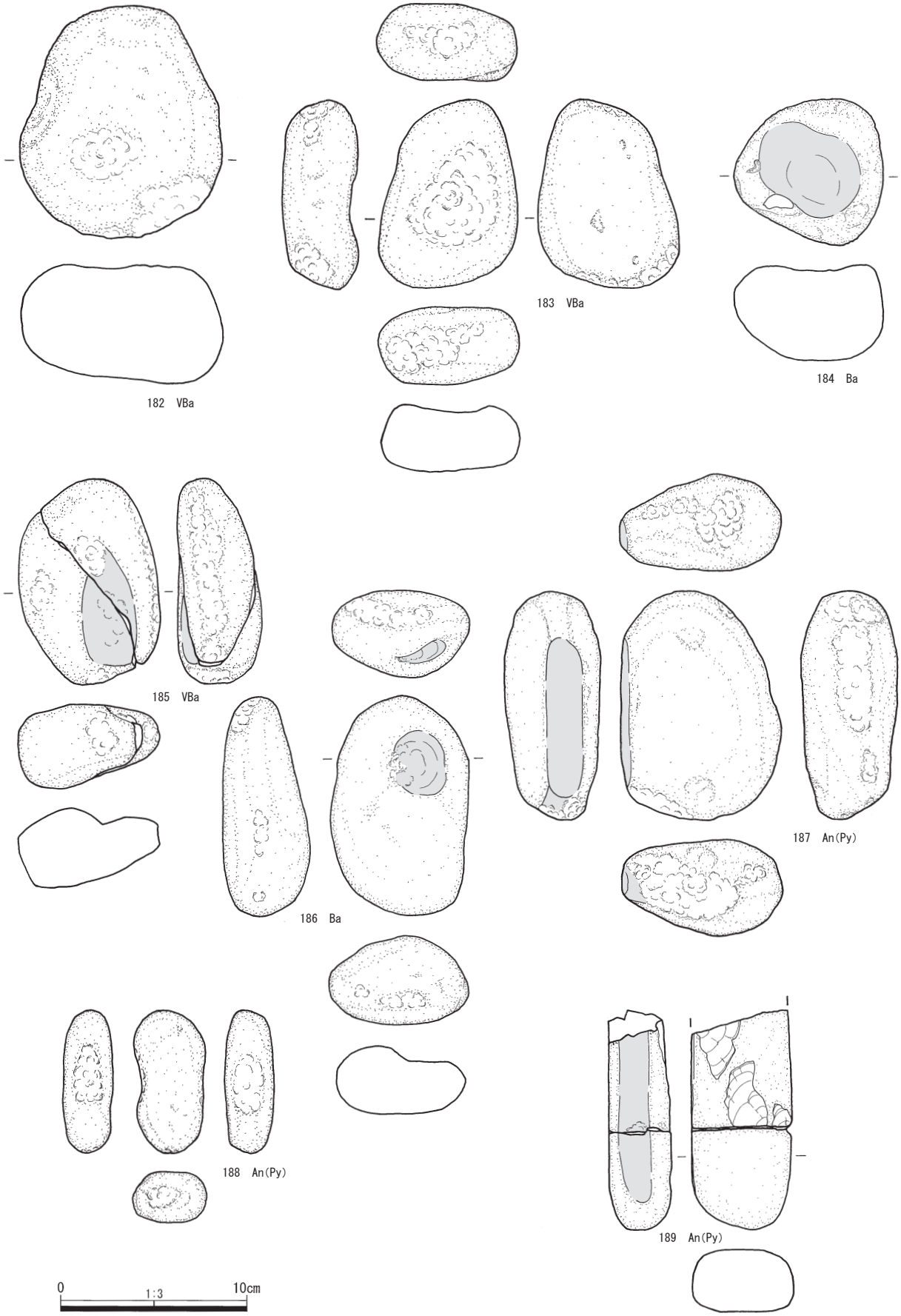
第55図　石器８


163 Do
164 Po
165 Ba
166 Da
167 An(Py)
168 Ba
169 An(Py)
170 Ba
171 VBa
172 An(Py)
0
1:3
10cm

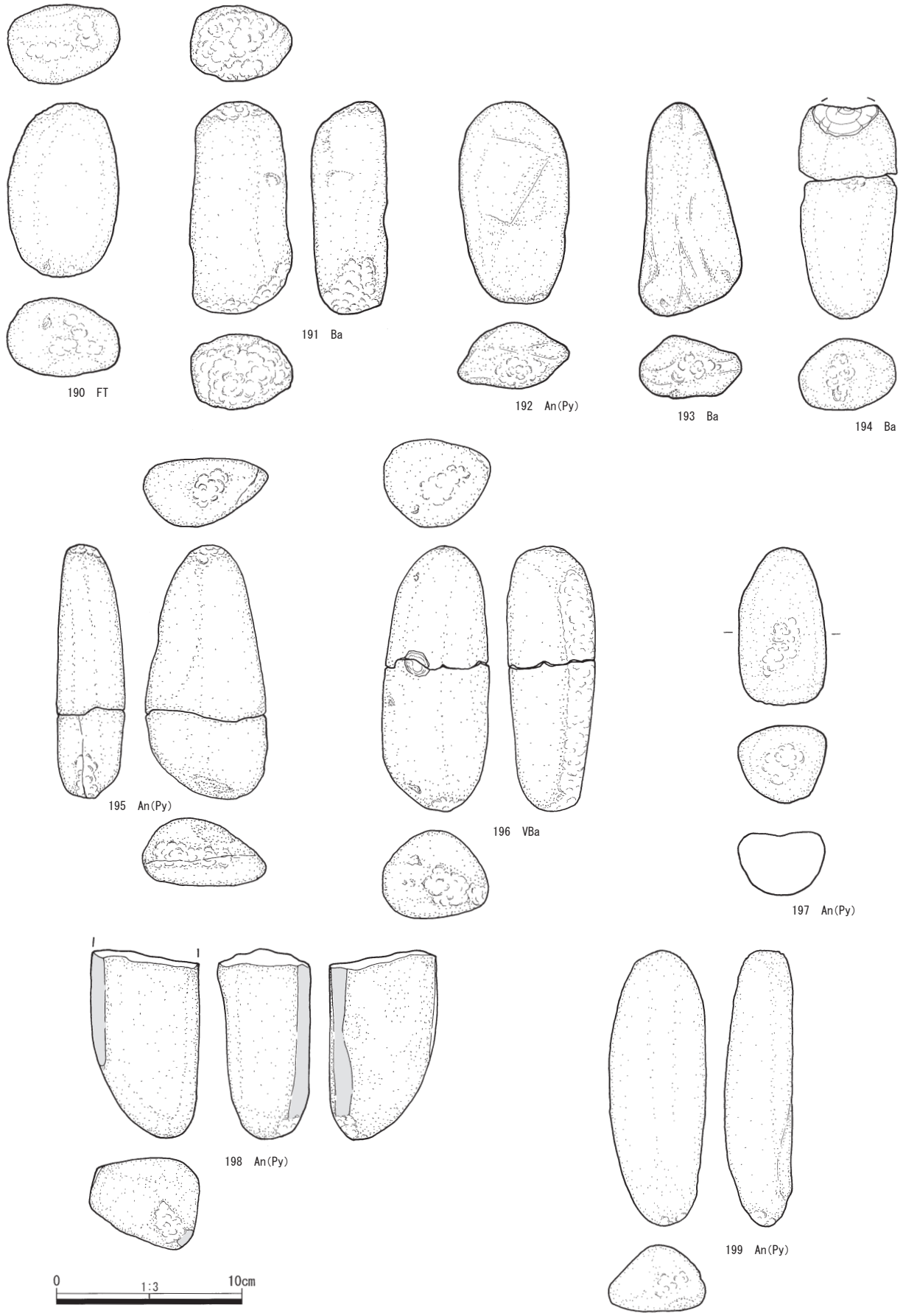
第56図　石器９


173 An(Py)
174 Ba
175 An(Py)
176 An(Py)
177 An(Py)
178 An(Py)
179 An(Py)
180 Ba
181 VBa
0
1:3
10cm

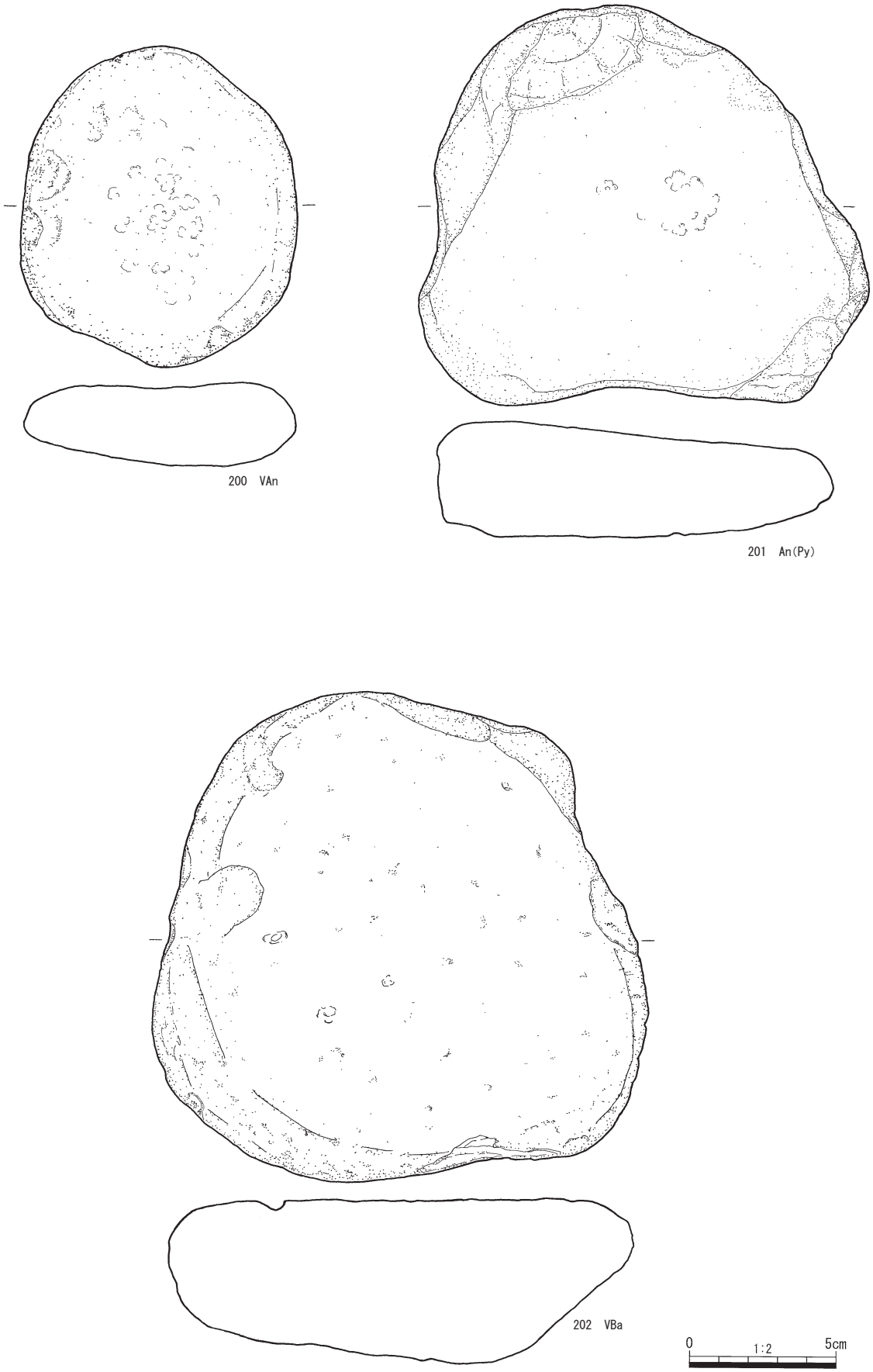
第57図　石器10


182 VBa
183 VBa
184 Ba
185 VBa
186 Ba
187 An(Py)
188 An(Py)
189 An(Py)
0
1:3
10cm

第58図　石器11


190 FT
191 Ba
192 An(Py)
193 Ba
194 Ba
195 An(Py)
196 VBa
197 An(Py)
198 An(Py)
199 An(Py)
0
1:3
10cm

第59図　石器12



第60図　石器13

第18表　石鏃組成

石材		黒曜石						ガラス質黒色安山岩	下呂石	珪質頁岩	チャート	合計
		和田鷹山群	諏訪星ヶ台群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析					
石材略号		WDTY	SWHD	HNHJ	AGKT	KZOB	−	GAn	GRS	SSh	Ch	
凹基	尖脚	1	11	3	1	7	2	4				29
	円脚		1	2		2	1					6
	角脚		1	1	1	6	1	1	1	1		13
	脚部不明			1								1
平基			1	2								3
円基			3	2		1						6
不定形			1	1	1	1	1				1	6
合計		1	18	12	3	17	5	5	1	1	1	64

第19表　スクレイパー組成

石材		黒曜石	チャート	合計
		諏訪星ヶ台群		
石材略号		SWHD	Ch	
両刃	側縁部	1		1
片刃	側縁部	3	1	4
	全周	1		1
合計		5	1	6

第20表　石核組成

石材		黒曜石			ホルンフェルス	合計
		諏訪星ヶ台群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析		
石材略号		SWHD	KZOB	−	Hor	
打面形状	剥離方法					
A	1	2	1			3
	2		1	1		2
B	1	1		1	1	3
	2	1				1
合計		4	2	2	1	9

打面形状
A：剥離面を打面とするもの
B：礫面を打面とするもの
剥離方法
1：固定して一方向に剥離
2：転移させながら剥離

第21表　打製石斧組成

石材		輝石安山岩	頁岩	結晶片岩	菫青石ホルンフェルス	緑色凝灰岩	硬質細粒凝灰岩	粗粒砂岩	合計
石材略号		An (Py)	Sh	CSc	Hor (co)	GT	HFT	CSS	
短冊形	両面		1						1
	片面		1		1			2	4
	無し				1				1
撥型	片面		4	1					5
	無し		1						1
杓文字型	片面	2							2
	無し	1							1
分銅型	両面	1							1
	片面							1	1
尖頭型	無し			1		1			2
不明			1	1		1	1		4
合計		4	8	3	2	2	1	3	23

第22表　磨石・敲石類組成

石材			玄武岩	多孔質玄武岩	粗粒玄武岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	ひん岩	細粒班レイ岩	細粒凝灰岩	内訳	合計
石材略号			Ba	VBa	Do	An (Py)	VAn	Da	Po	FG	FT		
形状	断面	使用痕											
A	1	a		1								1	2
		a+b	1									1	
	2	a				3						3	8
		a+b			1	1	1					3	
		f							1			1	
		c+d+e	1									1	
	3	a+b						1				1	9
		a+b+c		1			1					2	
		f				1						1	
		a+b+f				2		1				3	
		a+b+c+f		1								1	
		a+b+c+d+f	1									1	
B	2	a	1			1						2	9
		c	1									1	
		a+b	2			3						5	
		a+b+f					1					1	
	3	a+b	1	2		13		2				18	57
		b+c	1									1	
		a+b+c	1	6		2	3					12	
		e	1									1	
		f	1			1						2	
		a+f				1						1	
		a+b+d				1						1	
		a+b+f		2		9		3				14	
		a+c+e	1									1	
		a+b+c+f		1		2	1					4	
		a+b+e+f						1				1	
		a+b+c+d+f				1						1	
C	2	a	2			2						4	15
		a+b	1	1		3						5	
		a+b+c				1						1	
		e			1	2						3	
		f				1						1	
		a+b+f				1						1	
	3	a	8			5	1			1		15	46
		b				1						1	
		c	2	1		1						4	
		a+b	5			5						10	
		a+c		2		3						5	
		b+c		1								1	
		a+b+c				2	1					3	
		f	1									1	
		a+f				1						1	
		b+d				1						1	
		a+b+e				1						1	
		a+b+c+f	1	2								3	
D	2	a	2	11								13	22
		a+b	1			5						6	
		a+c	1									1	
		e				2						2	
	3	a	4		1	8					1	14	24
		a+b		2		3						5	
		a+c	1			2						3	
		d						1				1	
		a+e				1						1	
	4	a	2	1		10						13	15
		a+b				2						2	
不明						3						3	
合計			44	35	3	107	9	9	1	1	1	210	

形状
A：円
B：楕円
C：不定形
D：棒状

断面
1：円
2：扁平
3：厚み
4：三角

使用痕
a：端部敲き
b：側縁部敲き
c：平坦面敲き
d：端部磨り
e：側縁部磨り
f：平坦面磨り

第23表　縄文時代石器組成

石材	黒曜石							玄武岩	多孔質玄武岩	粗粒玄武岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	下呂石	ひん岩	細粒班レイ岩	玉髄	結晶片岩	ホルンフェルス	菫青石ホルンフェルス	細粒凝灰岩	硬質細粒凝灰岩	緑色凝灰岩	頁岩	珪質頁岩	細粒砂岩	粗粒砂岩	チャート	合計
	和田鷹山群	和田古峠群	諏訪星ヶ台群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析																								
石材略号	WDTY	WDHT	SWHD	HNHJ	AGKT	KZOB	-	Ba	VBa	Do	GAn	FAn	An (Py)	VAn	Da	GRS	Po	FG	Cha	CSc	Hor	Hor (co)	FT	HFT	GT	Sh	SSh	FSS	CSS	Ch	
尖頭器			1																												1
石鏃	1		18	12	3	17	5				5					1											1			1	64
石鏃未製品			1			2	1																								4
スクレイパー			5																											1	6
石匙						1																									1
石錐			2																												2
楔形石器			2																												2
二次加工剥片			3	4	1	6	3																								17
使用痕剥片			5																											1	6
剥片		1	18	2	1	4	342				3	5								2	5			5	3				1	3	395
砕片							2611				1								1											52	2665
石核			4			2	2														1										9
磨製石斧																		1							1			1			3
打製石斧													4							3		2		1	2	8			3		23
磨石・敲石類								44	24	3			118	9	9		1	1					1								210
礫器								1					14																		15
石皿								1					4	1																	6
台石									3				5	1																	9
合計	1	1	59	18	5	32	2964	46	27	3	9	5	145	11	9	1	1	2	1	5	6	2	1	6	6		1	1	4	58	3438

第24表　縄文時代石器一覧

遺構名	挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	器種	層位	グリッド	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	接合	X座標	Y座標	Z座標	タイプ	
1号遺物集中	14		7	2034		石鏃	KGP	F-016	Ob	KZOB	20.1	15.1	4.5	0.89		-88089.424	35444.403	322.196	A2	
1号遺物集中	15		7	2549		石鏃	YLU	E-016	Ob	HNHJ	29.6	26.2	9.8	5.70		-88092.757	35441.636	321.526	A1	
1号遺物集中	16		7	2025		石錐	FB	E-016	Ob	SWHD	33.6	21.9	11.5	6.89		-88090.189	35444.242	321.708		
1号遺物集中	17		7	2134		スクレイパー	KU	E-016	Ob	SWHD	36.3	33.7	9.5	7.02	115	-88099.112	35444.085	320.803	B2	
		a	7	365		剥片	FB	F-016			45.6	38.2	11.9	11.85		-88088.344	35440.362	322.413		
		b	7	367			FB	F-016			31.3	23.0	10.7	4.83		-88089.844	35442.11	322.117		
1号遺物集中	18		7	516		石核	FB	F-016	Ob	SWHD	17.8	28.3	13.3	5.93		-88088.981	35440.961	322.135	B1	
1号遺物集中	19		7	359		石核	FB	E-016	Ob	SWHD	25.0	32.5	20.6	12.41		-88091.607	35441.378	321.862	B2	
1号遺物集中	20		7	2092		磨石・敲石類	FB	F-016	An(Py)		106.0	78.0	48.0	500		-88087.932	35446.459	321.819	B3	a+b
1号遺物集中	21		7	345		磨石・敲石類	FB	E-016	VBa		104.0	76.0	62.0	570		-88090.96	35441.241	322.078	B3	a+b+c
1号遺物集中	22		7	2386		磨石・敲石類	FB	F-016	An(Py)		104.0	98.0	42.0	600		-88089.95	35444.267	321.700	C3	b+d
1号遺物集中	23		7	2091		磨石・敲石類	FB	F-016	An(Py)		114.0	96.0	51.0	830	101	-88088.793	35443.679	321.908	B3	a+b+f
				2387			FB	F-016								-88089.356	35445.249	321.701	B3	a+b+f
1号遺物集中	24		7	346		石皿	AN	E-016	VAn		298.0	267.5	112.0	12960		-88090.011	35441.462	322.369		
1号遺物集中	25		7	609		台石	FB	F-016	An(Py)		191.5	191.0	58.5	3650		-88089.398	35441.122	322.046		
2号遺物集中	26		7	2512		磨石・敲石類	FB	G-016	An(Py)		147.0	84.0	51.0	1000		-88078.789	35440.764	323.523	C3	a
3号遺物集中	27		7	4912		スクレイパー	FB	G-016	Ob	SWHD	32.3	18.0	6.2	3.19		-88073.757	35440.421	324.309	B2	
4号遺物集中	28		8	2810		磨石・敲石類	FB	D-024	An(Py)		105.0	91.0	42.0	580		-88103.691	35526.462	317.547	B3	a+b
4号遺物集中	29		8	2812		磨石・敲石類	FB	D-024	Da		(95.0)	88.0	44.0	(410)		-88104.039	35526.606	317.561	B3	a+b+f
4号遺物集中	30		8	2828		磨石・敲石類	FB	D-024	An(Py)		172.5	132.5	63.0	2010		-88103.943	35526.643	317.508	C3	a
4号遺物集中	31		8	2831		台石	FB	D-024	VBa		245.0	185.0	75.0	4410		-88103.671	35526.756	317.523		
4号遺物集中	32		8	2827		台石	FB	D-024	An(Py)		241.5	177.0	63.5	3430		-88103.768	35526.152	317.612		
4号遺物集中	33		8	2832		台石	FB	D-024	VBa		187.0	183.0	64.0	3220		-88103.97	35527.098	317.514		
4号遺物集中	34		8	2822		石皿	FB	D-024	An(Py)		293.5	260.0	87.5	9670		-88103.852	35526.486	317.528		
	97		15	565		石鏃	FB	E-017	GAn		21.9	19.3	3.1	1.44		-88093.204	35451.753	320.413	A1	
	98		15	3658		石鏃	KGP	H-015	Ob	SWHD	(17.0)	18.2	3.5	(0.95)		-88067.233	35437.526	325.516	A1	
	99		15	1712		石鏃	FB	F-016	GAn		15.9	18.6	3.1	0.89		-88081.838	35449.412	322.919	A1	
	100		15	271		石鏃	KGP	F-022	Ob	SWHD	22.2	17.6	3.5	1.02		-88088.877	35503.541	320.856	A1	
	101		15	1590		石鏃	FB	D-021	Ob	KZOB	19.9	19.2	4.6	1.14		-88100.635	35496.704	319.68	A1	
	102		15	4311		石鏃	KU	I-014	GAn		22.6	16.4	4.4	1.23		-88050.774	35421.223	325.466	A1	
	103		15	3714		石鏃	AN	H-015	Ob	KZOB	10.4	14.0	3.2	0.42		-88064.803	35436.84	325.619	A1	
	104		15	1743		石鏃	FB	E-016	Ob	KZOB	15.3	15.2	4.2	0.74		-88094.771	35443.727	321.372	A1	
	105		15	4748		石鏃	KU	H-016	GAn		(17.9)	13.8	3.9	(0.86)		-88062.562	35442.748	325.413	A1	
	106		15	3785		石鏃	AN	H-015	Ob	HNHJ	(14.9)	11.8	5.3	(0.69)		-88062.989	35436.677	325.654	A1	
	107		15	3176		石鏃	AN	H-017	Ob	SWHD	17.4	14.4	3.6	0.74		-88063.826	35455.561	324.7	A1	
	108		15	159		石鏃	KU	G-018	Ob	HNHJ	25.9	14.7	5.4	1.41		-88079.145	35469.41	323.627	A1	
	109		15	3024		石鏃	AN	H-017	Ob	SWHD	24.8	15.2	4.5	1.29		-88060.696	35458.957	324.252	A1	
	110		15	598		石鏃	FB	F-016	Ob	WDTY	18.8	14.8	3.6	0.94		-88081.613	35442.88	323.006	A1	
	111		15	5022		石鏃	FB	J-014	Ob	推定不可	12.6	10.8	2.5	0.33		-88048.626	35426.581	324.998	A1	
	112		15	2211		石鏃	FB	G-015	Ob	SWHD	25.4	15.2	3.6	1.32		-88074.759	35437.785	324.304	A2	
	113		15	3258		石鏃	KGP	H-017	Ob	KZOB	11.7	12.2	3.0	0.39		-88067.001	35451.527	325.315	A2	
	114		15	1967		石鏃	FB	F-015	Ob	HNHJ	(17.5)	16.4	5.2	(1.22)		-88082.665	35439.266	323.011	A2	
	115		15	3635		石鏃	AN	G-015	Ob	HNHJ	31.4	16.1	5.5	2.19		-88074.283	35439.809	324.747	A3	
	116		15	3256		石鏃	AN	H-017	Ob	HNHJ	(18.6)	12.8	4.2	(0.88)		-88066.631	35451.912	325.205	A4	
	117		15	567		石鏃	FB	D-018	Ob	SWHD	14.0	11.4	2.0	0.26		-88102.344	35462.084	317.804	B	
	118		15	3892		石鏃	AN	I-015	Ob	KZOB	19.2	12.7	3.5	0.72		-88051.858	35432.401	325.353	C	
	119		15	4815		石鏃	FB	H-016	Ob	HNHJ	(17.0)	12.8	3.8	(0.78)		-88061.736	35440.294	325.297	C	
	120		15	434		石鏃	KU	E-018	Ob	KZOB	21.4	(15.6)	7.0	(1.89)		-88098.574	35460.044	319.172	D	
	121		15	2104		石鏃未製品	AN	E-016	Ob	SWHD	24.7	22.4	9.0	4.22		-88094.401	35445.039	321.29		
	122		15	4842		石鏃未製品	KU	I-015	Ob	KZOB	(15.4)	14.9	4.8	(1.00)		-88057.815	35436.043	325.811		
	123		15	3682		石鏃未製品	KGP	H-015	Ob	KZOB	(17.8)	14.8	4.8	(1.02)		-88067.51	35435.719	325.7		
	124		15	3319		尖頭器	AN	G-016	Ob	SWHD	18.4	11.3	5.1	0.95		-88072.327	35441.329	324.883		
	125		15	2113		スクレイパー	KU	E-016	Ob	SWHD	27.1	21.5	6.5	2.70		-88093.366	35446.745	321.06	A2	
	126		15	4663		スクレイパー	AN	H-015	Ch		48.5	46.5	16.9	31.81		-88061.804	35434.204	325.767	B2	
	127		15	2107		スクレイパー	FB	E-016	Ob	SWHD	19.9	21.2	6.5	1.81		-88093.911	35443.44	321.358	B3	
	128		15	3838		石匙	AN	I-015	Ob	KZOB	21.2	29.4	6.0	2.51		-88059.378	35435.599	325.986		
	129		15	3409		石錐	AN	H-016	Ob	SWHD	26.4	19.9	11.9	5.42		-88069.878	35448.212	325.141		
	130		15	1727		楔形石器	KU	E-016	Ob	SWHD	16.9	10.5	5.3	0.94		-88093.041	35443.984	321.641		
	131		15	4393		二次加工剥片	FB	G-016	Ob	KZOB	23.6	19.6	8.6	4.24		-88075.577	35441.521	324.258		
	132			4385		二次加工剥片	KU	G-016	Ob	KZOB	20.9	21.4	10.2	4.94		-88076.426	35441.601	324.095		
	133			4742		二次加工剥片	KU	H-016	Ob	HNHJ	19.9	18.2	8.5	3.04		-88063.077	35441.408	325.426		
	134			4479		二次加工剥片	KU	G-016	Ob	HNHJ	20.1	25.4	9.7	3.88		-88072.597	35446.312	324.637		
	135	a	15	2135		剥片	FB	D-016	Ob	SWHD	27.2	18.5	11.5	6.91	116	-88102.723	35444.505	320.18		
		b	15	2136			FB	E-016			21.2	24.8	10.5	3.02		-88097.985	35445.725	320.477		
		c	15	2131			AN	D-016			25.8	27.6	10.2	2.42		-88101.075	35445.516	320.307		
	136			3317		剥片	KGP	G-016	Ob	SWHD	27.5	16.4	10.0	3.10	117	-88073.395	35441.212	324.936		
				3667			AN	H-015			30.8	11.5	9.3	2.77		-88068.015	35438.9	325.376		
	137			3488		剥片	AN	H-016	Ob	SWHD	19.5	27.7	15.2	4.94	118	-88066.949	35444.332	325.297		
				4639			FB	G-015			23.7	27.5	7.8	3.47		-88072.913	35438.288	324.429		
	138		15	3906		石核	AN	I-014	Ob	SWHD	19.1	43.2	11.7	7.66		-88056.822	35427.43	325.709	A1	
	139		15	399		石核	FB	E-016	Ob	KZOB	19.0	39.8	12.1	8.75		-88092.211	35441.386	321.704	A2	
	140		15	1380		石核	KU	G-020	Hor		97.2	43.9	41.5	208.36		-88074.377	35485.074	322.83	B1	
	141		16	3961		打製石斧	KGP	G-016	CSS		106.7	42.5	17.0	89.11	121	-88077.711	35447.151	324.227	A2	
				3988			KGP	G-016								-88077.671	35447.177	324.192		
	142		16	2991		打製石斧	KGP	H-018	Sh		77.0	36.8	15.9	54.77		-88069.87	35464.45	324.156	A2	
	143		16	3252		打製石斧	KGP	H-017	Hor(Co)		113.8	38.5	16.1	87.46		-88066.382	35453.178	325.2	A3	
	144		16	2915		打製石斧	KGP	H-015	CSc		170.0	55.5	28.3	312.74		-88066.431	35437.918	325.853	B2	
	145		16	3243		打製石斧	AN	H-017	Sh		123.9	50.0	26.7	168.68	122	-88067.451	35451.5	325.137	B2	
				3468			AN	H-016								-88063.222	35442.407	325.531		
				3510			KGP	H-016								-88063.863	35445.652	325.451		
	146		16	460		打製石斧	KU	G-019	Sh		99.2	46.0	17.3	102.28		-88075.033	35471.391	323.675	B3	
	147		16	1754		打製石斧	FB	E-022	An(Py)		127.4	82.7	15.7	155.66		-88098.573	35503.626	319.415	C2	
	148		16	1616		打製石斧	KU	F-018	An(Py)		144.2	83.5	14.6	250.13		-88084.462	35464.674	323.262	C3	
	149		16	10011		打製石斧	表採		An(Py)		102.6	103.6	23.3	301.63		-	-	-	D1	
	150		16	46		打製石斧	KU	K-005	CSS		136.7	82.0	34.0	390.39		-88031.782	35336.99	321.095	D2	
	151		16	860		打製石斧	SSC	H-023	CSc		140.9	53.4	16.5	137.75		-88063.979	35511.513	321.645	E3	
	152		16	2189		打製石斧	KU	F-015	GT		157.4	55.8	19.1	198.16		-88081.561	35439.135	323.429	E3	
	153		16	90		打製石斧	KGP	K-005	Sh		(55.3)	65.9	7.9	(37.60)		-88036.061	35336.472	320.961	F	
	154		16	2423		磨製石斧	AN	E-023	FG		(105.5)	60.7	37.5	(325.41)		-88097.884	35513.478	319.226		
	155		16	3251		磨製石斧	KGP	H-017	FSS		78.4	31.2	12.1	40.84		-88067.024	35453.144	325.196		
	156		16	2875		磨製石斧	KGP	G-018	GT		(5.3)	(47.0)	22.3	(45.76)		-88074.239	35460.123	324.731		
	157		17	864		礫器	AN	F-023	An(Py)		155.0	131.0	50.0	1270		-88084.292	35510.382	321.046		

遺構名	挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	器種	層位	グリッド	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	接合	X座標	Y座標	Z座標	タイプ	
	158		17	2992		礫器	KGP	H-018	An(Py)		147.0	118.0	34.0	620		-88069.671	35464.81	324.077		
	159		17	2863		礫器	FB	G-015	An(Py)		148.0	121.0	49.0	1330		-88072.524	35437.714	324.679		
	160		17	1087		礫器	KU	G-019	Ba		124.0	65.0	41.0	420		-88073.375	35474.384	323.764		
	161		17	2838		礫器	ZN	E-017	An(Py)		128.0	78.0	34.0	480		-88095.661	35459.716	319.687		
	162		17	3832		礫器	KGP	H-015	An(Py)		157.0	(97.0)	48.0	(980)		-88061.088	35435.042	325.97		
	163		18	1756		磨石・敲石類	FB	E-022	Do		98.0	82.0	39.0	460		-88098.252	35505.562	319.338	A2	a+b
	164		18	4872		磨石・敲石類	AN	I-015	Po		105.0	88.0	37.0	480		-88051.491	35434.483	325.08	A2	f
	165		18	1868		磨石・敲石類	FB	G-019	Ba		95.0	81.0	35.0	450		-88072.229	35476.715	323.384	A2	c+d+e
	166		18	1187		磨石・敲石類	FB	G-019	Da		99.0	96.0	46.0	490		-88077.219	35470.9	323.301	A3	a+b
	167		18	4040		磨石・敲石類	AN	H-016	An(Py)		104.0	74.0	31.0	270	111	-88068.598	35441.646	325.251	B2	a+b
				4703			KU	H-016								-88067.56	35441.169	325.34		
				4714			KU	H-016								-88066.36	35440.472	325.284		
	168		18	1588		磨石・敲石類	AN	D-021	Ba		115.0	95.0	71.0	1010		-88101.502	35497.541	319.681	B3	a+b
	169		18	2248		磨石・敲石類	FB	E-019	An(Py)		81.0	68.0	46.0	370		-88090.654	35477.553	322.381	B3	a+b
	170		18	892		磨石・敲石類	FB	D-022	Ba		91.0	75.0	48.0	380		-88103.906	35502.916	318.838	B3	b+c
	171		18	219		磨石・敲石類	AN	F-016	VBa		(74.0)	96.0	59.0	(500)		-88080.916	35440.435	323.704	B3	a+b+f
	172		18	3206		磨石・敲石類	AN	G-017	An(Py)		109.0	91.0	44.0	520	114	-88075.818	35454.88	324.374	B3	a+b+f
				4541			KU	H-017								-88066.321	35450.852	324.968		
	173		18	3264		磨石・敲石類	AN	H-017	An(Py)		120.0	115.0	36.0	630		-88065.017	35452.465	325.047	C2	a
	174			846		磨石・敲石類	AN	D-024	Ba		99.0	92.0	34.0	410		-88108.318	35520.734	318.057	C2	a+b
	175		18	3848		磨石・敲石類	クロ	I-015	An(Py)		107.0	63.0	29.0	270		-88057.924	35435.244	326.178	C2	a+b
	176		18	4426		磨石・敲石類	KU	G-016	An(Py)		126.0	99.0	41.0	750		-88071.81	35441.731	324.83	C2	a+b+c
	177		18	3861		磨石・敲石類	クロ	I-015	An(Py)		127.0	72.0	35.0	430		-88057.998	35433.952	326.137	C2	e
	178			3829		磨石・敲石類	AN	H-015	An(Py)		154.0	96.0	46.0	850		-88060.117	35432.278	326.018	C3	a
	179			1666		磨石・敲石類	AN	G-015	An(Py)		(79.0)	83.0	48.0	(420)		-88077.815	35433.926	324.161	C3	a+b
	180			3684		磨石・敲石類	クロ	H-015	Ba		93.0	92.0	54.0	550		-88066.5	35435.627	325.86	C3	c
	181		18	4736		磨石・敲石類	KU	H-016	VBa		179.0	132.0	100.0	2320		-88062.711	35440.423	325.494	C3	c
	182			1019		磨石・敲石類	KU	D-021	VBa		124.0	108.0	67.0	1140		-88106.217	35499.458	318.812	C3	a+c
	183		18	3427		磨石・敲石類	クロ	H-016	VBa		100.0	75.0	41.0	360		-88068.336	35444.437	325.39	C3	a+c
	184		18	4193		磨石・敲石類	AN	J-013	Ba		80.0	78.0	51.0	390		-88042.247	35417.462	324.883	C3	f
	185			3552		磨石・敲石類	AN	H-016	VBa		110.0	75.0	45.0	440	109	-88063.213	35448.595	325.237	C3	a+b+c+f
				4496			KU	G-016								-88070.494	35444.574	324.823		
	186			3130		磨石・敲石類	クロ	H-017	Ba		118.0	74.0	47.0	520		-88068.476	35458.792	324.726	C3	a+b+c+f
	187		18	3657		磨石・敲石類	AN	H-015	An(Py)		122.0	86.0	52.0	770		-88067.931	35437.297	325.5	C3	a+b+e
	188			4180		磨石・敲石類	AN	G-016	An(Py)		76.0	39.0	27.0	120		-88076.24	35442.155	324.273	D2	a+b
	189		18	491		磨石・敲石類	AN	J-018	An(Py)		117.0	44.0	34.0	370	105	-88040.578	35462.485	319.161	D2	e
				3794			AN	H-015								-88060.582	35439.414	325.727		
	190			888		磨石・敲石類	FB	D-022	FT		93.0	60.0	42.0	300		-88105.842	35500.11	318.824	D3	a
	191		18	1340		磨石・敲石類	KGP	F-020	Ba		114.0	55.0	41.0	390		-88083.631	35483.723	322.134	D3	a
	192			3544		磨石・敲石類	AN	H-016	An(Py)		108.0	59.0	36.0	270		-88063.63	35446.666	325.287	D3	a
	193			4853		磨石・敲石類	KU	I-015	Ba		115.0	55.0	34.0	250		-88056.791	35433.606	325.875	D3	a
	194			4121		磨石・敲石類	AN	I-015	Ba		115.0	52.0	38.0	300	123	-88057.265	35439.052	325.715	D3	a
				5010			FB	I-015								-88055.873	35436.767	325.439		
	195			3044		磨石・敲石類	AN	G-018	An(Py)		136.0	66.0	36.0	430	107	-88073.419	35460.833	324.342	D3	a+b
				4300			FB	G-016								-88076.074	35440.987	324.084		
	196		18	1708		磨石・敲石類	FB	F-016	VBa		143.0	57.0	47.0	520	112	-88082.819	35447.444	322.824	D3	a+b
				2470			FB	E-017								-88091.165	35455.968	320.952		
	197		18	3476		磨石・敲石類	AN	H-016	An(Py)		85.0	48.0	42.0	230		-88064.783	35443.5	325.386	D3	a+c
	198		18	274		磨石・敲石類	KU	C-024	An(Py)		(102.0)	58.0	50.0	(430)		-88110.077	35528.694	317.078	D3	a+e
	199			877		磨石・敲石類	KU	D-023	An(Py)		147.0	52.0	36.0	380		-88106.143	35510.98	318.537	D4	a
	200		19	277		台石	KU	E-020	VAn		218.5	191.0	63.0	3190		-88097.346	35487.337	321.214		
	201		19	1809		台石	FB	F-021	An(Py)		273.5	305.5	79.0	9490		-88082.126	35497.099	321.433		
	202		19	847		台石	KU	D-024	VBa		334.0	337.5	128.0	16360		-88108.042	35521.128	317.847		

（　　）は欠損

タイプ

≪石鏃≫

基部	脚部
A:凹基	1:尖脚
B:平基	2:円脚
C:円基	3:角脚
D:不定形	4:脚部不明
E:不明	

≪スクレイパー≫

刃部加工	加工部位
A:両刃	1:端部
B:片刃	2:側縁部
	3:全周

≪石核≫

打面形状	剥離方法
A:剥離面を打面とするもの	1:固定して一方向に剥離
B:礫面を打面とするもの	2:転移させながら剥離

≪打斧≫

形状	礫面
A:短冊型	1:両面
B:撥型	2:片面
C:杓文字型	3:なし
D:分銅型	
E:尖頭型	
F:不明	

≪磨石・敲石類≫

形状	断面	使用痕
A:円	1:円	a:端部敲き
B:楕円	2:扁平	b:側縁部敲き
C:不定形	3:厚み	c:平坦面敲き
D:棒状	4:三角	d:端部磨り
		e:側縁部磨り
		f:平坦面磨り

第４章　葛山大端ヶⅢ遺跡

第１節　調査の方法と経過

葛山大端ヶⅢ遺跡（第二東名№150-2地点）は裾野市葛山字大端ヶ1160-1に所在し、大端ヶⅠ遺跡と谷を挟んだ北隣尾根上に位置する。第二東名№150-2地点の１区と２区で、調査面積は6,155㎡である。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅷ系（Ｘ＝-88140.0、Ｙ＝35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10m のグリッドを設定した。Ｘ軸に対して西から東へアラビア数字、Ｙ軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をつけた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。なお、機械実測、遺物の取り上げは、トータルステーションとコンピューターを用いた。遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はＰ、石器はＳ、礫はＲ、炭化物はＣと記号を付した。測量データは、株式会社シン技術コンサルの『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35㎜サイズの小型カメラ、および６×７㎝サイズの中型カメラを使用した。また、全景写真を撮影するために、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

確認調査は2003年９月から行い、12月から翌年２月まで本調査を行った。まずテストピットを25ヶ所設定し、その後テストピットを拡張する形でトレンチを18本設定した。休場層からは再びテストピット調査に切り替え、遺構の有無を確認した。その結果、１区からは旧石器時代の礫群が１基、縄文時代の土坑８基、遺物集中３ヶ所、２区には旧石器時代の遺構はなく、縄文時代の土坑が５基検出された。

第２節　基本層序

基本層序を第61図に示す。基本的に葛山大端ヶⅢ遺跡と同様に愛鷹山麓の標準的な層位である。愛鷹山麓ローム層は堆積順に下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層に分けられる。上部ローム層は関東ローム層の立川ローム層に該当し、火山砕石物が堆積したスコリア層と火山噴火の休止期に植物の繁殖、腐食などの影響により黒色化が進んだ黒色帯との互層からなる。各層の詳細は下記の通りである。

第１層　表土
第２層　褐色土層
第３層　砂沢スコリア層　10YR2/2　締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径１～８㎜）を多量に含む。
第４層　暗褐色土層　10YR3/4　締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径２～４㎜）を少量含む。
第５層　暗褐色土層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径１～３㎜）をわずかに含む。
第６層　栗色土層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～４㎜）を少量含む。
第７層　富士黒土層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～４㎜）を少量含む。
第８層　休場層上層　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）を少量含む。
第９層　休場層スコリア帯１　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径５～８㎜）を多量に含む。黒色スコリア（径５～13㎜）を少量含む。

第10層　休場層中層　7.5YR5/8　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径３～５㎜）、黒色スコリア（径３～８㎜）を少量含む。

第11層　休場層スコリア帯２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、黒色スコリアを多量に含む。黄色スコリア（径１㎜）を少量含む。

第12層　休場層下層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径１～６㎜）、明赤褐色スコリア（径１～５㎜）を少量含む。

第13層　休場層直下黒色帯～第Ⅰスコリア層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径１～５㎜）を多く含む。7.5YR3/4　締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径２～７㎜）を多量に含む。赤褐色スコリア（径１～５㎜）、黄色ラピリ少量含む。

第14層　第Ⅰ黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径３～７㎜）、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア（径１～４㎜）少量含む。

第15層　ニセローム層ａ　10YR5/8　締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径２～８㎜）、暗緑色噴石（径５～10㎜）少量含む。

第16層　ニセローム層ｂ　10YR5/8　締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径２～８㎜）、暗緑色噴石（径５～10㎜）少量含む。

第17層　第Ⅱ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径３～６㎜）多量に含む。

第18層　第Ⅱスコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）多量に含む。黒色スコリア（径３～６㎜）少量含む。

第19層　第Ⅲ黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。明赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径１～５㎜）多量に含む。

第20層　第Ⅲスコリア帯スコリア１　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）多量に含む。黒色スコリア（径２～10㎜）、白色パミス（径１㎜）、暗緑色噴石（径５～10㎜）少量含む。

第21層　第Ⅲスコリア帯黒色帯１　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～10㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

第22層　第Ⅲスコリア帯スコリア２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径２～４㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径１～７㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、黄色ガラス（径１㎜）少量含む。

第23層　第Ⅲスコリア帯黒色帯２　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、黒色スコリア（径２～15㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

第24層　第Ⅲスコリア帯スコリア３～５　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径２～15㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径２～５㎜）、白色パミス（径１㎜）少量含む。

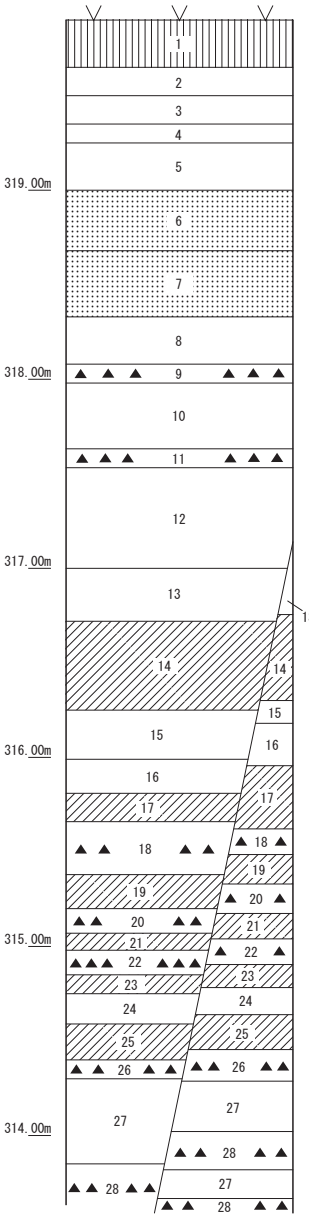
第25層　第Ⅳ～Ⅶ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）多量に含む。

第26層　褐色スコリア層　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、暗褐色スコリア（径３～７㎜）少量含む。

第27層　中部ローム　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）多量に含む。

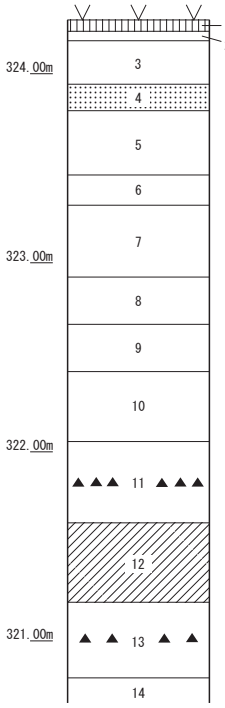
第28層　ペアスコリア　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径３～５mm）、黒色スコリア（径２～５mm）多量に含む。

１区

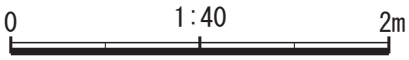


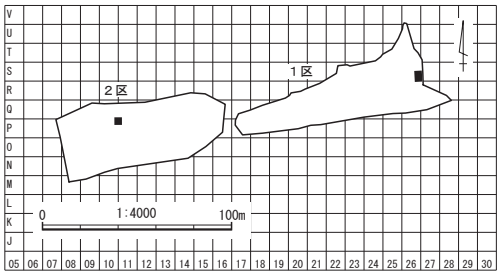
〈層名〉	〈略称〉
1　表土	
2　褐色土層	
3　砂沢スコリア層	SNZ
4　暗褐色土層	
5　暗褐色土層	
6　栗色土層	KU
7　富士黒土層	FB
8　休場層上層	YLU
9　休場層スコリア帯１	YS1
10　休場層中層	YLM
11　休場層スコリア帯２	YS2
12　休場層下層	YLL
13　休場層直下黒色帯～第Ⅰスコリア層	BBO～SCⅠ
14　第Ⅰ黒色帯	BBⅠ
15　ニセローム層ａ	NLa
16　ニセローム層ｂ	NLb
17　第Ⅱ黒色帯	BBⅡ
18　第Ⅱスコリア層	SCⅡ
19　第Ⅲ黒色帯	BBⅢ
20　第Ⅲスコリア帯スコリア１	SCⅢs1
21　第Ⅲスコリア帯黒色帯１	SCⅢb1
22　第Ⅲスコリア帯スコリア２	SCⅢs2
23　第Ⅲスコリア帯黒色帯２	SCⅢb2
24　第Ⅲスコリア帯スコリア３～５	SCⅢs3～s5
25　第Ⅳ～Ⅶ黒色帯	BBⅣ～BBⅦ
26　褐色スコリア層	KSC
27　中部ローム	
28　ペアスコリア	

２区



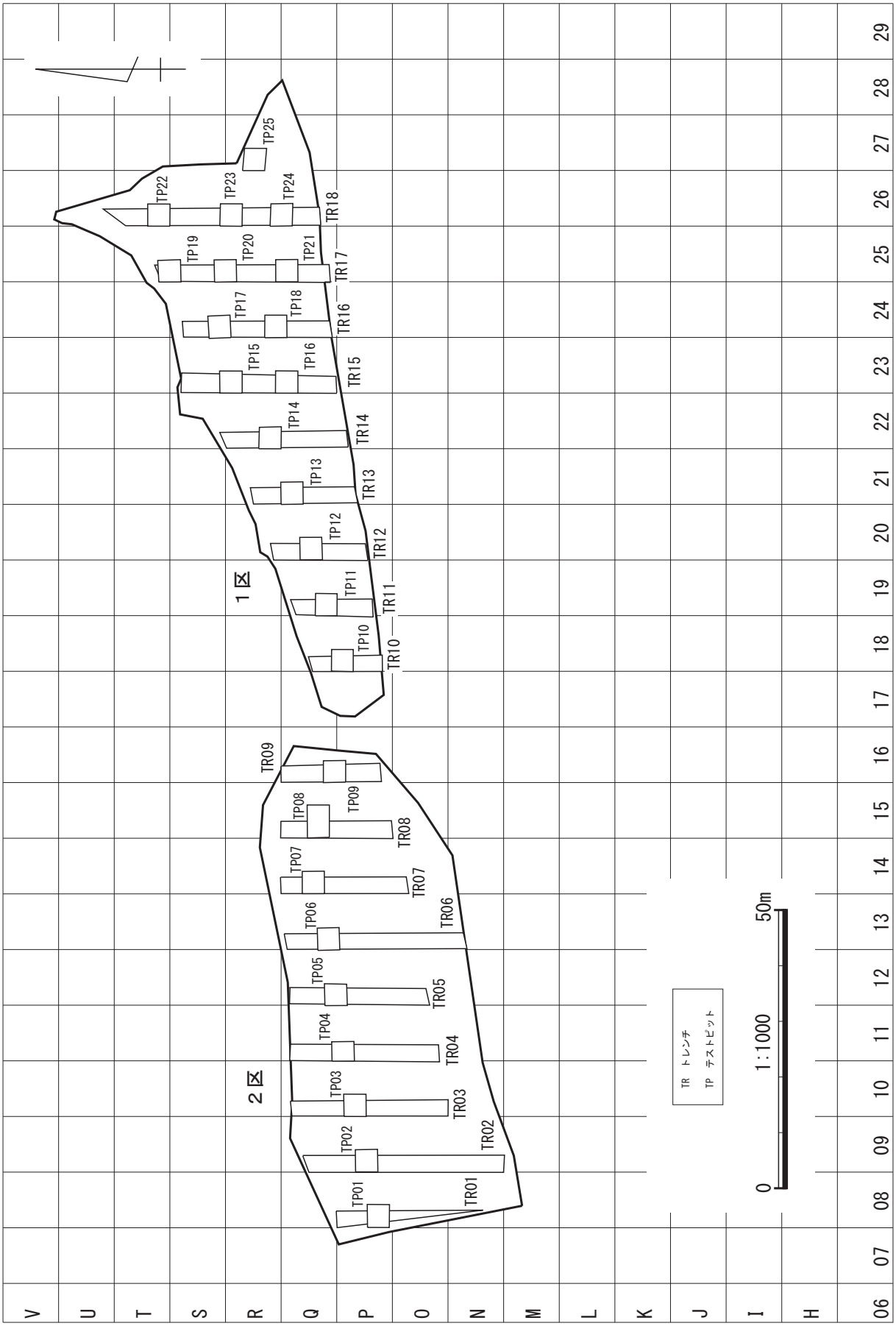
〈層名〉	〈略称〉
1　表土	
2　褐色土層	
3　暗褐色土層	
4　栗色土層～富士黒土層	KU～FB
5　休場層上層	YLU
6　休場層中層	YLM
7　休場層下層	YLL
8　休場層直下黒色帯～第Ⅰ黒色層	BBO～BBⅠ
9　ニセローム層	NL
10　第Ⅱ黒色帯～第Ⅲスコリア帯スコリア２	BBⅡ～SCⅢs2
11　第Ⅲスコリア帯スコリア４	SCⅢs4
12　第Ⅳ～Ⅶ黒色帯	BBⅣ～BBⅦ
13　褐色スコリア層	SCⅣ
14　中部ローム	





基本土層観察箇所

第61図　基本土層



第62図　トレンチ・テストピット配置

第３節　旧石器時代の遺構と遺物

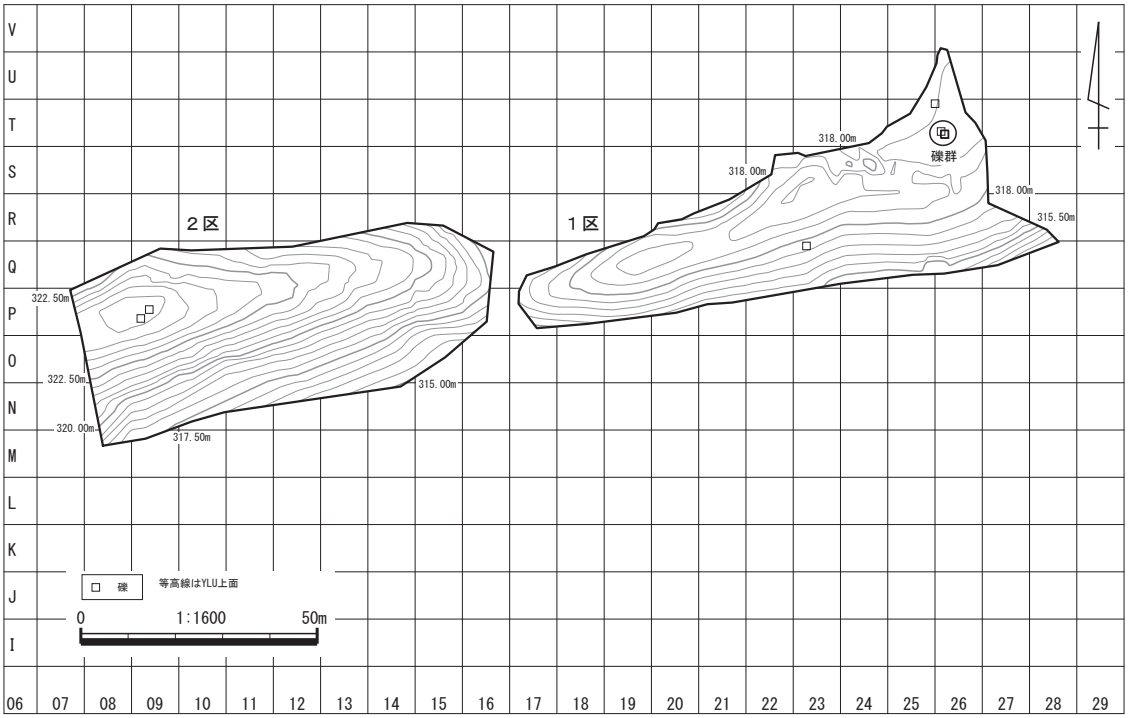
１　遺構

礫群（第64図）

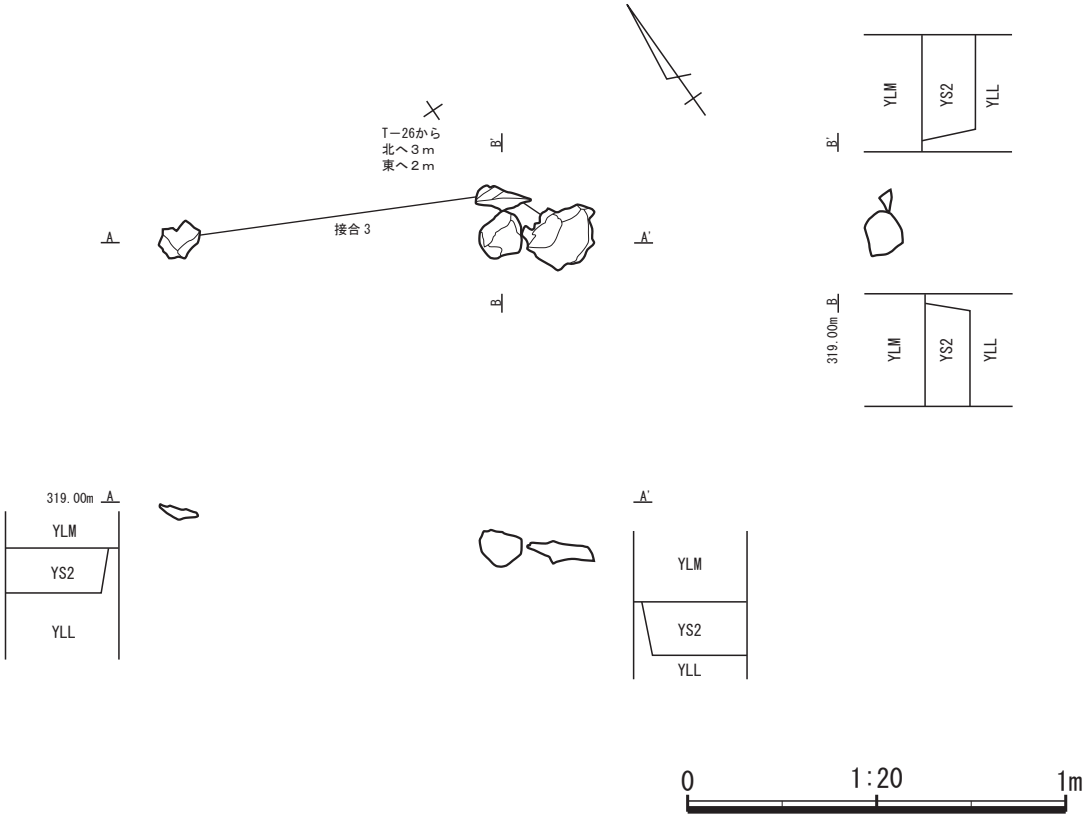
旧石器時代の遺構は１区東側の最も高いところから礫群が１基検出されている。休場層中層から４点の礫が検出されており、うち３点が接合して１個体になる。1.5mの幅で礫が直線的に並んでおり、３点が密集している。いずれも休場層中層からの出土である。接合個体は玄武岩製で、接合しないものは輝石安山岩製であり、全て亜角礫状をなす。

２　遺物

遺構出土の遺物は上記の礫群出土の礫のみであり、包含層出土で旧石器時代のものと考えられる遺物も４点の礫である。ニセローム層と休場層上層と休場層中層から出土している。そのうち１点は亜円礫でそれ以外は全て亜角礫である。玄武岩製が３点と輝石安山岩製のものが１点である。玄武岩製のものは全て赤化して破損している。他に休場層上部と出土位置がやや曖昧な層位から出土した石皿があったが、栗色土層から出土する石皿と接合するため縄文時代のものとした。



第63図　旧石器時代遺物分布・遺構位置



第64図　旧石器時代礫群

第25表　旧石器時代礫一覧

遺構名	遺物番号	枝番	時期	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	状態	色調	礫形態	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X座標	Y座標	Z座標
礫群	2487		旧石器	YLM	Ba	114	87	30	270	3	D	C	亜角礫	T-026	-87946.839	35541.295	318.951
礫群	2488		旧石器	YLM	An(Py)	120	105	89	1350		D	C	亜角礫	T-026	-87947.405	35541.962	318.833
礫群	2489		旧石器	YLM	Ba	140	57	29	210	3	D	C	亜角礫	T-026	-87947.496	35542.130	318.855
礫群	2490		旧石器	YLM	Ba	192	155	64	1450	3	D	C	亜角礫	T-026	-87947.333	35542.047	318.845
	1767		旧石器	NL	Ba	75	50	38	130		D	B	亜角礫	P-009	-87986.400	35371.961	324.171
	1768		旧石器	NL	Ba	70	68	24	120		D	A	亜角礫	P-009	-87984.513	35373.748	324.173
	2479		旧石器	YLU	An(Py)	76	70	29	200		A		亜円礫	T-026	-87940.950	35540.015	318.551
	2482		旧石器	YLM	Ba	58	44	40	110		D	C	亜角礫	Q-023	-87971.053	35512.811	316.970

凡例

状態	色調
A---非赤化完形	A---淡い赤化又は白化
B---非赤化破損	B---黄褐色に赤みがかった赤化
C---赤化完形	C---非常に赤化
D---赤化破損	
E---割れ面非赤化	

第４節　縄文時代の遺構と遺物

１　遺構

縄文時代のものと考えられる遺構は、土坑13基、遺物集中３ヶ所を検出している。

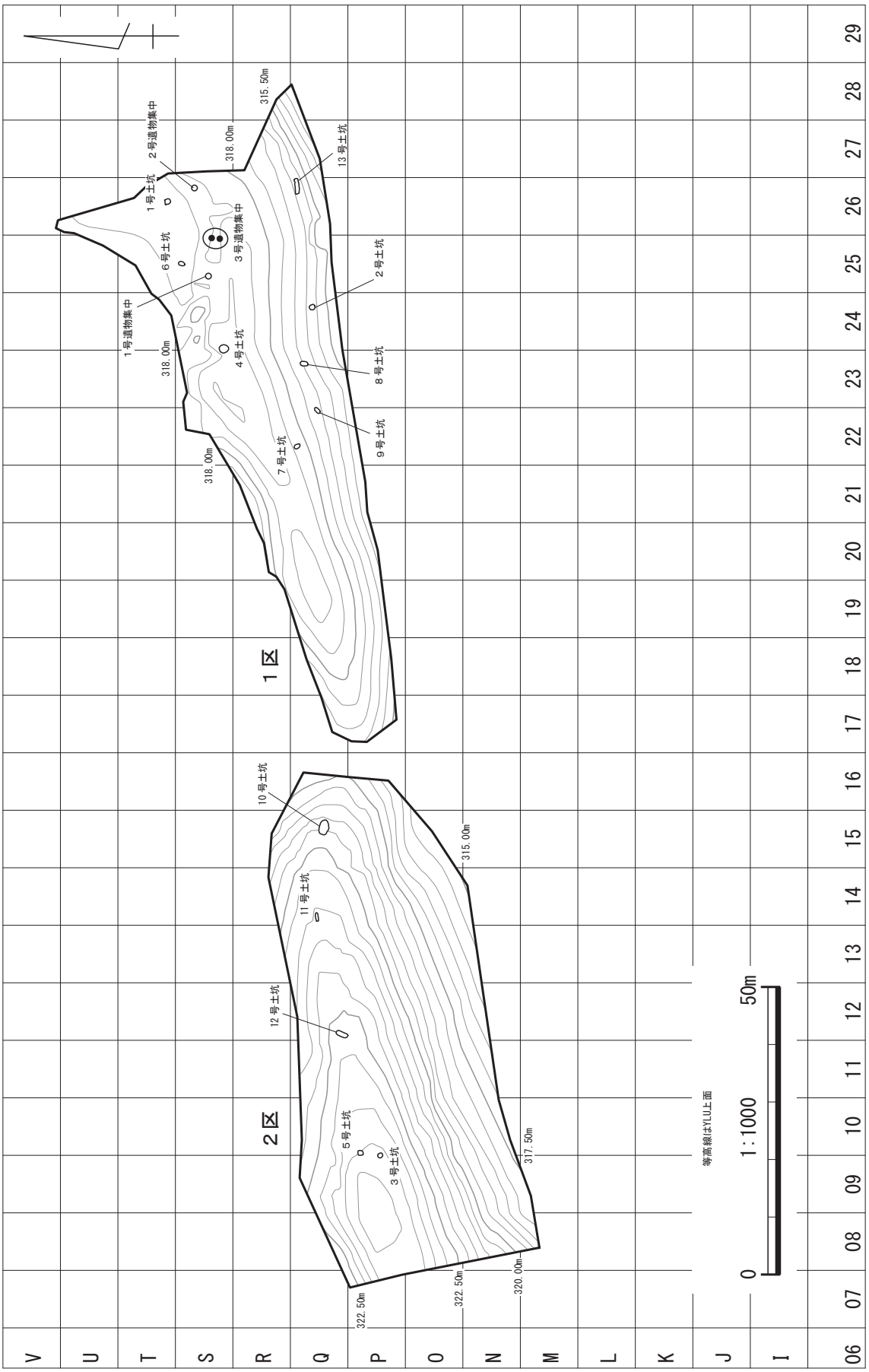
（１）土坑（第67図～第69図）

１区・２区合わせて13基検出されている。調査区の高地の比較的緩やかな平坦地に掘り込まれているケースが目立つ。

１号土坑～３号土坑までは平面形が円形であり、２号土坑は下層がややオーバーハング気味である。深さは0.5m～0.9mほどである。４号土坑～10号土坑までは楕円形を呈している。４号土坑は深さが約2.3mと深く、上面はやや撹乱されている。７号～９号土坑は掘り込みが0.2m程度と浅く、平面形も長軸が短軸に比してかなり長いため扁平と言った印象を受ける。なお。８号土坑は覆土の層序がやや不自然であるため、上部は後の耕作か何かで削平を受けている可能性が考えられる。10号土坑は底面から１mほど上の中程に段があり、さらに下層の西側がややオーバーハングしている。11号土坑～13号土坑は平面形態が隅丸の長方形を呈しており、そのうち２区調査区東側斜面から検出された11号土坑は、東西に細長い土坑で、底面にはピットが４つ並んでいる。これらは逆茂木痕と考えられ、動物の狩猟用の陥穴列と推定される。12号土坑は、下層がややオーバーハングしている。覆土から弥生時代中期後半と見られる土器が出土しており、弥生時代の遺構の可能性がある。土器は小片のため実測はしていない。13号土坑はかなり垂直に掘り込まれている。１区南東側急斜面から検出された13号土坑は深さ0.7m程だが、かなり垂直に掘り込まれており、急斜面に位置するため、実際より深い印象を受ける。土坑の時期については、いずれも覆土中に遺物を伴っておらず詳細な時期は不明であり、掘り込み面は、１号土坑、２号土坑、８号土坑、９号土坑、13号土坑は休場層上層から掘り込まれているが、縄文時代の土坑と考えて良いであろう。

第26表　縄文時代土坑一覧

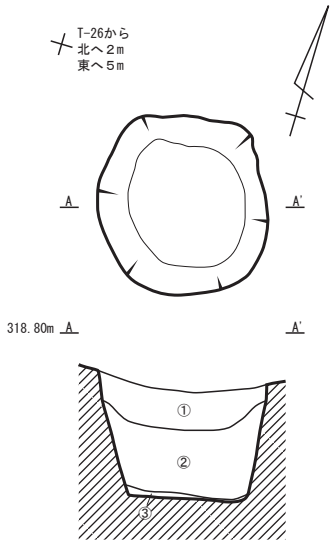
遺構名	時期	逆茂木		平面形態	グリッド	検出層位	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号土坑	～前期	なし		円形	T-26	YL2	1.00	0.88	0.62					
2号土坑	～前期	なし		円形	Q-24	YLU	1.00	0.92	0.90					
3号土坑	～前期	なし		隅丸方形	P-10	KU～FB	0.86	0.72	0.50					
4号土坑	～前期	なし		楕円形	S-23	JS1	1.72	1.24	2.31					
5号土坑	～前期	なし		不整長方形	P-10	KU～FB	0.92	0.74	0.36			1		1
6号土坑	～前期	なし		不整楕円形	S-25	JS1	0.96	0.56	0.44					
7号土坑	～前期	なし		不整円形	Q-22	JS1	1.14	0.56	0.42					
8号土坑	～前期	なし		楕円形	Q-23	YLU	0.38	0.74	0.28					
9号土坑	～前期	なし		楕円形	Q-22	YLU	1.20	0.62	0.21					
10号土坑	～前期	なし		不整楕円形	Q-15	KU～FB	2.56	0.72	2.38					
11号土坑	～前期	あり	4	隅丸長方形	Q-14	KU～FB	1.56	0.42	0.98			1		1
12号土坑	～前期	なし		長楕円形	Q-12	KU～FB	2.30	0.77	1.10	1				1
13号土坑	～前期	なし		隅丸長方形	R-26	YLU	2.61	0.64	0.70					



第65図　縄文時代遺構配置

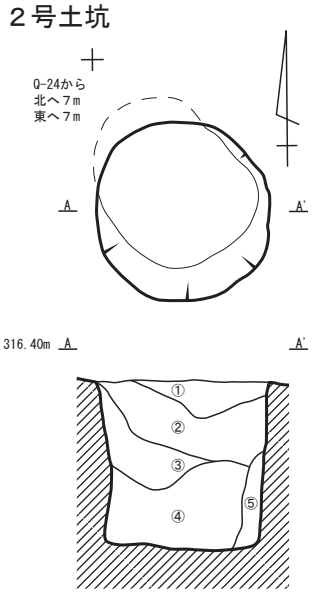
第66図　縄文時代遺物分布

１号土坑



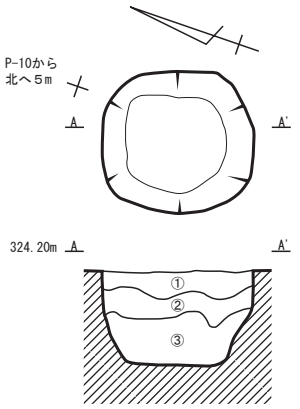
① 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まりやや弱い。
ロームを主体とする。2層とほぼ同じだが若干固い。
② 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まり欠ける。
崩れたローム。
③ 黒褐色土 7.5YR 3/2 粘性やや有り。締まり弱い。
ロームブロックを含む。

２号土坑



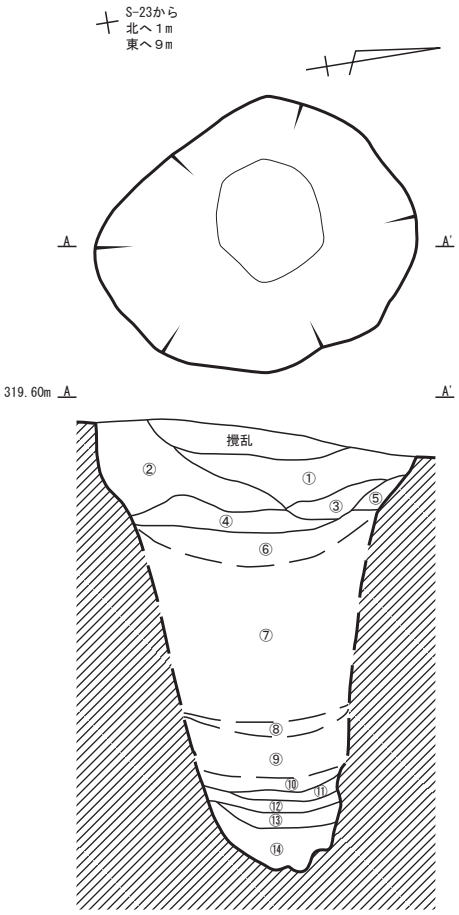
① 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まりやや有り。
φ5-10mmの橙色スコリアを含む。
② 褐色土 7.5YR 4/3 粘性弱く、締まりやや有り。
φ5-10mmの橙色スコリア、黒褐色スコリアを少量含む。
③ 褐色土 7.5YR 4/3 粘性弱く、締まりやや有り。
φ2-3mmの橙色スコリア、黒褐色スコリアを少量含む。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性やや弱く、締まりやや有り。
φ2-3mmの橙色スコリアを極少量含む。炭化物が極少量混じる。
⑤ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性弱く、締まりやや有り。崩落ローム。

３号土坑

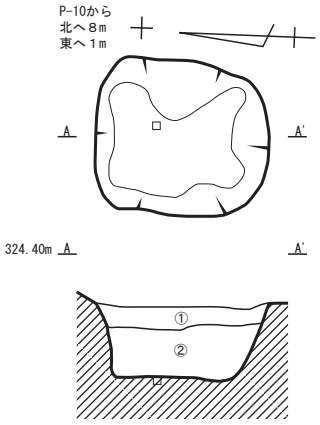


① 黒褐色土 2.5Y 3/2 粘性、締まりやや有り。
φ2-5mmの黒色・橙色スコリアを少量含む。
② 黒褐色土 10YR 3/2 粘性、締まりやや有り。
φ2-5mmの黒色・橙色スコリアを少量含む。
③ 褐色土 10YR 4/6 粘性弱く、締まり強い。
スコリアを多量含み、硬い。

４号土坑

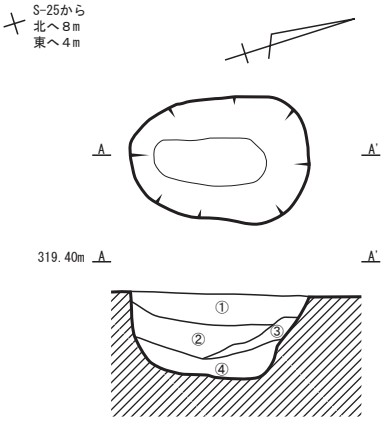


５号土坑



① 灰褐色土 7.5YR 4/2 粘性弱く、締まりやや有り。
φ5mmのスコリアを含む。一部締まり強い。
② 黄褐色土 10YR 5/6 粘性弱く、締まりやや有り。
スコリアを多量含む。

６号土坑



① 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まりやや有り。
φ5mmの黒褐色スコリアを少量含む。
② 褐色土 7.5YR 4/6 粘性、締まり弱い。
φ5mmの黒褐色スコリア、ロームブロックを少量含む。
③ 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まりやや弱い。
φ3mmの橙色スコリアを極少量含む。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性弱く、締まりやや弱い。
ロームブロックを少量含む。

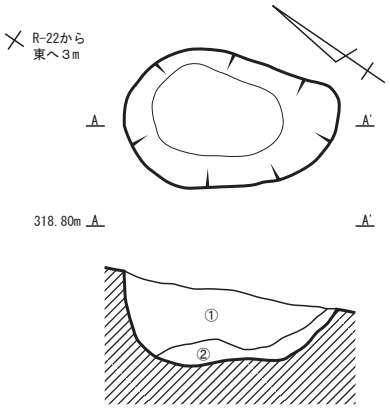
① 黒褐色土 10YR 3/2 粘性欠け、締まり弱い。
φ5mmの黒色スコリアと橙色スコリアを含む。
② 暗褐色土 10YR 3/3 粘性欠け、締まり弱い。
φ5mmの黒色スコリアと橙色スコリアを含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/3 粘性欠け、締まり弱い。
炭化物が極少量混じる。
④ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性欠け、締まり弱い。
φ1cmの黒褐スコリアをやや多く含む。
⑤ 褐色土 10YR 4/4 粘性やや有り、締まり弱い。
崩落したローム層。
⑥ 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まり有り。
ロームを主体とする。
⑦ 褐色土 7.5YR 4/5 粘性、締まり欠ける。
崩れたローム。
⑧ 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性、締まり弱い。
炭化物、ローム粒を少量含む。
⑨ 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性、締まり弱い。
ロームを含む。
⑩ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性、締まり欠ける。
ロームを含む。
⑪ 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性、締まり欠ける。
炭化物が混じる。ローム粒を含む。
⑫ 暗褐色土 7.5YR 3/4 10層に準ずる。
⑬ 黒褐色土 7.5YR 2/2 11層に準ずる。
⑭ 暗褐色土 7.5YR 3/3 10層に準ずる。

□ 礫

0　1:40　2m

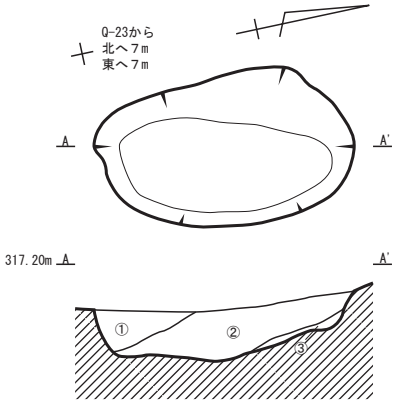
第67図　土坑１

７号土坑



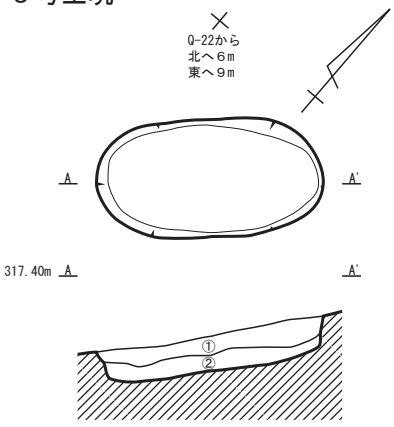
① 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性やや弱く、締まりやや有り。
φ2-3mmの橙色スコリアを少量含む。炭化物が極少量混じる。
② 褐色土 7.5YR 4/6 粘性やや弱く、締まりやや有り。
φ3mmの橙色スコリアを少量含む。

８号土坑



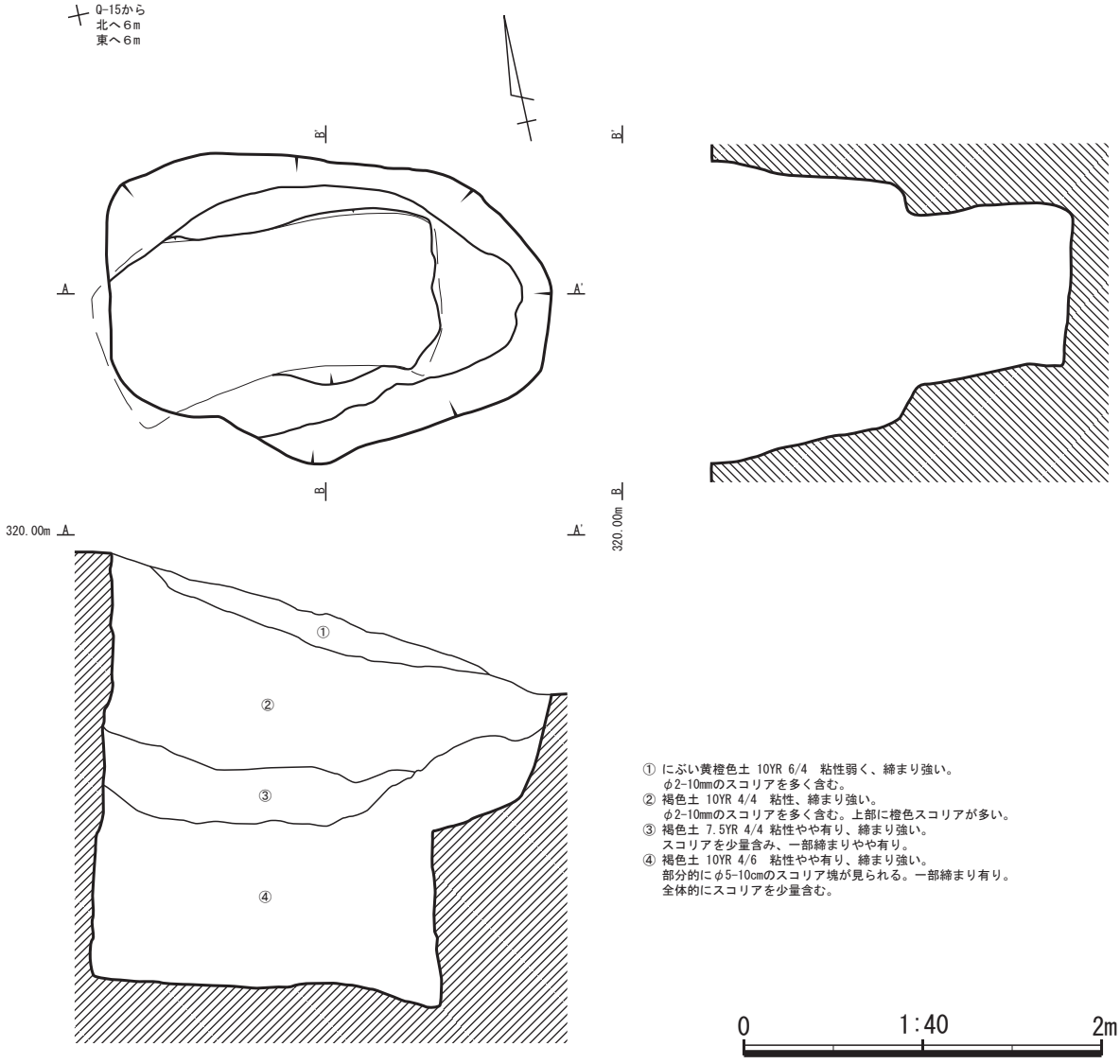
① 褐色土 7.5YR 4/6 粘性弱く、締まりやや有り。
φ7-10mmの黒褐色スコリア、φ2-3mmの橙色スコリアを少量含む。
② 褐色土 7.5YR 4/4 粘性弱く、締まり有り。
φ7-10mmの黒褐色スコリア、φ2-3mmの橙色スコリアを少量含む。
③ 褐色土 7.5YR 4/6 粘性やや有り、締まり有り。崩落ローム。

９号土坑



① 褐色土 7.5YR 4/4 粘性、締まりやや弱い。
φ10mmの黒褐色スコリア、φ3mmの橙色スコリアを少量含む。炭化物が少量混じる。
② 褐色土 7.5YR 4/4 粘性、締まりやや弱い。
φ3mmの橙色スコリアを少量含む。1層より暗色。

10号土坑

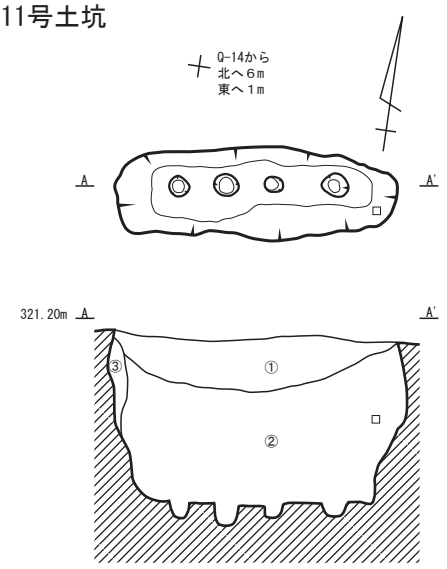


① にぶい黄橙色土 10YR 6/4　粘性弱く、締まり強い。
φ2-10mmのスコリアを多く含む。
② 褐色土 10YR 4/4　粘性、締まり強い。
φ2-10mmのスコリアを多く含む。上部に橙色スコリアが多い。
③ 褐色土 7.5YR 4/4 粘性やや有り、締まり強い。
スコリアを少量含み、一部締まりやや有り。
④ 褐色土 10YR 4/6　粘性やや有り、締まり強い。
部分的にφ5-10cmのスコリア塊が見られる。一部締まり有り。
全体的にスコリアを少量含む。

0　1:40　2m

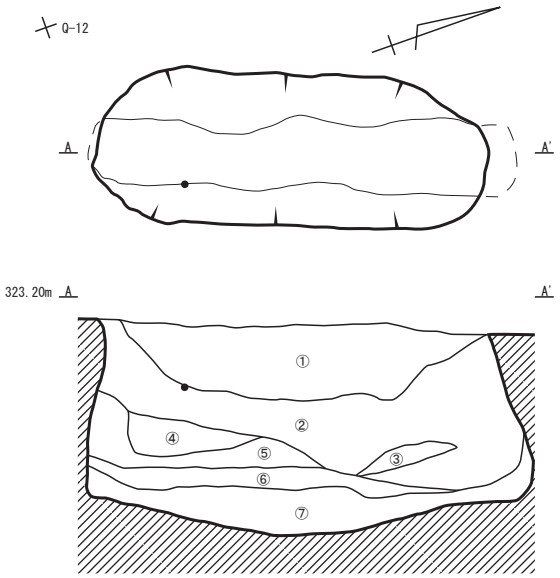
第68図　土坑２

11号土坑



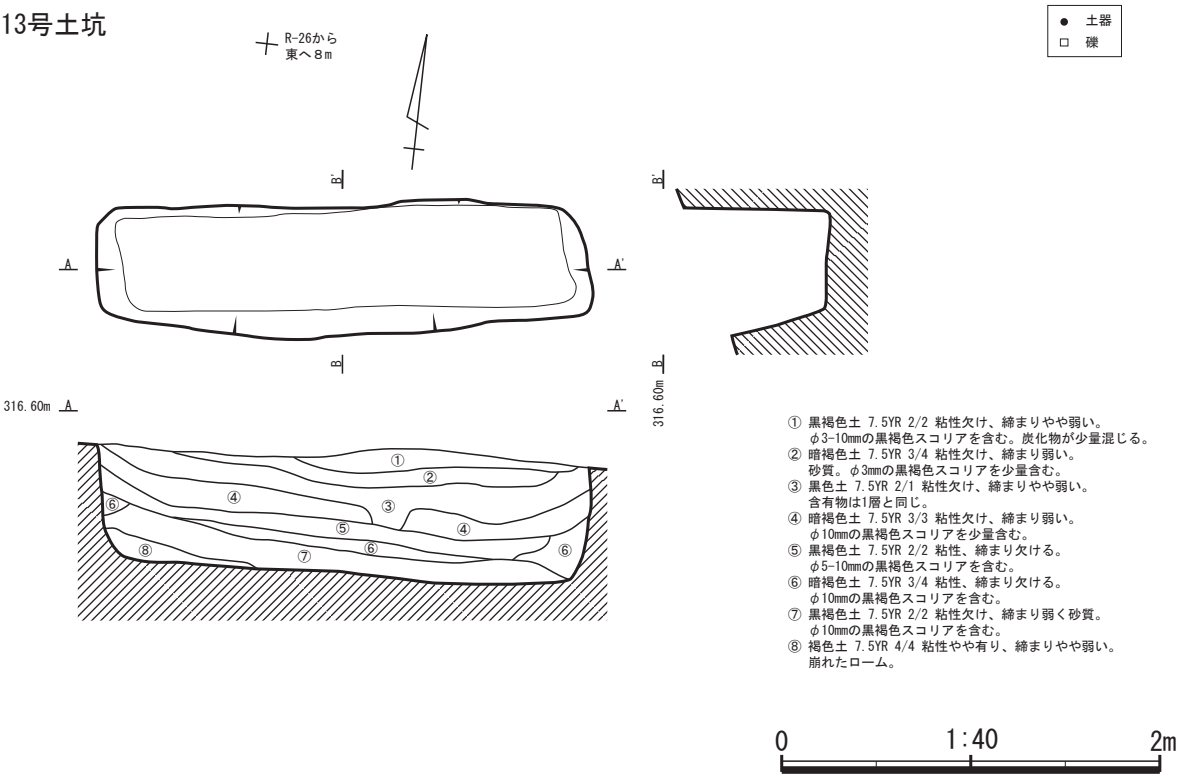
① 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性、締まりやや有り。
φ2-10mmの黒色・橙色スコリアをやや含む。
② 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性やや有り、締まり弱い。
φ2-10mmの黒色・橙色スコリアを少量含む。一部、黒色土をパッチ状に含む。
③ 黒褐色土 7.5YR 3/2 粘性やや有り、締まり弱い。
φ2-10mmの黒色・橙色スコリアを少量含む。

12号土坑



① 黒色土 10YR 2/1 粘性弱く、締まりやや有り。
炭化物が少量混じる。φ2-10mmの橙色スコリアを含む。
② 灰黄褐色土 10YR 4/2 粘性弱く、締まりやや有り。
炭化物が混じる。φ2-5mmの橙色スコリアを含む。
③ 黒色土 10YR 2/1 粘性、締まり弱い。
炭化物が多量混じる。φ2-5mmの橙色スコリアを含む。スコリアのブロック。
④ 黒色土 10YR 2/1 粘性やや有り、締まり弱い。
炭化物が少量混じる。φ2-5mmの橙色スコリアを含む。
⑤ 褐色土 10YR 4/4 粘性やや有り、締まり弱い。
炭化物が少量混じる。φ2-5mmの橙色スコリアを少量含む。
⑥ 黒色土 N1. 5/0 粘性やや有り、締まり弱い。
炭化物が多量混じる。φ2-5mmの橙色スコリアを少量含む。
⑦ 黄褐色土 10YR 5/6 粘性、締まりやや有り。
微細な黒色・橙色スコリアを少量含む。

13号土坑



① 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性欠け、締まりやや弱い。
φ3-10mmの黒褐色スコリアを含む。炭化物が少量混じる。
② 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性欠け、締まり弱い。
砂質。φ3mmの黒褐色スコリアを少量含む。
③ 黒色土 7.5YR 2/1 粘性欠け、締まりやや弱い。
含有物は1層と同じ。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性欠け、締まり弱い。
φ10mmの黒褐色スコリアを少量含む。
⑤ 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性、締まり欠ける。
φ5-10mmの黒褐色スコリアを含む。
⑥ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性、締まり欠ける。
φ10mmの黒褐色スコリアを含む。
⑦ 黒褐色土 7.5YR 2/2 粘性欠け、締まり弱く砂質。
φ10mmの黒褐色スコリアを含む。
⑧ 褐色土 7.5YR 4/4 粘性やや有り、締まりやや弱い。
崩れたローム。

0　1:40　2m

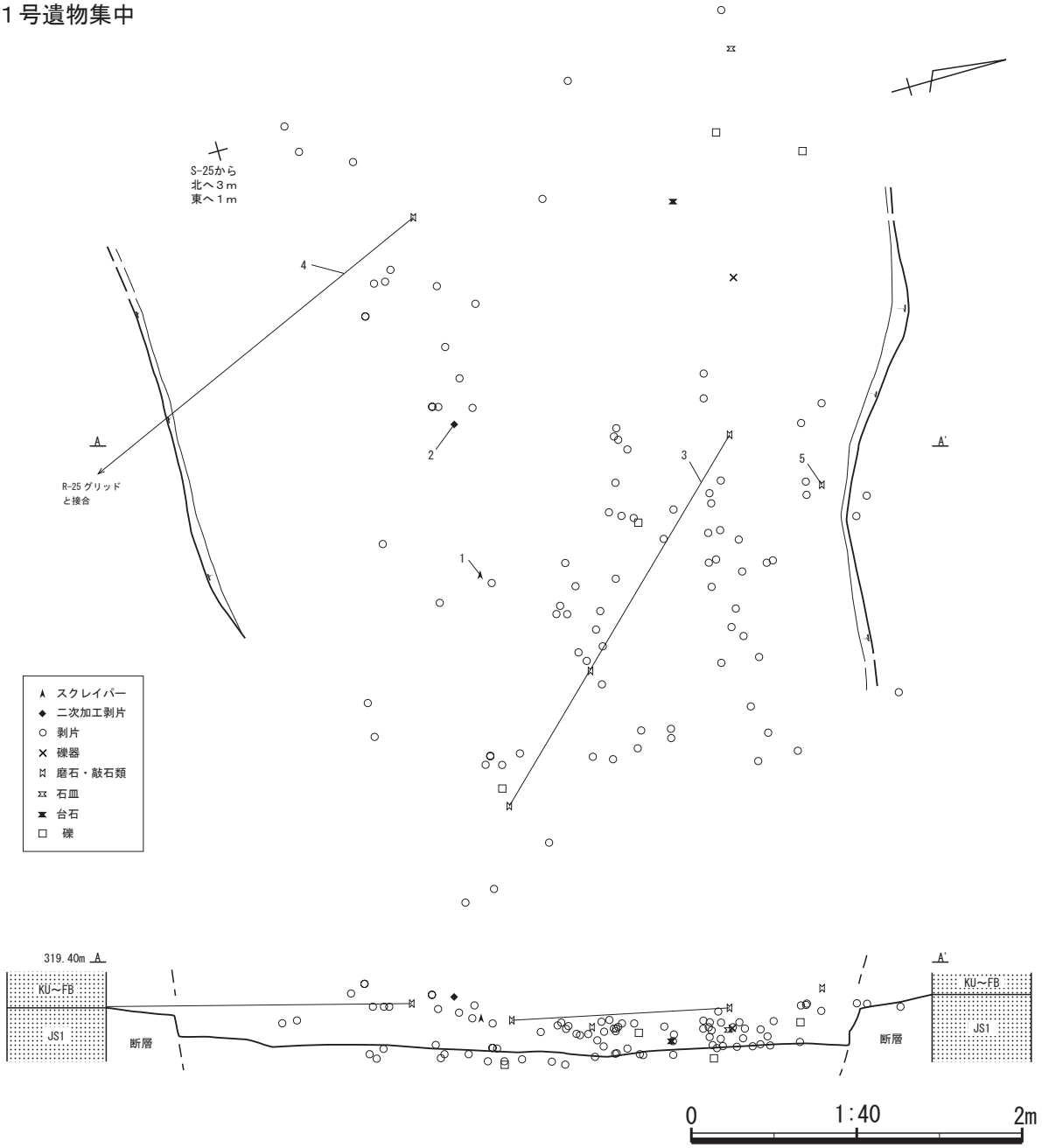
第69図　土坑３

（２）遺物集中（第70図～第75図）

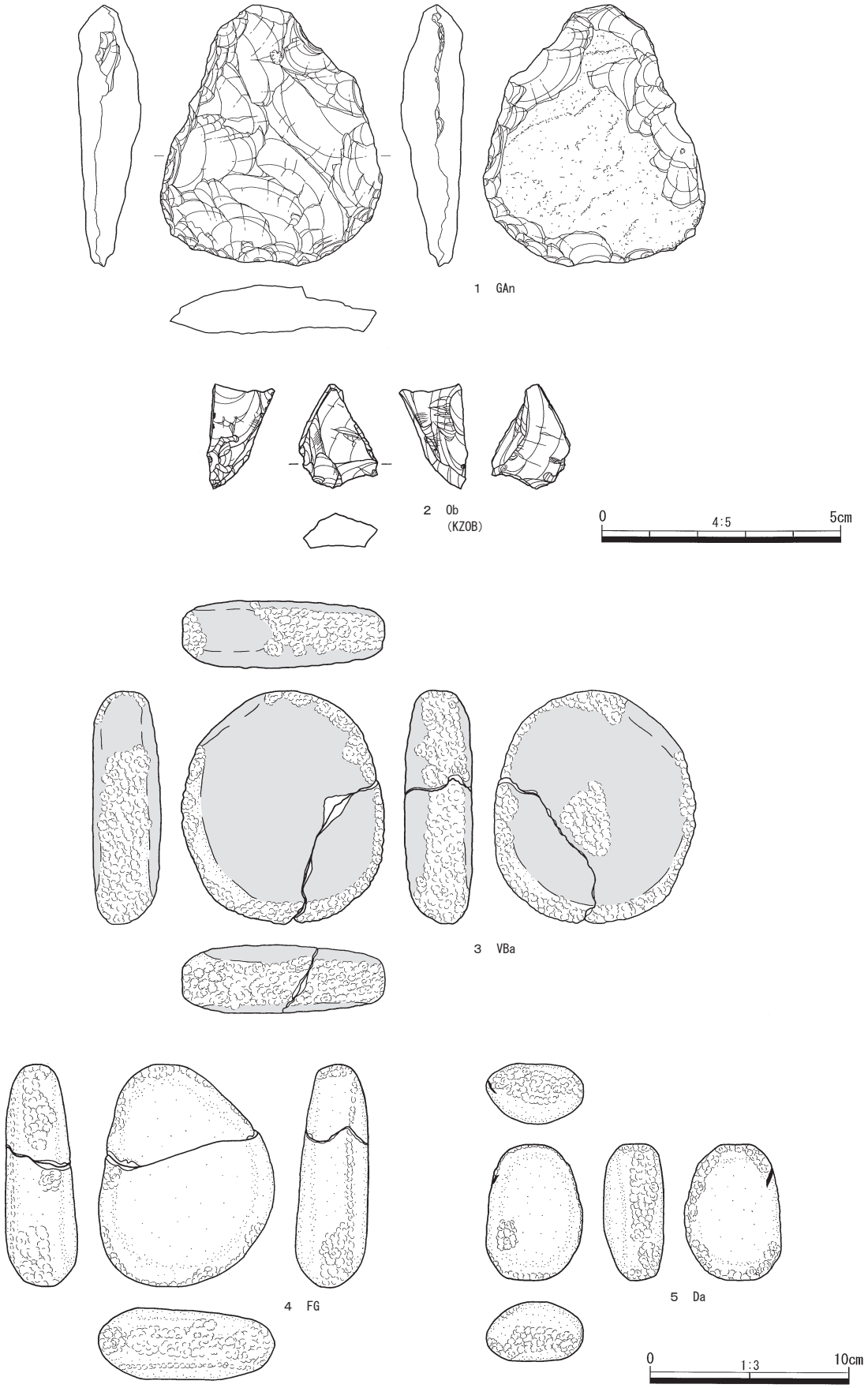
１号遺物集中は栗色土層～富士黒土層から検出しているが、南と北で１ヶ所ずつ断層のずれが生じており、そのあたりの遺物はやや下の位置から出土している。出土遺物は、石器、礫、土器が出土している。石器の器種はスクレイパー、二次加工剥片、磨石・敲石類である。

１はガラス質黒色安山岩製のスクレイパーであり、素材は不定形剥片を呈し、表面裏面とも微細剥離を削出している。２は神津島恩馳島群産の黒曜石製の二次加工剥片で、表面下縁部や右側縁部に微細な剥離が見られる。３～５は磨石・敲石類である。３は楕円型の扁平で、両端部と側縁部に敲き痕が見られ、平坦部に磨り痕も見られる。４は不定形の扁平で、両端部と側縁部に敲き痕が見られる。５は棒状で厚みがある形状で、両端部と側縁部に敲きが見られる。

１号遺物集中



第70図　１号遺物集中



第71図　１号遺物集中出土遺物

２号遺物集中は暗褐色土層～富士黒土層から検出しているが、南と北で２段ずつの断層のずれが生じており、やや下の位置から出土している。

出土遺物は、土器、石器、礫が出土しており、かなり密集した状態で出土している。土器は早期の条痕文土器と無文土器が出土しているが、小片のため実測はしていない。石器は石鏃、スクレイパー、二次加工剥片、磨石・敲石類である。６は石鏃であり、上半部は欠損により失われている。凹基であるが抉りは浅い。円脚である。黒曜石産地分析では、箱根畑宿群産と推定されている。７～９はスクレイパーで、黒曜石製である。７と８は箱根畑宿群産と推定されており、７は表裏面とも上部に微細な剥離が削出されているが、欠損によって大半が失われている。８は表面右側縁部から下面にかけてに微細な剥離が連続して施されている。９は神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製で、裏面に微細な剥離が認められる。10は二次加工剥片で、表面に加工痕が確認できる。神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。11と12は磨石・敲石類である。11は棒状の形状で円形断面の磨石・敲石類で、両端部を敲いている。小型のものである。12は大半が欠損しており全体形状は窺えないが、現状では楕円型で厚みがある磨石・敲石類で、側縁部に敲き痕、表裏の平坦部に磨りの痕跡が認められる。

３号遺物集中は暗褐色土層～富士黒土層から検出しているが、南側に断層が見られ、そこに遺物が集中して出土している。礫が比較的上の面、石器が下の面から出土していたため、現地調査段階では上面と下面で別の遺構と考えていたが、その後整理作業の段階で検討した結果、上層と下層で層位的な隔たりはあまり認められなかったため、同一の遺構として報告する。覆土は栗色土層～富士黒土層と暗褐色土層に分かれ、遺物のほとんどは、栗色土層～富士黒土層から出土した。

第27表　縄文時代遺物集中一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号遺物集中	～前期	S-25	KU ～ FB	5.71	4.30	－		77	4		81
2号遺物集中	～前期	S-26	KU ～ FB	3.74	2.60	－	3	332	2		337
3号遺物集中	～前期	S-25	KU ～ FB	4.38	3.79	－	43	120	85		248

第28表　１号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石		玄武岩	多孔質玄武岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	細粒班レイ岩	合計
	神津島恩馳島群	推定不可・未分析									
石材略号	KZOB	-	Ba	VBa	GAn	FAn	An (Py)	VAn	Da	FG	
スクレイパー					1						1
二次加工剥片	1										1
剥片		16			1						17
砕片		77									77
磨石・敲石類				3					1	2	6
礫器							1				1
石皿			1								1
台石							1				1
合計	1	93	1	3	2		2		1	2	105

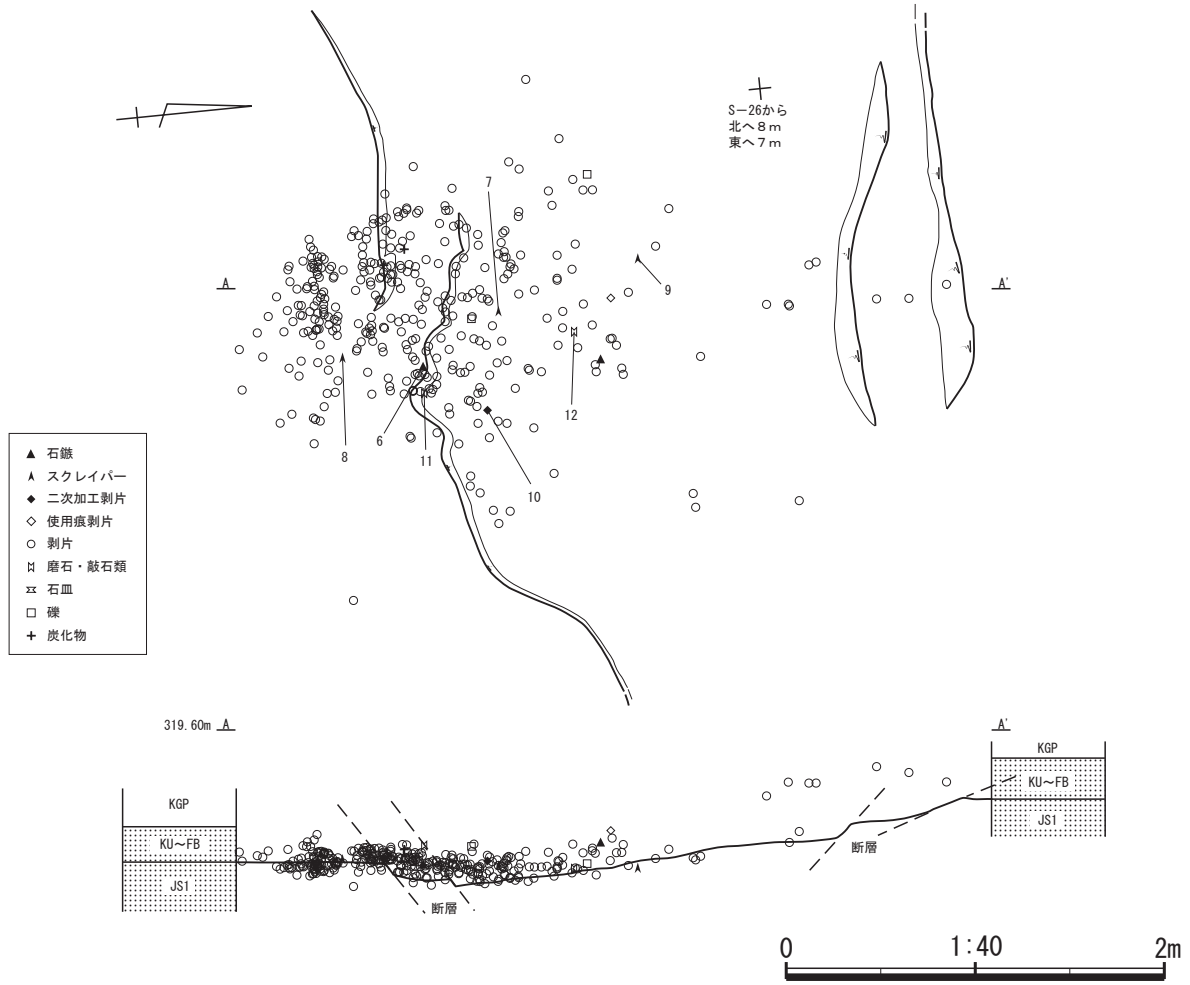
第29表　２号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石			輝石安山岩	合計
	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析		
石材略号	HNHJ	KZOB	-	An (Py)	
石鏃	2				2
スクレイパー	2	1			3
二次加工剥片	1				1
使用痕剥片			1		1
剥片	1	1	27	1	30
砕片			315		315
磨石・敲石類				2	2
合計	6	2	343	3	354

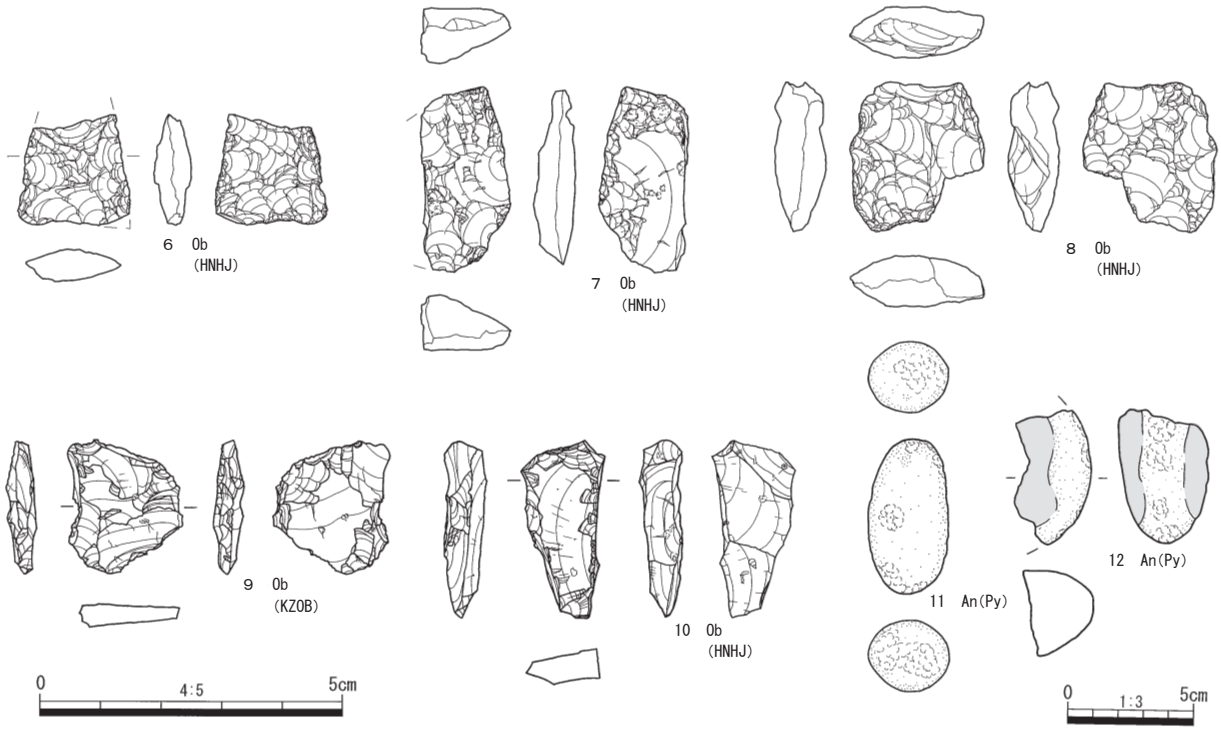
第30表　３号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石			輝石安山岩	合計
	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析		
石材略号	HNHJ	KZOB	-	An (Py)	
石鏃	1				1
スクレイパー		1			1
剥片			18		18
砕片			106		106
石核	1				1
磨石・敲石類				3	3
礫器				1	1
合計	2	1	124	4	131

２号遺物集中

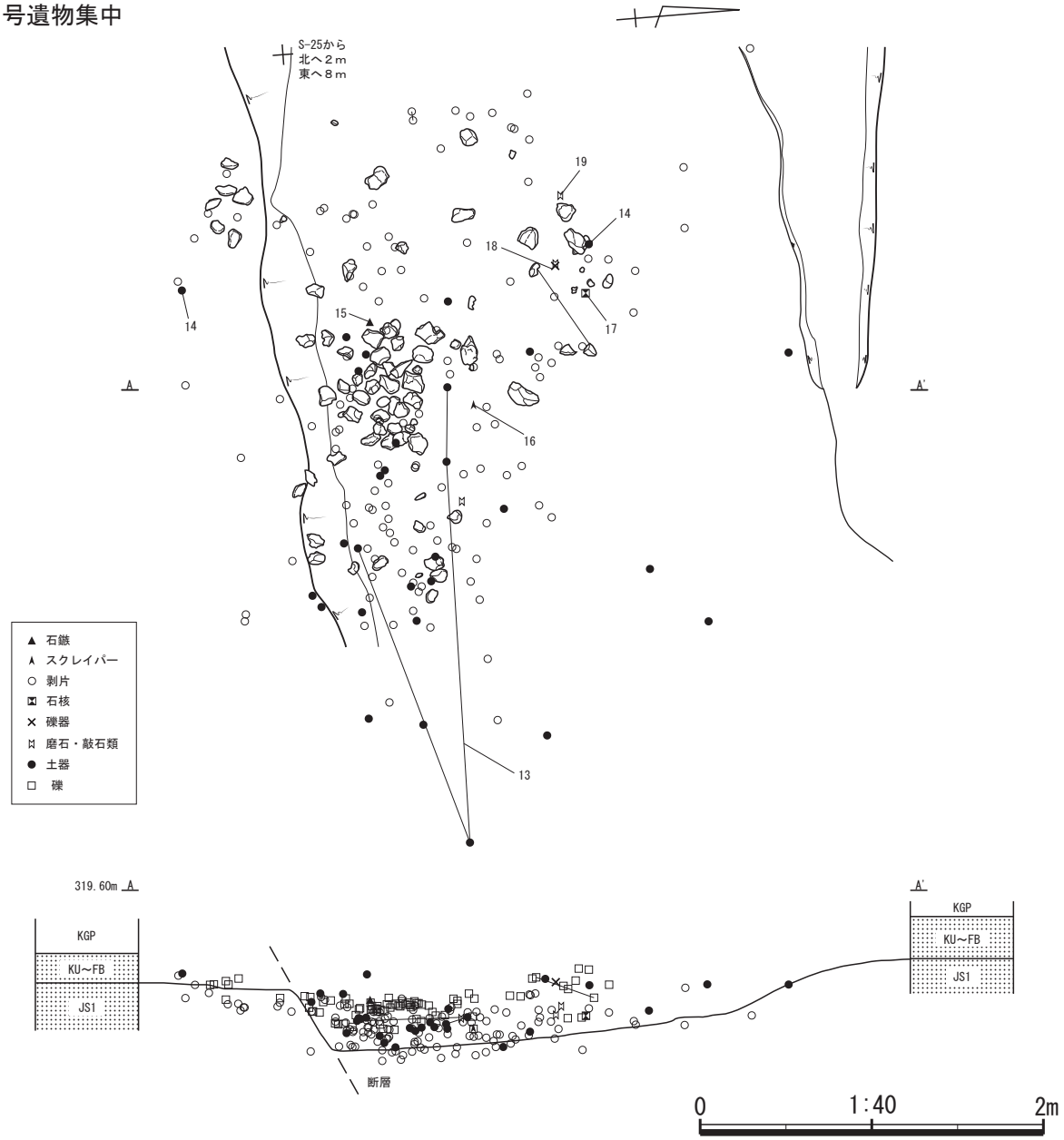


第72図　２号遺物集中



第73図　２号遺物集中出土遺物

３号遺物集中



第74図　３号遺物集中

出土遺物は、石器と礫が主体を占め、土器は少量である。土器は表裏縄文土器と条痕文土器、無文土器で、時期は早期に収まる。無文土器は小片のため実測できなかった。石器は石鏃、スクレイパー、石核、剥片、礫器、磨石・敲石類が出土している。13は表裏縄文土器である。ａは口縁部破片で、外面の口縁部にはLRの縄文を施し、次いで胴部にRLの縄文を施し、一部を磨り消している。内面の口縁部にもLRの縄文が見られる。ｂはａと同一個体の胴部と考えられ、RLの縄文が一部磨り消しされている。14の条痕文土器は、胴部外面に斜め方向に貝殻条痕文が施されている。15の石鏃は上半部が欠損により失われている。凹基で円脚である。箱根畑宿群産と推定される黒曜石製で、裏面には素材剥離痕を残す。16の削器も上部が欠損しているが、裏面の下部と左側縁部から微細剥離痕を削出しており、刃部を作り出している。神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。17の石核も箱根畑宿群産と推定される黒曜石製で、固定して剥離面から転移させながら剥離している。18の礫器は輝石安山岩製で刃部が下部にあり断面がかなり厚い。19の磨石・敲石類も輝石安山岩製で、不定形で厚みがあり端部と側縁部を敲いている。

第75図　３号遺物集中出土遺物

２　遺物

遺構出土の遺物については先述したとおりである。包含層出土遺物の大半は土器と石器である。

（１）土器

出土した土器は縄文時代早期から後期までのものが919点出土している。このうち62固体を実測した。施文・装飾・文様・調整等によって、便宜的に土器を分類した。分類は以下のとおりである。

早期
　第Ⅰ群
　　a 類：表裏縄文＋磨消縄文土器
　　b 類：撚糸文土器（黒田向林遺跡出土と同型式）
　　c 類：撚糸文土器
　　d 類：押型文土器
　　e 類：判ノ木山西式土器
　第Ⅱ群
　　野島式土器
　第Ⅲ群
　　a 類：条痕文土器
　　b 類：沈線文土器
　　c 類：無文土器

前期
　第Ⅳ群
　　a 類：諸磯式土器
　　b 類：十三菩提式土器
　第Ⅴ群
　　a 類：縄文土器
　　b 類：無文土器

中期
　第Ⅵ群
　　a 類：狢沢Ⅴ式土器
　　b 類：藤内式土器

後期
　第Ⅶ群
　　a 類：堀之内式土器
　　b 類：堀之内式土器（粗製）
　　c 類：注口土器（堀之内式か）

詳細時期不明
　第Ⅷ群
　　a 類：縄文土器
　　b 類：後期以降無文土器

弥生時代以降
　第Ⅸ群
　　弥生時代以降無文土器

早期の土器

第Ⅰ群（第78図20 ～ 25）

a 類は３号遺物集中から出土した表裏縄文土器である。

b 類は20で、撚糸文土器の口縁から胴部にかけての破片である。撚糸文が外面と内面の上方に見られる。富士宮市の黒田向林遺跡から同タイプの撚糸文土器の出土が確認されている。20b の外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111831）。その結果は、9,817±38yrBP という年代的にやや古い^{14}C 年代が提示されたため、21の撚糸文土器や押型文土器より古い時期のものであると分類した。21も撚糸文土器であるが、横方向の撚糸を施した後に縦方向の撚糸文を付けている。22は楕円の押型文である。23 ～ 25は e 類の判ノ木山西式土器である。23と24は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文を施しているが、23の方が線はやや細く本数も少ない。内面は条痕文を施している。23は口縁部が外反し波状口縁であり、対して24は直行口縁であるが、口唇部に連続してキザミが施されている。25も判ノ木山西式土器であるが、前二者と異なり外面は横方向と斜め方向の条痕文が見られる。

口縁部は直線的に立ち上がり直行口縁であり、器形は24に近い。３個体とも内面は条痕文が明瞭に見られる点は共通している。なお、24は胴部内面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111829）。その結果は、7,960±32yrBP という^{14}C 年代が出た。25も胴部外面に炭化物が付着していたため放射性炭素年代測定を実施し（IAAA-111830）、7,963±35yrBP という^{14}C 年代の結果が出た。この結果は24や葛山大端ヶⅠ遺跡出土の判ノ木山西式土器の測定結果と近似した数値である。

第Ⅱ群（第80図26）

26は野島式土器である。外面を幅広の沈線文で区画し中を充填しており、内面は条痕文が見られる。口唇部にはキザミも施されている。東海系の白灰色の胎土である。

第Ⅲ群（第80図27 ～ 30）

27は内外面ともに条痕文が施されている。器厚は厚い。28は胴部無文であるが、口唇部にキザミが施されている。器厚は厚く焼成も大変良好である。29は外面に斜め方向の沈線文が複数引かれている土器の口縁部破片である。30は無文の土器で、内外面ともにナデ調整されており、分厚い器厚である。

前期の土器

第Ⅳ群（第80図31・32）

31は諸磯ｃ式土器である。ａは口縁部破片で、半截竹管の先端による斜行文が見られ、その下には沈線文か。口唇部は丁寧なミガキが施されている。ｂは半截竹管の沈線が綾杉状をなし、所々に半截竹管の先端による斜行の平行沈線文が見られる。32は十三菩提式土器で折り返し口縁を呈し、半截竹管による連続した押引文が見られる。口唇部から内面にかけてはミガキである。

第Ⅴ群（第80図33）

33は胴部外面に縄文が見られるが、かなり摩滅しており縄文原体や施文方向は不明である。

中期の土器

第Ⅵ群（第80図34 ～ 36）

34は狢沢式のⅤ式にあたる口縁部破片で、渦巻状の懸垂文が施されている。35は藤内２式土器であり、口縁部を肥厚させ爪形文を連続して施している。外面胴部と内面は丁寧なナデで仕上げられている。ｂとｃは胴部破片と考えられ、ｂは２本の隆帯の１本に爪形刺突があり、ｃは刺突の無い隆帯の区画内に平行沈線がある。36も藤内の胴部破片で、隆帯を貼り付け、隆帯とその外側にキャタピラ文が施されている。ｂは隆帯の区画内もキャタピラ文がある。

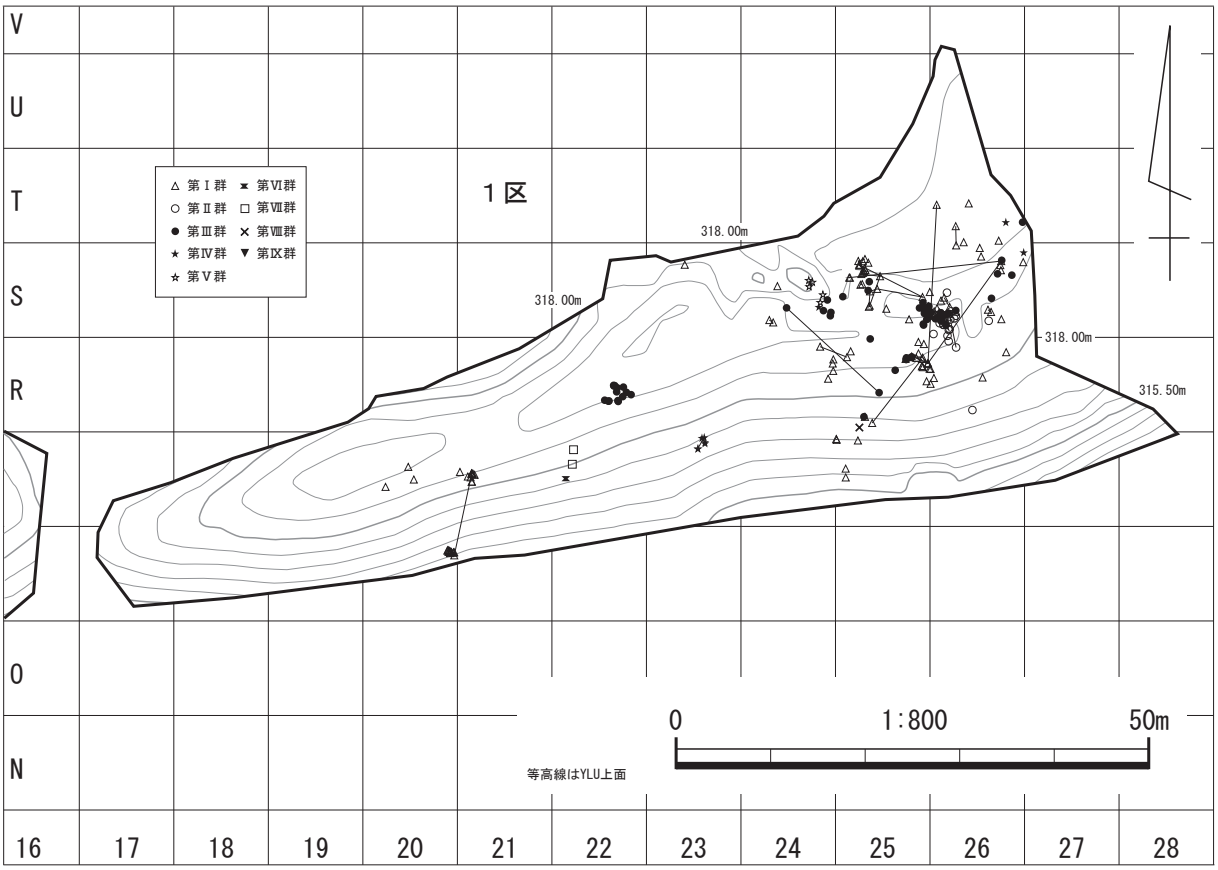
後期の土器

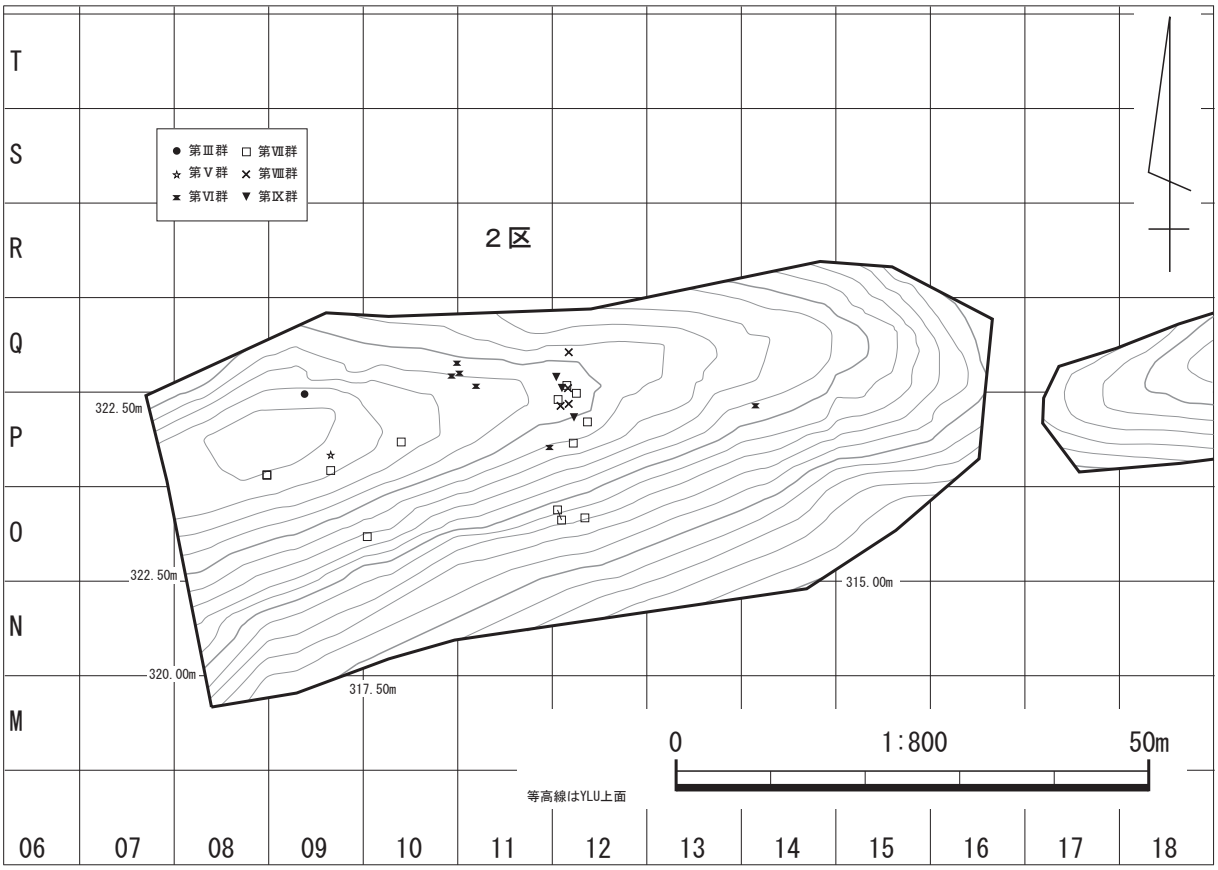
第Ⅶ群（第80図37 ～ 40）

37は堀之内式土器で、胴部外面の所々に縄目を押しつけている。38は堀之内Ⅰ式土器であり、横方向と弧状に沈線を引いている。39は堀之内式土器の粗製品の口縁部から胴部にかけての破片であり、口縁部は波状を呈す。外面はRLの縄文で、口唇部から内面にかけては、丁寧なナデである。40は注口部であり、先端部は破損しているが、接着部は一部残っている。外面はミガキで調整している。

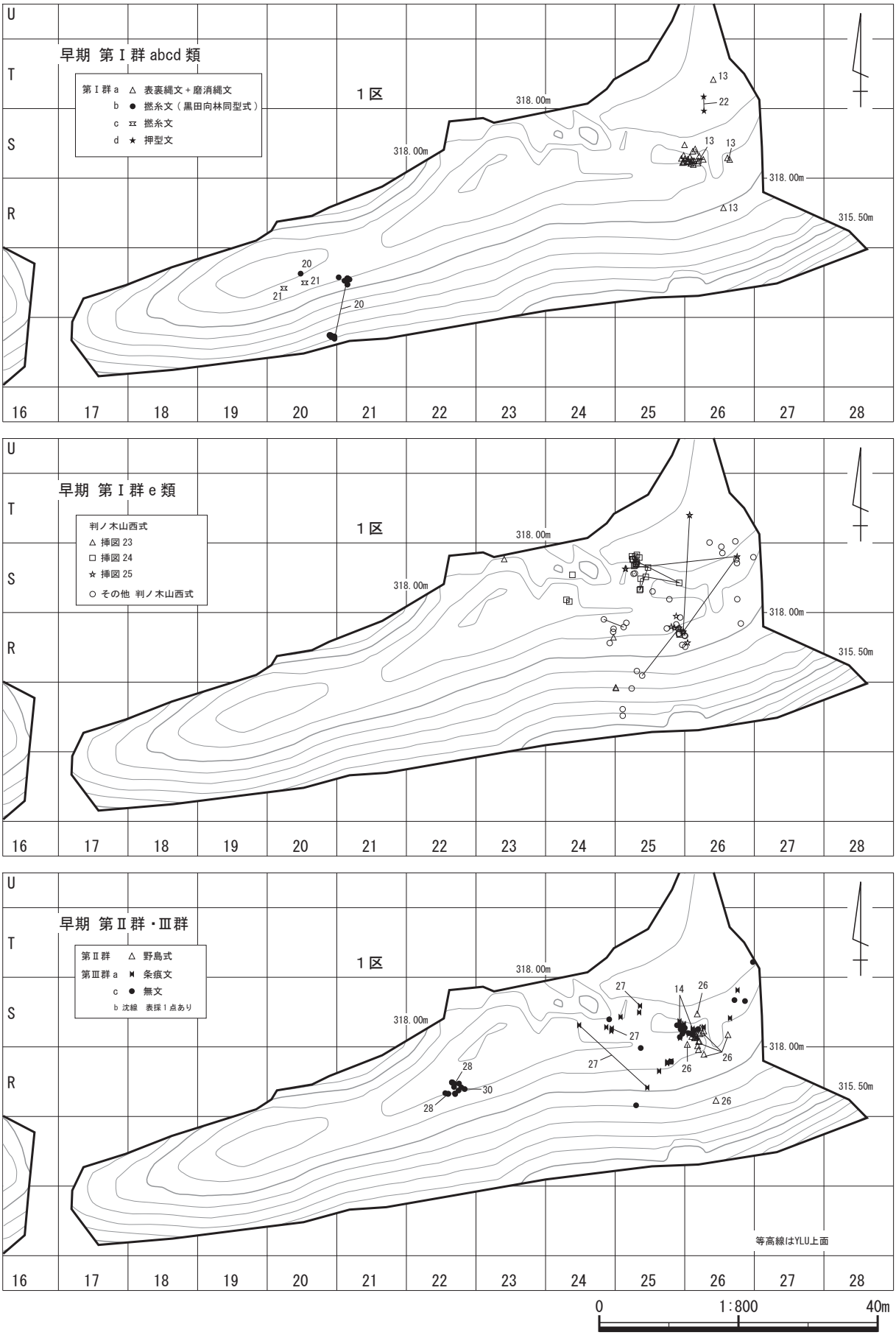
第Ⅷ群・第Ⅸ群

第Ⅷ群土器はａ類が時期不明の縄文土器、ｂ類が後期以降と思われる縄文土器であり、第Ⅸ群は弥生時代以降と思われる無文の土器であるが、いずれも小片のため詳細は不明で、実測も行っていない。


V
U
T
S
R
O
N
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
△ 第Ⅰ群
○ 第Ⅱ群
● 第Ⅲ群
★ 第Ⅳ群
☆ 第Ⅴ群
第Ⅵ群
□ 第Ⅶ群
× 第Ⅷ群
▼ 第Ⅸ群
１区
318.00m
318.00m
318.00m
315.50m
0
1:800
50m
等高線はYLU上面

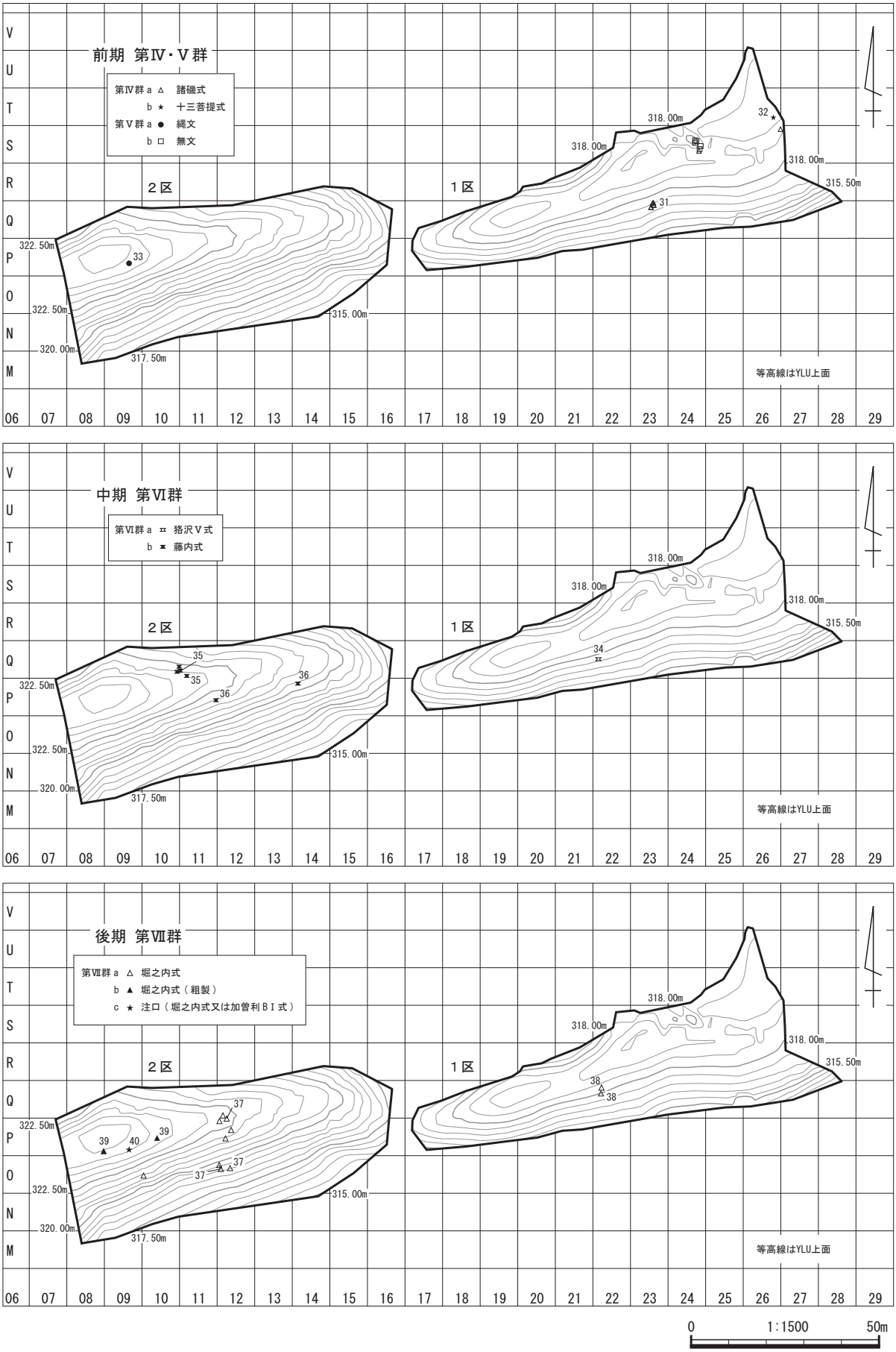

T
S
R
Q
P
O
N
M
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
● 第Ⅲ群
☆ 第Ⅴ群
第Ⅵ群
□ 第Ⅶ群
× 第Ⅷ群
▼ 第Ⅸ群
２区
322.50m
322.50m
320.00m
317.50m
315.00m
0
1:800
50m
等高線はYLU上面

第76図　土器群別分布

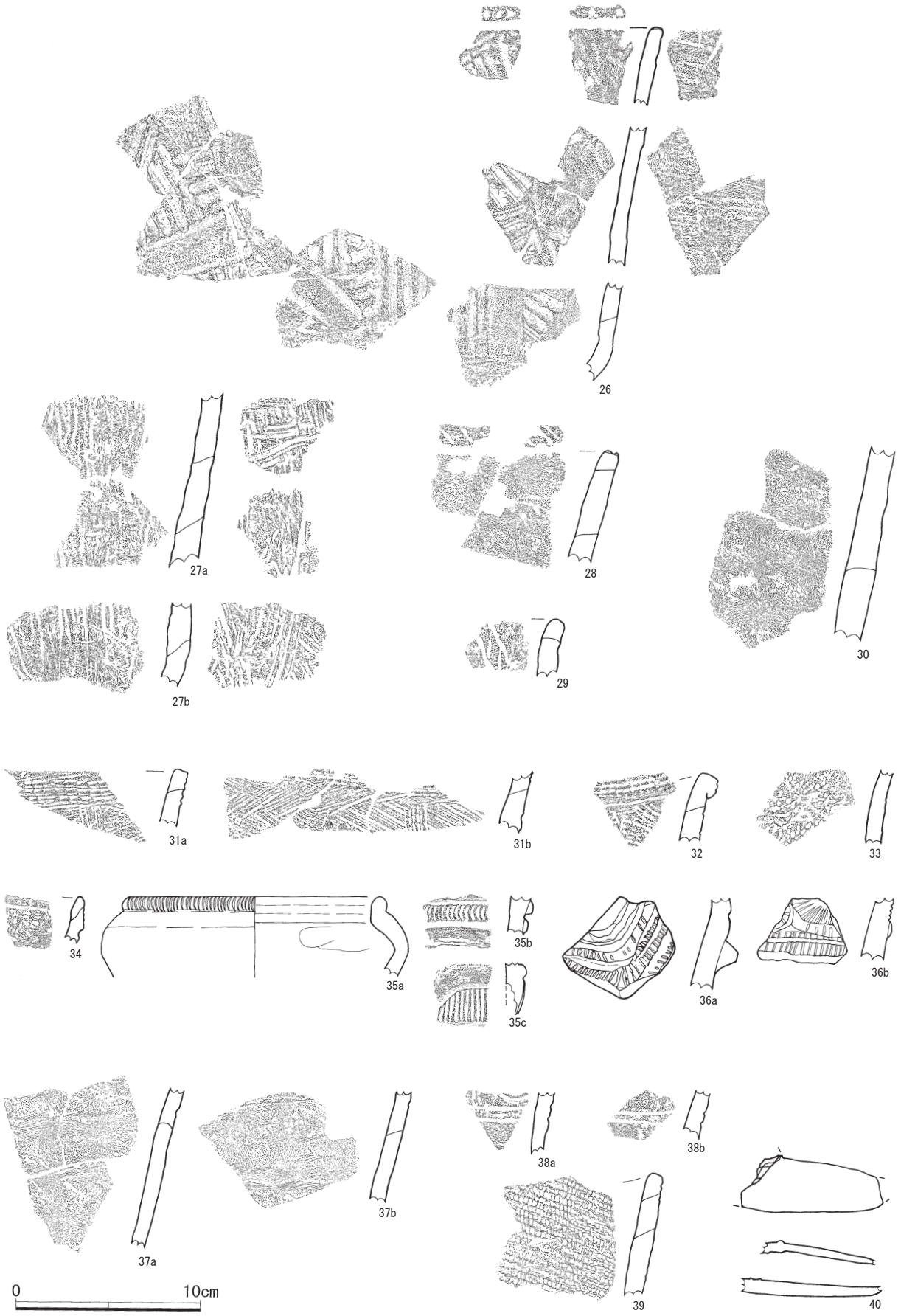


第77図　第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群土器分布

第78図　第Ⅰ群土器



第79図　第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群土器分布



第80図　第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群土器

第31表　土器観察表

遺構名	挿図番号	図版番号	時期	分類群－類	型式	文様・特徴など	繊維	胎土	色調（Hue）	部位
3号遺物集中	13a	24	早期	Ⅰａ	表裏縄文	外面口縁部はLR、胴部はRLの縄文を施し、一部磨り消している。内面はLRの縄文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）暗褐色　10YR3/3 （内）にぶい赤褐色　5YR4/3	口縁
3号遺物集中	13b	24	早期	Ⅰａ	表裏縄文	外面にRLの縄文を施し、一部磨り消している。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）明赤褐色　2.5YR5/6 （内）暗褐色　7.5YR3/3	胴部
3号遺物集中	14ab	24	早期	Ⅲａ	条痕文	外面に条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい黄橙色　10YR6/4 （内）にぶい黄橙色　10YR6/3	口縁～胴部
	20a	25	早期	Ⅰｂ	撚糸文（黒田向林）	外面に縦方向と斜方向の撚糸文、口縁部内面に斜め方向の撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）黒褐色　7.5YR3/2 （内）にぶい褐色　7.5YR5/3	口縁
	20b	25	早期	Ⅰｂ	撚糸文（黒田向林）	外面に縦方向と斜方向の撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）明赤褐色　2.5YR5/6 （内）にぶい赤褐色　5YR5/3	胴部
	21	25	早期	Ⅰｃ	撚糸文	外面に縦方向と斜方向の撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）褐色　7.5YR4/4 （内）にぶい赤褐色　5YR5/4	胴部
	22	25	早期	Ⅰｄ	押型文	外面に楕円の押型文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　7.5YR6/4 （内）にぶい黄橙色　10YR6/4	胴部
	23	25	早期	Ⅰｅ	判ノ木山西	外面は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。内面は条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい褐色　7.5YR5/3 （内）にぶい褐色　7.5YR5/3	口縁～胴部
	24	25	早期	Ⅰｅ	判ノ木山西	口唇部にキザミ。外面は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。内面は条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）黒褐色　7.5YR2/2 （内）灰褐色　5YR4/2	口縁～胴部
	25	25	早期	Ⅰｅ	判ノ木山西	口唇部にキザミ。内外面に横方向の条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）黒褐色　7.5YR3/1 （内）にぶい赤褐色　5YR5/4	口縁～胴部
	26	26	早期	Ⅱ	野島	外面は幅広の沈線文で区画。区画内を棒状工具で充填。内面は条痕文。	無	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい黄橙色　10YR6/4 （内）にぶい黄橙色　10YR7/4	胴部
	27a	26	早期	Ⅲａ	条痕文	内外面とも条痕。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）橙色　7.5YR6/6 （内）褐灰色　7.5YR4/1	胴部
	27b		早期	Ⅲａ	条痕文	内外面とも条痕。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい黄橙色　10YR6/4 （内）褐灰色　10YR6/1	胴部
	28	26	早期	Ⅲｃ	無文	口唇部にキザミ。無文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい黄褐色　10YR5/3 （内）灰黄色　10YR4/2	口縁
	29	26	早期	Ⅲｃ	沈線	外面に斜方向の沈線文。	有	白色粒子、黒色粒子	（外）にぶい黄褐色　10YR4/3 （内）黒褐色　10YR3/2	胴部
	30	26	早期	Ⅲｃ	無文	無文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）灰褐色　5YR4/2 （内）灰褐色　7.5YR4/2	胴部
	31a	26	前期	Ⅳａ	諸磯	半截竹管による斜行文。口唇部にミガキを施す。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母（多）	（外）黒褐色　7.5YR3/2 （内）褐色　7.5YR4/4	口縁
	31b	26	前期	Ⅳａ	諸磯	半截竹管による綾杉状の沈線文と斜方向の平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母（多）	（外）黒褐色　7.5YR3/2 （内）褐色　7.5YR4/4	胴部
	32	26	前期	Ⅳｂ	十三菩提	半截竹管による連続した押引文。口唇部から内面にかけてミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）黒褐色　7.5YR6/4 （内）にぶい赤褐色　5YR5/4	口縁
	33	26	早期	Ⅴａ	縄文	外面に縄文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）にぶい赤褐色　2.5YR4/4	胴部
	34	26	中期	Ⅵａ	狢沢Ⅴ	渦巻状の懸垂文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）灰褐色　7.5YR4/2	口縁
	35a	26	中期	Ⅵｂ	藤内2(8b)	肥厚させた口縁部に爪形の刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/4 （内）灰褐色　5YR4/2	口縁
	35b	26	中期	Ⅵｂ	藤内2(8b)	肥厚させた口縁部に爪形の刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/4 （内）灰褐色　5YR4/2	胴部
	35c	26	中期	Ⅵｂ	藤内2(8b)	隆帯の区画内に縦方向の平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/4 （内）灰褐色　5YR4/2	口縁
	36ab	26	中期	Ⅵｂ	藤内	隆帯貼付け。キャタピラ文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR5/4 （内）にぶい赤褐色　5YR5/3	胴部
	37ab	26	後期	Ⅶａ	堀之内	外面の一部に縄を押しつけている。	無	黒色粒子	（外）にぶい橙色　7.5YR6/4 （内）橙色　5YR6/6	胴部
	38ab	26	後期	Ⅶａ	堀之内Ⅰ	外面に横方向と弧状に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい赤褐色　5YR4/3 （内）灰褐色　7.5YR4/2	胴部
	39	26	後期	Ⅶｂ	堀之内（粗製）	波状口縁。外面にRLの縄文を施文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）にぶい黄褐色　10YR5/4 （内）にぶい橙色　7.5YR6/4	口縁
	40	26	後期	Ⅶｂ	注口	外面をミガキで調整。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	（外）黒褐色　5YR3/1 （内）褐色　7.5YR4/3	注口

（２）石器

石鏃

石鏃は計10点出土した。そのうち３点は遺構出土のもので、２点は未製品である。葛山大端ヶⅠ遺跡と同様に、基部の形状で５タイプに分類し、さらに凹状の基部のものは脚部形状で４タイプに細分類した。石鏃未製品は４点出土したが、そのうち３点を掲載した。

Ａタイプ（基部が凹状のもの）（第83図41・42）

41はＡ２タイプである。脚部の片方は欠損しているがおそらく円脚であろう。平面形は二等辺三角形で断面形状は扁平である。縁辺部はやや鋸歯縁状に削出されている。神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。42も神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製の石鏃で、刃部などあまり加工が施されておらず表裏面ともに素材剥離面を多く残す。脚が角張るＡ３タイプで抉りは浅く平面形は三角形である。

Ｂタイプ（基部が平らのもの）

本遺跡ではこのタイプのものは出土していない。

Ｃタイプ（基部が円形のもの）（第83図43）

43は円基のＣタイプであり脚部は無い。縁辺部を鋸歯縁状に削出し、裏面は素材剥離痕を残す。

Ｄタイプ（基部が不定形状のもの）

本遺跡ではこのタイプのものは出土していない。

石鏃未製品（第83図44）

44は石鏃未製品と考えられ、刃部を削出する微細な剥離痕が少なく、裏面に素材剥離痕が見られる。平面形状が不定形で、断面形態も厚い。

スクレイパー（第83図45 ～ 48）

45 ～ 48はスクレイパーである。45は箱根畑宿群産と推定される黒曜石製のスクレイパーで、側縁部に連続した微細な剥離痕で刃部を作っており、サイドスクレイパーと考えられる。46はガラス質黒色安山岩製の大型品である。45と同様に側縁部に連続した微細な剥離痕が見られ、刃部を側縁部に持つサイドスクレイパーと考えられる。47は上半分を欠損しているが、刃部は下端部に持つエンドスクレイパーと考えられる。断面は三角形である。48は細粒安山岩製の大型品である。側縁部に連続した微細な剥離痕があり、刃部が側縁部にあるサイドスクレイパーである。

二次加工剥片（第84図49・50）

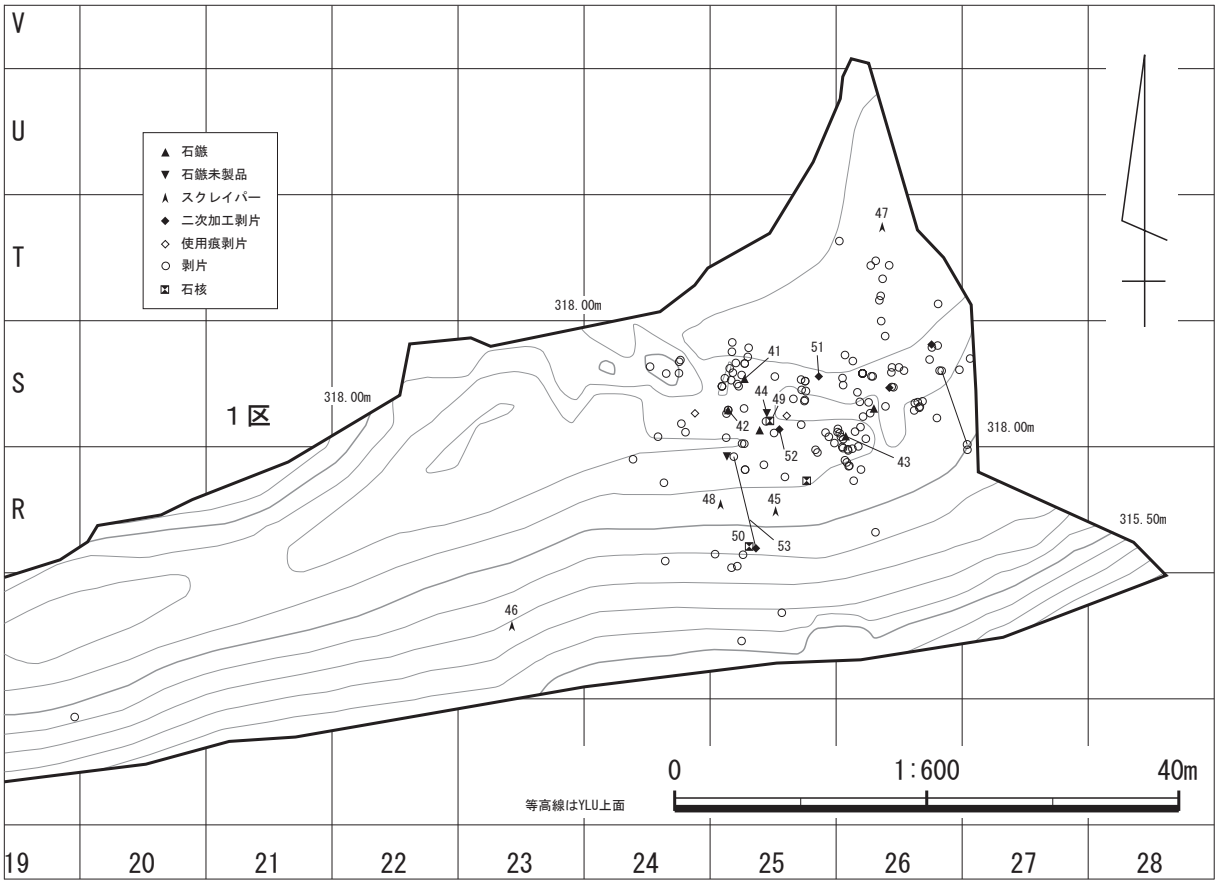
49・50は二次加工剥片で、49は右側縁部に微細な剥離痕がある。素材は不定形剥片を呈する。50も右側縁部に微細剥離が観察でき、不定形剥片の素材である。いずれも神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。

接合資料（第84図51）

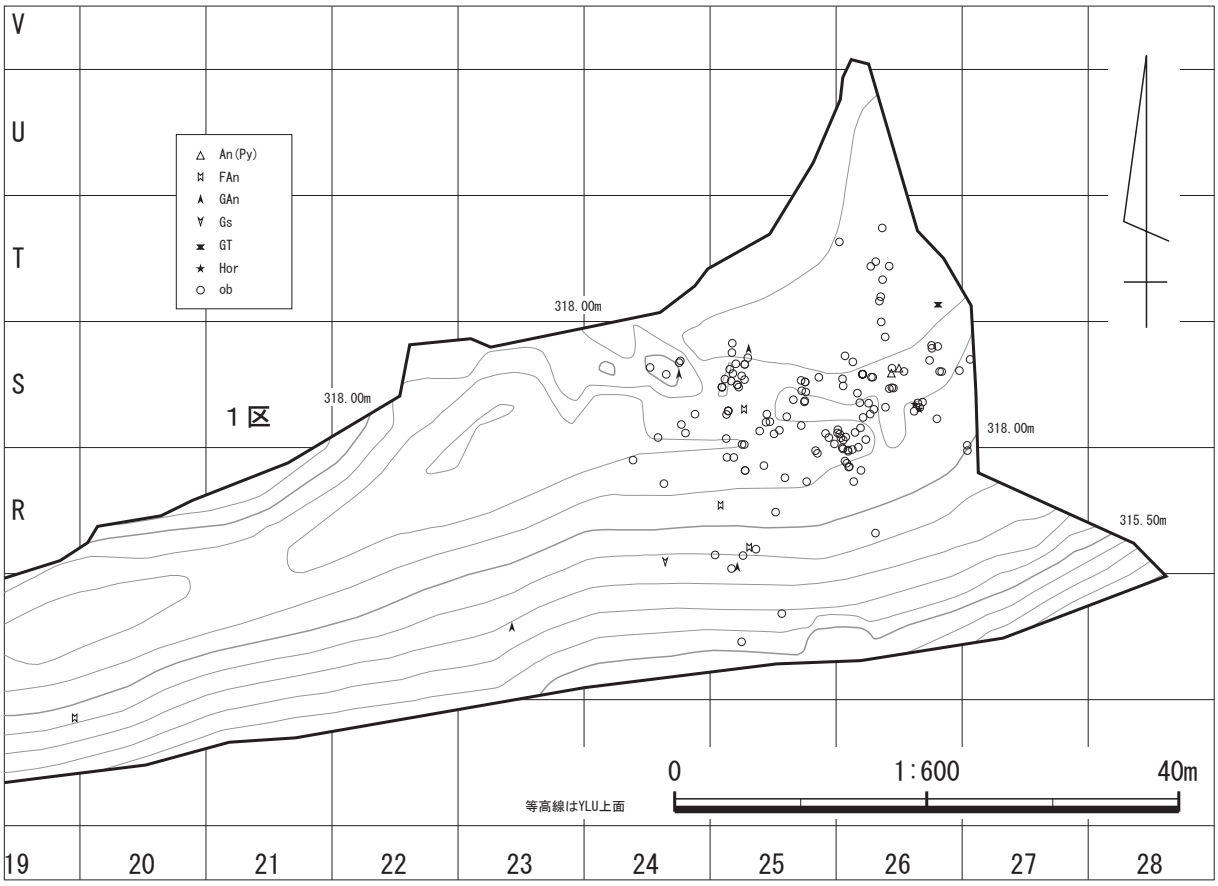
51は二次加工剥片と剥片の接合資料で、天城柏峠群産と推定される黒曜石が素材である。１区東側の斜面上で約10m離れた距離で出土した。二次加工剥片は下部と右側縁部に微細剥離痕が入り、全体的に自然面を多く残す。

石核（第84図52・53）

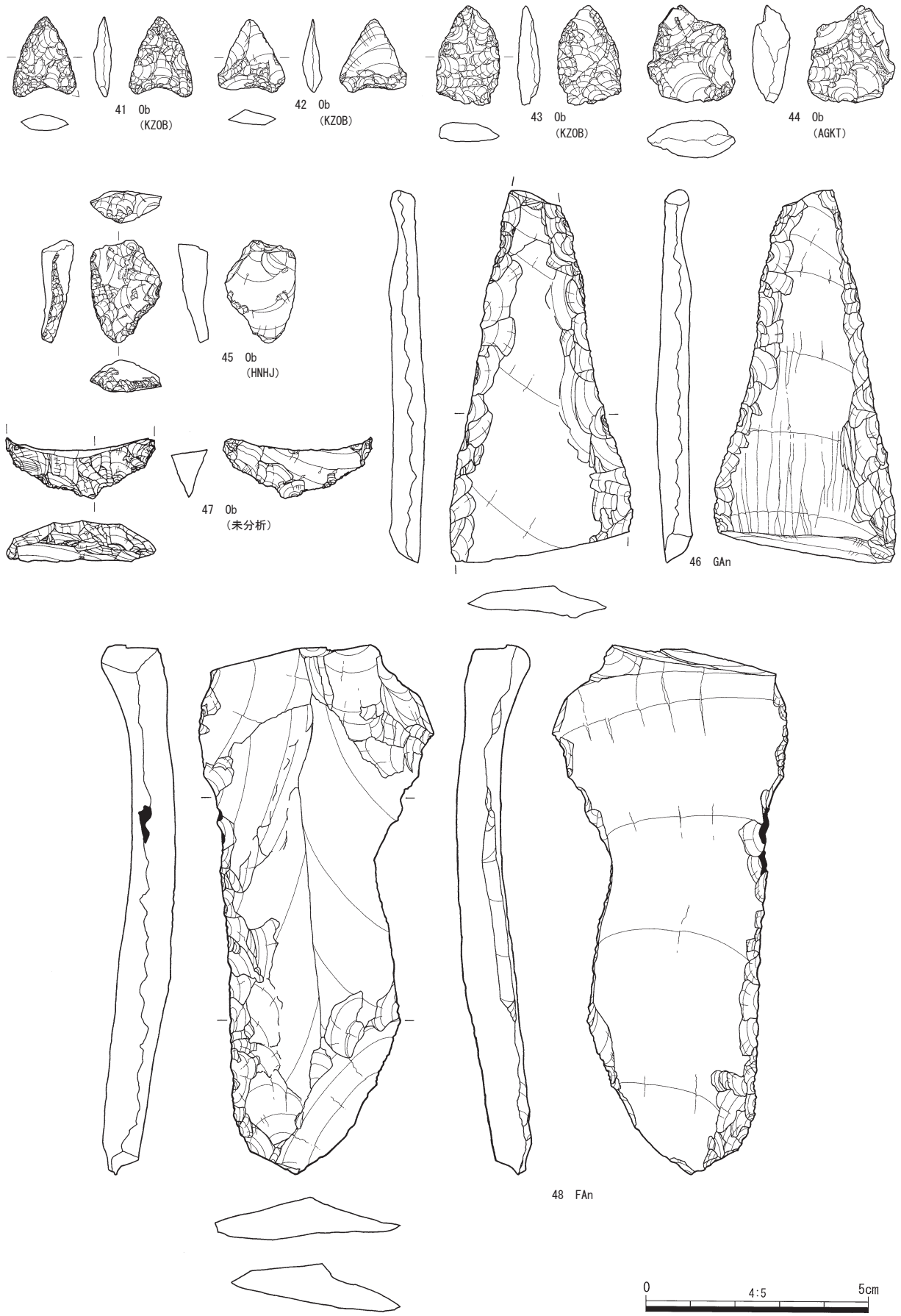
52・53は石核である。52は礫面を打面とし、固定して一方向に剥離している。打面は上面である。天城柏峠群産と推定される黒曜石53は剥離面を打点とし転移しながら剥離しており、打面は上面、下面、右側面と左側面である。細粒安山岩製である。



第81図　剥片石器器種別分布



第82図　剥片石器石材別分布


41 Ob
(KZOB)
42 Ob
(KZOB)
43 Ob
(KZOB)
44 Ob
(AGKT)
45 Ob
(HNHJ)
47 Ob
(未分析)
46 GAn
48 FAn
0
4:5
5cm

第83図　石器１

第84図　石器２

打製石斧（第87図54 ～第88図59）

54 ～ 59は打製石斧である。葛山大端ヶⅠ遺跡と同様の分類を行った。

54は両側縁部に剥離を加え、側縁部が平行で直線的な短冊形になっている。左側縁部のエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残り、柄の装着痕と考えられる。緑石凝灰岩である。55は輝石安山岩製で、撥型で、両面に礫面が残る。裏面側縁部に連続した剥離痕が見られ、左側縁部上部には使用による摩滅痕が確認できる。器厚は中央部が分厚い。56は両側面が抉れている分銅型と思われるが、上部は欠損している。下端部に連続した微細な剥離で刃部を作り出しており、右側面には明瞭な着柄痕が見られる。器厚は薄く扁平である。57は56と同様な分銅型であり、抉れ部分に着柄痕と思われるエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残る。剥離はやや粗いが、上端部より下端部の方がより多く行われている。器厚は刃部と上部が薄くなっている。58は頁岩製の打製石斧で、抉りがあまり深くなく形状がやや曖昧ではあるが、分銅型とした。裏面に礫面が残り、刃部の剥離はやや粗く、着柄痕もあまり認められない。器厚は扁平である。59は基端部が尖る尖頭器型であり、基部、両側縁部から剥離を加え整形しているが、刃部はあまり明瞭ではない。左側縁部に着柄痕が明瞭に観察できる。緑色片岩製である。

礫器（第88図60 ～ 62）

60 ～ 62は礫器である。60は扁平な角礫を素材とし、下端部には上面から細かく打撃を加え、刃部を作り出している。輝石安山岩製である。61は素材形状が楕円礫を呈し、下端部には上面から粗く打撃を加えた刃部が確認できる。62は角礫を素材とし、刃部が下端部と左側縁部から上端部の一部にかけて広角に広がるが、左側縁部の剥離は非常に粗い。61・62とも玄武岩製である。

磨石・敲石類（第89図63 ～第91図85）

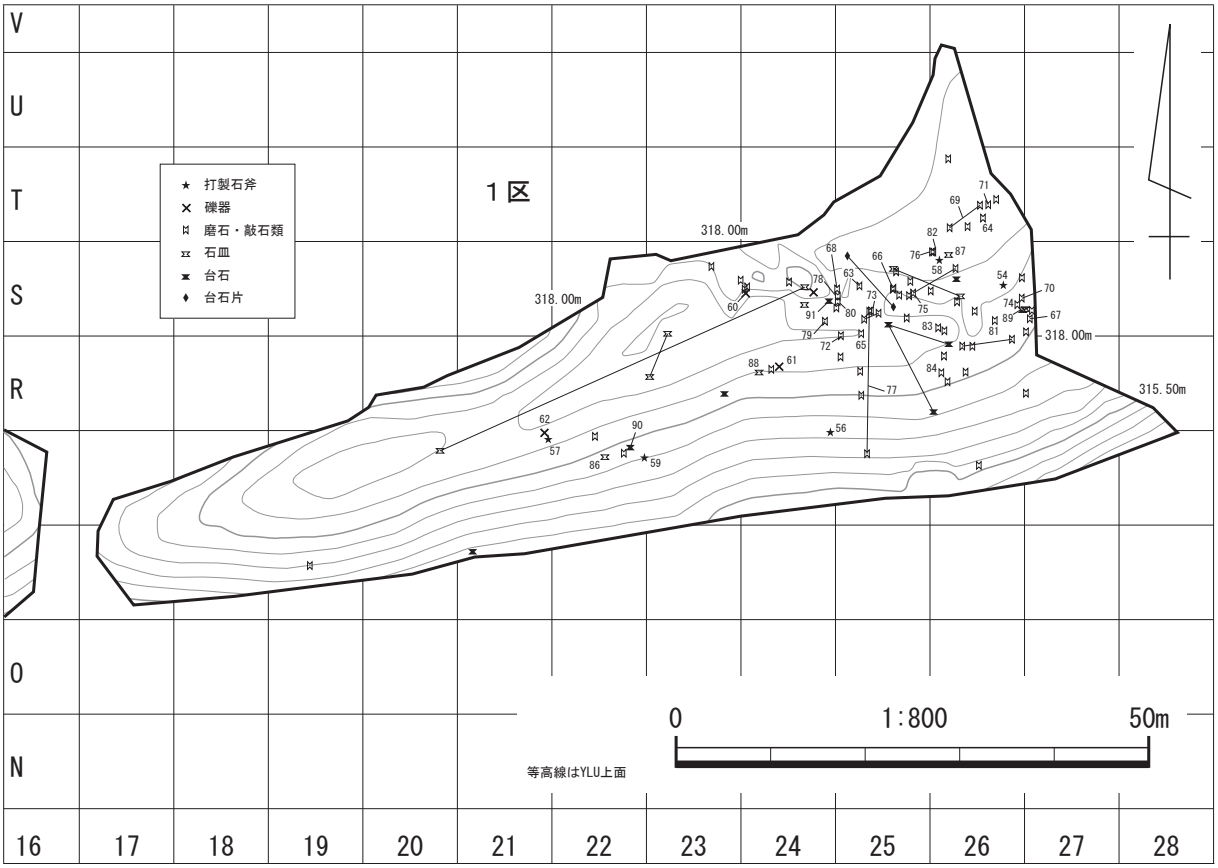
63 ～ 85は磨石・敲石類である。磨石・敲石類も葛山大端ヶⅠ遺跡と同様に形状・断面形・使用痕による分類を行った。すなわち形状はＡが円形、Ｂが楕円形、Ｃが不定形、Ｄが棒状のものである。断面形は、１が円形、２が扁平、３は厚みがあるもの、４は三角形をなすものである。使用痕が、ａは端部に敲きがあり、ｂは側縁部に敲きがあるもの、ｃは平坦面で敲いているもの、ｄが端部に磨りがあるもの、ｅは側縁部に磨りがあるもの、ｆは平坦面を磨っているものである。

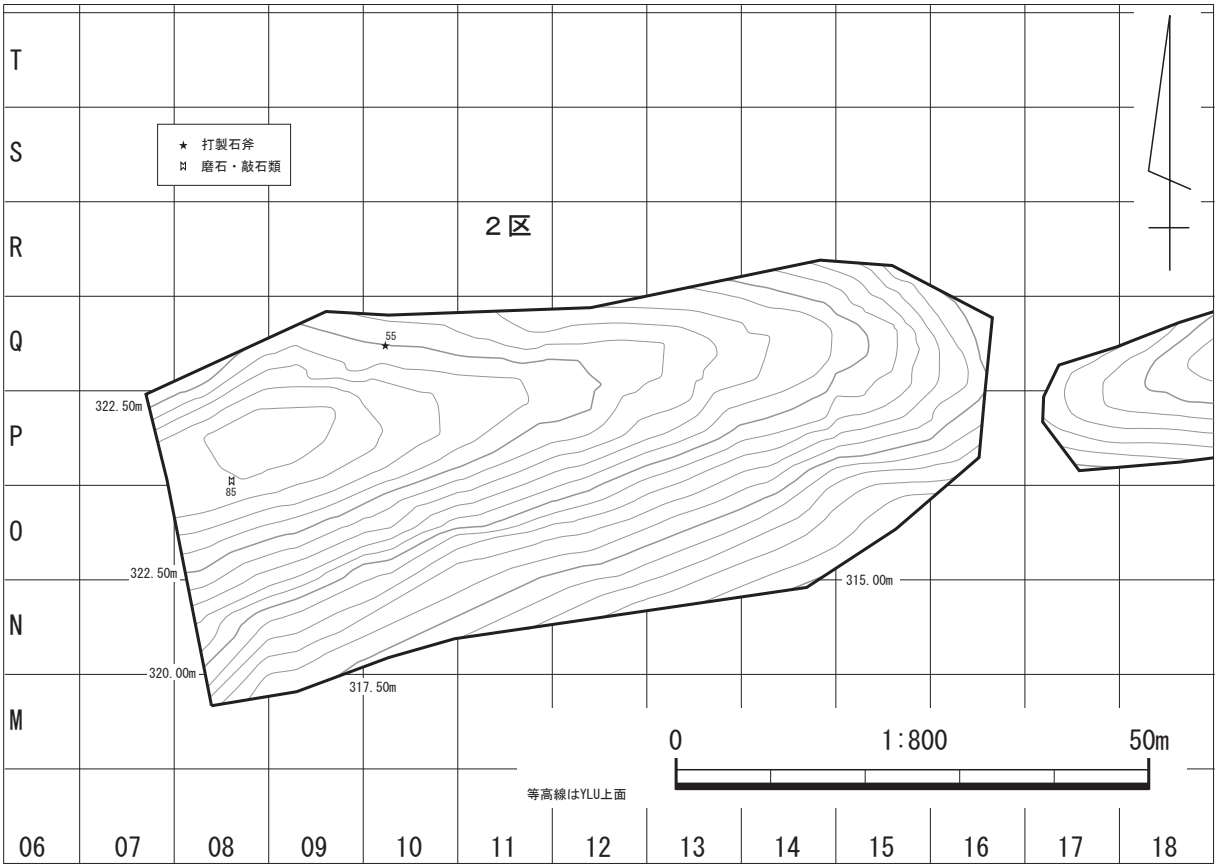
この遺跡では、形状がＡの円形のものは出土しなかった。63 ～ 67は形状が楕円形で、断面が扁平なＢ２タイプ68・69は楕円形で厚みがある断面のＢ３タイプである。65は平坦面の磨り痕が明瞭に見られる。66は平坦面でかなり敲いており、中央部が窪んでいる。68は下面に剥離により刃部を作り出しており一見すると礫器とも思われるが、端部と側縁部に敲き痕と平坦面に磨り痕が見られるため磨石・敲石類とした。70 ～ 73は不定形な形状をなしており、扁平断面であるＣ２タイプ、74 ～ 79は厚みのあるＣ３タイプである。71は使用による敲きが激しく、平坦面と下端部、側縁部に亀裂が生じてしまっている。79は平坦面に磨りと敲きが施されているが、敲いた後に磨りが行われている。80・81は棒状で扁平なＤ２タイプ、棒状で厚みがあるＤ３タイプは82 ～ 85である。81は上部が欠損してしまっているが、現状からでも80と同様にかなり小さい磨石・敲石類であったことが推定できる。

石皿・台石類（第92図86 ～第93図91）

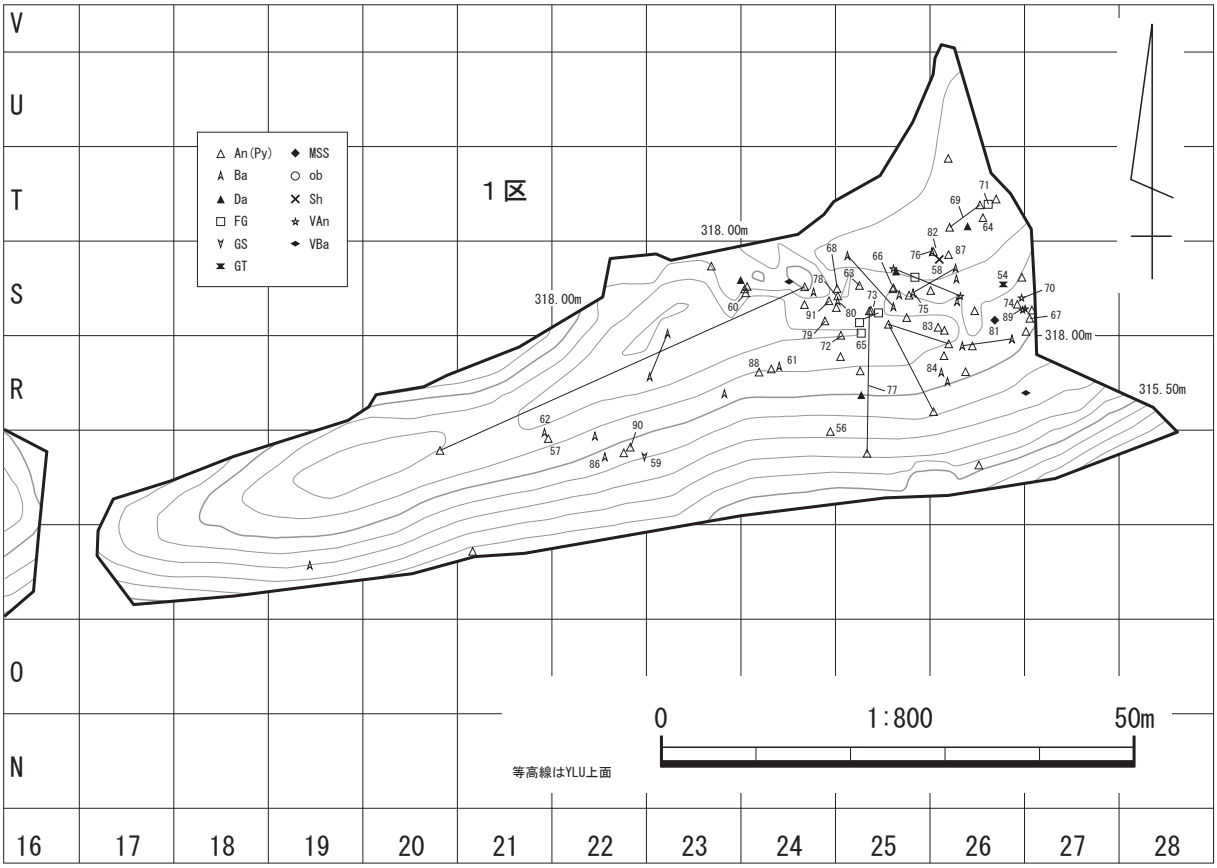
86 ～ 91は石皿・台石類である。86 ～ 89が石皿、90・91が台石である。

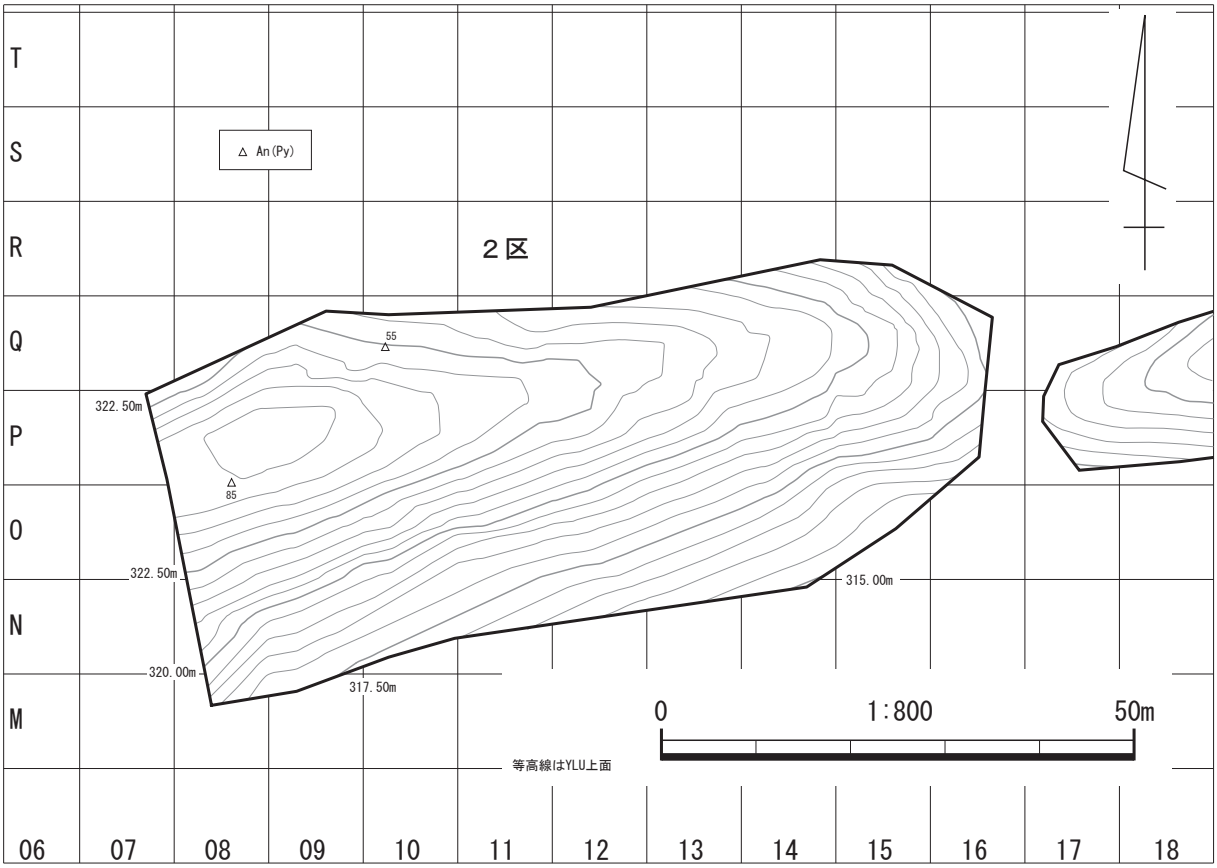
石皿と台石の差違は、平坦面に磨り痕が認められ窪んでいるもの、台石は平坦面に敲き痕しか見られず窪みのないものとした。86、87はあまり窪みが見られず、87は敲き痕が一部見られるが、両者共に磨り痕が明瞭であるため石皿とした。89は断面が台形を呈し安定感に欠けるが、地面を掘り込むか礫で固定して使用したと考えられる。石皿は14点、台石は９点出土し、石材は輝石安山岩製のものが多く、次いで多孔質安山岩、玄武岩の三種類が原材料である。



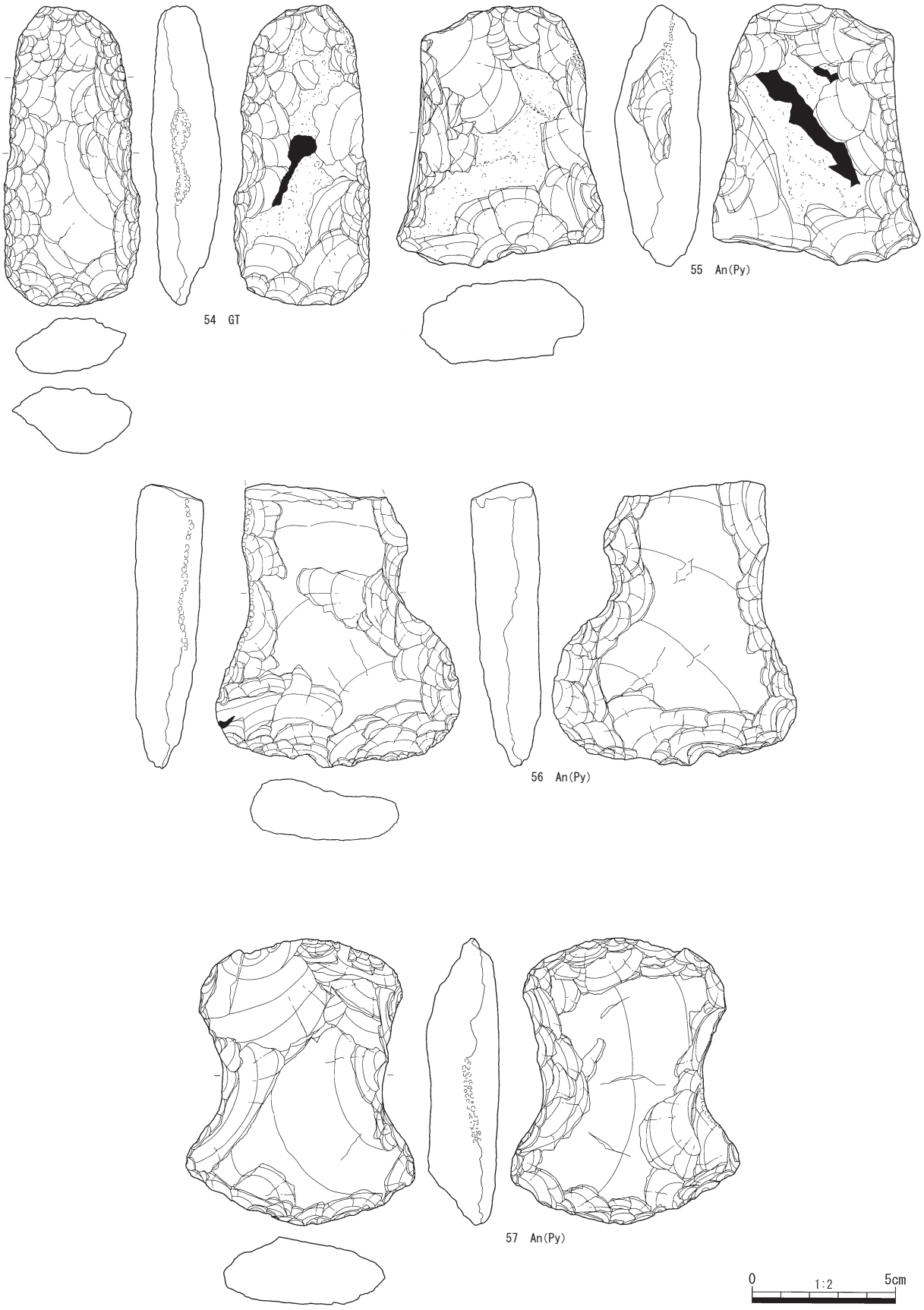


第85図　礫石器器種別分布

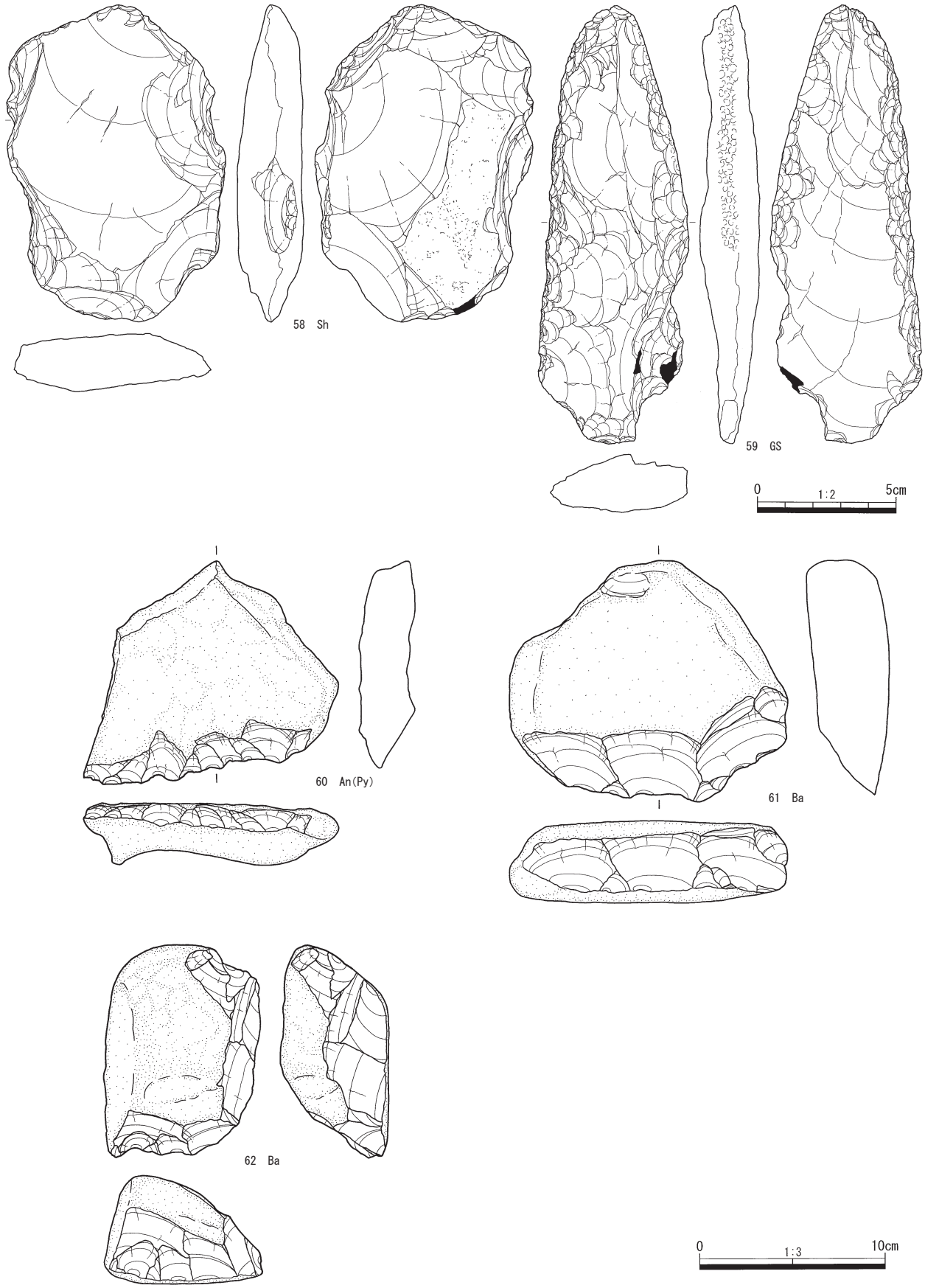




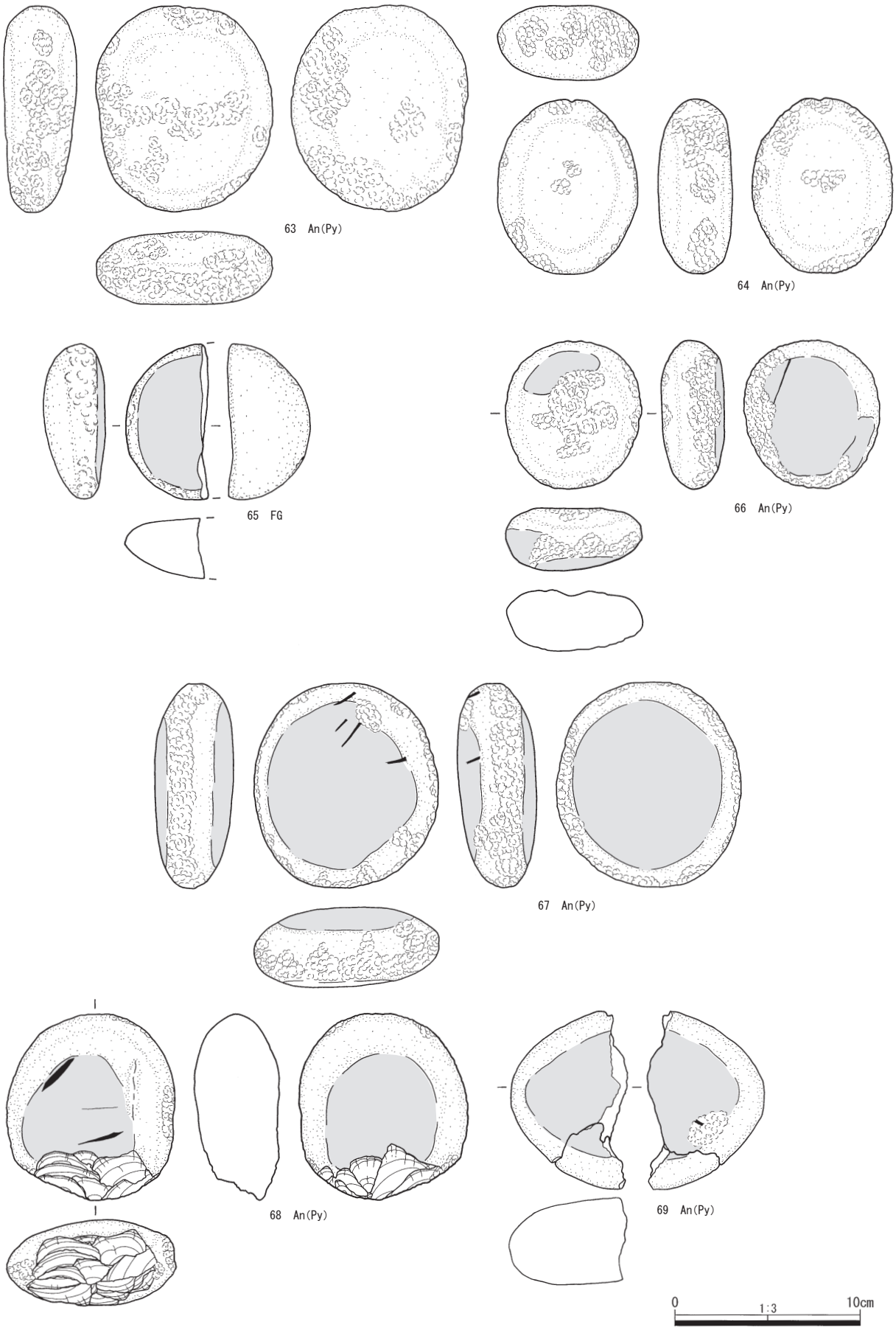
第86図　礫石器石材別分布図



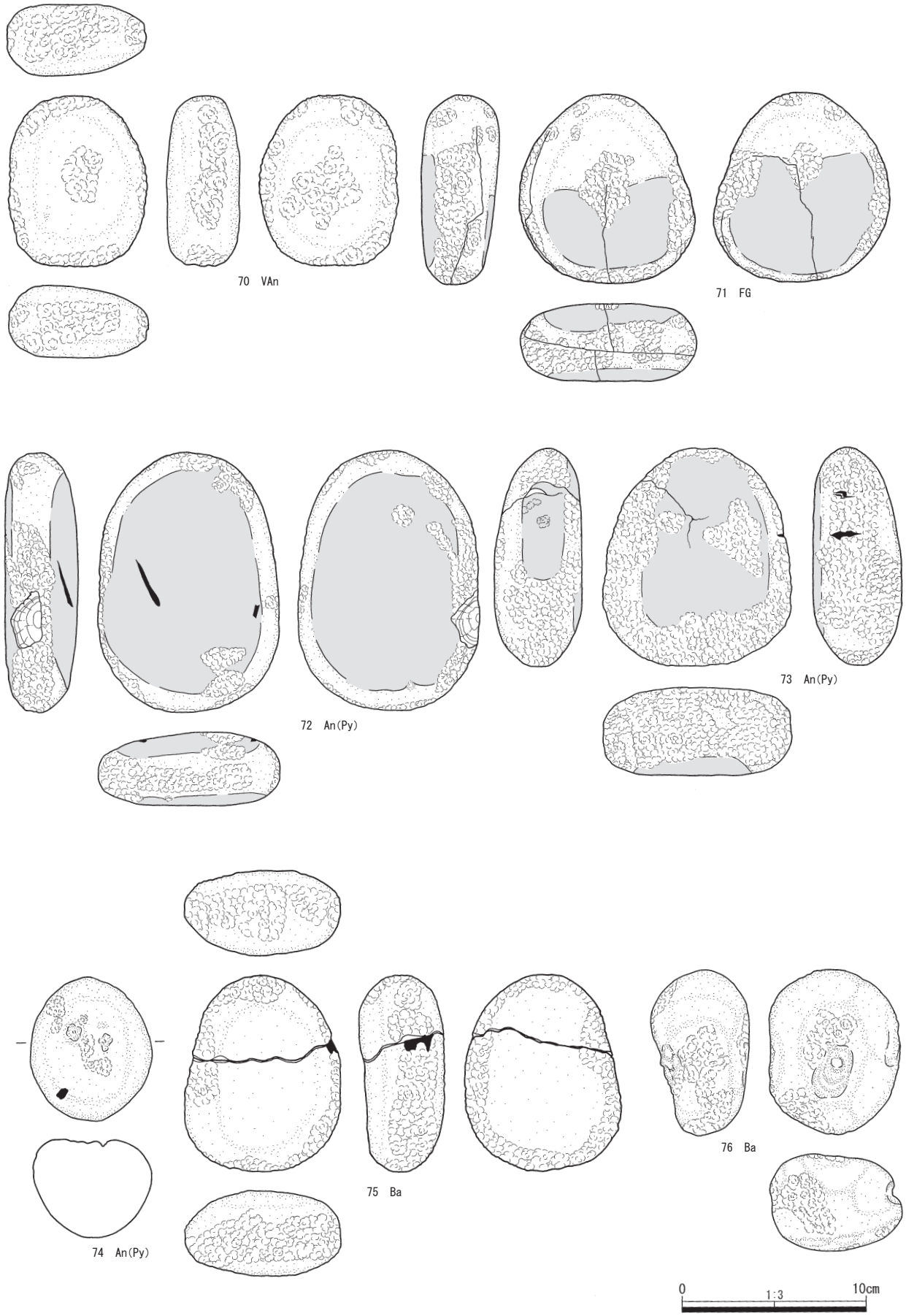
第87図　石器３



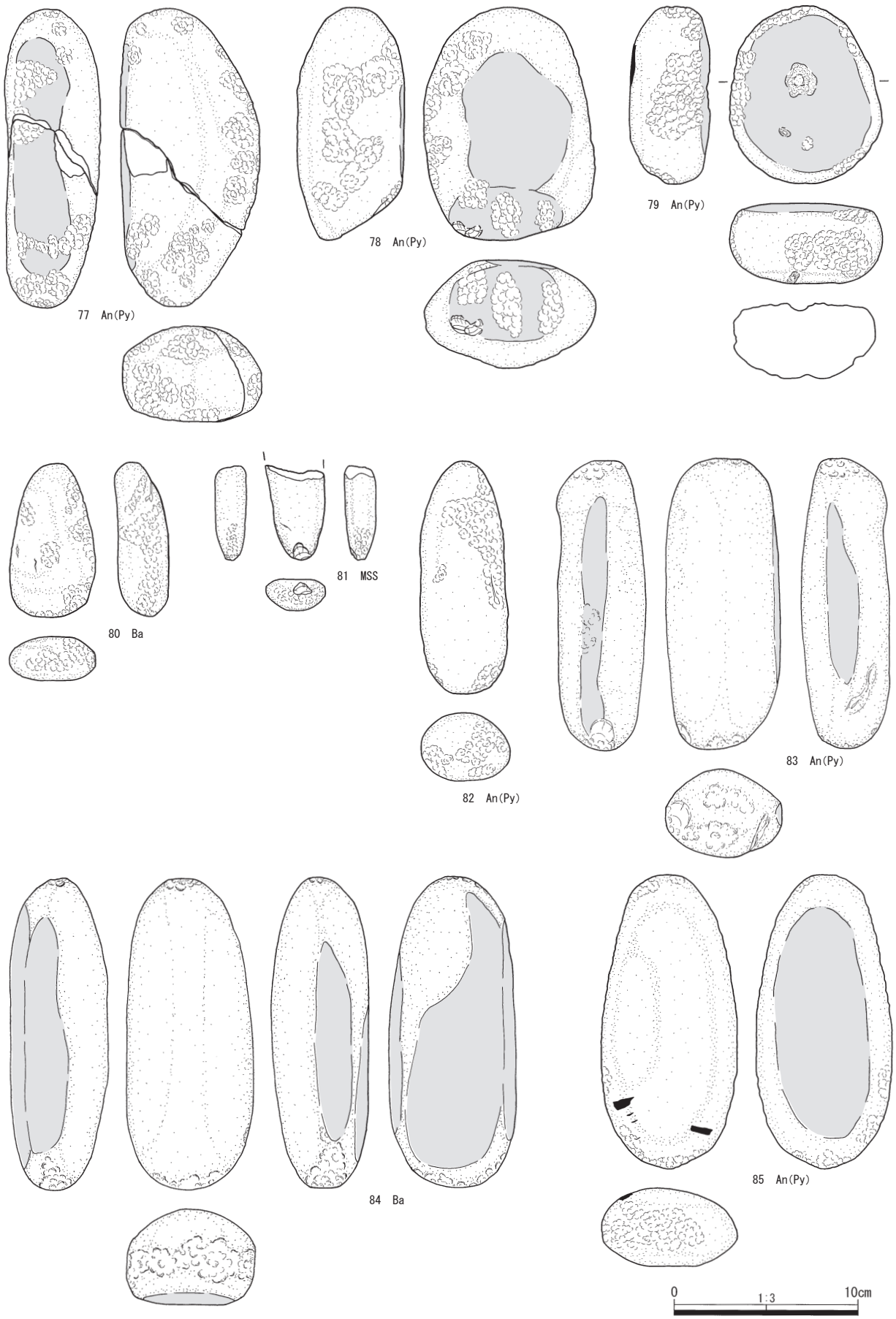
第88図　石器４



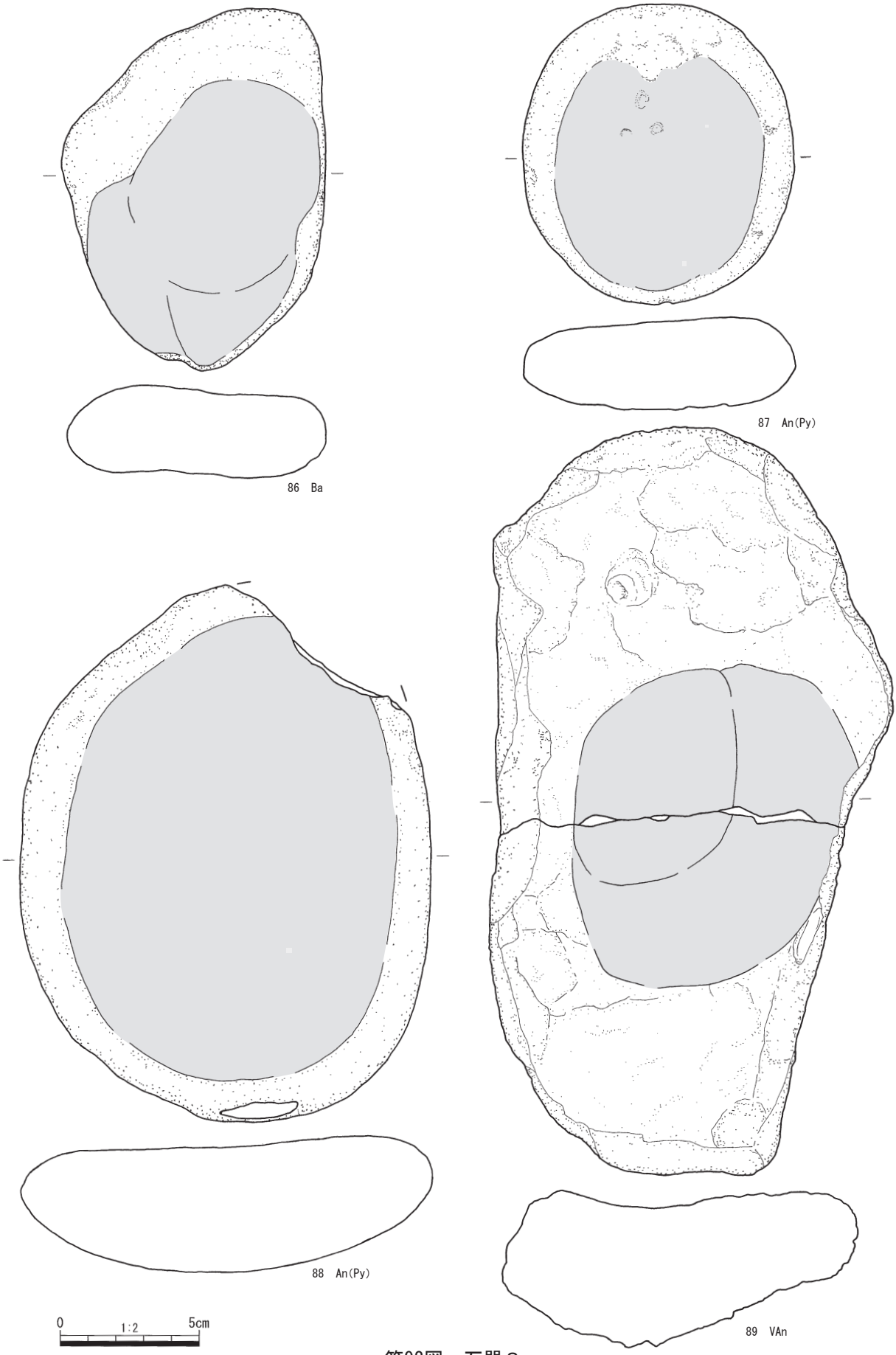
第89図　石器５



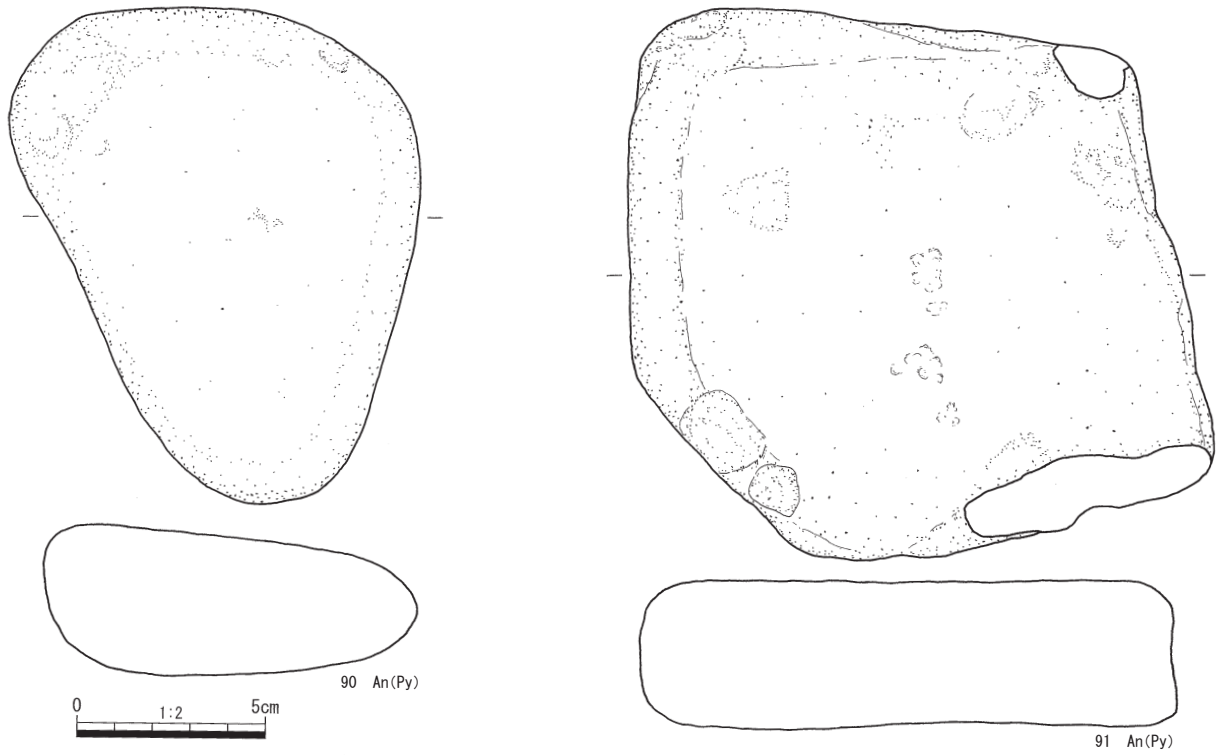
第90図　石器６


77 An(Py)
78 An(Py)
79 An(Py)
80 Ba
81 MSS
82 An(Py)
83 An(Py)
84 Ba
85 An(Py)
0
1:3
10cm

第91図　石器７



第92図　石器８



第93図　石器９

第32表　石鏃組成

石材		黒曜石		合計
		箱根畑宿群	神津島恩馳島群	
石材略号		NHNJ	KZOB	
凹基	尖脚	1	1	2
	円脚	1	1	2
	角脚		2	2
円基			1	1
不明		1		1
合計		3	5	8

第33表　スクレイパー組成

石材		黒曜石			ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	合計
		箱根畑宿群	神津島恩馳島群	未分析			
石材略号		HNHJ	KZOB	－	GAn	FAn	
両刃	端部	1					1
	側縁部	1			1		2
	全周				1		1
片刃	側縁部	1	2	1		1	5
合計		3	2	1	2	1	9

第34表　石核組成

石材		黒曜石			合計
		諏訪星ヶ台群	箱根畑宿群	天城柏峠群	
石材略号		SWHD	HNHJ	AGKT	
打面形状	剥離方法				
A	2	1	1	1	3
B	1			1	1
合計		1	1	2	4

打面形状
A：剥離面を打面とするもの
B：礫面を打面とするもの

剥離方法
1：固定して一方向に剥離
2：転移させながら剥離

第35表　打製石斧組成

石材		輝石安山岩	緑色片岩	緑色凝灰岩	頁岩	合計
石材略号		An (Py)	GS	GT	Hor	
短冊形	片面			1		1
撥型	両面	1				1
分銅型	無し	2			1	3
尖頭型	無し		1			1
合計		3	1	1	1	6

第36表　縄文時代磨石・敲石類組成

石材			玄武岩	多孔質玄武岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	細粒班レイ岩	中粒砂岩	内訳	合計
石材略号			Ba	VBa	An (Py)	FAn	Da	FG	MSS		
形状	断面	使用痕									
A	1	a						2		2	4
	2	a+b+c					1			1	
	3	a+b			1					1	
B	2	a+b		1	4					5	13
		a+b+c			2					2	
		a+b+f			2			1		3	
		a+b+c+f		2	1					3	
	3	a			1					1	14
		b					1			1	
		a+b	3		4		2	1		10	
		c+f			2					2	
C	2	a			2					2	8
		a+b			2			2		4	
		a+b+c				1				1	
		a+b+c+f			1			1		2	
	3	a	2		3					5	26
		d			1					1	
		a+b	3		7					10	
		a+c			1					1	
		a+b+c	1		2					3	
		a+d			2					2	
		a+b+d		1						1	
		a+b+f		1	1					2	
		a+b+c+f			1					1	
D	1	a			2					2	2
	2	a+b	1						1	2	2
	3	a+b			1		1			2	5
		a+b+e	1		1					2	
		a+b+f			1					1	
不明			1		1					2	
合計			12	5	46		5	7	1	77	

形状	断面	使用痕
A：円	1：円	a：端部敲き
B：楕円	2：扁平	b：側縁部敲き
C：不定形	3：厚み	c：平坦面敲き
D：棒状	4：三角	d：端部磨り
		e：側縁部磨り
		f：平坦面磨り

第37表　縄文時代石器組成

石材	黒曜石					玄武岩	多孔質玄武岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	細粒班レイ岩	緑色片岩	ホルンフェルス	緑色凝灰岩	頁岩	中粒砂岩	合計
	諏訪星ケ台群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析														
石材略号	SWHD	HNHJ	AGKT	KZOB	－	Ba	VBa	GAn	FAn	An (Py)	VAn	Da	FG	GS	Hor	GT	Sh	MSS	
石鏃		4		4															8
石鏃未製品			1	1															2
スクレイパー		3		2	1			2	1										9
二次加工剥片	1	2	1	3															7
使用痕剥片		1		1	1														3
剥片	2	2	1	2	128			4	2	3				1	2	1			148
砕片					552														552
石核	1	1	1						1										4
打製石斧										3				1		1	1		6
磨石・敲石類						12	5			46	1	5	7					1	77
礫器						3				3									6
石皿						4				6	4								14
台石						4				7									11
合計	4	13	4	13	682	23	5	6	4	68	5	5	7	2	2	2	1	1	847

第38表　縄文時代石器一覧

遺構名	挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	器種	層位	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合	グリッド	X座標	Y座標	Z座標	タイプ	
1号遺物集中	1		24	504		スクレイパー	JO	GAn		53.9	45.9	12.8	29.59		S-025	-87956.172	35533.896	319.061	A3	
1号遺物集中	2		24	305		二次加工剥片	JO	Ob	KZOB	21.4	16.0	13.8	3.12		S-025	-87956.075	35532.978	319.189		
1号遺物集中	3		24	485		磨石・敲石類	JO	VBa		117.0	101.0	34.0	670	105	S-025	-87956.382	35535.289	319.048	B2	a+b+c+f
				488			JO								S-025	-87954.49	35533.491	319.123		
1号遺物集中	4		24	484		磨石・敲石類	JO	FG		110.0	87.5	36.0	500	115	S-025	-87955.973	35531.707	319.149	C2	a+b
				993			KGP								R-025	-87963.686	35535.035	319.083		
1号遺物集中	5		24	490		磨石・敲石類	JO	Da		87.0	48.0	30.0	120		S-025	-87954.036	35533.933	319.242	D3	a+b
2号遺物集中	6		24	1990		石鏃	JO	Ob	HNHJ	(17.7)	18.4	6.1	(1.71)		S-026	-87953.921	35548.282	318.89	A2	
2号遺物集中	7		24	1924		スクレイパー	JO	Ob	HNHJ	29.1	(13.9)	8.8	(3.42)		S-026	-87953.495	35548.032	318.883	A1	
2号遺物集中	8		24	1836		スクレイパー	JO	Ob	HNHJ	24.3	22.1	8.3	3.90		S-026	-87954.34	35548.194	318.916		
2号遺物集中	9		24	2235		スクレイパー	JO	Ob	KZOB	(21.6)	18.6	4.6	(1.93)		S-026	-87952.733	35547.829	318.871		
2号遺物集中	10		24	1494		二次加工剥片	JO	Ob	HNHJ	29.2	13.6	6.9	2.34		S-026	-87953.605	35548.548	318.907	B2	
2号遺物集中	11		24	1575		磨石・敲石類	JO	An(Py)		61.0	31.5	28.0	71.45		S-026	-87953.929	35548.425	318.989	D1	a
2号遺物集中	12		24	2107		磨石・敲石類	JO	An(Py)		53.0	30.0	35.0	50.85		S-026	-87953.108	35548.181	318.866	B3	a+b
3号遺物集中	15		24	1475		石鏃	JO	Ob	HNHJ	(19.2)	19.3	5.7	(1.85)		S-025	-87957.624	35539.594	318.962	A1	
3号遺物集中	16		24	2289		スクレイパー	JO	Ob	KZOB	(19.7)	15.2	4.7	(1.20)		S-026	-87957.061	35540.125	318.797		
3号遺物集中	17		24	2340		石核	JO	Ob	HNHJ	19.1	36.5	11.2	6.04		S-025	-87956.358	35539.531	318.869	A2	
3号遺物集中	18		24	2197		礫器	JO	An(Py)		89.5	93.0	50.0	450.00		S-025	-87956.521	35539.358	319.065		
3号遺物集中	19		24	2203		磨石・敲石類	JO	An(Py)		114.0	82.5	54.0	760.00		S-025	-87956.457	35538.952	318.924	C3	a+b
	41		27	150		石鏃	JO	Ob	KZOB	15.8	14.1	3.8	0.72		S-025	-87954.608	35532.731	319.043	A2	
	42		27	300	1	石鏃	JO	Ob	KZOB	15.3	14.9	3.6	0.61		S-025	-87957.089	35531.433	319.208	A3	
	43		27	338		石鏃	JO	Ob	KZOB	21.9	14.2	5.0	1.49		S-026	-87959.162	35540.762	319.116	C	
	44		27	469		石鏃未製品	SSC	Ob	AGKT	21.5	19.1	8.2	2.89		S-025	-87957.347	35534.502	319.399		
	45		27	311		スクレイパー	JO	Ob	HNHJ	21.9	15.6	6.8	19.20		R-025	-87965.121	35535.197	318.749	B2	
	46		27	2448		スクレイパー	JO	GAn		(83.0)	40.9	8.2	(29.19)		Q-023	-87974.224	35514.276	317.316	A2	
	47		27	2457		スクレイパー	JO	Ob	未分析	(13.5)	33.3	9.0	(2.44)		T-026	-87942.573	35543.657	319.38	B2	
	48		27	462		スクレイパー	KGP	FAn		118.7	52.4	16.3	75.49		R-025	-87964.576	35530.832	319.211	B2	
	49		27	318		二次加工剥片	KGP	Ob	KZOB	30.0	21.8	11.9	5.19		S-025	-87954.423	35538.625	319.214		
	50		27	317		二次加工剥片	KGP	Ob	KZOB	23.6	17.7	14.2	4.22		S-025	-87958.622	35535.501	319.392	A2	
	51		27	308		剥片	JO	Ob	AGKT	21.4	15.3	9.1	1.67	113	R-025	-87960.784	35531.88	319.244		
				459		二次加工剥片	JO			29.4	16.5	6.6	2.45		R-025	-87968.059	35533.639	318.366		
	52		27	2190		石核	JO	Ob	AGKT	26.6	19.1	18.4	8.03		S-025	-87957.948	35534.739	318.831	B1	
	53		27	458		石核	SSC	FAn		57.1	33.8	40.7	77.11		R-025	-87967.914	35533.096	318.693	A2	
	54		28	598		打製石斧	KGP	GT		103.9	47.0	23.5	149.60		S-026	-87954.578	35547.758	319.165	A2	
	55		28	76		打製石斧	SNZ	An(Py)		89.1	(71.6)	29.3	(228.49)		Q-010	-87975.381	35382.335	322.985	B1	
	56		28	455		打製石斧	JO	An(Py)		96.6	84.8	23.0	229.82		Q-024	-87970.14	35529.459	318.019	D3	
	57		28	1458		打製石斧	KGP	An(Py)		99.8	78.9	24.8	209.49		Q-021	-87970.886	35499.615	319.232	D3	
	58		28	398		打製石斧	JO	Sh		112.6	77.7	23.6	242.70		S-026	-87951.938	35540.99	319.841	D3	
	59		28	1674		打製石斧	KGP	GS		156.9	51.3	21.0	185.52		Q-022	-87972.832	35509.788	318.36	E3	
	60		28	1363		礫器	JO	An(Py)		119.0	136.5	33.0	590		S-024	-87955.473	35520.507	318.962		
	61		28	1075		礫器	JO	Ba		129.0	148.5	44.0	1070		R-024	-87963.244	35524.049	319.066		
	62		28	2047		礫器	JO	Ba		114.0	84.0	58.0	680		Q-021	-87970.234	35499.215	319.184		
	63			151		磨石・敲石類	JO	An(Py)		110.0	94.0	39.0	560		S-025	-87954.695	35532.536	319.001	B2	a+b+c
	64			547		磨石・敲石類	JO	An(Py)		93.5	75.0	40.0	420		T-026	-87947.519	35545.602	319.589	B2	a+b+c
	65			467		磨石・敲石類	KR	FG		83.5	(44.5)	33.5	(170)		S-025	-87959.741	35532.726	319.761	B2	a+b+f
	66		29	1161		磨石・敲石類	JO	An(Py)		79.0	72.5	33.5	260		S-025	-87954.947	35536.133	319.091	B2	a+b+c+f
	67		29	2462		磨石・敲石類	JO	An(Py)		109.0	99.0	42.5	680		S-027	-87958.169	35550.556	318.238	B2	a+b+f
	68			896		磨石・敲石類	KGP	An(Py)		(100.0)	90.0	46.0	(510)		S-025	-87955.019	35530.167	318.913	B3	a+b
	69			643		磨石・敲石類	KGP	An(Py)		95.0	63.0	46.5	350	107	T-026	-87946.172	35545.287	319.634	B3	c+f
				674			KGP								T-026	-87948.541	35542.076	319.739		
	70		29	1964		磨石・敲石類	JO	VAn		92.0	75.0	39.0	370		S-026	-87955.991	35549.702	318.934	C2	a+b+c
	71			644		磨石・敲石類	KGP	FG		102.0	94.5	42.0	650		T-026	-87946.104	35546.159	319.666	C2	a+b+c+f
	72		29	466		磨石・敲石類	JO	An(Py)		139.0	98.0	39.5	850		S-025	-87959.966	35530.57	319.49	C2	a+b+c+f
	73		29	1147		磨石・敲石類	JO	An(Py)		117.0	102.0	47.5	730		S-025	-87957.326	35533.751	319.089	C2	a+b
	74			1965		磨石・敲石類	JO	An(Py)		77.5	66.0	53.0	350		S-026	-87956.679	35549.238	318.94	C3	a+c
	75			397		磨石・敲石類	JO	Ba		106.0	84.0	47.0	600	102	S-026	-87952.851	35542.7	319.672	C3	a+b
				1558			JO								S-025	-87955.456	35538.209	318.906		
	76		29	395		磨石・敲石類	JO	Ba		89.0	71.0	52.5	400		S-026	-87951.097	35540.204	319.703	C3	a+b+c
	77		29	450		磨石・敲石類	JO	An(Py)		160.5	75.0	51.5	940	103	Q-025	-87972.447	35533.339	317.084	C3	a+d
				1146			JO								S-025	-87957.39	35533.575	319.128		
	78			920		磨石・敲石類	KGP	An(Py)		125.0	92.5	58.0	870		S-025	-87955.797	35530.248	319.1	C3	a+b+f
	79		29	910		磨石・敲石類	KGP	An(Py)		96.0	82.0	44.0	430		S-024	-87958.446	35528.886	319.344	C3	a+b+c+f
	80			1752		磨石・敲石類	JO	Ba		83.0	46.0	29.0	140		S-025	-87956.357	35530.234	319.026	D2	a+b
	81		29	1531		磨石・敲石類	JO	MSS		(51.0)	32.0	17.0	(39.62)		S-026	-87958.364	35546.854	318.79	D2	a+b
	82			396		磨石・敲石類	JO	An(Py)		125.0	47.5	36.5	290		S-026	-87951.104	35540.354	319.676	D3	a+b
	83		29	406		磨石・敲石類	JO	An(Py)		157.0	63.0	48.0	700		S-026	-87959.122	35540.863	319.12	D3	a+b+e
	84		29	409		磨石・敲石類	JO	Ba		168.0	69.0	52.5	900		R-026	-87963.877	35541.2	318.693	D3	a+b+e
	85			163		磨石・敲石類	KGP	An(Py)		158.0	73.5	42.0	690		P-008	-87989.729	35366.07	324.746	D3	a+b+f
	86		29	1676		石皿	JO	Ba		258.0	189.5	77.0	4120		Q-022	-87972.811	35505.604	318.452		
	87		29	1526		石皿	JO	An(Py)		215.0	173.0	65.0	3900		S-026	-87951.424	35541.963	319.374		
	88			2006		石皿	JO	An(Py)		386.0	293.0	97.5	16120		R-024	-87963.86	35521.914	319.028		
	89		29	1962		石皿	KGP	VAn		537.5	292.0	138.0	19430	112	S-026	-87957.267	35549.814	318.882		
				1963			KGP								S-027	-87957.156	35550.07	318.846		
	90			1675		台石	SSC	An(Py)		262.0	217.0	80.0	6710		Q-022	-87971.803	35508.29	318.856		
	91		29	2004		台石	JO	An(Py)		291.5	311.0	94.5	13380		S-024	-87956.311	35529.31	319.078		

（　　）は欠損

タイプ

≪石鏃≫

基部	脚部
A:凹基	1:尖脚
B:平基	2:円脚
C:円基	3:角脚
D:不定形	4:脚部不明
E:不明	

≪スクレイパー≫

刃部加工	加工部位
A:両刃	1:端部
B:片刃	2:側縁部
	3:全周

≪石核≫

打面形状	剥離方法
A:剥離面を打面とするもの	1:固定して一方向に剥離
B:礫面を打面とするもの	2:転移させながら剥離

≪打斧≫

形状	礫面
A:短冊型	1:両面
B:撥型	2:片面
C:杓文字型	3:なし
D:分銅型	
E:尖頭型	
F:不明	

≪磨石・敲石類≫

形状	断面	使用痕
A:円	1:円	a:端部敲き
B:楕円	2:扁平	b:側縁部敲き
C:不定形	3:厚み	c:平坦面敲き
D:棒状	4:三角	d:端部磨り
		e:側縁部磨り
		f:平坦面磨り

第５章　藤畑遺跡

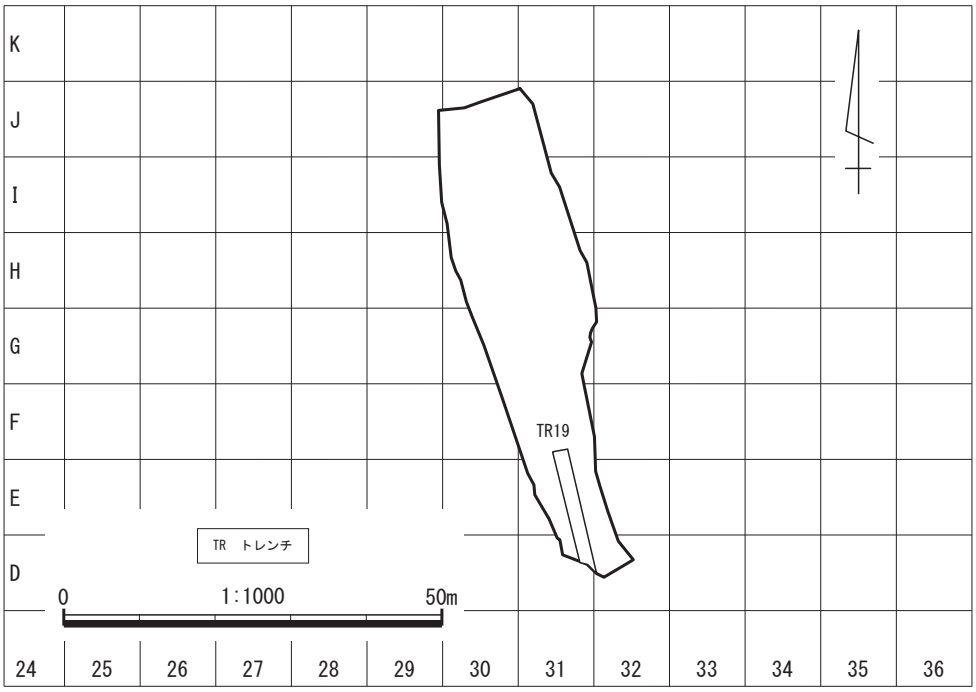
第１節　調査の方法と経過

藤畑遺跡は裾野市葛山字大端ヶ1160-1他に所在し、葛山大端ヶⅠ遺跡の同丘陵の東側斜面に位置する。第二東名№150-2地点の３区である。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅷ系（Ｘ＝-88140.0、Ｙ＝35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10ｍのグリッドを設定した。Ｘ軸に対して西から東へアラビア数字、Ｙ軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をつけた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。なお機械実測、遺物の取り上げは、トータルステーションとコンピューターを用いた。遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はＰ、石器はＳ、礫はＲ、炭化物はＣとそれぞれ記号を付した。測量データは、シン技術コンサルの『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35㎜サイズの小型カメラ、および６×７㎝サイズの中型カメラを使用した。また全景写真を撮影するために、ローリングタワーを用いて撮影を行った。

調査面積は800㎡で、確認調査は平成15年９月から、本調査も12月から翌年２月まで行った。調査区の南側にトレンチを設定し掘り進めた結果、土坑を１基検出した。その後調査区全体を休場層上面まで掘り下げたが、他の遺構及び遺物は出土しなかった。

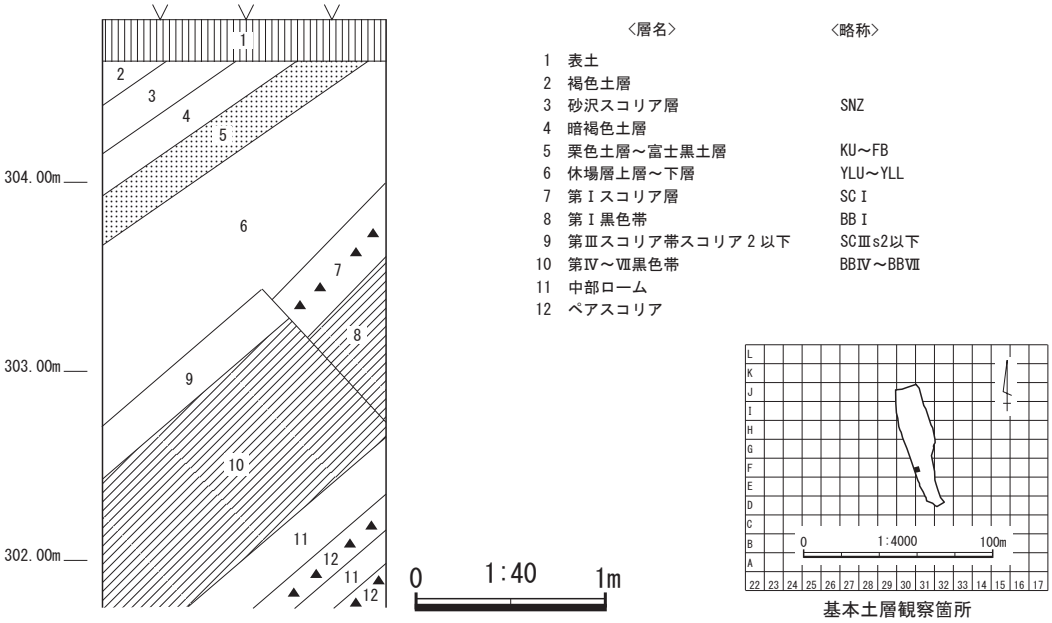


第94図　トレンチ配置

第２節　基本層序

藤畑遺跡の基本層序を第95図に示す。基本的には葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡と同様に愛鷹山麓の標準的層位であるが隆起が激しい尾根状であるため各層が斜めに入っている。各層位は以下の通りである。

第１層　表土
第２層　褐色土層
第３層　砂沢スコリア層
第４層　暗褐色土層
第５層　栗色土層～富士黒土層　7.5YR4/6 ～ 7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径２～４㎜）少量含む。
第６層　休場層上層～下層　7.5YR5/8 ～ 7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～４㎜）、黒色スコリア（径１～６㎜）、明赤褐色スコリア（径１～５㎜）を少量含む。
第７層　第Ⅰスコリア層　7.5YR3/4　締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径２～７㎜）を多量に含む。赤褐色スコリア（径１～５㎜）、黄色ラピリ少量含む。
第８層　第Ⅰ黒色帯　7.5YR3/4　締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径３～７㎜）、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア（径１～４㎜）少量含む。
第９層　第Ⅲスコリア帯スコリア２以下　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径２～４㎜）多量に含む。赤褐色スコリア（径１～７㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）、黄色ガラス（径１㎜）少量含む。
第10層　第Ⅳ～Ⅶ黒色帯　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）、黒色スコリア（径２～７㎜）多量に含む。
第11層　中部ローム　7.5YR4/6　締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径１～３㎜）多量に含む。
第12層　ペアスコリア



第95図　基本土層

第３節　旧石器時代の遺構と遺物

１　遺構

旧石器時代のものと考えられる遺構は検出されていない。

２　遺物

旧石器時代のものと考えられる遺物は出土していない。

第４節　縄文時代の遺構と遺物

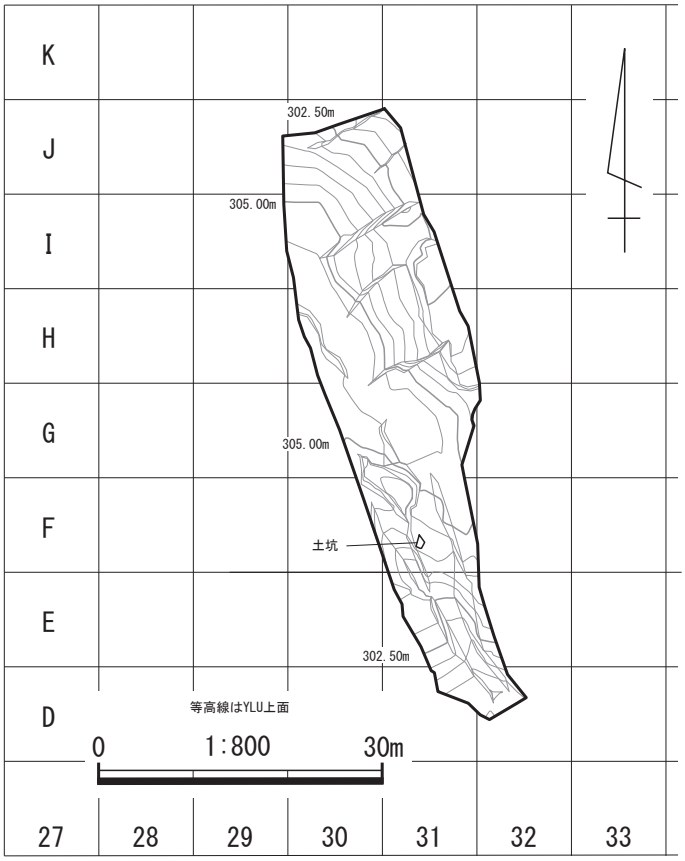
１　遺構

土坑（第97図）

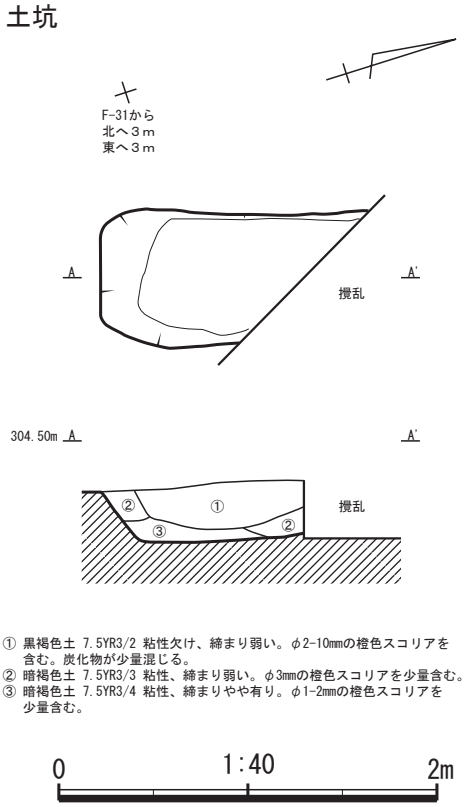
縄文時代の遺構は、土坑が１基検出されている。南北方向の長方形を呈し、北側の半分近くが撹乱によって切られており、全体の形状は不明である。深さ0.3m程で休場層上面を掘り込んでいるが、縄文時代のものと考えられる。

２　遺物

縄文時代のものと考えられる遺物は出土していない。



第96図　縄文時代遺構位置



第97図　土坑

第６章　まとめ

第１節　葛山大端ヶＩ遺跡

１　旧石器時代

文化層は２層に分かれた。上層である第Ⅱ文化層からは礫群が１基検出された。礫群からは石核、剥片、砕片が出土し、剥片には使用した痕跡が見られ、礫も半数が赤化しススも付着していることから、人間の活動痕跡が明確に認められる。石器素材の半数以上を黒曜石が占め、その産地は諏訪星ヶ台群産と蓼科冷山群産がほぼ半数ずつを占めるため、主にこの地域からの供給に頼っていたと想定される。礫群以外の遺構が見られないことや、石器の出土量もごく少数に限られることから、短期的なキャンプ地として利用されたと考えられる。

２　縄文時代

縄文時代の調査では、集石７基、土坑17基、焼土２基、遺物集中４ヶ所が検出された。そのうち土坑は５基が逆茂木痕と考えられる穴が底面に掘り込まれていた。遺物集中の出土遺物は石器と礫のみであった。特に３号遺物集中からは大量の剥片と砕片が出土しており石器の製作場であったのであろうか。また、４号遺物集中は磨石・敲石類と石皿・台石類とがセットになって出土しており、赤化した礫も見られることから調理場であった可能性がある。焼土は逆茂木痕を伴った土坑の近くに位置し、土坑の多くは遺跡の東南側斜面に位置していた。この逆茂木痕を伴う土坑は獲物獲得用の狩猟穴であったと考えられ、斜面地に獲物を追い込み土坑に落とし捕獲し、すぐそばで調理した痕跡が焼土として残ったのであろう。

南側の尾根に隣接する葛山上條遺跡では、出土土器は、早期は撚糸文土器と無文土器、前期の諸磯ｂ式土器、後期の堀之内１式土器であり、中期は皆無である。本遺跡では、葛山上條遺跡と比べ、早期の土器型式のバリエーションが多く、中期の時期がむしろ主体的であるので、隣接していてもやや異なる様相を示している。また、炭化物分析の結果からは中期と後期初頭頃という結果が出ており、中期中葉頃の炭化物はコナラ属の子葉と同定されていることから、食用であったと推定される。よって、この時期に人々の活動が活発であったと考えられる。土器の地域性については、早期では中部地方の貝殻・沈線文系土器である判ノ木山西式土器、関東の撚糸文系土器、打越式土器、東海系の条痕文土器である入海式土器、前期は関東の諸磯式土器と十三菩提式土器、中期は関東から中部地方の勝坂式土器と呼ばれる新道式土器、藤内式土器、井戸尻式土器と加曽利Ｅ式土器、山梨を中心とした曽利式土器等が見られる。後期は関東の堀之内式土器が見られる。このように本遺跡の土器様相は、関東の土器を中心として中部地方や東海の影響も受けていたことが見て取れる。

石器は、剥片石器、礫石器ともに器種が比較的多く見られる。すなわち、剥片石器は石鏃を主体的にスクレイパーや石錐などの加工具が見られ、礫石器も打製石斧や磨石・敲石類を中心として礫器、台石が見られる。また、石器の原材料であるが、剥片石器は黒曜石製のものが圧倒的に多く、ガラス質黒色安山岩製やホルンフェルス製のものが僅かに見られる。黒曜石の産地については、製品のみの分析結果からだが、半数近くを諏訪星ヶ台群産のものが占め、次いで神津島恩馳島群産のものが30％近く、箱根畑宿群産のものが15％、蓼科冷山群産がわずか４％に留まっている。明らかに旧石器時代とは供給源や割合に変化が生じており、比較的近い所からも供給されるようになったことが見て取れる。

礫石器の石材は輝石安山岩と玄武岩、多孔質玄武岩のものが主体を占めている。

遺構については、その帰属時期はほとんど不明であるが、遺物の出土量から見るとその多くは中期に属すると思われる。両者ともに土坑、集石、焼土が検出されており、全時期を通じて竪穴住居跡など居住の痕跡を示すような遺構は検出されていない等同様な様相を示している。以上の事象より総合的に勘案すると、本遺跡の性格は葛山上條遺跡と同様の狩り場のような一時的なキャンプ地として利用されていたと考えられる。

第２節　葛山大端ヶⅢ遺跡

１　旧石器時代

旧石器時代の遺構は、礫群が１基検出されており、遺物は礫群出土の礫と包含層出土の礫のみであり、石器は出土しなかった。礫は、礫群を含めて比較的高位度の場所から出土しており、ほとんどが赤化して破損しており、人間による何らかの活動の痕跡と考えられるが、他の遺物や遺構が見つからなかったため遺跡の詳細は不明である。尾根を挟んで北側に隣り合う葛山大端ヶⅡ遺跡でも黒曜石製の剥片が１点出土したのみであり、同様に詳細は明らかになっておらず、短期的なキャンプ地としての利用を想定している。

２　縄文時代

縄文時代の遺構は13基の土坑と遺物集中箇所が３ヶ所である。土坑はほとんど逆茂木痕が認められず、１基のみ４本の逆茂木痕が認められ、狩猟用の陥穴と考えられる。しかし、大端ヶⅠ遺跡と異なり、逆茂木痕を伴った狩猟用の土坑の少なさや焼土が見られないことから、キャンプ地としての利用は少なかったことが推測される。

遺物については、まず土器は早期から後期までの土器が出土している。型式で言えば、早期は関東の撚糸文系土器、関東の野島式土器、中部地方の判ノ木山西式土器、東海の条痕文系土器、前期は関東の諸磯式土器と十三菩提式土器、中期は勝坂式土器である狢沢式土器、藤内式土器、後期は関東の堀之内式土器が見られる。大端ヶⅠ遺跡と同様に関東を中心とした土器型式で、中部地方や東海系の影響も少なからず受けているが、型式や出土量の点で中期が非常に少ないのが大端ヶⅠ遺跡との明確な違いであり、本遺跡の最盛期は早期であったと考えられる。

石器については、剥片石器は出土量、バリエーションともにそれほど多くはなく、また大端ヶⅠ遺跡と違い、剥片、砕片などの遺物集中箇所も見られないことから、石器の製作が行われていた可能性は考えられない。一方、礫石器については出土量が比較的多く、特に磨石・敲石類や石皿・台石類が豊富に出土していることから、何らかの食料の加工がさかんに行われたと考えられる。石器の石材であるが、剥片石器は黒曜石が比較的多く、それ以外には細粒安山岩やガラス質黒色安山岩が見られる。礫石器に関しては輝石安山岩と玄武岩が主体的である。黒曜石の産地分析の結果を見てみると、箱根畑宿群産のものと神津島恩馳島群産のものが４割ずつを占め、箱根畑宿群産は天城柏峠群産製品と同じく僅か９％である。また、産地はこの４ヶ所だけであり、蓼科冷山群産の製品は見られない。これは石器構成が概ね同様である葛山大端ヶⅠ遺跡との明確な差違点であり、遺跡の活動時期の違いを示しているのであろうか。

第３節　藤畑遺跡

旧石器時代のものと考えられる遺構、遺物は確認されなかった。縄文時代については、土坑が１基検出されたのみで、遺物の出土はない。検出された土坑は撹乱によって大部分が失われており、その性格は判然としない。遺跡の性格を特定できるような遺構、遺物が見つかっていないため詳細は不明であるが、本遺跡は愛鷹山東麓丘陵の尾根の裾野にあることから、人間の活動場所は低地よりも尾根上であったと推測できる。また、本遺跡の所々で断層のズレが生じており、このように隆起した特異な地形であったことも人々の活動場所を限定させる要因であったのではなかろうか。

［参考文献］

青島邦夫　2002「縄文時代の陥し穴について～愛鷹山麓・箱根山麓の遺跡から～」『静岡県埋蔵文化財調査研究所紀要』第９号　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

芦川忠利　1990『三島スプリングス C.C ゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』三島市教育委員会

芦川忠利　1994『五輪・観音洞・元山中・陰洞遺跡Ⅰ　－グランフィールズ C.C ゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書－』三島市教育委員会

阿部芳郎　1997「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

池谷信之　1990『広合遺跡（ｂ・ｃ・ｄ区）・広合南遺跡』沼津市教育委員会

池谷信之　1991『広合遺跡（ｅ区）・二ッ洞遺跡（ａ区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之　1996『柏葉尾遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之　2001『葛原沢第Ⅳ遺跡（ａ・ｂ区）発掘調査報告書１』沼津市教育委員会

池谷信之　2002『西洞遺跡（ｃ・ｄ区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之　1995「愛鷹・箱根山麓の層序と出土石器」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』静岡県考古学会

池谷信之　2003「縦位密接施文から異方向帯状施文へ－駿豆地方押型文土器の変遷と立野式－」『利根川』24・25　利根川同人会

池谷信之・守屋豊人　1999「関東・中部・東海地方　早期（押型文系土器）Ⅱ・列島における縄文土器型式研究の成果と課題（2）」『縄文時代』10　縄文文化研究会

今福利恵　1999「山梨県内の諸磯式土器」『前期後半の再検討』縄文セミナーの会

植松章八　2008「東駿河の奈良・平安時代遺跡と土器」『祢宜ノ前遺跡』富士市教育委員会

小林謙一編　2007『AMS 炭素14年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究』平成17年～18年度科学研究費補助金基盤研究（Ｃ）（１）研究成果報告書　研究代表者小林謙一

小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』アムプロモーション

笹原千賀子　2009「ふたつの「野島」－長泉町梅ノ木沢遺跡の第Ⅱ群土器－」『研究紀要』第15号　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

下島健弘　2003「縄文時代早期清水柳Ｅ類の成立過程」『利根川』24・25　利根川同人会

縄文集落研究グループセツルメント研究会編　2004『縄文集落研究の新地平３－勝坂から曽利へ－発表要旨・資料集』シンポジウム資料

裾野市　1993『裾野市史』第１巻　資料編　考古
裾野市　2000『裾野市史』第８巻　通史編Ⅰ　考古
裾野市　2001『裾野市史』第９巻　通史編Ⅱ　考古
関野哲夫　1992『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ　その１　－考古学的調査－』沼津市教育委員会
田中総　1997「中部・東海地方における沈線文土器の様相」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
原田雄紀・小崎晋・北佳奈子・池谷信之　2010『尾壱遺跡（第２次）・清水柳北遺跡（第２次）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
毒島正明　2007「野島式研究序論－山内清男氏の茅山式を中心として－」『土曜考古』第31号　土曜考古学研究会
毒島正明　2009「「清水柳Ｅ類土器」の学史的整理」静岡県考古学会東部例会（2009・09・12）資料
細田勝　1999「南関東における諸磯式土器の様相」『前期後半の再検討』縄文セミナーの会
前島秀張　1995「第４期・第５期の石器群」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』静岡県考古学会
守屋豊人　1997「中部地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代 (早期) 部会
矢野健一　1993「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガティブな楕円文を有する押型文土器群の再検討」『考古学雑誌』第78巻第4号　日本考古学会
領家正浩　2008「貝殻・沈線文土器」『縄文時代の考古学２』同成社

なお、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県埋蔵文化財センター発行の報告書については割愛した。

附　編

葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授　望月　明彦

1　分析法　　エネルギー分散蛍光X線分析法（EDX）

2　分析装置　　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計　SEA-2110L

3　分析条件

管電圧：50Kv　　雰囲気：真空
管電流：自動設定　　照射径：10mm
測定時間：240sec　　検出器：Si（Li）半導体検出器

4　測定元素　　Al（アルミニウム）、Si（ケイ素）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）

5　試料の洗浄　　５分間（汚れがひどい場合は15分間）超音波洗浄器で洗浄。
さらに汚れを拭き取ってから測定。

6　産地推定法

（1）得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表す。２つの方法とも以下の指標を用いる。

指標　　Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。
Rb 分率 = Rb/Sum
Sr 分率 = Sr/Sum
Zr 分率 = Zr/Sum
Mn*100/Fe
log（Fe/K）

（2）図1に上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。
（3）測定結果から上記の指標を算出する。
（4）以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。
（5）下記の２つの方法で産地推定を行う。

①　判別図法（判別図参照）

用いる指標　：図２・４　横軸：Rb 分率、縦軸：Mn/Fe
：図３・５　横軸：Sr 分率、縦軸：log（Fe/K）
特長　：簡単な計算であり、誰にでも作成可能。
視覚的に確認でき、分かりやすい。
推定方法　：遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。
指標を図にプロットする。
重なった原石産地を推定結果とする。

② 判別分析（推定結果表参照）

用いる指標　：算出された指標全て

特長　　：各産地との類似度を距離で算出。
既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。
→未知の産地の判別はできない。

推定方法　　：判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。
この産地は試料と2次元的に最も距離が近い。
判別分析ではこの距離を数学的にｎ次元で計算する。
試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。
この距離から、各産地に属する確率を計算する。

産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L 蛍光 X 線分析装置による）

都道府県	地図 No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂 (19)、八号沢露頭 (31)、八号沢 (79)、黒曜の沢 (6)、幌加林道 (4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢 (16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住 (25)、清水ノ沢 (9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台 (6)、雨紛台 (5)、春光台 (5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川 (10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田 (6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川 (25)、土木川 (15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉 (16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸 (34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園 (8)、六角沢 (8)、岡崎浜 (40)
	25	小泊	折腰内群		KDOK		折腰内海岸 (8)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉 (37)、脇本海岸 (98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸 (16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前 (30)、朝日町田代沢 (18)、櫛引町中沢 (18)
			今野川群		HGIN		今野川 (9)、大網川 (5)
岩手	26	北上川	折居1群		KKO1		水沢市折居 (36), 花巻日形 (36), 雫石小赤沢 (22)
	27		折居2群		KKO2		水沢市折居 (23), 花巻日形 (8), 雫石小赤沢 (2)
	28		折居3群		KKO3		水沢市折居 (5)
宮城	29	宮崎	湯ノ倉群		MZYK		宮崎町湯ノ倉 (54)
	30	色麻	根岸群		SMNG		色麻町根岸 (48)
	31	塩竈	塩竈群		SGSG		塩竈市塩竈漁港 (22)
	32	仙台	秋保1群		SDA1		仙台市秋保土蔵 (17)
			秋保2群		SDA2		仙台市秋保土蔵 (35)
新潟	13	新発田	板山群		SBIY		板山牧場 (40)
	14	新津	金津群		NTKT		金津 (29)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢 (50)、桜沢 (20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢 (9)、自然の家 (9)
長野	16	和田 (WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山 (53)、小深沢 (54)、東餅屋 (36)、芙蓉ライト (87)、古峠 (50)、土屋橋北 (83)、土屋橋西 (29)、土屋橋南 (68)、丁字御領 (18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田 (WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢 (36)、ブドウ沢右岸 (18)、牧ヶ沢上 (33)、牧ヶ沢下 (36)、高松沢 (40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区 (36)、星ヶ塔第2鉱区 (36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園 (36)、水月公園 (13)、星ヶ塔のりこし (36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山 (33)、麦草峠 (36)、麦草峠東 (33)、渋ノ湯 (29)、美し森 (4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池 (34)
			双子山群		TSHG		双子池 (26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山 (31)、亀甲池 (8)

都道府県	地図 No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯 (34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿 (71)
			黒岩橋群	箱根系 A 群	HNKI	HKNA	黒岩橋 (9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋 (30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀 (18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠 (80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島 (100)、長浜 (43)、沢尻湾 (8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎 (40)、長浜 (5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中 (30)、久見採掘現場 (18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸 (30)、加茂 (19)、岸浜 (35)
			岬群		OKMT		岬地区 (16)
その他			NK 群		NK		中ッ原1G、5G（遺跡試料）, 原石産地は未発見

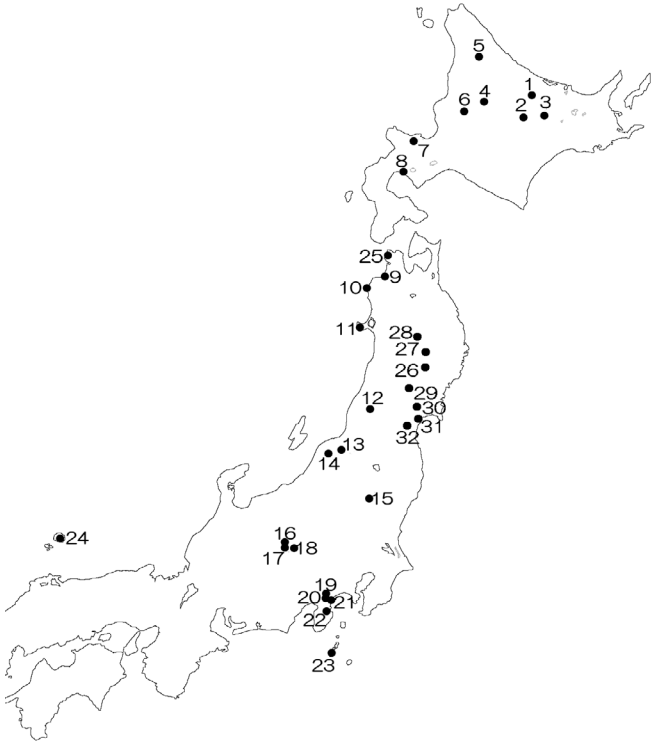


図１　原石を分析・採取した黒曜石産地

出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表（葛山大端ヶⅠ遺跡）

＜表中用語＞判別図判別群：判別図法によって推定された産地
判別分析と結果が異なるときは“*”をつけて示す。
判別分析：第１候補産地…判別分析により推定された産地の第１候補
第２候補産地…判別分析により推定された産地の第２候補
判別群：候補産地記号
判別図法による産地と通常は一致する。
距離：試料から候補産地までのマハラノビス距離
値が小さいほど候補産地と類似性が高い。
確率：試料が候補産地に属する確率
１に近いほど類似性が高い。

判別図法・判別分析からの最終推定結果　　判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK5-15	L150-1	2521	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.91	1	SBIY	95.81	0
MOK5-16	L150-2	2548	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.04	1	KZSN	71.51	0
MOK5-17	L150-3	2549	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.51	1	HNKI	39.66	0
MOK5-18	L150-4	2550	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.91	1	KZSN	30.85	0
MOK5-19	L150-5	2551	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK5-20	L150-6	2552	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.76	1	SBIY	161.13	0
MOK5-21	L150-7	2806	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK5-79	L150-8	2836	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.04	1	SBIY	102.03	0
MOK5-80	L150-9	2841	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.05	1	SBIY	126.73	0
MOK5-81	L150-10	2846	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.75	1	SBIY	134.87	0
	L150-11	2854	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00719	L150-12	359	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.42	1	WDTN	66.54	0
MK11-00720	L150-13	368	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.73	1	HNKT	107.7	0
MK11-00721	L150-14	399	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.73	1	KZSN	65.44	0
MK11-00722	L150-15	498	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.19	1	SBIY	84.86	0
MK11-00723	L150-16	516	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.14	1	WDTN	81.91	0
MK11-00724	L150-17	2135	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.74	1	SBIY	57.69	0
MK11-00725	L150-18	2234	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00726	L150-19	2291	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.26	1	SBIY	65.73	0
MK11-00727	L150-20	2308	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.36	1	SBIY	84.9	0
MK11-00728	L150-21	2917	和田古峠群	*WDKB	WDHT	3.67	1	WDTK	66.46	0
MK11-00729	L150-22	3317	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.56	1	SBIY	103.8	0
MK11-00730	L150-23	3721	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00731	L150-24	3906	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.81	1	SBIY	40.77	0
MK11-00732	L150-25	4650	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.02	1	KZSN	54.02	0
MK11-00733	L150-26	4674	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.22	1	SBIY	109.13	0
MK11-00734	L150-27	4691	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.37	1	WDTN	100.76	0
MK11-00735	L150-28	4861	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	0.89	1	KZSN	65.36	0
MK11-00736	L150-29	5175	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.82	1	WDTN	79.08	0
MK11-00737	L150-30	2025	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.04	1	WDTN	114.68	0
MK11-00738	L150-31	3409	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.33	1	WDTN	85.84	0
MK11-00739	L150-32	3838	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	20.51	1	KZSN	74.68	0
MK11-00740	L150-33	4188	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.62	1	SBIY	79.92	0
MK11-00741	L150-34	212	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.94	1	WDTN	86.22	0
MK11-00742	L150-35	364	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.11	1	HNKI	100.61	0
MK11-00743	L150-36	1727	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.55	1	WDTN	93.98	0
MK11-00744	L150-37	2178	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.97	1	SBIY	79.79	0
MK11-00745	L150-38	2378	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.16	1	HNKI	85.81	0
MK11-00746	L150-39	3288	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.58	1	KZSN	29.21	0
MK11-00747	L150-40	3319	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.87	1	WDTN	76.24	0
MK11-00748	L150-41	3488	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.4	1	WDTN	56.58	0
MK11-00749	L150-42	4332	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.23	1	SBIY	116.99	0
MK11-00750	L150-43	4385	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.31	1	KZSN	55.11	0
MK11-00751	L150-44	4393	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.27	1	KZSN	50.76	0
MK11-00752	L150-45	4479	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.95	1	HNKI	117.5	0
MK11-00753	L150-46	4543	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.38	1	WDTN	67.57	0
MK11-00754	L150-47	4742	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.33	1	HNKI	128.67	0
MK11-00755	L150-48	4825	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.49	1	KZSN	74.33	0
MK11-00756	L150-49	2390	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.56	1	WDTN	58.34	0
MK11-00757	L150-50	3305	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	20.18	1	SBIY	59.64	0
MK11-00758	L150-51	6651	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.78	0.9999	TSHG	21.5	0.0001
MK11-00759	L150-52	418	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.9	1	WDTN	66.32	0
MK11-00760	L150-53	1122	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.72	1	SBIY	77.46	0
MK11-00761	L150-54	2107	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.28	1	WDTN	112.88	0
MK11-00762	L150-55	2113	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.48	1	SBIY	79.35	0
MK11-00763	L150-56	2134	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.24	1	WDTN	81.43	0
MK11-00764	L150-57	2232	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.1	1	KZSN	88.29	0
MK11-00765	L150-58	4489	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.78	1	HNKT	141.1	0
MK11-00766	L150-59	2046	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.01	1	SBIY	51.17	0
MK11-00767	L150-60	4706	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.59	1	SBIY	53.64	0
MK11-00768	L150-61	4912	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.33	1	WDTN	71.99	0
MK11-00769	L150-62	159	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.82	1	MZYK	105.41	0
MK11-00770	L150-63	198	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.99	1	SBIY	101.12	0
MK11-00771	L150-64	6911	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.71	1	TSHG	36.33	0
MK11-00772	L150-65	268	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.61	1	KZSN	56.55	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK11-00773	L150-66	271	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.85	1	SBIY	88.33	0
MK11-00774	L150-67	349	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.3	1	KZSN	37.65	0
MK11-00775	L150-68	434	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.13	1	KZSN	75.27	0
MK11-00776	L150-69	567	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	24.33	1	WDTN	57.3	0
MK11-00777	L150-70	598	和田鷹山群	WDTY	WDTY	0.64	1	WDHY	29.59	0
MK11-00778	L150-71	852	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.19	1	KZSN	66.52	0
MK11-00779	L150-72	1445	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.52	1	WDTN	76.63	0
MK11-00780	L150-73	1467	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.06	1	SDA1	110.01	0
MK11-00781	L150-74	1590	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.12	1	KZSN	85.78	0
MK11-00782	L150-75	1725	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.11	1	WDTN	65.7	0
MK11-00783	L150-76	1731	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.91	1	WDTN	63.82	0
MK11-00784	L150-77	1743	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.94	1	KZSN	29.17	0
MK11-00785	L150-78	1748	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.17	1	WDTN	79.04	0
MK11-00786	L150-79	1967	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.41	1	SDA1	108.31	0
MK11-00787	L150-80	2031	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.45	1	MZYK	100.59	0
MK11-00788	L150-81	2034	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	13.29	1	WOMS	87.12	0
MK11-00789	L150-82	2102	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.56	1	WDTN	116.73	0
MK11-00790	L150-83	2130	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.16	1	WOMS	79.92	0
MK11-00791	L150-84	2211	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.55	1	WDTN	78.73	0
MK11-00792	L150-85	2228	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.49	1	KZSN	79.53	0
MK11-00793	L150-86	2981	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.51	1	WDTN	104.82	0
MK11-00794	L150-87	2999	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00795	L150-88	3024	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.06	1	WDTN	93.33	0
MK11-00796	L150-89	3146	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.71	1	WDTN	96.25	0
MK11-00797	L150-90	3176	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.91	1	WDTN	64.95	0
MK11-00798	L150-91	3256	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.83	1	SDA1	90	0
MK11-00799	L150-92	3258	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.9	1	KZSN	50.65	0
MK11-00800	L150-93	3397	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.4	1	HNKT	138.44	0
MK11-00801	L150-94	3399	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.17	1	HNKI	84.22	0
MK11-00802	L150-95	3533	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00803	L150-96	3635	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.27	1	SDA1	122.65	0
MK11-00804	L150-97	3658	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.9	1	SBIY	57.07	0
MK11-00805	L150-98	3714	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.24	1	KZSN	46.24	0
MK11-00806	L150-99	3717	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.34	1	HNKI	108.49	0
MK11-00807	L150-100	3755	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.8	1	KZSN	71.4	0
MK11-00808	L150-101	3785	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.64	1	HNKI	133.7	0
MK11-00809	L150-102	3892	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.77	1	KZSN	69.19	0
MK11-00810	L150-103	3950	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.47	1	HNKT	118.71	0
MK11-00811	L150-104	3965	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.76	1	SBIY	48.8	0
MK11-00812	L150-105	4190	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.46	1	KZSN	72.98	0
MK11-00813	L150-106	4390	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.06	1	KZSN	79.27	0
MK11-00814	L150-107	4505	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.84	1	HNKI	85.29	0
MK11-00815	L150-108	4506	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.65	1	WDTN	87.57	0
MK11-00816	L150-109	4535	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.17	1	HNKT	120.88	0
MK11-00817	L150-110	4571	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.86	1	WDTN	58.97	0
MK11-00818	L150-111	4644	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	15.44	1	KZSN	82	0
MK11-00819	L150-112	4676	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.69	1	KZSN	63.46	0
MK11-00820	L150-113	4689	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00821	L150-114	4815	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.61	1	SDA1	78.17	0
MK11-00822	L150-115	5022	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00823	L150-116	2104	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.49	1	SBIY	79.65	0
MK11-00824	L150-117	3153	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00825	L150-118	3682	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.31	1	KZSN	87.44	0
MK11-00826	L150-119	4842	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.88	1	KZSN	65.8	0
MK11-00827	L150-120	6910	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.75	0.9998	TSHG	21.53	0.0002
MK11-00828	L150-121	5897	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.35	1	MZYK	118.82	0
MK11-00829	L150-122	3636	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.14	1	SBIY	112.65	0
MK11-00830	L150-123	397	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00831	L150-124	493	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.83	1	KZSN	48.98	0
MK11-00832	L150-125	569	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.94	1	HNKI	117.99	0
MK11-00833	L150-126	1690	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.03	1	KZSN	75.24	0
MK11-00834	L150-127	1724	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.25	1	MZYK	118.87	0
MK11-00835	L150-128	6650	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.63	0.9813	TSHG	7.63	0.0187
MK11-00836	L150-129	6909	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.74	1	TSHG	33.82	0
MK11-00837	L150-130	26	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.27	1	SBIY	91.67	0
MK11-00838	L150-131	27	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.99	1	SBIY	94.4	0
MK11-00839	L150-132	1013	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00840	L150-133	3196	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00841	L150-134	5733	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.76	1	KZSN	93.29	0

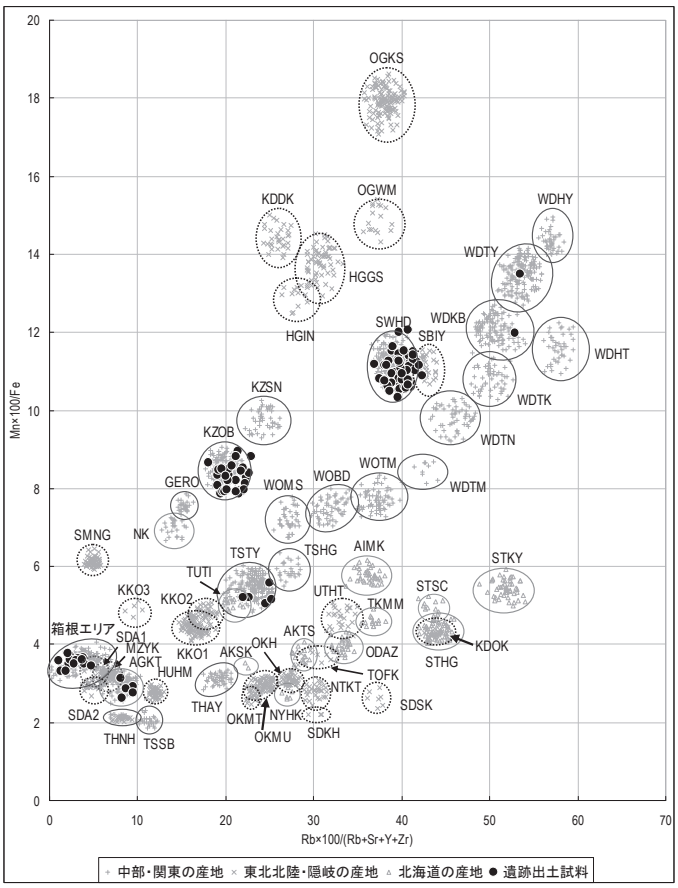


図２　出土黒曜石産地判別図１（葛山大端ヶＩ遺跡）

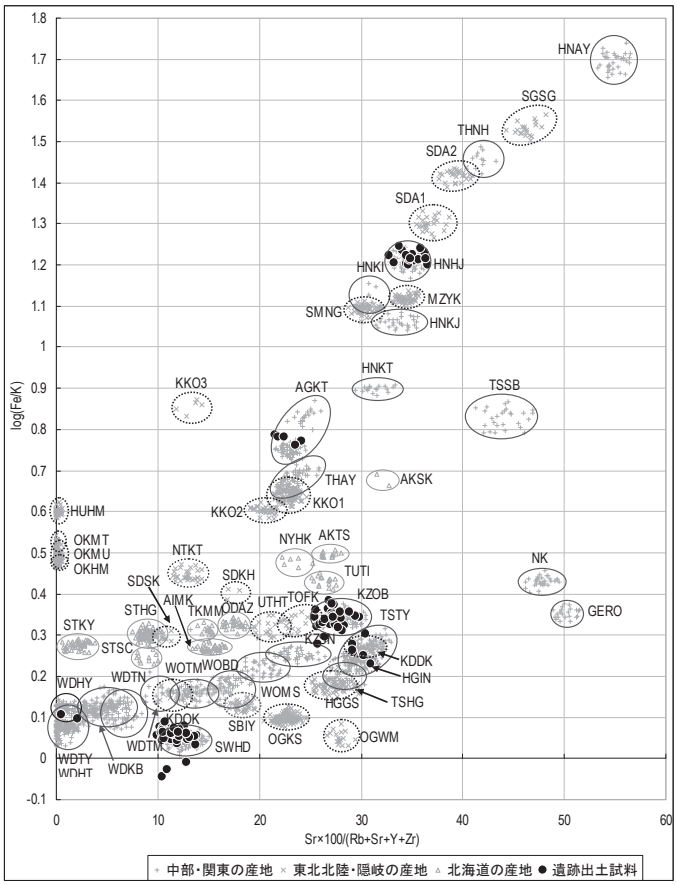


図３　出土黒曜石産地判別図２（葛山大端ヶＩ遺跡）

出土黒曜石産地組成（葛山大端ヶＩ遺跡）

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田（WO）	ブドウ沢	WOBD	0	0.00
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.00
	高松沢	WOTM	0	0.00
和田（WD）	芙蓉ライト	WDHY	0	0.00
	鷹山	WDTY	1	0.83
	小深沢	WDKB	0	0.00
	土屋橋北	WDTK	0	0.00
	土屋橋西	WDTN	0	0.00
	土屋橋南	WDTM	0	0.00
	古峠	WDHT	1	0.83
諏訪	星ヶ台	SWHD	57	47.11
蓼科	冷山	TSTY	5	4.13
	双子山	TSHG	0	0.00
	擂鉢山	TSSB	0	0.00
天城	柏峠1	AGKT	5	4.13
箱根	畑宿	HNHJ	19	15.70
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.00
	黒岩橋	HNKI	0	0.00
	上多賀	HNKT	0	0.00
	芦ノ湯	HNAY	0	0.00
神津島	恩馳島	KZOB	33	27.27
	砂糠崎	KZSN	0	0.00
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.00
	七尋沢	THNH	0	0.00
新津	金津	NTKT	0	0.00
新発田	板山	SBIY	0	0.00
深浦	八森山	HUHM	0	0.00
木造	出来島	KDDK	0	0.00
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0.00
	脇本	OGWM	0	0.00
羽黒	月山	HGGS	0	0.00
	今野川	HGIN	0	0.00
北上川	折居1群	KKO1	0	0.00
	折居2群	KKO2	0	0.00
	折居3群	KKO3	0	0.00
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0.00
仙台	秋保1群	SDA1	0	0.00
	秋保2群	SDA2	0	0.00
色麻	根岸	SMNG	0	0.00
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0.00
小泊	折腰内	KDOK	0	0.00
魚津	草月上野	UTHT	0	0.00
高岡	二上山	TOFK	0	0.00
佐渡	真光寺	SDSK	0	0.00
	金井二ッ坂	SDKH	0	0.00
隠岐	久見	OKHM	0	0.00
	岬地区	OKMT	0	0.00
	箕浦	OKMU	0	0.00
白滝	8号沢	STHG	0	0.00
	黒曜の沢	STKY	0	0.00
	赤石山頂	STSC	0	0.00
赤井川	曲川	AIMK	0	0.00
豊浦	豊泉	TUTI	0	0.00
置戸	安住	ODAZ	0	0.00
十勝	三股	TKMM	0	0.00
名寄	布川	NYHA	0	0.00
旭川	高砂台	AKTS	0	0.00
	春光台	AKSK	0	0.00
不明産地１	NK	NK	0	0.00
下呂石		GERO	0	0.00
合計			121	100.00

不可など	13	
総計	134	

出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表（葛山大端ヶⅢ遺跡）

判別図法・判別分析からの最終推定結果　　判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK11-00843	L150-2-1	318	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.95	1	KZSN	67.59	0
MK11-00844	L150-2-2	756	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00845	L150-2-3	1576	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	SDA1	121.79	0
MK11-00846	L150-2-4	1830	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.18	1	KZSN	31.97	0
MK11-00847	L150-2-5	1836	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.95	1	HNKI	63.15	0
MK11-00848	L150-2-6	2235	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.69	1	KZSN	47.71	0
MK11-00849	L150-2-7	2289	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.35	1	KZSN	82.32	0
MK11-00850	L150-2-8	1723	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	0.97	1	KZSN	66.91	0
MK11-00851	L150-2-9	2268	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.14	1	SDA1	94.16	0
MK11-00852	L150-2-10	311	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	HNKI	92.34	0
MK11-00853	L150-2-11	1221	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.64	1	HNKI	80.42	0
MK11-00854	L150-2-12	1494	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.1	1	HNKI	51.27	0
MK11-00855	L150-2-13	1582	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.29	1	SBIY	83.33	0
MK11-00856	L150-2-14	1924	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.42	1	HNKI	112.1	0
MK11-00857	L150-2-15	317	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.43	1	KZSN	69.86	0
MK11-00858	L150-2-16	321	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.38	1	SBIY	64.62	0
MK11-00859	L150-2-17	384	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.71	1	KZSN	71.01	0
MK11-00860	L150-2-18	1480	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.62	1	SDA1	116.62	0
MK11-00861	L150-2-19	2190	天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.96	1	KKO1	107.51	0
MK11-00862	L150-2-20	2340	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.89	1	HNKI	80.19	0
MK11-00863	L150-2-21	150	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.35	1	KZSN	87.69	0
MK11-00864	L150-2-22	306	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.23	1	HNKI	75.81	0
MK11-00865	L150-2-23	338	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.99	1	KZSN	50.91	0
MK11-00866	L150-2-24	1475	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5	1	MZYK	83.63	0
MK11-00867	L150-2-25	1484	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.49	1	HNKI	93.38	0
MK11-00868	L150-2-26	1664	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.77	1	KZSN	65	0
MK11-00869	L150-2-27	1990	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.56	1	HNKI	97.5	0
MK11-00870	L150-2-28	300	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.93	1	KZSN	40.47	0
MK11-00871	L150-2-29	307	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.15	1	KZSN	77.48	0
MK11-00872	L150-2-30	459	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.82	1	HNKT	101.79	0
MK11-00873	L150-2-31	469	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.61	1	HNKT	125.42	0
MK11-00874	L150-2-32	305	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	0.82	1	KZSN	67.75	0
MK11-00875	L150-2-33	365	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.19	1	WDTN	119.43	0

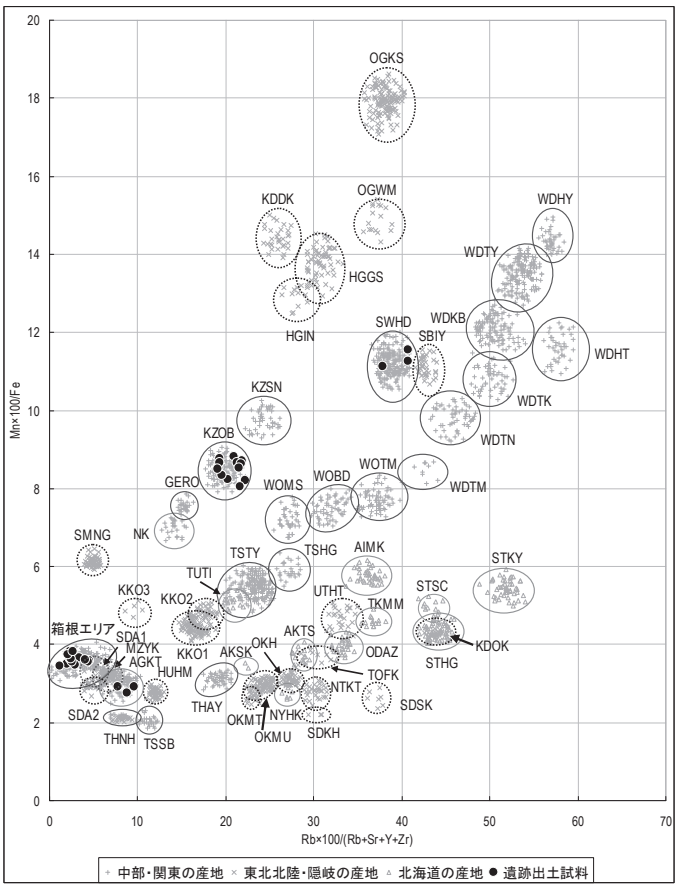


図４　出土黒曜石産地判別図１（葛山大端ヶⅢ遺跡）

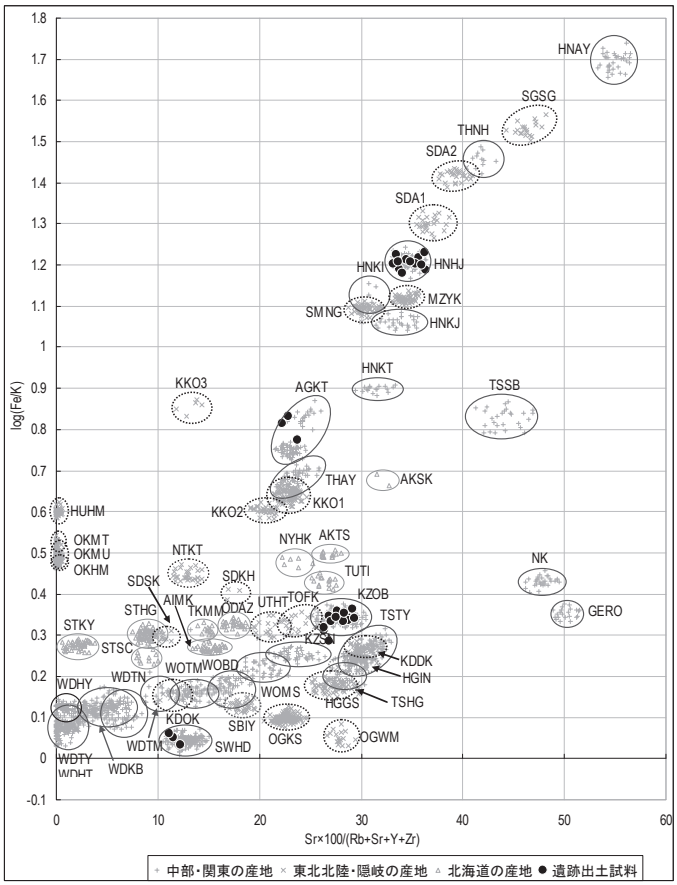


図５　出土黒曜石産地判別図２（葛山大端ヶⅢ遺跡）

出土黒曜石産地組成（葛山大端ヶⅢ遺跡）

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田（WO）	ブドウ沢	WOBD	0	0.00
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.00
	高松沢	WOTM	0	0.00
和田（WD）	芙蓉ライト	WDHY	0	0.00
	鷹山	WDTY	0	0.00
	小深沢	WDKB	0	0.00
	土屋橋北	WDTK	0	0.00
	土屋橋西	WDTN	0	0.00
	土屋橋南	WDTM	0	0.00
	古峠	WDHT	0	0.00
諏訪	星ヶ台	SWHD	3	9.38
蓼科	冷山	TSTY	0	0.00
	双子山	TSHG	0	0.00
	擂鉢山	TSSB	0	0.00
天城	柏峠1	AGKT	3	9.38
箱根	畑宿	HNHJ	13	40.63
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.00
	黒岩橋	HNKI	0	0.00
	上多賀	HNKT	0	0.00
	芦ノ湯	HNAY	0	0.00
神津島	恩馳島	KZOB	13	40.63
	砂糠崎	KZSN	0	0.00
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.00
	七尋沢	THNH	0	0.00
新津	金津	NTKT	0	0.00
新発田	板山	SBIY	0	0.00
深浦	八森山	HUHM	0	0.00
木造	出来島	KDDK	0	0.00
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0.00
	脇本	OGWM	0	0.00
羽黒	月山	HGGS	0	0.00
	今野川	HGIN	0	0.00
北上川	折居1群	KKO1	0	0.00
	折居2群	KKO2	0	0.00
	折居3群	KKO3	0	0.00
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0.00
仙台	秋保1群	SDA1	0	0.00
	秋保2群	SDA2	0	0.00
色麻	根岸	SMNG	0	0.00
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0.00
小泊	折腰内	KDOK	0	0.00
魚津	草月上野	UTHT	0	0.00
高岡	二上山	TOFK	0	0.00
佐渡	真光寺	SDSK	0	0.00
	金井二ッ坂	SDKH	0	0.00
隠岐	久見	OKHM	0	0.00
	岬地区	OKMT	0	0.00
	箕浦	OKMU	0	0.00
白滝	8号沢	STHG	0	0.00
	黒曜の沢	STKY	0	0.00
	赤石山頂	STSC	0	0.00
赤井川	曲川	AIMK	0	0.00
豊浦	豊泉	TUTI	0	0.00
置戸	安住	ODAZ	0	0.00
十勝	三股	TKMM	0	0.00
名寄	布川	NYHA	0	0.00
旭川	高砂台	AKTS	0	0.00
	春光台	AKSK	0	0.00
不明産地１	NK	NK	0	0.00
下呂石		GERO	0	0.00
合計			32	100.00

不可など	1	
総計	33	

葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

株式会社　加速器分析研究所

1　測定の意義

遺跡が利用された期間の時期比定を明確にする。

2　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（2）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

（1）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代はδ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が100以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値もδ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する

較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C 補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

葛山大端ヶＩ遺跡

１　測定対象試料

葛山大端ヶＩ遺跡は、静岡県裾野市葛山地先に所在する。測定対象試料は炭化物４点と土器付着炭化物３点の合計７点である（表１）。炭化物は第１トレンチ暗褐色層（AN）出土の No.150-1（IAAA-111815）、No.150-3（IAAA-111817）、同黒褐色層（601）出土の No.150-2（IAAA-111816）、同カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-4（IAAA-111818）、土器付着炭化物は、カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-5（IAAA-111819）、暗褐色層（AN）出土の No.150-9（IAAA-111823）、富士黒出土の No.150-10（IAAA-111824）である。土器付着炭化物はいずれも土器片の外面より採取された。

２　測定結果

炭化物の^{14}C 年代は、第１トレンチ暗褐色層（AN）出土の No.150-1が4400±30yrBP、No.150-3が3970±30yrBP、黒褐色層（601）出土の No.150-2が4450±30yrBP、カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-4が3870±30yrBP である。暗褐色層（AN）出土の２点の値にはやや年代差が認められる。暦年較正年代（1σ）は、褐色層（AN）出土の No.150-1が3086 ～ 2928cal BC、No.150-3が2561 ～ 2466cal BC、黒褐色層（601）出土の No.150-2が3316 ～ 3026cal BC、カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-4が2456 ～ 2291cal BC の間に各々複数の範囲で示され、No.150-1、No.150-2が縄文時代中期中葉頃、No.150-3が中期末葉から後期初頭頃、No.150-4が後期初頭から前葉頃に相当する。

土器付着炭化物の^{14}C 年代は、カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-5が3790±30yrBP、暗褐色層（AN）出土の No.150-9が7960±30yrBP、富士黒出土の No.150-10が6360±30yrBP である。暦年較正年代（1σ）は、カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-5が2280 ～ 2145cal BC の間に4つの範囲、暗褐色層（AN）出土の No.150-9が7028 ～ 6779cal BC の間に４つの範囲、富士黒出土の No.150-10が5367 ～ 5312cal BC の範囲で示され、No.150-5が縄文時代後期前葉頃、No.150-9が早期中葉から後葉頃、No.150-10が早期末葉頃に相当する。これらの炭化物が採取された土器の特徴は、No.150-5が「後期縄文」、No.150-9が「判ノ木山西式」、No.150-10が「条痕文」とされており、想定される時期とおおむね矛盾しない結果と見られる。

暗褐色層（AN）から出土した No.150-1と No.150-3の間には上述の通りやや年代差があり、No.150-9はこれらより大幅に古い。カワゴ平軽石層（KGP）出土の No.150-4と No.150-5はおおむね近い年代値となっている。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物の No.150-5が34％と若干低い値を示したが、他の試料はすべて50％程度を超え、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

表１　葛山大端ヶⅠ遺跡の^{14}C年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C(‰)(AMS)	δ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-111815	No.150-1 (遺物番号1718)	1トレンチ 暗褐色層(AN)	炭化物	AaA	-25.28 ± 0.63	4,400 ± 30	57.84 ± 0.23
IAAA-111816	No.150-2 (遺物番号1753)	1トレンチ 黒褐色層(601)	炭化物	AaA	-22.44 ± 0.41	4,450 ± 30	57.46 ± 0.20
IAAA-111817	No.150-3 (遺物番号3981)	1トレンチ 暗褐色層(AN)	炭化物	AAA	-23.76 ± 0.41	3,970 ± 30	61.03 ± 0.21
IAAA-111818	No.150-4 (遺物番号4051)	1トレンチ カワゴ平軽石層(KGP)	炭化物	AaA	-20.68 ± 0.54	3,870 ± 30	61.79 ± 0.21
IAAA-111819	No.150-5 (遺物番号371, 372)	カワゴ平軽石層(KGP)	土器付着炭化物	AaA	-23.99 ± 0.42	3,790 ± 30	62.43 ± 0.22
IAAA-111823	No.150-9 (遺物番号4246,4247)	暗褐色層(AN)	土器付着炭化物	AaA	-24.23 ± 0.33	7,960 ± 30	37.12 ± 0.16
IAAA-111824	No.150-10 (遺物番号5095)	富士黒(FB)	土器付着炭化物	AaA	-25.93 ± 0.42	6,360 ± 30	45.31 ± 0.16

［#4725］

表２　葛山大端ヶⅠ遺跡の^{14}C年代暦年較正結果

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-111815	4,400 ± 30	57.81 ± 0.21	4,397 ± 31	3086calBC - 3062calBC (14.4%) 3029calBC - 3001calBC (16.3%) 2994calBC - 2928calBC (37.5%)	3262calBC - 3255calBC (0.9%) 3098calBC - 2916calBC (94.5%)
IAAA-111816	4,410 ± 30	57.76 ± 0.19	4,450 ± 27	3316calBC - 3273calBC (14.7%) 3266calBC - 3237calBC (15.1%) 3169calBC - 3164calBC (1.6%) 3111calBC - 3081calBC (14.2%) 3070calBC - 3026calBC (22.6%)	3335calBC - 3212calBC (41.7%) 3191calBC - 3152calBC (7.2%) 3137calBC - 3013calBC (46.4%)
IAAA-111817	3,950 ± 30	61.19 ± 0.20	3,966 ± 27	2561calBC - 2536calBC (28.5%) 2492calBC - 2466calBC (39.7%)	2572calBC - 2512calBC (42.2%) 2505calBC - 2452calBC (47.7%) 2420calBC - 2406calBC (2.1%) 2377calBC - 2350calBC (3.4%)
IAAA-111818	3,800 ± 30	62.34 ± 0.20	3,867 ± 27	2456calBC - 2419calBC (17.2%) 2406calBC - 2377calBC (15.8%) 2351calBC - 2291calBC (35.1%)	2464calBC - 2281calBC (90.1%) 2250calBC - 2231calBC (4.1%) 2219calBC - 2212calBC (1.2%)

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-111819	3,770 ± 30	62.55 ± 0.21	3,785 ± 27	2280calBC – 2250calBC (25.1%) 2231calBC – 2219calBC (8.2%) 2212calBC – 2195calBC (13.7%) 2172calBC – 2145calBC (21.1%)	2296calBC – 2136calBC (95.4%)
IAAA-111823	7,950 ± 30	37.18 ± 0.16	7,960 ± 34	7028calBC – 6930calBC (34.2%) 6921calBC – 6877calBC (15.6%) 6859calBC – 6806calBC (16.0%) 6787calBC – 6779calBC (2.4%)	7042calBC – 6747calBC (91.1%) 6725calBC – 6700calBC (4.3%)
IAAA-111824	6,370 ± 30	45.23 ± 0.16	6,359 ± 29	5367calBC – 5312calBC (68.2%)	5467calBC – 5404calBC (12.6%) 5385calBC – 5298calBC (80.8%) 5248calBC – 5231calBC (2.0%)

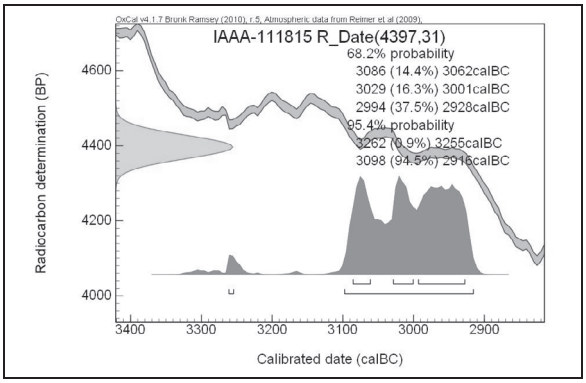
［参考値］

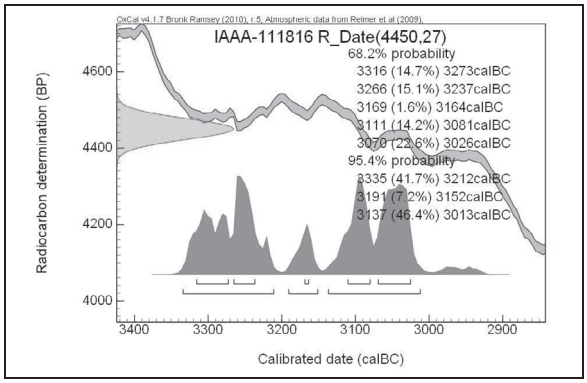
文献

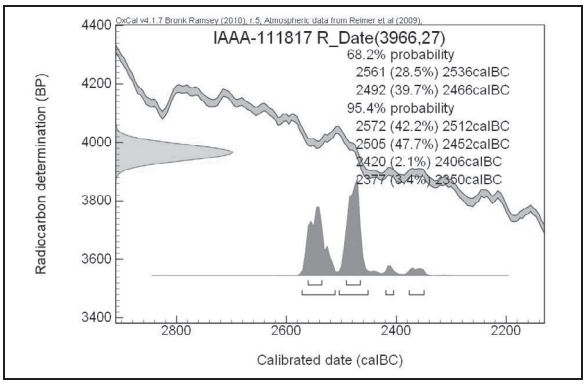
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19（3）, 355–363

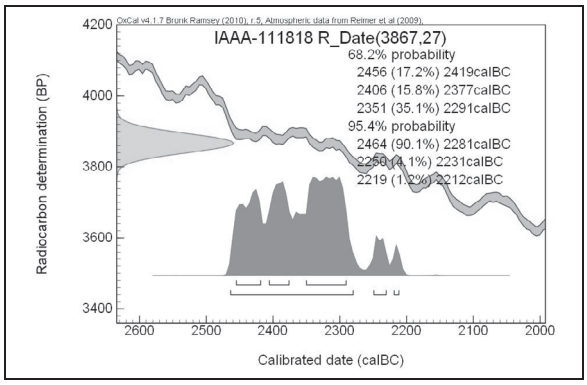
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337–360

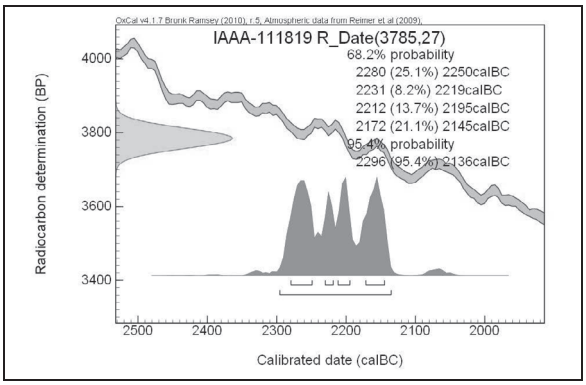
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51（4）, 1111–1150

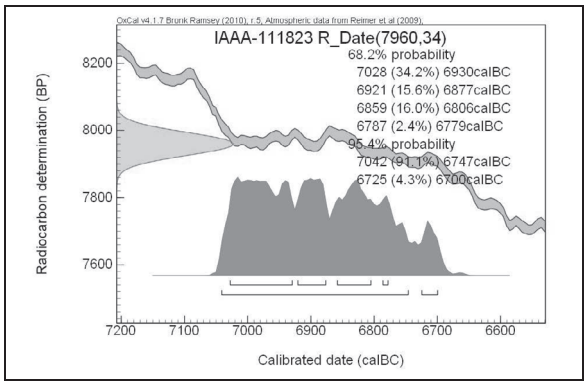


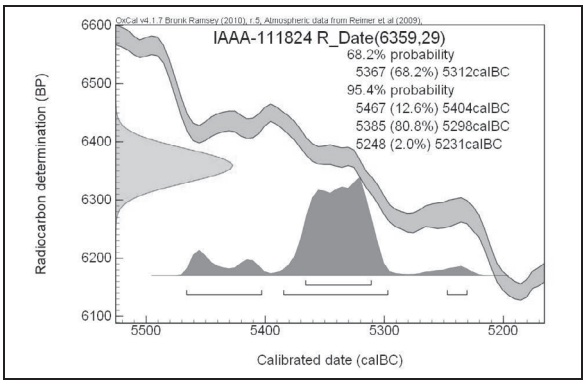












［参考］暦年較正年代グラフ

葛山大端ヶⅢ遺跡

1　測定対象試料

葛山大端ヶⅢ遺跡は、静岡県裾野市大端ヶ1160-1、裾野市葛山地先に所在する。測定対象試料は炭化物２点と土器付着炭化物４点の合計６点である（表１）。炭化物は黒褐色層（JO）出土のNo.150-2-1（IAAA-111825）、No.150-2-2（IAAA-111826）、土器付着炭化物はカワゴ平軽石（KGP）出土のNo.150-2-4（IAAA-111828）、黒褐色層（JO）出土のNo.150-2-5（IAAA-111829）～No.150-2-7（IAAA-111831）である。土器付着炭化物は、No.150-2-4、No.150-2-6、No.150-2-7が土器片の外面、No.150-2-5が内面より採取された。

2　測定結果

炭化物の^{14}C年代は、黒褐色層（JO）出土のNo.150-2-1が4420±30yrBP、No.150-2-2が7930±40yrBPである。２点は同じ層から出土しているが、年代差が認められる。暦年較正年代（1σ）は、No.150-2-1が3262～2942cal BC、No.150-2-2が7001～6693cal BCの間に各々複数の範囲で示され、No.150-2-1が縄文時代中期中葉頃、No.150-2-2が縄文時代早期中葉から後葉頃に相当する。

土器付着炭化物の^{14}C年代は、カワゴ平軽石（KGP）出土のNo.150-2-4が7660±30yrBP、黒褐色層（JO）出土のNo.150-2-5が7960±30yrBP、No.150-2-6が7960±40yrBP、No.150-2-7が9820±40yrBPである。黒褐色層（JO）から出土した３点のうち、No.150-2-5とNo.150-2-6は誤差の範囲でよく一致し、ほぼ同年代を示すが、No.150-2-7はこれらとの間に年代差がある。暦年較正年代（1σ）は、No.150-2-4が6561～6459cal BCの間に３つの範囲、No.150-2-5が7028～6779cal BCの間に４つの範囲、No.150-2-6が7029～6815cal BCの間に3つの範囲、No.150-2-7が9296～9258cal BCの範囲で示され、No.150-2-4～No.150-2-6が縄文時代早期中葉から後葉頃、No.150-2-7が早期前葉頃に相当する。これらの炭化物が採取された土器の特徴は、No.150-2-4が「野島式」、No.150-2-5、No.150-2-6が「判ノ木山西式」、No.150-2-7が「撚糸文」とされており、想定される時期とおおむね矛盾しない結果と見られる。

黒褐色層（JO）から出土した5点のうち、No.150-2-2、No.150-2-5、No.150-2-6は近い年代値となっているが、No.150-2-1はこれらより大幅に新しく、No.150-2-7はかなり古い。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物のNo.150-2-7が31％と若干低い値を示したが、他の試料はすべて50％程度を超え、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

表１　葛山大端ヶⅢ遺跡の^{14}C年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C(‰)(AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-111825	No.150-2-1（遺物番号1866）	黒褐色層（JO）	炭化物	AaA	-27.25 ± 0.58	4,420 ± 30	57.68 ± 0.22
IAAA-111826	No.150-2-2（遺物番号2067）	黒褐色層（JO）	炭化物	AaA	-23.50 ± 0.58	7,930 ± 40	37.27 ± 0.17
IAAA-111828	No.150-2-4（遺物番号331）	カワゴ平軽石（KGP）	土器付着炭化物	AaA	-23.17 ± 0.31	7,660 ± 30	38.52 ± 0.16

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C(‰)(AMS)	δ13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-111829	No.150-2-5 (遺物番号440)	黒褐色層(JO)	土器付着炭化物	AaA	**-23.92 ± 0.36**	**7,960 ± 30**	**37.12 ± 0.15**
IAAA-111830	No.150-2-6 (遺物番号1706)	黒褐色層(JO)	土器付着炭化物	AaA	**-24.41 ± 0.38**	**7,960 ± 40**	**37.11 ± 0.16**
IAAA-111831	No.150-2-7 (遺物番号2468)	黒褐色層(JO)	土器付着炭化物	AaA	**-25.42 ± 0.41**	**9,820 ± 40**	**29.46 ± 0.14**

［#4725］

表２　葛山大端ケＩ遺跡の^{14}C年代暦年較正結果

測定番号	δ13C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-111825	4,460 ± 30	57.42 ± 0.21	4,419 ± 30	3262calBC - 3256calBC (2.2%) 3098calBC - 3010calBC (55.0%) 2980calBC - 2959calBC (7.7%) 2951calBC - 2942calBC (3.3%)	3321calBC - 3272calBC (4.8%) 3266calBC - 3237calBC (6.9%) 3171calBC - 3162calBC (0.7%) 3115calBC - 2920calBC (83.0%)
IAAA-111826	7,900 ± 40	37.39 ± 0.16	7,928 ± 36	7001calBC - 6991calBC (2.7%) 6985calBC - 6971calBC (3.9%) 6912calBC - 6884calBC (8.9%) 6830calBC - 6693calBC (52.6%)	7031calBC - 6874calBC (35.5%) 6866calBC - 6681calBC (59.9%)
IAAA-111828	7,630 ± 30	38.67 ± 0.16	7,663 ± 32	6561calBC - 6549calBC (8.4%) 6527calBC - 6520calBC (4.1%) 6509calBC - 6459calBC (55.6%)	6591calBC - 6451calBC (95.4%)
IAAA-111829	7,940 ± 30	37.20 ± 0.15	7,960 ± 32	7028calBC - 6931calBC (35.0%) 6921calBC - 6877calBC (16.0%) 6859calBC - 6812calBC (15.0%) 6786calBC - 6779calBC (2.1%)	7041calBC - 6748calBC (91.4%) 6725calBC - 6701calBC (4.0%)
IAAA-111830	7,950 ± 40	37.16 ± 0.16	7,963 ± 35	7029calBC - 6929calBC (35.9%) 6923calBC - 6876calBC (16.7%) 6862calBC - 6815calBC (15.6%)	7043calBC - 6747calBC (91.5%) 6725calBC - 6701calBC (3.9%)
IAAA-111831	9,820 ± 40	29.43 ± 0.14	9,817 ± 38	9296calBC - 9258calBC (68.2%)	9324calBC - 9232calBC (95.4%)

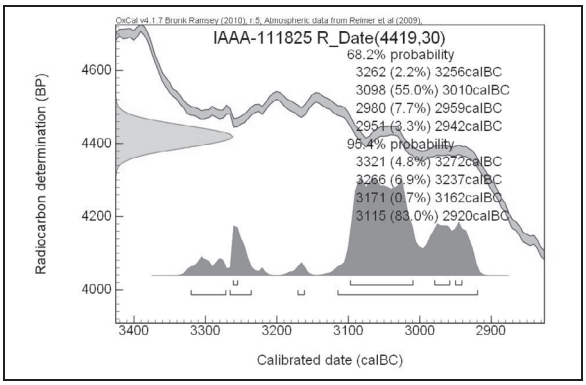
［参考値］

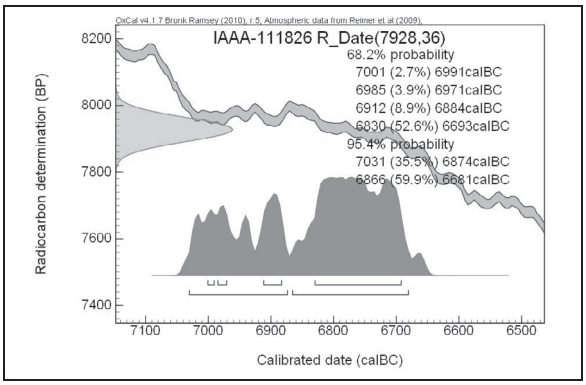
文献

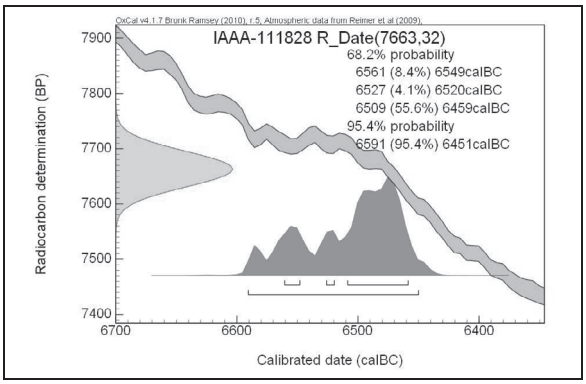
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19（3）, 355-363

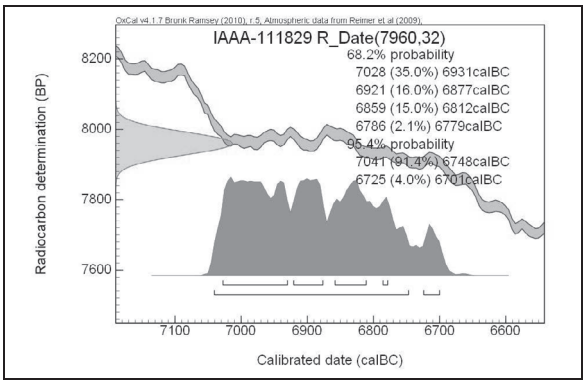
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337-360

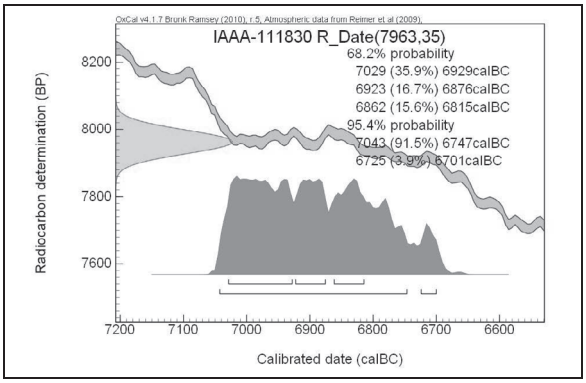
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51（4）, 1111-1150

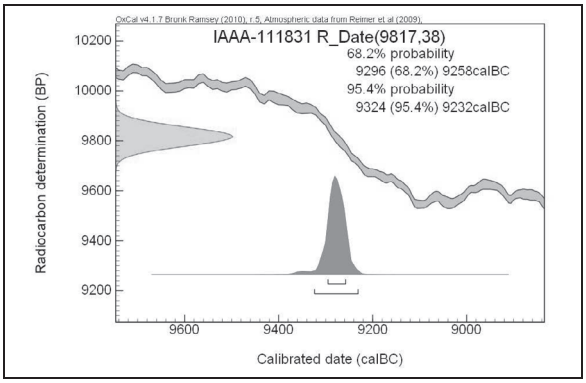












［参考］暦年較正年代グラフ

葛山大端ヶⅠ遺跡出土炭化物の同定

株式会社　加速器分析研究所

1　試料

試料は、葛山大端ヶⅠ遺跡から出土した炭化物２点（分析 No.150-2、No.150-3）である。試料を観察したところ、分析№150-2は炭化した種実、分析№150-3は炭化材であった。種実については種実同定、炭化材については樹種同定を実施する。

2　分析方法

⑴種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体の形態的特徴を現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川，1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか，2000）等と比較し、種類を同定した。

⑵樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。

3　結果

種実遺体および炭化材の同定結果を表１に示す。種実遺体はコナラ属、炭化材は種類不明の広葉樹に同定された。種実の形態的特徴や炭化材の解剖学的特徴を下記に記す。

表　葛山大端ヶⅠ遺跡の同定結果

分析№	遺物番号	出土層位	遺物種類	種類
150-2	1753	601	炭化種実	コナラ属（子葉）
150-3	3981	AN	炭化材	広葉樹

＜種実＞

・コナラ属（Quercus）　ブナ科

炭化した子葉である。長さ12㎜、幅８㎜の楕円形で、半分に割れており、一部欠損した片方の子葉のみが残っている。表面には維管束の跡が数本比較的明瞭に残る。

＜炭化材＞

・広葉樹

試料は保存状態が悪く、木材組織のほとんどが潰れており、木口における組織配列、放射組織の形態等が観察できない。柾目面において、放射組織の断面と道管、軸方向柔細胞が観察できる。

道管、放射組織、軸方向樹脂細胞が見られることから広葉樹であるが、道管配列や放射組織の形態が観察できないために種類は不明である。

4　考察

601層から出土した炭化種実は、コナラ属に同定された。コナラ属には、常緑のアカガシ亜属やコナラ亜属ウバメガシ節、落葉のコナラ亜属クヌギ節およびコナラ節がある。アカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種であり、主に谷沿いなどに多い。ウバメガシ節は、ウバメガシ１種があり、海岸の岩地等に生育する。クヌギ節やコナラ節は、二次林や冷温帯性落葉広葉樹林の主要な構成種が含

まれる。コナラ属の子葉は、一部灰汁抜きを必要としない種類もあるが、多くは灰汁抜きをすることで食用可能となる。炭化した状態で出土したことから、本遺跡でも植物食糧として利用されていた可能性がある。

AN 層から出土した炭化材は、種類不明の広葉樹のため、古植生等については不明であるが、少なくとも周囲に広葉樹が生育していたことが推定される。

引用文献

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

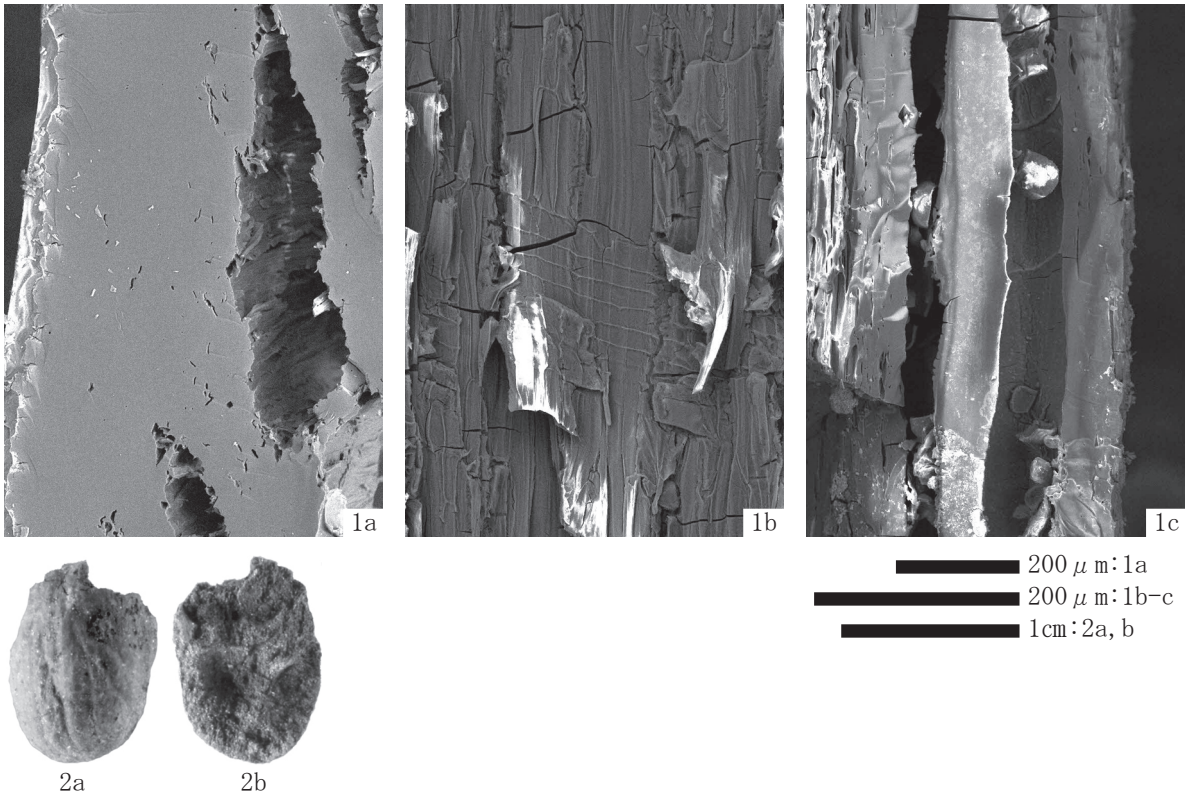
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

※）　本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版　炭化材・種実遺体



1. 広葉樹（分析№150-3；遺物番号3981）　a：木口，b：柾目，c：板目
2. コナラ属（子葉）（分析№150-2；遺物番号1753）

写真図版

調査区全景

図版２

葛山大端ヶＩ遺跡　調査区（１区）休場層（南上より）

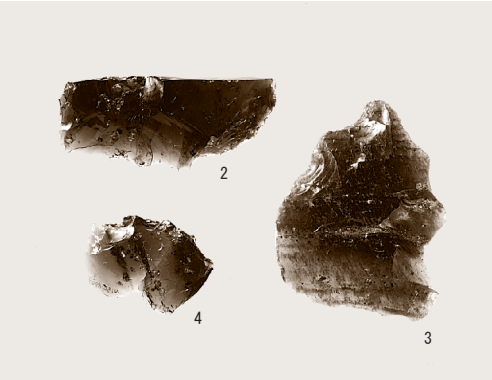
土層断面　１

土層断面　２

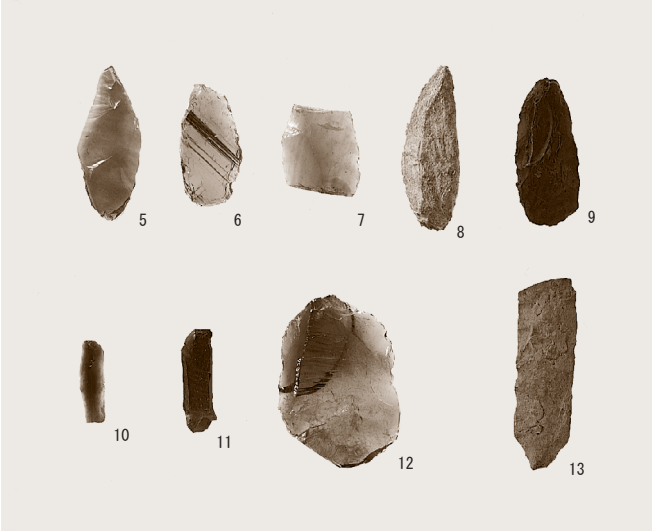
調査区全景　第Ⅰスコリア層（南東より）

礫群検出状況（東より）

第Ⅰ文化層　出土遺物



礫群出土遺物



第Ⅱ文化層　出土遺物

図版４

１号集石（南東より）

２号集石（東より）

３号集石（東より）

４号集石（南より）

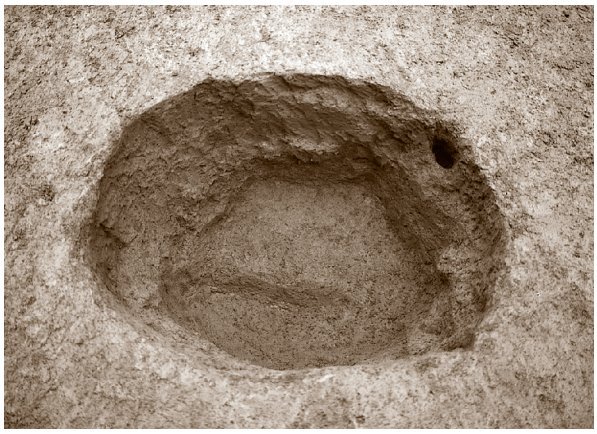
５号集石（南より）

６号集石（西より）

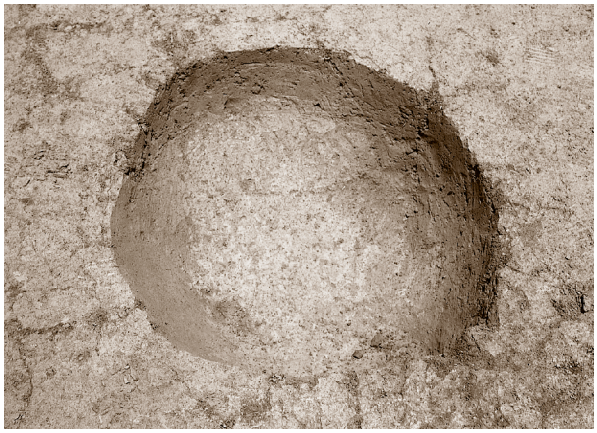
７号集石（東より）

１号土坑（東より）

２号土坑（東より）

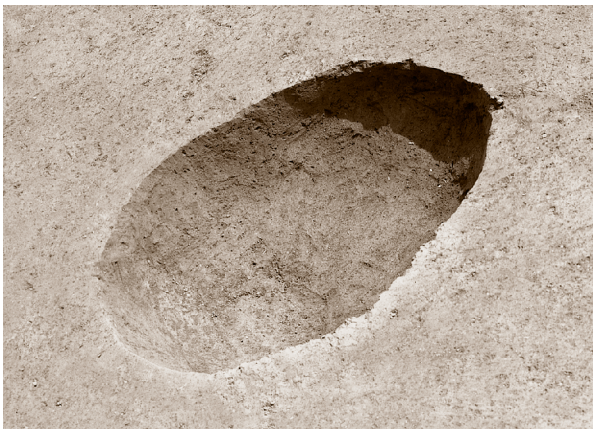

３号土坑（北西より）

４号土坑（南より）


５号土坑（南より）

６号土坑（南より）

７号土坑（西より）

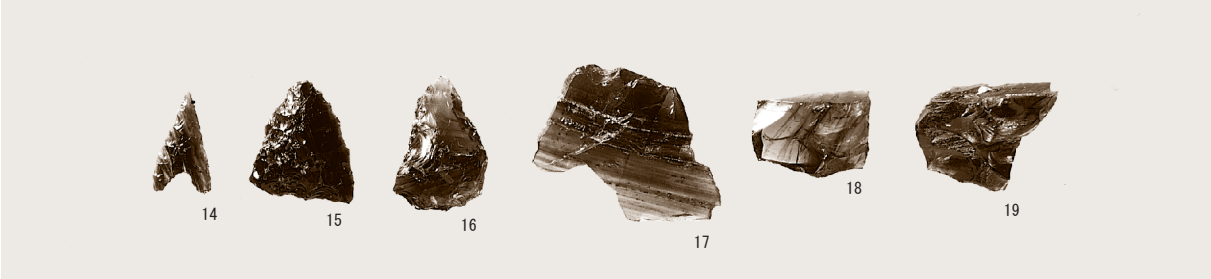

８号土坑（西より）

図版６

２号焼土（西より）

４号遺物集中（東より）

縄文時代　遺物出土状況（南東より）



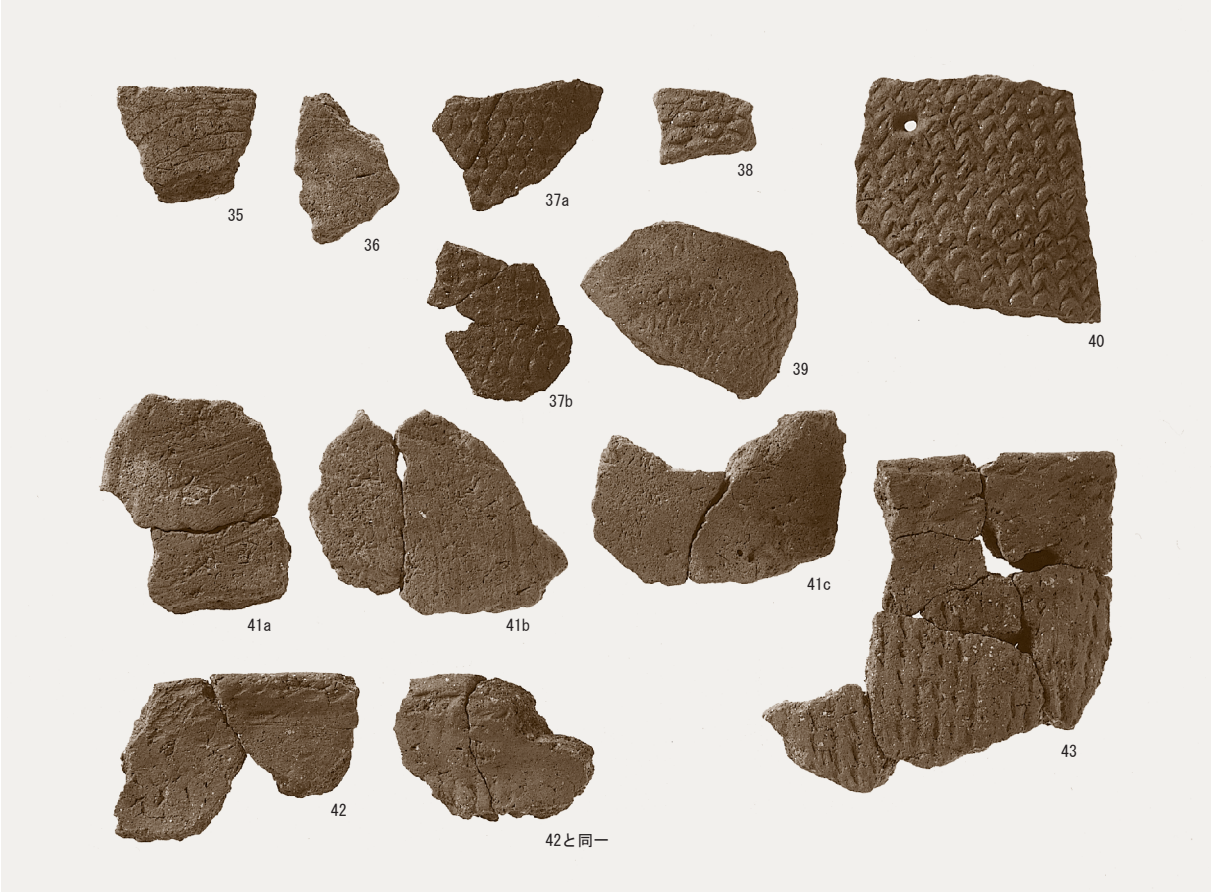
１号遺物集中出土石器

２号遺物集中出土石器

３号遺物集中出土石器

図版８

４号遺物集中出土石器

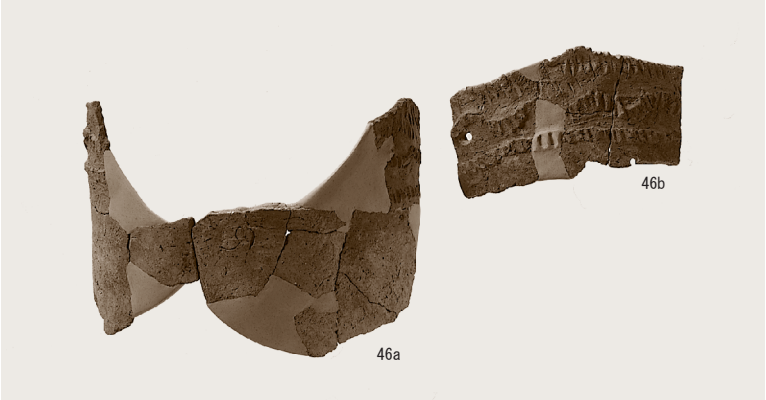


第Ⅰ群ａ～ｄ類土器

第Ⅰ群ｅ類土器

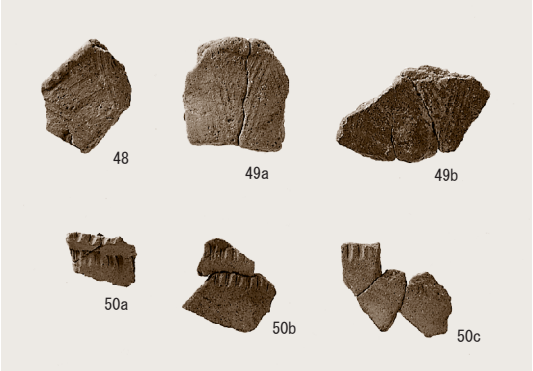
第Ⅰ群ｅ類土器

図版10

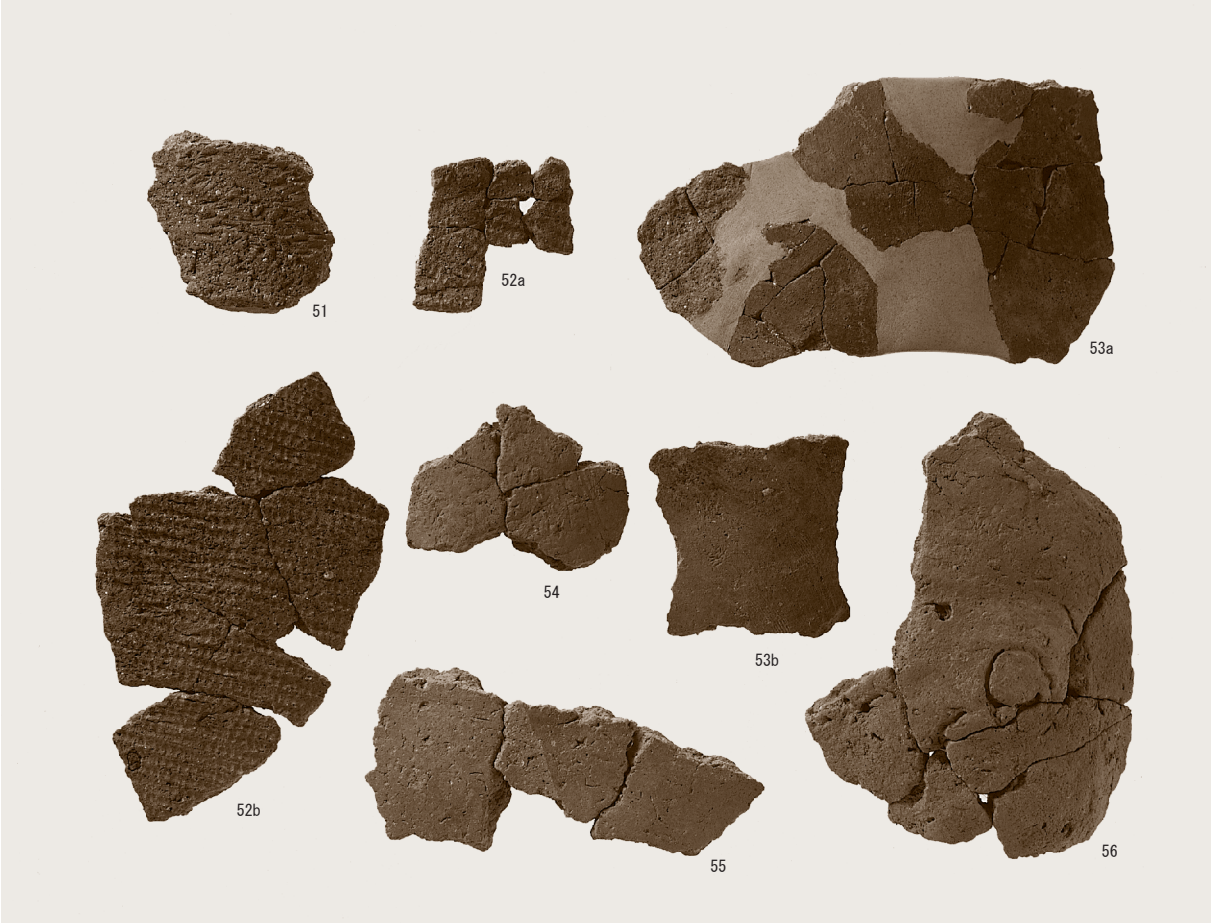


第Ⅱ群 a 類土器

第Ⅱ群 a 類土器



第Ⅱ群 bc 類土器



第Ⅲ群土器

第Ⅳ群 a 類・Ⅴ群土器

第Ⅳ群 b 類土器

第Ⅵ群 a 類土器

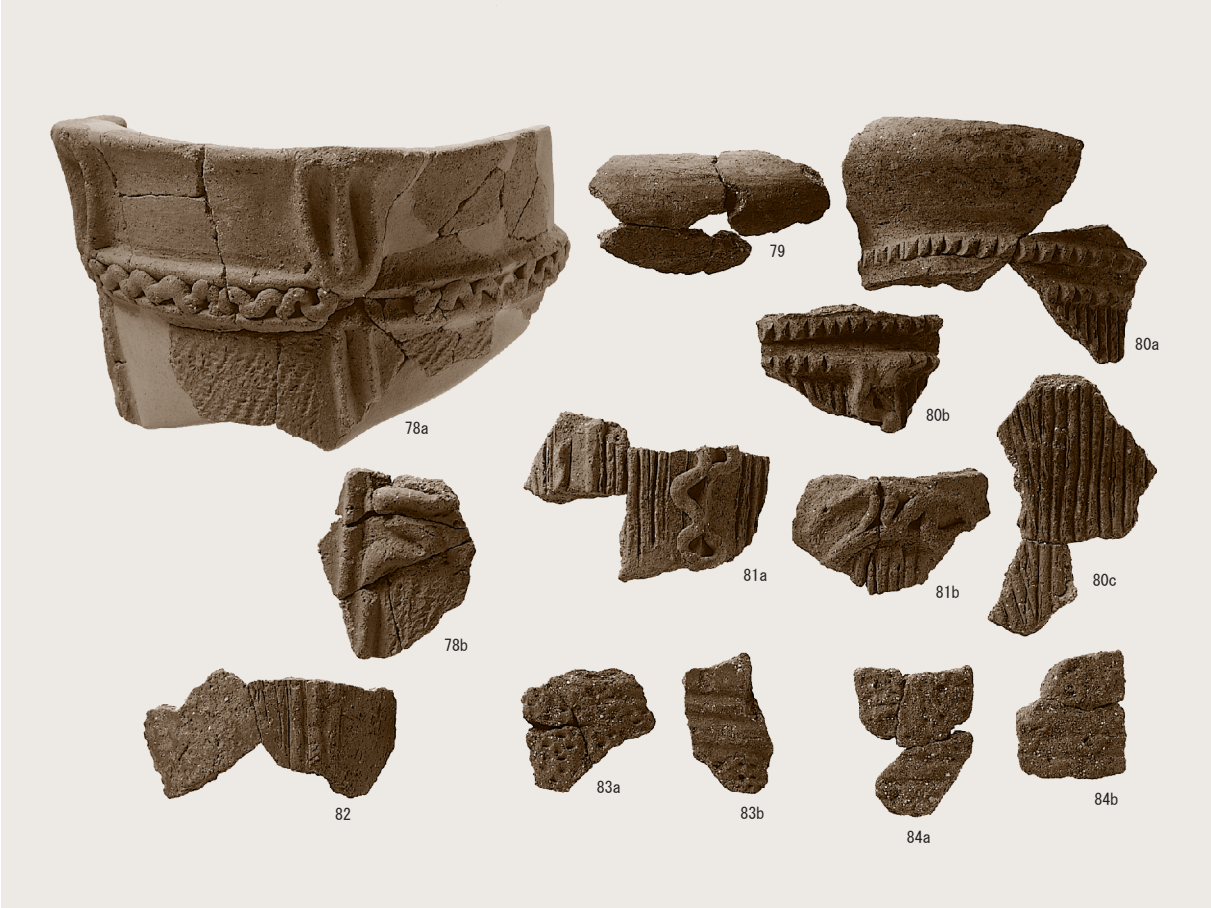
第Ⅵ群 b 類土器

第Ⅵ群 cd 類土器

図版12

第Ⅵ群 e 類土器

第Ⅵ群 deg 類土器



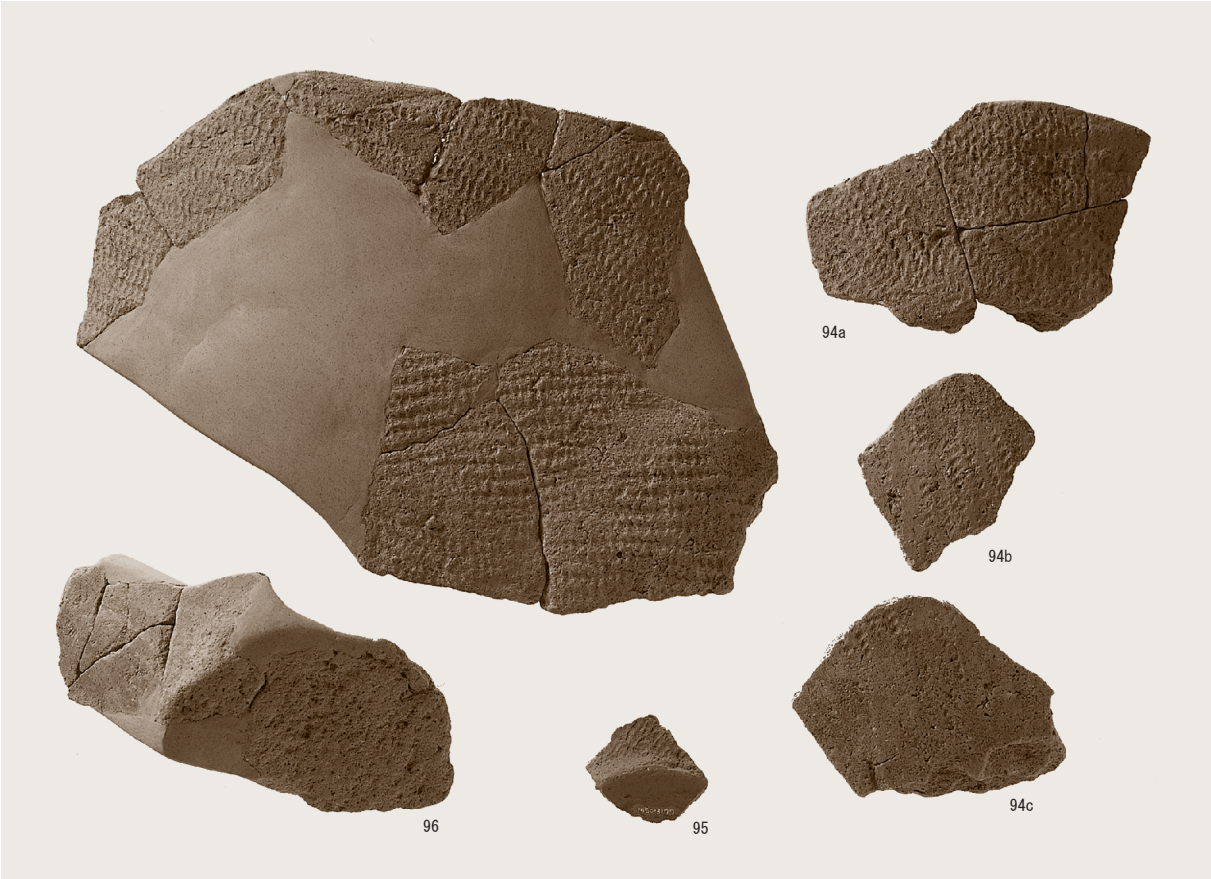
第Ⅶ群 a ～ d 類土器

第Ⅶ群 e 類土器

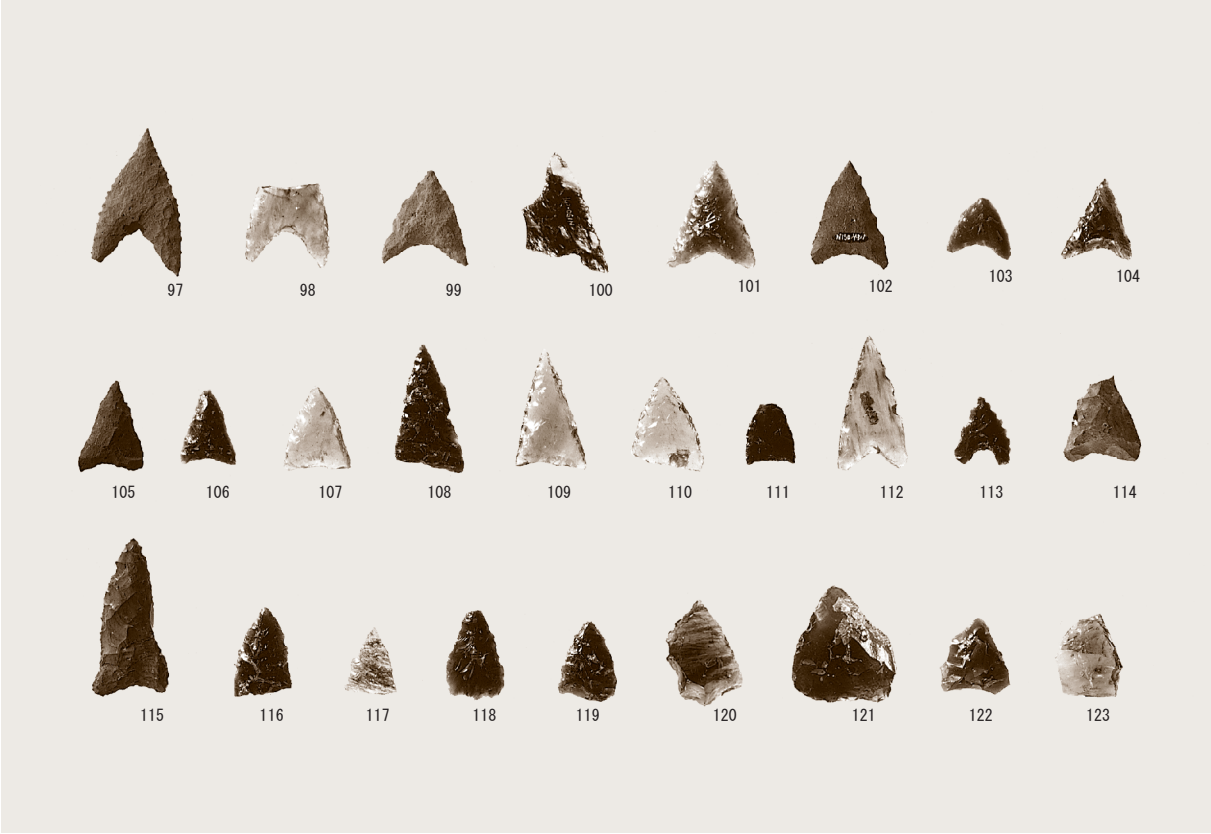
第Ⅷ群 ab 類土器

図版14

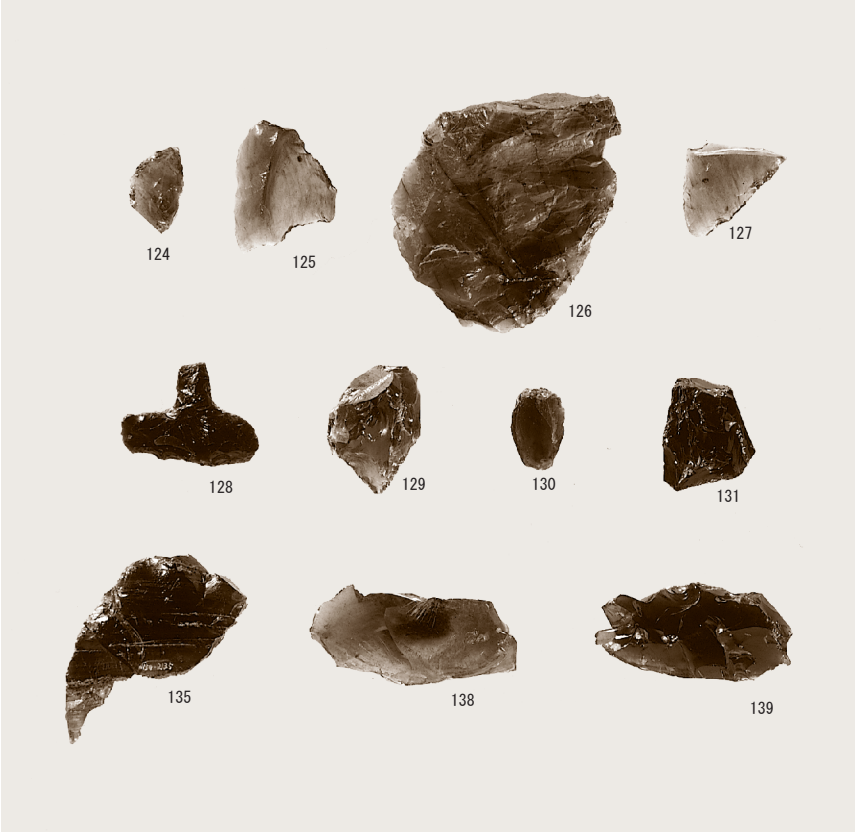
第Ⅸ群 a 類土器



第Ⅸ群 b 類・Ⅹ群土器



石鏃・石鏃未製品



尖頭器・スクレイパー・石匙・石錐・楔形石器・二次加工剥片・石核１

石核２

図版16

打製石斧・磨製石斧

礫器

図版18

165
164
163
168
167
172
166
171
170
169

173
181
175
176
183
184
177
187
189
191
196
197
198

磨石・敲石類

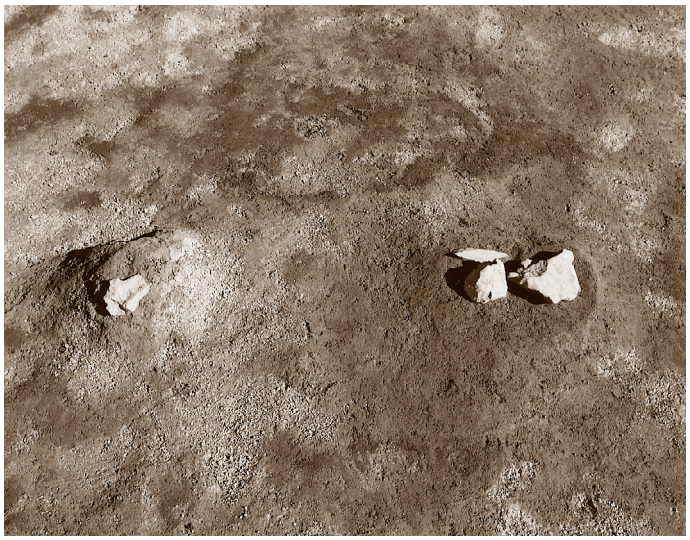
台石

図版20

葛山大端ヶⅢ遺跡　調査区全景

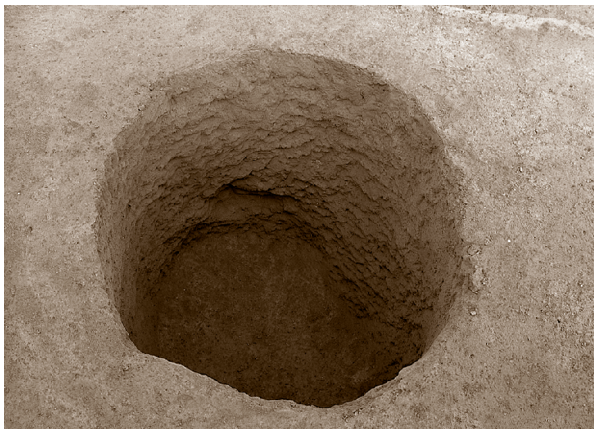
１区　土層断面

旧石器時代　調査区全景（ＴＰ完掘）

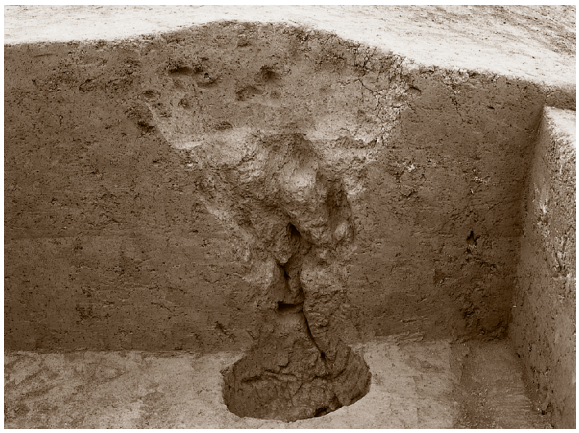


礫群　遺物出土状況（南西より）

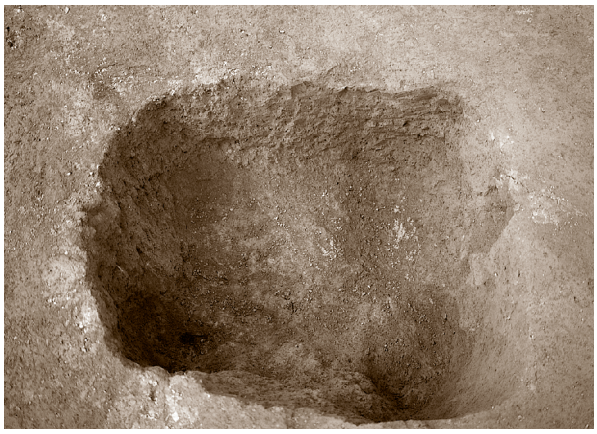
図版22



２号土坑（南より）



４号土坑（東より）



５号土坑（東より）

８号土坑（南東より）

10号土坑（西より）

11号土坑（南より）

12号土坑（南東より）

13号土坑（南より）

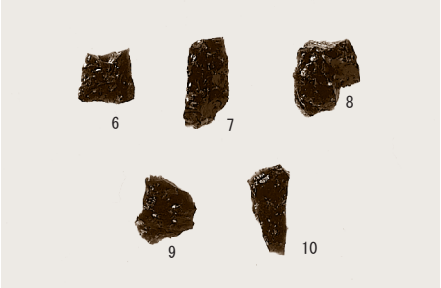
２号遺物集中（西より）

４号遺物集中（西より）

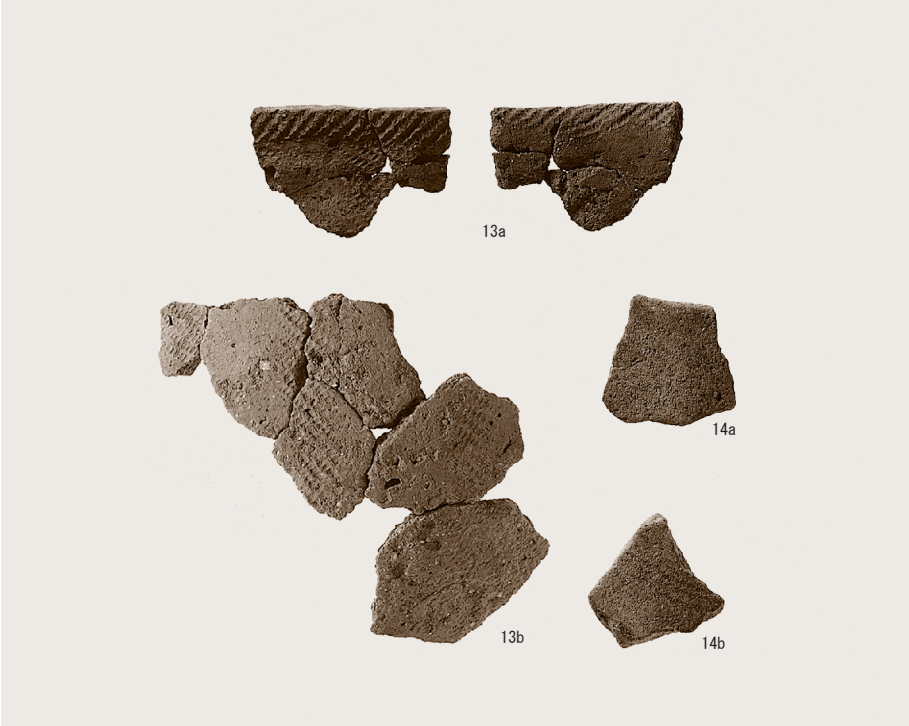
縄文時代　遺物出土状況（西より）

図版24

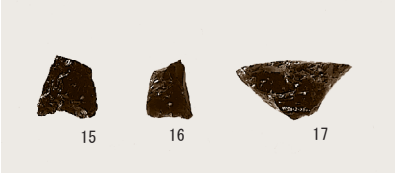
１号遺物集中出土石器



２号遺物集中出土石器



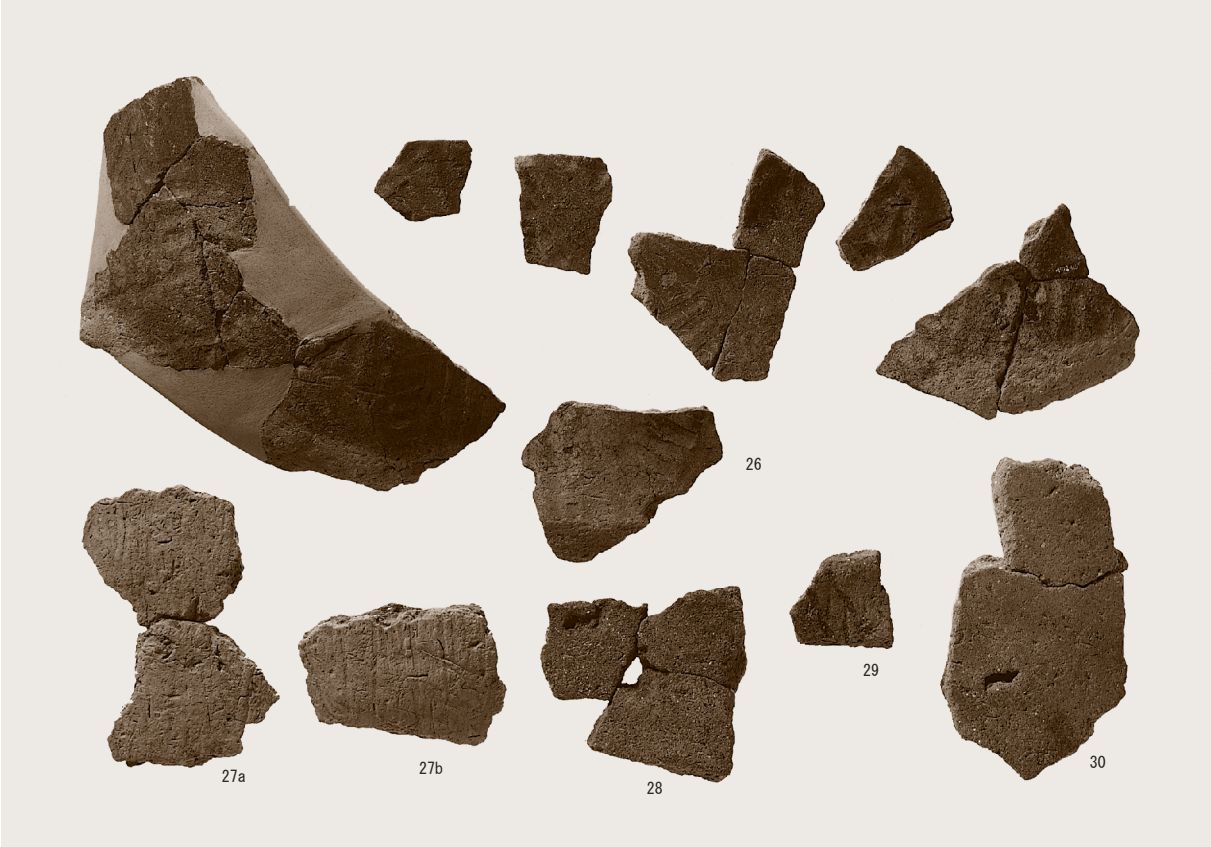
３号遺物集中出土土器



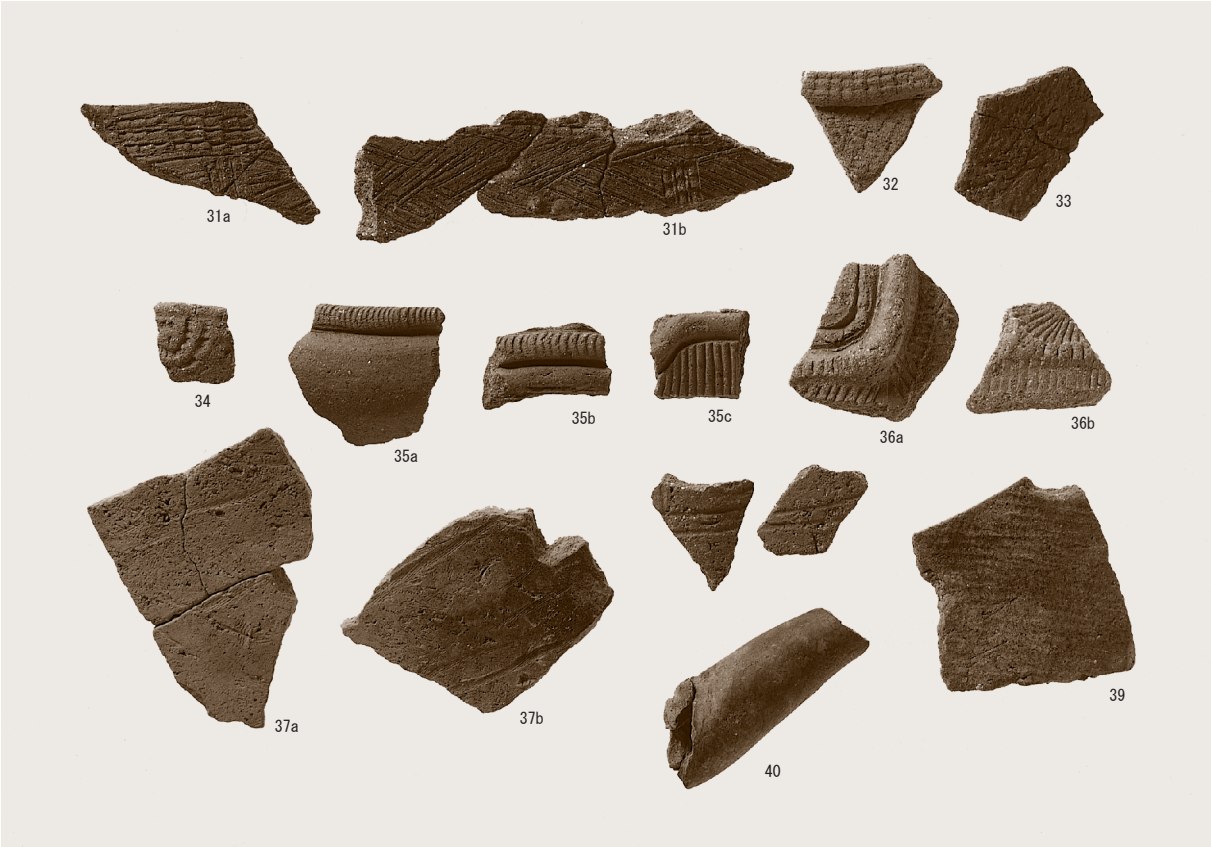
３号遺物集中出土石器

第Ⅰ群土器

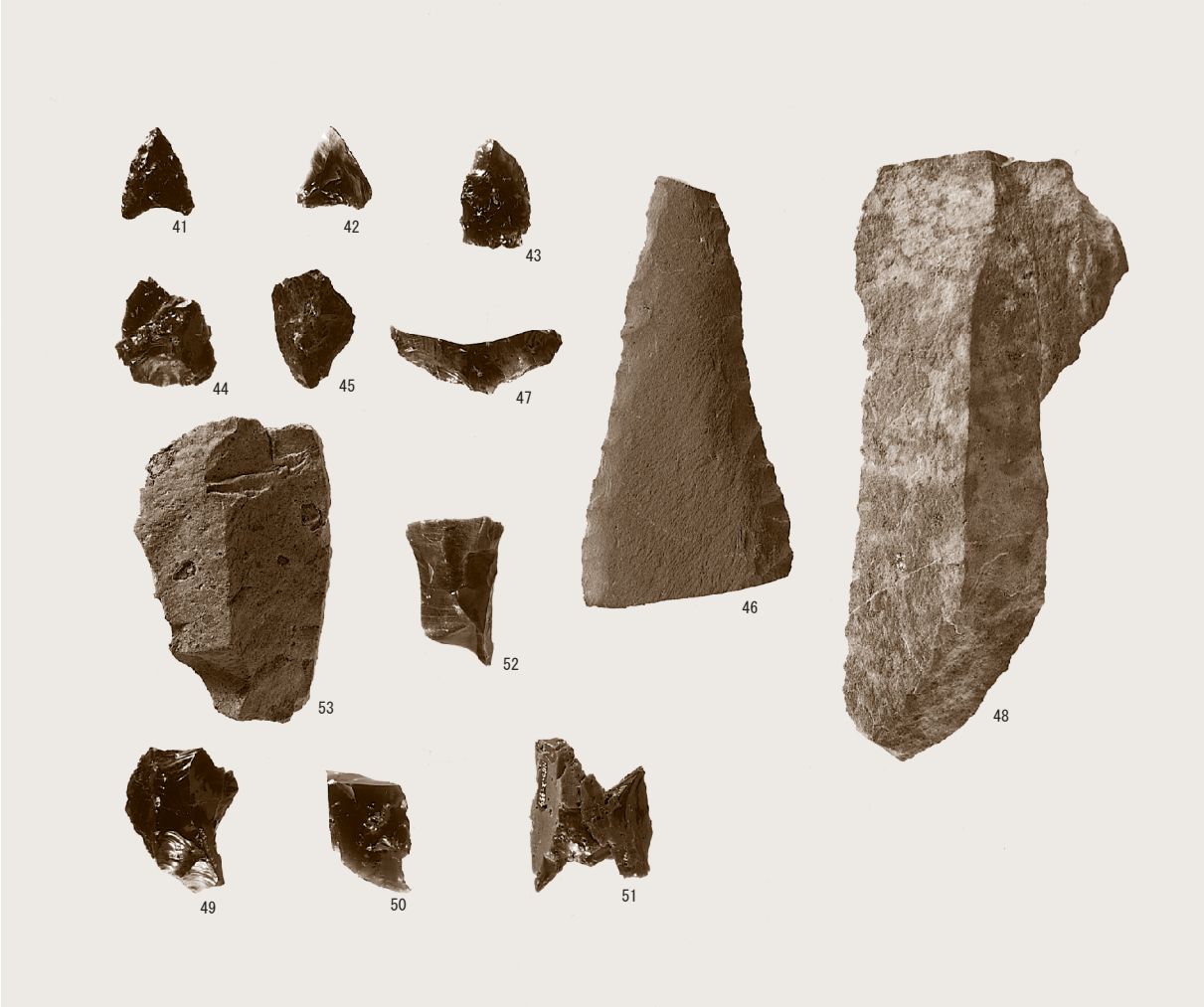
図版26



第Ⅱ群・第Ⅲ群土器



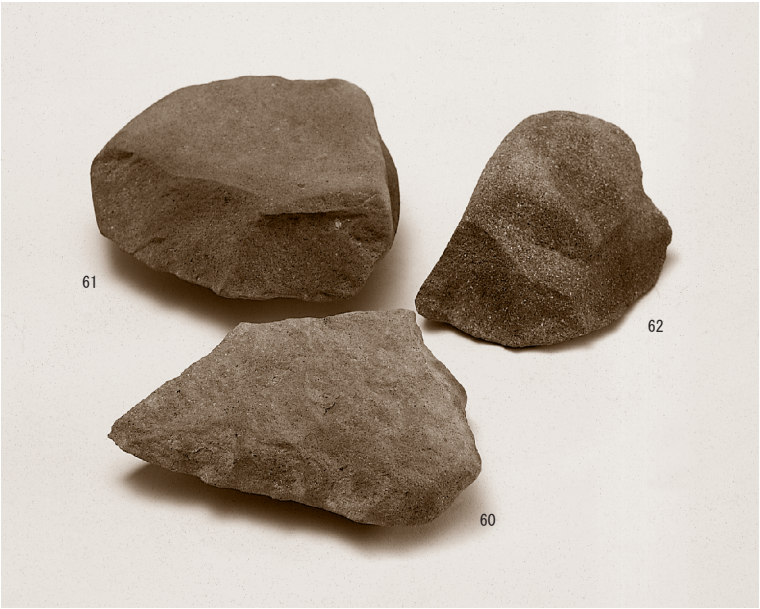
第Ⅳ群～第Ⅷ群土器



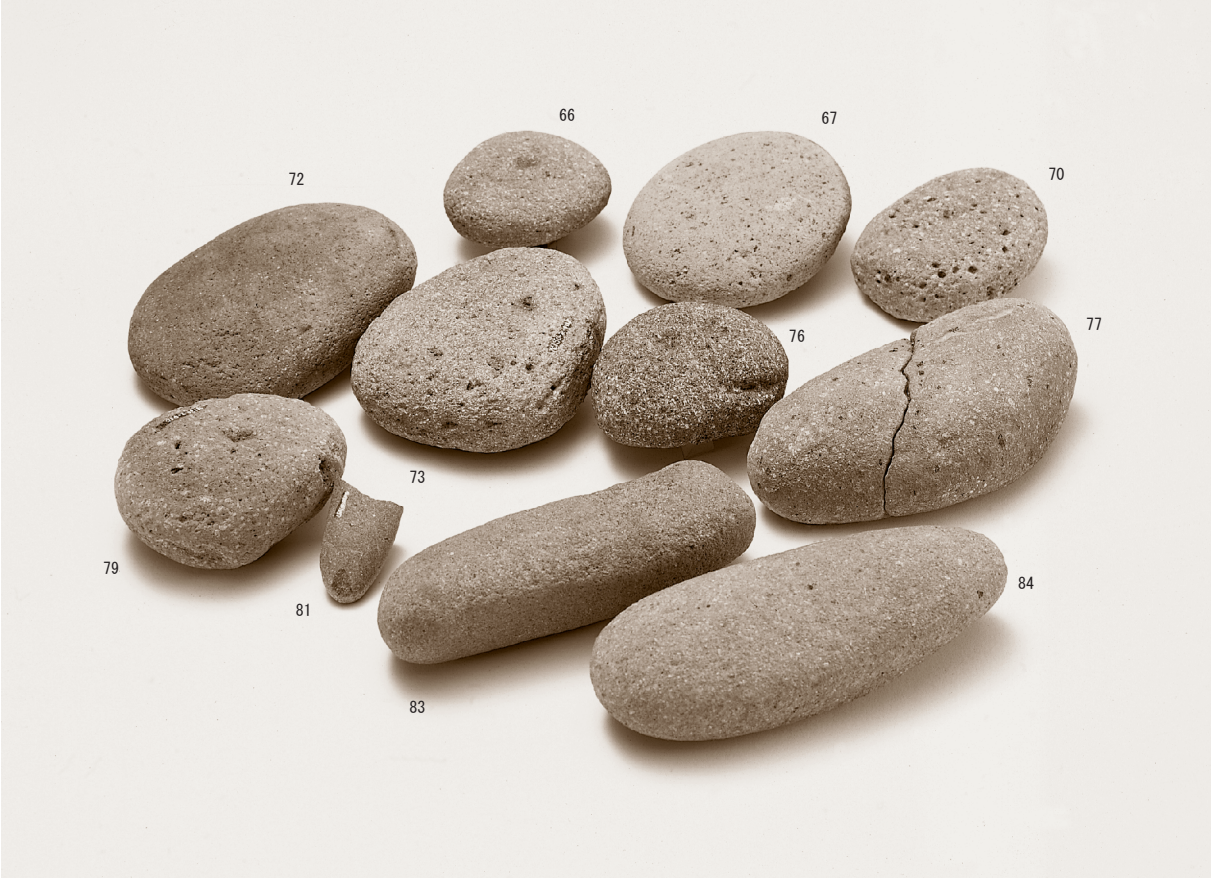
石鏃・石鏃未製品・スクレイパー・二次加工剥片・石核

図版28

打製石斧



礫器



磨石・敲石類

石皿・台石

図版30

藤畑遺跡　調査区（東より）

土層断面

土坑（南より）

報　告　書　抄　録

ふりがな	すそのしかずらやまのいせきぐん
書名	裾野市葛山の遺跡群
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第25集
編著者名	永田悠記
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　　TEL　054－262－4261（代）
発行年月日	2013年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町	遺跡番号					
葛山大端ヶ Ⅰ遺跡	静岡県裾野市葛山	22220		35°12′25″	138°53′24″	20030708 ～ 20061116	6,367	記録保存調査 （道路建設）
葛山大端ヶ Ⅲ遺跡	静岡県裾野市葛山	22220		35°12′35″	138°53′17″	20030905 ～ 20040220	6,155	記録保存調査 （道路建設）
藤畑遺跡	静岡県裾野市葛山	22220		35°12′23″	138°53′34″	20030905 ～ 20040220	800	記録保存調査 （道路建設）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
葛山大端ヶ Ⅰ遺跡	散布地	旧石器時代	礫群１基	石器、礫	
	散布地 その他	縄文時代	集石７基、土坑17基、焼土２基、遺物集中４ヶ所	縄文土器、石器	早期～後期の土器が出土
葛山大端ヶ Ⅲ遺跡	散布地	旧石器時代	礫群１基	礫	
	散布地 その他	縄文時代	土坑13基、遺物集中３ヶ所	縄文土器、石器	早期～後期の土器が出土
藤畑遺跡	散布地	旧石器時代	－	－	
	散布地 その他	縄文時代	土坑1基	－	

要約

葛山大端ヶⅠ遺跡では、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されている。旧石器時代の遺構は礫群が１基、縄文時代の遺構は集石７基、土坑17基、焼土２基、遺物集中４ヶ所が検出されている。遺物は土器と石器が主体で、土器は早期から後期のものが出土しており、中期の時期が主体である。石器は石鏃、磨石・敲石類等が出土している。

葛山大端ヶⅢ遺跡も、旧石器時代の礫群が１基と、縄文時代の土坑が13基、遺物集中３ヶ所が確認されている。土器は早期から後期のものが出土しており、早期の時期が主体である。石器は石鏃、磨石・敲石類、石皿・台石類等が出土している。

藤畑遺跡からは縄文時代の土坑が１基確認されたのみである。

これらの遺跡の性格としては、一時的な狩猟のキャンプ地と想定される。

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第25集

裾野市葛山の遺跡群

第二東名№150地点・№150-2地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
裾野市－８

平成25年２月28日発行

編集・発行　静岡県埋蔵文化財センター
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054-262-4261（代）
FAX　054-262-4266
印　刷　所　大和印刷株式会社
〒410-1102　静岡県裾野市深良3642番地の12
TEL　055-965-4100